

(様式4)

一般社団法人 薬学教育評価機構

( 調 書 )

# 薬学教育評価 基礎資料

(平成30年5月1日現在)

福岡大学薬学部

## 「基礎資料」作成上の注意事項

- 1 記述の対象となる年度が提示されていない場合は、自己点検・評価対象年度の5月1日現在の数値を記述してください。  
平成31年度に第三者評価を受ける大学の場合は、自己点検・評価対象年度の平成30年5月1日となります。
- 2 記述に際し、各シートの[注]・脚注を確認し、作成してください。
- 3 各シートの表中の表記例は、消去して作成してください。また、各シートに付されている[注]・脚注は消去しないでください。
- 4 各表に記入する数値について小数点以下の端数が出る場合、特に指示のない限り小数点以下第3位を四捨五入して小数点第2位まで表示してください。
- 5 説明を付す必要があると思われるものについては、備考欄に記述するか、欄外に大学独自の注をつけて説明を記してください。
- 6 提出形態について
  - ・基本的にA4判で作成してください。
  - ・表紙および目次を作成し、全体に通しページ番号を付してください。
  - ・両面印刷して、加除が可能な体裁でファイル綴じにした印刷物を提出してください。
  - ・カラー表記のあるページは、カラーで印刷してください。
  - ・PDFファイルに変換したデータを、「自己点検・評価書」と同じCD-Rに保存し、提出してください。

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	ページ
基礎資料 1	学年別授業科目	1～13
基礎資料 2	修学状況 2-1 在籍状況      2-2 学生受入状況 2-3 学籍異動状況      2-4 学士課程修了(卒業)状況	14～17
基礎資料 3	薬学教育モデル・コアカリキュラム等のSBOs に該当する科目	18～119
基礎資料 4	カリキュラム・マップ	120～132
基礎資料 5	語学教育の要素	133～134
基礎資料 6	実務実習事前学習のスケジュール	135～141
基礎資料 7	学生受入状況について（入学試験種類別）	142
基礎資料 8	教員・職員の数	143
基礎資料 9	専任教員の構成	144
基礎資料10	教員の教育担当状況（担当する授業科目と担当時間）	145～155
基礎資料11	卒業研究の配属状況および研究室の広さ	156
基礎資料12	講義室等の数と面積	157～158
基礎資料13	学生閲覧室等の規模	159
基礎資料14	図書、資料の所蔵数および受け入れ状況	160
基礎資料15	専任教員の教育および研究活動の業績	161～

		1 年 次						
科目名		前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
	哲学A	前期	50～350	9	29	コ		2
	哲学B	後期	50～350	9	22	コ		2
	論理学A	前期	50～350	8	29	コ		2
	論理学B	後期	50～350	8	22	コ		2
	倫理学A	前期	50～350	9	7	コ		2
	倫理学B	後期	50～350	9	27	コ		2
	宗教学A	前期	50～350	11	68	コ		2
	宗教学B	後期	50～350	11	51	コ		2
	日本史A	前期	50～350	6	30	コ		2
	日本史B	後期	50～350	6	18	コ		2
	東洋史A	前期	50～350	7	19	コ		2
	東洋史B	後期	50～350	7	12	コ		2
	西洋史A	前期	50～350	7	8	コ		2
	西洋史B	後期	50～350	7	20	コ		2
	日本文学A	前期	50～350	8	57	コ		2
	日本文学B	後期	50～350	8	18	コ		2
	中国文学A	前期	50～350	4	15	コ		2
	中国文学B	後期	50～350	4	9	コ		2
	西洋文学A	前期	50～350	8	61	コ		2
	西洋文学B	後期	50～350	8	42	コ		2
	芸術A	前期	50～350	2	10	コ		2
	芸術B	後期	50～350	2	23	コ		2
	法学A	前期	50～350	6	25	コ		2
	法学B	後期	50～350	6	18	コ		2
	日本国憲法	前期・後期	50～350	7	11	コ		2
	政治学A	前期	50～350	5	41	コ		2
	政治学B	後期	50～350	5	17	コ		2
	経済学A	前期	50～350	9	47	コ		2
	経済学B	後期	50～350	9	24	コ		2
	商学A	前期	50～350	4	63	コ		2
	商学B	後期	50～350	4	55	コ		2
	社会学A	前期	50～350	11	65	コ		2
	社会学B	後期	50～350	11	65	コ		2
	地理学A	前期	50～350	5	124	コ		2
	地理学B	後期	50～350	5	85	コ		2
	心理学A	前期	50～350	13	124	コ		2
	心理学B	後期	50～350	13	101	コ		2
	文化人類学A	前期	50～350	4	57	コ		2
	文化人類学B	後期	50～350	4	31	コ		2
	統計入門	後期	50～350	2	157	コ		2
	物理の世界	後期	50～350	2	160	コ		2
	化学実験	後期	50～350	2	138	コ		1
	生物学実験	後期	50～350	2	141	コ		1
	地球環境	後期	50～350	1	17	コ		2
	生命・健康と医療	前期	50～350	1	4	コ		2
	国際化と日本	後期	50～350	3	1	コ		2
	科学・技術・情報と社会	後期	50～350	1	1	コ		2
	文化と教育	前期・後期	50～350	5	10	コ		2
	現代を生きる	前期・後期	50～350	5	0	コ		2
	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	前期	50～350	1	0	コ		2
	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	前期	30～150	6	232	コ		1
	※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	後期	30～150	6	234	コ		1
	※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	前期	30～150	8	235	コ		1
	※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	後期	30～150	8	236	コ		1
	ドイツ語ⅠA	前期	30～50	4	14	コ		2
	ドイツ語ⅠB	後期	30～50	4	14	コ		2
	フランス語ⅠA	通年	30～50	1	3	コ		2
	フランス語ⅠB	通年	30～50	1	3	コ		2
	中国語ⅠA	通年	30～50	2	18	コ		2
	中国語ⅠB	通年	30～50	2	18	コ		2
	ロシア語ⅠA	通年	30～50	2	0	コ		2
	ロシア語ⅠB	通年	30～50	2	0	コ		2
	スペイン語ⅠA	通年	30～50	1	5	コ		2
	スペイン語ⅠB	通年	30～50	1	1	コ		2

1 年 次										
科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数		
	朝鮮語 I A	通年	30~50	1	21	コ				2
	朝鮮語 I B	通年	30~50	1	21	コ				2
	※生涯スポーツ演習 I	前期・後期	200~250	2	234	コ				1
	※生涯スポーツ演習 II	前期・後期	200~250	2	234	コ				1
薬学専門教育	(択)薬学物理学入門	前期	100~150	2	232	コ				2
	(択)薬学計算法	前期	100~150	2	231	コ				2
	(択)薬学化学入門	前期	100~150	2	234	コ				2
	(択)化学	後期	100~150	2	236	コ				2
	(択)有機薬化学 I	前期	100~150	2	233	コ				2
	(択)有機薬化学 II	後期	100~150	2	236	コ				2
	(択)天然医薬資源学	前期	100~150	2	234	コ				2
	(択)薬学生物学入門	前期	100~150	2	234	コ				2
	(択)機能形態学 I	後期	100~150	2	238	コ				2
	(択)生体機能分子学 I	前期	100~150	2	234	コ				2
	(択)生体機能分子学 II	後期	100~150	2	237	コ				2
	(択)薬学概論	前期	100~150	2	232	コ				1
	(択)早期臨床体験 I	通年	100~150	2	232	コ	S			2
単位数の合計									(必須科目)	6
									(選択科目)	147
									合計	153

(凡例)  
 講義=コ PBL/SGD=S ○○○=■  
 ※=必修

[注]

1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。

2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

	ヒューマンズ教育・医療倫理教育
	教養教育科目
	語学教育科目
	医療安全教育科目
	生涯学習の意欲醸成科目
	コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。

5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

6 行は適宜加除し、記入してください。

		2 年 次						
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法	単位数
教養教育・語学教育		哲学A	前期	50~350	9	29	コ	2
		哲学B	後期	50~350	9	22	コ	2
		論理学A	前期	50~350	8	29	コ	2
		論理学B	後期	50~350	8	22	コ	2
		倫理学A	前期	50~350	9	7	コ	2
		倫理学B	後期	50~350	9	27	コ	2
		宗教学A	前期	50~350	11	68	コ	2
		宗教学B	後期	50~350	11	51	コ	2
		日本史A	前期	50~350	6	30	コ	2
		日本史B	後期	50~350	6	18	コ	2
		東洋史A	前期	50~350	7	19	コ	2
		東洋史B	後期	50~350	7	12	コ	2
		西洋史A	前期	50~350	7	8	コ	2
		西洋史B	後期	50~350	7	20	コ	2
		日本文学A	前期	50~350	8	57	コ	2
		日本文学B	後期	50~350	8	18	コ	2
		中国文学A	前期	50~350	4	15	コ	2
		中国文学B	後期	50~350	4	9	コ	2
		西洋文学A	前期	50~350	8	61	コ	2
		西洋文学B	後期	50~350	8	42	コ	2
		芸術A	前期	50~350	2	10	コ	2
		芸術B	後期	50~350	2	23	コ	2
		法学A	前期	50~350	6	25	コ	2
		法学B	後期	50~350	6	18	コ	2
		日本国憲法	前期・後期	50~350	7	11	コ	2
		政治学A	前期	50~350	5	41	コ	2
		政治学B	後期	50~350	5	17	コ	2
		経済学A	前期	50~350	9	47	コ	2
		経済学B	後期	50~350	9	24	コ	2
		商学A	前期	50~350	4	63	コ	2
		商学B	後期	50~350	4	55	コ	2
		社会学A	前期	50~350	11	65	コ	2
		社会学B	後期	50~350	11	65	コ	2
		地理学A	前期	50~350	5	124	コ	2
		地理学B	後期	50~350	5	85	コ	2
		心理学A	前期	50~350	13	124	コ	2
		心理学B	後期	50~350	13	101	コ	2
		文化人類学A	前期	50~350	4	57	コ	2
		文化人類学B	後期	50~350	4	31	コ	2
		統計入門	後期	50~350	2	157	コ	2
		物理の世界	後期	50~350	2	160	コ	2
		化学実験	後期	50~350	2	138	コ	1
		生物学実験	後期	50~350	2	141	コ	1
		地球環境	後期	50~350	1	17	コ	2
		生命・健康と医療	前期	50~350	1	4	コ	2
		国際化と日本	後期	50~350	3	1	コ	2
		科学・技術・情報と社会	後期	50~350	1	1	コ	2
		文化と教育	前期・後期	50~350	5	10	コ	2
		現代を生きる	前期・後期	50~350	5	0	コ	2
		福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	前期	50~350	1	0	コ	2
		※フレッシュマン・イングリッシュ I	前期	30~150	6	232	コ	1
		※フレッシュマン・イングリッシュ II	後期	30~150	6	234	コ	1
		※フレッシュマン・イングリッシュ III	前期	30~150	8	235	コ	1
		※フレッシュマン・イングリッシュ IV	後期	30~150	8	236	コ	1
		※インターミディエイト・イングリッシュ I	前期	30~150	7	233	コ	1
		※インターミディエイト・イングリッシュ II	後期	30~150	7	234	コ	1
		※インターミディエイト・イングリッシュ III	前期	30~150	7	231	コ	1
		※インターミディエイト・イングリッシュ IV	後期	30~150	7	234	コ	1
		海外英語研修	前期		1	0	コ	2
		ドイツ語 I A	前期	30~50	2	14	コ	2
		ドイツ語 I B	後期	30~50	2	14	コ	2
		ドイツ語 II A	前期	30~50	1	0	コ	2
		ドイツ語 II B	後期	30~50	1	0	コ	2
		フランス語 I A	通年	30~50	1	3	コ	2
		フランス語 I B	通年	30~50	1	3	コ	2
		フランス語 II A	通年	30~50	1	0	コ	2
		フランス語 II B	通年	30~50	1	0	コ	2

2 年 次										
科目名		前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数	
言語教育	中国語ⅠA	通年	30~50	2	18	コ				2
	中国語ⅠB	通年	30~50	2	18	コ				2
	中国語ⅡA	通年	30~50	1	0	コ				2
	中国語ⅡB	通年	30~50	1	0	コ				2
	ロシア語ⅠA	通年	30~50	2	0	コ				2
	ロシア語ⅠB	通年	30~50	2	0	コ				2
	ロシア語ⅡA	通年	30~50	1	0	コ				2
	ロシア語ⅡB	通年	30~50	1	0	コ				2
	スペイン語ⅠA	通年	30~50	1	5	コ				2
	スペイン語ⅠB	通年	30~50	1	5	コ				2
	スペイン語ⅡA	通年	30~50	1	0	コ				2
	スペイン語ⅡB	通年	30~50	1	1	コ				2
	朝鮮語ⅠA	通年	30~50	1	21	コ				2
	朝鮮語ⅠB	通年	30~50	1	21	コ				2
	朝鮮語ⅡA	通年	30~50	1	0	コ				2
	朝鮮語ⅡB	通年	30~50	1	0	コ				2
	※生涯スポーツ演習Ⅰ	前期・後期	200~250	2	234	コ				1
	※生涯スポーツ演習Ⅱ	前期・後期	200~250	2	234	コ				1
生涯スポーツ演習Ⅲ	前期	200~250	1	19	コ				1	
生涯スポーツ演習Ⅳ	後期	200~250	1	19	コ				1	
生涯スポーツ論	前期・後期	200~250	2	1	コ				2	
薬学専門教育	(択)薬学物理化学Ⅰ	前期	100~150	2	237	コ				2
	(択)薬学物理化学Ⅱ	後期	100~150	2	235	コ				2
	(択)分析化学Ⅰ	前期	100~150	2	234	コ				2
	(択)分析化学Ⅱ	後期	100~150	2	238	コ				2
	(択)生薬学Ⅰ	前期	100~150	2	240	コ				2
	(択)生薬学Ⅱ	後期	100~150	2	240	コ				2
	(択)有機薬化学Ⅲ	前期	100~150	2	231	コ				2
	(択)有機薬化学Ⅳ	後期	100~150	2	238	コ				2
	(択)人体生化学Ⅰ	前期	100~150	2	241	コ				2
	(択)人体生化学Ⅱ	後期	100~150	2	240	コ				2
	(択)微生物学	前期	100~150	2	234	コ				2
	(択)免疫学	後期	100~150	2	234	コ				2
	(択)食品栄養学	前期	100~150	2	237	コ				2
	(択)食品衛生学	後期	100~150	2	238	コ				2
	(択)機能形態学Ⅱ	前期	100~150	2	239	コ				2
	(択)疾患薬理学Ⅰ	後期	100~150	2	240	コ				2
(択)同位体化学	前期	100~150	2	237	コ				2	
(択)同位体医療薬学	後期	100~150	2	237	コ				2	
実習	※物理系実習Ⅰ	後期	55~70	4	230					1
	※生物系実習Ⅰ	前期	55~70	4	230					1
	※生物系実習Ⅱ	後期	55~70	4	230					1
	※早期臨床体験Ⅱ	前期	55~70	4	230					1
単位数の合計									(必須科目)	14
									(選択科目)	188
									合計	202

(凡例)  
 講義=コ PBL/SGD=S ○○○=■  
 ※=必修

[注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。  
 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付けてください。

「科目の識別」

ヒューマンズム教育・医療倫理教育	
教養教育科目	
語学教育科目	
医療安全教育科目	
生涯学習の意欲醸成科目	
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	

- 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
- 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
- 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。  
 「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
- 行は適宜加除し、記入してください。

		3 年 次						
科目名		前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育	哲学A	前期	50~350	9	29	コ		2
	哲学B	後期	50~350	9	22	コ		2
	論理学A	前期	50~350	8	29	コ		2
	論理学B	後期	50~350	8	22	コ		2
	倫理学A	前期	50~350	9	7	コ		2
	倫理学B	後期	50~350	9	27	コ		2
	宗教学A	前期	50~350	11	68	コ		2
	宗教学B	後期	50~350	11	51	コ		2
	日本史A	前期	50~350	6	30	コ		2
	日本史B	後期	50~350	6	18	コ		2
	東洋史A	前期	50~350	7	19	コ		2
	東洋史B	後期	50~350	7	12	コ		2
	西洋史A	前期	50~350	7	8	コ		2
	西洋史B	後期	50~350	7	20	コ		2
	日本文学A	前期	50~350	8	57	コ		2
	日本文学B	後期	50~350	8	18	コ		2
	中国文学A	前期	50~350	4	15	コ		2
	中国文学B	後期	50~350	4	9	コ		2
	西洋文学A	前期	50~350	8	61	コ		2
	西洋文学B	後期	50~350	8	42	コ		2
	芸術A	前期	50~350	2	10	コ		2
	芸術B	後期	50~350	2	23	コ		2
	法学A	前期	50~350	6	25	コ		2
	法学B	後期	50~350	6	18	コ		2
	日本国憲法	前期・後期	50~350	7	11	コ		2
	政治学A	前期	50~350	5	41	コ		2
	政治学B	後期	50~350	5	17	コ		2
	経済学A	前期	50~350	9	47	コ		2
	経済学B	後期	50~350	9	24	コ		2
	商学A	前期	50~350	4	63	コ		2
	商学B	後期	50~350	4	55	コ		2
	社会学A	前期	50~350	11	65	コ		2
	社会学B	後期	50~350	11	65	コ		2
	地理学A	前期	50~350	5	124	コ		2
	地理学B	後期	50~350	5	85	コ		2
	心理学A	前期	50~350	13	124	コ		2
	心理学B	後期	50~350	13	101	コ		2
	文化人類学A	前期	50~350	4	57	コ		2
	文化人類学B	後期	50~350	4	31	コ		2
	統計入門	後期	50~350	2	157	コ		2
	物理の世界	後期	50~350	2	160	コ		2
	化学実験	後期	50~350	2	138	コ		1
	生物学実験	後期	50~350	2	141	コ		1
	地球環境	後期	50~350	1	17	コ		2
	生命・健康と医療	前期	50~350	1	4	コ		2
	国際化と日本	後期	50~350	3	1	コ		2
	科学・技術・情報と社会	後期	50~350	1	1	コ		2
	文化と教育	前期・後期	50~350	5	10	コ		2
	現代を生きる	前期・後期	50~350	5	0	コ		2
	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	前期	50~350	1	0	コ		2
	※フレッシュマン・イングリッシュ I	前期	30~150	6	232	コ		1
	※フレッシュマン・イングリッシュ II	後期	30~150	6	234	コ		1
	※フレッシュマン・イングリッシュ III	前期	30~150	8	235	コ		1
	※フレッシュマン・イングリッシュ IV	後期	30~150	8	236	コ		1
	※インターミディエイト・イングリッシュ I	前期	30~150	7	233	コ		1
	※インターミディエイト・イングリッシュ II	後期	30~150	7	234	コ		1
	※インターミディエイト・イングリッシュ III	前期	30~150	7	231	コ		1
	※インターミディエイト・イングリッシュ IV	後期	30~150	7	234	コ		1
	海外英語研修	前期		1	0	コ		2
	7ドバント・イングリッシュ I	前期	30~150	1	0	コ		1
	7ドバント・イングリッシュ II	後期	30~150	1	0	コ		1
	ドイツ語 I A	前期	30~50	4	14	コ		2
	ドイツ語 I B	後期	30~50	4	14	コ		2
	ドイツ語 II A	前期	30~50	1	0	コ		2
	ドイツ語 II B	後期	30~50	1	0	コ		2
	フランス語 I A	通年	30~50	1	3	コ		2
	フランス語 I B	通年	30~50	1	3	コ		2



3 年 次									
科目名		前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
	フランス語ⅡA	通年	30~50	1	0	コ			2
	フランス語ⅡB	通年	30~50	1	0	コ			2
	中国語ⅠA	通年	30~50	2	18	コ			2
	中国語ⅠB	通年	30~50	2	18	コ			2
	中国語ⅡA	通年	30~50	1	0	コ			2
	中国語ⅡB	通年	30~50	1	1	コ			2
	ロシア語ⅠA	通年	30~50	2	0	コ			2
	ロシア語ⅠB	通年	30~50	2	0	コ			2
	ロシア語ⅡA	通年	30~50	1	0	コ			2
	ロシア語ⅡB	通年	30~50	1	0	コ			2
	スペイン語ⅠA	通年	30~50	1	5	コ			2
	スペイン語ⅠB	通年	30~50	1	5	コ			2
	スペイン語ⅡA	通年	30~50	1	0	コ			2
	スペイン語ⅡB	通年	30~50	1	1	コ			2
	朝鮮語ⅠA	通年	30~50	1	21	コ			2
	朝鮮語ⅠB	通年	30~50	1	21	コ			2
	朝鮮語ⅡA	通年	30~50	1	0	コ			2
	朝鮮語ⅡB	通年	30~50	1	0	コ			2
	※生涯スポーツ演習Ⅰ	前期・後期	200~250	2	234	コ			1
	※生涯スポーツ演習Ⅱ	前期・後期	200~250	2	234	コ			1
生涯スポーツ演習Ⅲ	前期	200~250	1	19	コ			1	
生涯スポーツ演習Ⅳ	後期	200~250	1	19	コ			1	
生涯スポーツ論	前期・後期	200~250	2	1	コ			2	
薬学専門教育	(択)薬学物理化学Ⅲ	前期	100~150	2	237	コ			1
	(択)薬学物理化学Ⅳ	前期	100~150	2	237	コ			1
	(択)日本薬局方Ⅰ	前期	100~150	2	241	コ			1
	(択)日本薬局方Ⅱ	後期	100~150	2	234	コ			1
	(択)分析化学Ⅲ	前期	100~150	2	236	コ			1
	(択)分析化学Ⅳ	後期	100~150	2	229	コ			1
	(択)天然物化学	後期	100~150	2	228	コ			1
	(択)創薬化学Ⅰ	前期	100~150	2	238	コ			1
	(択)創薬化学Ⅱ	後期	100~150	2	235	コ			1
	(択)感染症治療薬概論	前期	100~150	2	233	コ			1
	(択)人体機能調節学	前期	100~150	2	236	コ			1
	(択)環境衛生学Ⅰ	後期	100~150	2	231	コ			1
	(択)公衆衛生学	前期	100~150	2	237	コ			1
	(択)疾患薬理学Ⅱ	後期	100~150	2	238	コ			1
	(択)疾患薬理学Ⅲ	後期	100~150	2	233	コ			1
	(択)病態・薬物治療学Ⅰ	後期	100~150	2	233	コ			1
	(択)病態・薬物治療学Ⅱ	後期	100~150	2	235	コ			1
	(択)物理薬理学	前期	100~150	2	235	コ			1
	(択)製剤学	後期	100~150	2	232	コ			1
	(択)薬物動態理論	前期	100~150	2	233	コ			1
(択)臨床薬物動態解析学	後期	100~150	2	233	コ			1	
(択)医薬品安全性学	前期	100~150	2	235	コ			1	
(択)医療情報学	前期	100~150	2	238	コ			1	
(択)コミュニケーション学	後期	100~150	2	236	コ			1	
(択)医薬品開発・経済学	前期	100~150	2	231	コ			1	
実習	※物理系実習Ⅱ	前期	55~70	4	229				1
	※物理系実習Ⅲ	後期	55~70	4	229				1
	※化学系実習Ⅰ	前期	55~70	4	229				1
	※化学系実習Ⅱ	前期	55~70	4	229				1
	※化学系実習Ⅲ	後期	55~70	4	229				1
	※生物系実習Ⅲ	前期	55~70	4	229				1
	※生物系実習Ⅳ	後期	55~70	4	229				1
単位数の合計						(必須科目)			17
						(選択科目)			179
						合計			196

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S ○○○=■

(基礎資料 1-3) 学年別授業科目

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。  
 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

	ヒューマンズム教育・医療倫理教育
	教養教育科目
	語学教育科目
	医療安全教育科目
	生涯学習の意欲醸成科目
	コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。  
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。  
 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。  
 「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S  
 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-4) 学年別授業科目

4 年 次										
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育 ・語学教育		※生涯スポーツ演習Ⅰ	前期・後期	200~250	2	234	コ			1
		※生涯スポーツ演習Ⅱ	前期・後期	200~250	2	234	コ			1
薬学専門教育		※物理系薬学特別講義	後期	100~150	2	218	コ			1
		※化学系薬学特別講義	後期	100~150	2	218	コ			1
		※生物系薬学特別講義	後期	100~150	2	218	コ			1
		※衛生薬学特別講義	後期	100~150	2	218	コ			1
		※医療薬学特別講義Ⅰ	後期	100~150	2	218	コ			1
		※医療薬学特別講義Ⅱ	後期	100~150	2	218	コ			1
		(択)漢方薬学概論	前期	100~150	2	237	コ			1
		(択)創薬化学Ⅲ	前期	100~150	2	235	コ			1
		(択)遺伝子工学概論	前期	100~150	2	235	コ			1
		(択)臨床検査学	前期	100~150	2	219	コ			1
		(択)環境衛生学Ⅱ	前期	100~150	2	235	コ			1
		(択)病態・薬物治療学Ⅲ	前期	100~150	2	237	コ			1
		(択)病態・薬物治療学Ⅳ	前期	100~150	2	236	コ			1
		(択)疾患薬理Ⅳ	前期	100~150	2	237	コ			1
		(択)薬物送達学	前期	100~150	2	233	コ			1
		(択)臨床薬物動態学	前期	100~150	2	236	コ			1
		(択)薬学健康管理学	前期	100~150	2	235	コ			1
	(択)薬学疾患管理学	前期	100~150	2	236	コ			1	
	(択)薬事関係法規論	前期	100~150	2	232	コ			1	
	(択)調剤学総論	後期	100~150	2	235	コ			1	
実習		※実務実習事前学習	通年	100~150	2	232				4
演習		※薬学演習(含薬学研究基礎)	通年	218	1	218				2
単位数の 合計							(必須科目)			14
							(選択科目)			14
							合計			28

(凡例)  
講義=コ PBL/SGD=S ○○○=■  
※=必修

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。  
2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」	
ヒューマンズム教育・医療倫理教育	
教養教育科目	
語学教育科目	
医療安全教育科目	
生涯学習の意欲醸成科目	
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。  
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。  
5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。  
「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S  
6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-5) 学年別授業科目

5 年 次										
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育 ・語学教育		※生涯スポーツ演習Ⅰ	前期・後期	200~250	2	234	コ			1
		※生涯スポーツ演習Ⅱ	前期・後期	200~250	2	234	コ			1
実習		※実務実習	通年	225	1	225				20
		※特別実習	通年	228	1	228				14
単位数の 合計							(必須科目)			36
							(選択科目)			0
							合計			36

(凡例)  
 講義=コ PBL/SGD=S ○○○=■  
 ※=必修

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。  
 2 下記の「科目の識別」にそつて、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

	ヒューマンズム教育・医療倫理教育
	教養教育科目
	語学教育科目
	医療安全教育科目
	生涯学習の意欲醸成科目
	コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。  
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。  
 5 表には下の「授業方法」の表記にそつて、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。  
 「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S  
 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-6) 学年別授業科目

		6 年 次							
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法	単位数	
教養教育 ・語学教育		※生涯スポーツ演習Ⅰ	前期・後期	200~250	2	234	コ	1	
		※生涯スポーツ演習Ⅱ	前期・後期	200~250	2	234	コ	1	
薬学 専門 教育		(択)臨床診療科概論	前期	200~300	1	251	コ	2	
		(択)臨床検査学Ⅱ	前期	200~300	1	274	コ	2	
		(択)薬科処方解析学	前期	200~300	1	251	コ	2	
		(択)薬剤師の職能について	前期	200~300	1	35	コ	2	
		(択)アドバンスト特別実習	前期	200~300	1	23	コ	2	
		(択)今日の薬学研究	前期	200~300	1	206	コ	2	
		(択)総合基礎薬学特別講義Ⅰ	前期	200~300	1	275	コ	2	
		(択)総合基礎薬学特別講義Ⅱ	前期	200~300	1	274	コ	2	
		(択)総合衛生薬学特別講義	前期	200~300	1	251	コ	2	
		(択)総合医療薬学特別講義Ⅰ	前期	200~300	1	275	コ	2	
		(択)総合医療薬学特別講義Ⅱ	前期	200~300	1	275	コ	2	
		(択)総合医療薬学特別講義Ⅲ	後期	200~300	1	274	コ	2	
		(択)総合医療薬学特別講義Ⅳ	後期	200~300	1	274	コ	2	
	(択)総合医療薬学特別講義Ⅴ	後期	200~300	1	274	コ	2		
	(択)総合医療薬学特別講義Ⅵ	後期	200~300	1	274	コ	2		
	(択)薬事・医事関係法規特別講義	後期	200~300	1	274	コ	2		
演習		※総合薬学演習(含卒業試験)	後期	200~300	1	274		2	
単位数の 合計								(必須科目)	4
								(選択科目)	32
								合計	36

(凡例)  
講義=コ PBL/SGD=S ○○○=■  
※=必修

- [注]
- 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
  - 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付けてください。

「科目の識別」

	ヒューマンズム教育・医療倫理教育
	教養教育科目
	語学教育科目
	医療安全教育科目
	生涯学習の意欲醸成科目
	コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
- 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
- 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。  
「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-7) 学年別授業科目

(新カリキュラム)

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	18	17.1
教養教育科目	55	104
語学教育科目	35	60
医療安全教育科目	2	1.5
生涯学習の意欲醸成科目	9	6.2
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	7	16.2

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単位数を合算して記入してください。

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	6	147	153
2 年 次	14	188	202
3 年 次	17	179	196
4 年 次	14	14	28
5 年 次	34	0	34
6 年 次	27	8	35
合計	112	536	648

(基礎資料1-7) 学年別授業科目

(旧カリキュラム14台)

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	17	17.6
教養教育科目	55	104
語学教育科目	33	58
医療安全教育科目	2	1.5
生涯学習の意欲醸成科目	9	7.7
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	6	17.2

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単位数を合算して記入してください。

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	6	146	152
2 年 次	13	188	201
3 年 次	17	176	193
4 年 次	8	24	32
5 年 次	36	0	36
6 年 次	4	32	36
合計	84	566	650

(基礎資料1-7) 学年別授業科目

(旧カリキュラム13台)

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	17	17.6
教養教育科目	59	112
語学教育科目	33	58
医療安全教育科目	2	1.5
生涯学習の意欲醸成科目	9	7.7
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	6	17.2

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単位数を合算して記入してください。

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	6	154	160
2 年 次	13	196	209
3 年 次	17	184	201
4 年 次	8	24	32
5 年 次	36	0	36
6 年 次	4	32	36
合計	84	590	674



(基礎資料2-1) 評価実施年度における学年別在籍状況

学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年
入学年度の入学定員 <sup>1)</sup>		230	230	230	230	230	230
入学時の学生数 <sup>2)</sup>	A	231	237	233	240	233	284
在籍学生数 <sup>3)</sup>	B	238	241	235	234	228	303
過年度在籍者数 <sup>4)</sup>	留年による者 C	7	13	18	15	24	52
	休学による者 D	0	0	0	1	0	0
編入学などによる在籍者数	E	0	0	0	0	0	0
ストレート在籍者数 <sup>5)</sup>	F	231	228	217	218	204	251
ストレート在籍率 <sup>6)</sup>	F/A	1.00	0.96	0.93	0.91	0.88	0.88
過年度在籍率 <sup>7)</sup>	(C+D)/B	0.03	0.05	0.08	0.07	0.11	0.17

- 1) 各学年が入学した年度の入学者選抜で設定されていた入学定員を記載してください。
- 2) 当該学年が入学した時点での実入学者数を記載してください。
- 3) 評価実施年度の5月1日現在における各学年の在籍学生数を記載してください。
- 4) 過年度在籍者数を「留年による者」と「休学による者」に分けて記載してください。休学と留年が重複する学生は留年者に算入してください。
- 5) (在籍学生数) - [(過年度在籍者数) + (編入学などによる在籍者数)] を記載してください。  
ストレート在籍者数 {B-(C+D+E)}
- 6) (ストレート在籍者数) / (入学時の学生数) の値を小数点以下第2位まで記載してください。
- 7) (過年度在籍者数) / (在籍学生数) の値を小数点以下第2位まで記載してください。

(基礎資料2-2) 直近6年間の学生受入状況

入学年度		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	平均値 <sup>5)</sup>
入学定員	A	230	230	230	230	230	230	
実入学者数 <sup>1)</sup>	B	283	233	240	232	237	231	243
入学定員充足率 <sup>2)</sup>	B/A	1.23	1.01	1.04	1.01	1.03	1.00	1.06
編入学定員								
編入学者数 <sup>3)</sup>	C+D+E							
編入学した学年別の内数 <sup>4)</sup>	2年次 C							
	3年次 D							
	4年次 E							

- 1) 各年度の実入学者数として、当該年の5月1日に在籍していた新入生数を記載してください。
- 2) 各年度の実入学者数をその年度の入学定員で除した数値(小数点以下第2位まで)を記載してください。
- 3) その年度に受け入れた編入学者(転学部、転学科などを含む)の合計数を記載してください。
- 4) 編入学者数の編入学受け入れ学年別の内数を記入してください。
- 5) 6年間の平均値を人数については整数で、充足率については小数点以下第2位まで記入してください。

(基礎資料2-3) 評価実施年度の直近5年間における学年別の学籍異動状況

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
1年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	241	250	237	240	238
	休学者数 <sup>2)</sup>	1	1	0	1	0
	退学者数 <sup>2)</sup>	4	6	1	1	
	留年者数 <sup>2)</sup>	9	5	3	7	
	進級率 <sup>3)</sup>	0.94	0.95	0.98	0.96	1.00
2年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	300	245	255	243	241
	休学者数 <sup>2)</sup>	3	5	2	0	0
	退学者数 <sup>2)</sup>	5	7	4	3	
	留年者数 <sup>2)</sup>	14	14	10	12	
	進級率 <sup>3)</sup>	0.93	0.89	0.94	0.94	1.00
3年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	221	286	232	243	235
	休学者数 <sup>2)</sup>	0	3	1	1	0
	退学者数 <sup>2)</sup>	0	2	2	2	
	留年者数 <sup>2)</sup>	8	9	3	7	
	進級率 <sup>3)</sup>	0.96	0.95	0.97	0.96	1.00
4年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	244	215	274	230	234
	休学者数 <sup>2)</sup>	2	1	2	1	1
	退学者数 <sup>2)</sup>	1	0	0	1	
	留年者数 <sup>2)</sup>	2	0	2	1	
	進級率 <sup>3)</sup>	0.98	1.00	0.99	0.99	1.00
5年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	242	242	215	273	228
	休学者数 <sup>2)</sup>	0	0	1	1	0
	退学者数 <sup>2)</sup>	0	0	0	0	
	留年者数 <sup>2)</sup>	1	1	0	0	
	進級率 <sup>3)</sup>	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00

1) 在籍者数は、当該年度当初(4月1日)における1年次から5年次に在籍していた学生数を記載してください。

2) 休学者数、退学者数、留年者数については、各年度の年度末に、それぞれの学年から次の学年に進級できなかった学生数を、その理由となった事象に分けて記載してください。

ただし、同一学生に複数の事象が発生した場合は、後の事象だけに算入してください。

なお、前期に休学して後期から復学した学生については、進級できなかった場合は休学として算入し、進級した場合は算入しないでください。

3) 進級率は、次式で計算した結果を、小数点以下第2位まで記入してください。

$$\{(\text{在籍者数}) - (\text{休学者数} + \text{退学者数} + \text{留年者数})\} / (\text{在籍者数})$$

(基礎資料2-4) 評価実施年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
卒業判定時(年度末)の在籍学生数 <sup>1)</sup> A		223	242	240	212	273
学士課程修了(卒業)者数 B		196	212	219	183	235
卒業率 <sup>2)</sup> B/A		0.88	0.88	0.91	0.86	0.86
卒業までに要した 在学期間別の 内訳 <sup>3)</sup>	6年 C	185	199	208	176	226
	7年	10	11	9	6	8
	8年	1	2	2	1	1
	9年以上	0	0	0	0	0
入学時の学生数(実入学者数) <sup>4)</sup> D		237	245	256	232	283
ストレート卒業率 <sup>5)</sup> C/D		0.78	0.81	0.81	0.76	0.80

1) 9月卒業などの卒業延期生、休退学者を除いた数字を記載してください。

2) 卒業率 = (学士課程修了者数) / (6年次の在籍者数) の値(B/A) を小数点以下第2位まで記載してください。

3) 「編入学者を除いた卒業生数」の内訳を卒業までに要した期間別に記載してください。

4) それぞれの年度の6年次学生(C)が入学した年度の実入学者数(編入学者を除く)を記載してください。

5) ストレート卒業率 = (卒業までに要した在学期間が6年間の学生数) / (入学時の学生数) の値(C/D) を、小数点以下第2位まで記載してください。

(基礎資料 3-1) 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。  
 2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>A 全学年を通して：ヒューマニズムについて学ぶ</b> <b>一般目標：</b> 生命に関わる職業人となることを自覚し、それにふさわしい行動・態度をとることができるようになるために、人との共感的態度を身につけ、信頼関係を醸成し、さらに生涯にわたってそれらを向上させる習慣を身につける。  <b>(1) 生と死</b> <b>一般目標：</b> 生命の尊さを認識し、人の誕生から死までの間に起こりうる様々な問題を通して医療における倫理の重要性を学ぶ。  <b>【生命の尊厳】</b> 到達目標： 1. 人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する。(知識・態度) 2. 誕生に関わる倫理的問題(生殖技術、クローン技術、出生前診断など)の概略と問題点を説明できる。 3. 医療に関わる倫理的問題を列挙し、その概略と問題点を説明できる。 4. 死に関わる倫理的問題(安楽死、尊厳死、脳死など)の概略と問題点を説明できる。 5. 自らの体験を通して、生命の尊さと医療の関わりについて討議する。(態度)  <b>【医療の目的】</b> 到達目標： 1. 予防、治療、延命、QOLについて説明できる。  <b>【先進医療と生命倫理】</b> 到達目標： 1. 医療の進歩(遺伝子診断、遺伝子治療、移植・再生医療、難病治療など)に伴う生命観の変遷を概説できる。  <b>(2) 医療の担い手としてのこころ構え</b> <b>一般目標：</b> 常に社会に目を向け、生涯にわたって医療を通して社会に貢献できるようにするために必要なこころ構えを身につける。  <b>【社会の期待】</b> 到達目標： 1. 医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。(態度) 2. 医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案する。(知識・態度) 3. 医療の担い手にふさわしい態度を示す。(態度)  <b>【医療行為に関わるこころ構え】</b> 到達目標： 1. ヘルシンキ宣言の内容を概説できる。 2. 医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる。 3. インフォームド・コンセントの定義と必要性を説明できる。 4. 患者の基本的権利と自己決定権を尊重する。(態度) 5. 医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)  <b>【研究活動に求められるこころ構え】</b> 到達目標： 1. 研究に必要な独創的考え方、能力を醸成する。 2. 研究者に求められる自立した態度を身につける。(態度) 3. 他の研究者の意見を理解し、討議する能力を身につける。(態度)  <b>【医薬品の創製と供給に関わるこころ構え】</b> 到達目標： 1. 医薬品の創製と供給が社会に及ぼす影響に常に目を向ける。(態度) 2. 医薬品の使用に関わる事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)  <b>【自己学習・生涯学習】</b> 到達目標： 1. 医療に関わる諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する。(知識・技能・態度) 2. 医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。(態度)			コミュニケーション学			
	生命倫理と医療技術		コミュニケーション学			
	生命倫理と医療技術		医療情報学			
	生命倫理と医療技術					
			医療情報学、コミュニケーション学	調剤学総論		
			医薬品開発・経済学	薬事関係法規論		薬事・医事関係法規特別講義
			医療情報学、医薬品開発・経済学			
			コミュニケーション学、医薬品開発・経済学		特別実習	
			医療情報学、創薬化学 I	薬事関係法規論		薬事・医事関係法規特別講義
			創薬化学 I			
			コミュニケーション学	調剤学総論		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<p>(3) 信頼関係の確立を目指して</p> <p>一般目標： 医療の担い手の一員である薬学専門家として、患者、同僚、地域社会との信頼関係を確立できるようになるために、相手の心理、立場、環境を理解するための基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>【コミュニケーション】 到達目標： 1. 言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。 2. 意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。 3. 相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。</p> <p>【相手の気持ちに配慮する】 到達目標： 1. 対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる。 2. 相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。(知識・態度) 3. 対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(技能)</p> <p>【患者の気持ちに配慮する】 到達目標： 1. 病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。 2. 患者の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度) 3. 患者の家族の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度) 4. 患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるように努力する。(態度) 5. 不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議する。(知識・態度)</p> <p>【チームワーク】 到達目標： 1. チームワークの重要性を例示して説明できる。 2. チームに参加し、協調的態で役割を果たす。 3. 自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。(態度)</p> <p>【地域社会の人々との信頼関係】 到達目標： 1. 薬の専門家と地域社会の関わりを列挙できる。 2. 薬の専門家に対する地域社会のニーズを収集し、討議する。(態度)</p>						
			コミュニケーション学			
			コミュニケーション学			
			コミュニケーション学			
			コミュニケーション学		調剤学総論	
				医療情報学	薬事関係法規論	
	薬学概論、早期体験学習				実務実習	
<p><b>B イントロダクション</b></p> <p>一般目標： 薬学生としてのモチベーションを高めるために、薬の専門家として身につけるべき基本的知識、技能、態度を修得し、卒業生の活躍する現場などを体験する。</p> <p>(1) 薬学への招待 一般目標： 薬の専門家として必要な基本姿勢を身につけるために、医療、社会における薬学の役割、薬剤師の使命を知り、どのように薬学が発展してきたかを理解する。</p> <p>【薬学の歴史】 到達目標： 1. 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割を概説できる。 2. 薬剤師の誕生と変遷の歴史を概説できる。</p> <p>【薬剤師の活動分野】 到達目標： 1. 薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政など）について概説できる。 2. 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。 3. 医薬品の適正使用における薬剤師の役割について概説できる。 4. 医薬品の創製における薬剤師の役割について概説できる。 5. 疾病の予防および健康管理における薬剤師の役割について概説できる。</p>						
		天然医薬資源学		創薬化学 I		
				創薬化学 I、医療情報学		
				医療情報学		
		薬学概論		医療情報学		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
<p><b>【薬について】</b> 到達目標： 1. 「薬とは何か」を概説できる。 2. 薬の発見の歴史を具体例を挙げて概説できる。 3. 化学物質が医薬品として治療に使用されるまでの流れを概説できる。 4. 種々の剤形とその使い方について概説できる。 5. 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを概説できる。</p> <p><b>【現代社会と薬学との接点】</b> 到達目標： 1. 先端医療を支える医薬品開発の現状について概説できる。 2. 麻薬、大麻、覚せい剤などを乱用することによる健康への影響を概説でき 3. 薬害について具体例を挙げ、その背景を概説できる。</p> <p><b>【日本薬局方】</b> 到達目標： 1. 日本薬局方の意義と内容について概説できる。</p> <p><b>【総合演習】</b> 到達目標： 1. 医療と薬剤師の関わりについて考えを述べる。(態度) 2. 身近な医薬品を日本薬局方などを用いて調べる。(技能)</p> <p><b>(2) 早期体験学習</b> 一般目標： 薬学生として学習に対するモチベーションを高めるために、卒業生の活躍する現場などを体験する。</p> <p>到達目標： 以下の例示を参考にして、到達目標を設定し適切に実施する。</p> <p>1. 病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。(知識・態度) 2. 開局薬剤師の業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。(知識・態度) 3. 製薬企業および保健衛生、健康に関わる行政機関の業務を見聞し、社会において果たしている役割について討議する。(知識・態度) 4. 保健、福祉の重要性を具体的な体験に基づいて発表する。(知識・態度)</p>	天然医薬資源学	基礎薬理学	創薬化学 I	調剤学総論			
	薬学概論			製剤工学			調剤学総論
	薬学概論	基礎薬理学					医療情報学
							医療情報学
	薬学概論						日本薬局方 I
							日本薬局方 I
	薬学概論						日本薬局方 I
	薬学概論、早期体験学習						
<b>C 薬学専門教育</b>							
<b>【物理系薬学を学ぶ】</b>							
<b>C1 物質の物理的性質</b>							
一般目標： 化学物質の基本的性質を理解するために、原子・分子の構造、熱力学、反応速度論などの基本的知識を修得し、それらを活用する技能を身につける。							
<b>(1) 物質の構造</b> 一般目標： 物質を構成する基本単位である原子および分子の性質を理解するために、原子構造、分子構造および化学結合に関する基本的知識と技能を修得する。							
<b>【化学結合】</b> 到達目標： 1) 化学結合の成り立ちについて説明できる。 2) 軌道の混成について説明できる。 3) 分子軌道の基本概念を説明できる。 4) 共役や共鳴の概念を説明できる。	薬学化学入門、有機薬学 I	薬学物理化学 II	創薬化学 I・II、化学系実習 IV	基礎薬学特別講義 I	医薬品素材学 I、総合基礎薬学特別講義 I		
	有機薬学 I	薬学物理化学 II					
	薬学化学入門、有機薬学 I						
<b>【分子間相互作用】</b> 到達目標： 1) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。 2) ファンデルワールス力について例を挙げて説明できる。 3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。 4) 分散力について例を挙げて説明できる。 5) 水素結合について例を挙げて説明できる。 6) 電荷移動について例を挙げて説明できる。 7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。		薬学物理化学 II	創薬化学 I・II、化学系実習 IV	基礎薬学特別講義 I	医薬品素材学 I、総合基礎薬学特別講義 I		
			創薬化学 I				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
<p><b>【原子・分子】</b> 到達目標： 1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。 2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。 3) スピンとその磁気共鳴について説明できる。 4) 分子の分極と双極子モーメントについて説明できる。 5) 代表的な分光スペクトルを測定し、構造との関連を説明できる。(知識・技能) 6) 偏光および旋光性について説明できる。 7) 散乱および干渉について説明できる。 8) 結晶構造と回折現象について説明できる。</p> <p><b>【放射線と放射能】</b> 到達目標： 1) 原子の構造と放射壊変について説明できる。 2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの物質との相互作用について説明できる。 3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。 4) 核反応および放射平衡について説明できる。 5) 放射線の測定原理について説明できる。</p> <p><b>(2) 物質の状態 I</b> 一般目標： 物質の状態および相互変換過程を解析できるようになるために、熱力学の基本的知識と技能を修得する。</p> <p><b>【総論】</b> 到達目標： 1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。 2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。 3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。</p> <p><b>【エネルギー】</b> 到達目標： 1) 系、外界、境界について説明できる。  2) 状態関数の種類と特徴について説明できる。 3) 仕事および熱の概念を説明できる。 4) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。 5) 熱力学第一法則について式を用いて説明できる。 6) 代表的な過程(変化)における熱と仕事を計算できる。(知識・技能) 7) エンタルピーについて説明できる。  8) 代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる。(知識・技能) 9) 標準生成エンタルピーについて説明できる。</p> <p><b>【自発的な変化】</b> 到達目標： 1) エントロピーについて説明できる。 2) 熱力学第二法則について説明できる。 3) 代表的な物理変化、化学変化に伴うエントロピー変化を計算できる。(知識・技能) 4) 熱力学第三法則について説明できる。 5) 自由エネルギーについて説明できる。 6) 熱力学関数の計算結果から、自発的な変化の方向と程度を予測できる。(知識・技能) 7) 自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。 8) 自由エネルギーと平衡定数の温度依存性 (van't Hoffの式) について説明できる。 △9) 共役反応について例を挙げて説明できる。</p> <p><b>(3) 物質の状態 II</b> 一般目標： 複雑な系における物質の状態および相互変換過程を熱力学に基づき解析できるようになるために、溶液および電気化学に関する基本的知識と技能を修得する。</p> <p><b>【物理平衡】</b> 到達目標： 1) 相変化に伴う熱の移動 (Clausius-Clapeyronの式など) について説明できる。 2) 相平衡と相律について説明できる。 3) 代表的な状態図 (一分系、二成分系、三成分系相図) について説明できる。 4) 物質の溶解平衡について説明できる。 5) 溶液の束一的性質 (浸透圧、沸点上昇、凝固点降下など) について説明できる。 6) 界面における平衡について説明できる。 7) 吸着平衡について説明できる。 △8) 代表的な物理平衡を観測し、平衡定数を求めることができる。(技能)</p>		薬学物理化学 II	分析化学 III	基礎薬学特別講義 I		総合基礎薬学特別講義 I	
		同位体化学					
		薬学物理化学 I			基礎薬学特別講義 I		医薬品素材学 I、総合基礎薬学特別講義 I
		薬学物理化学 I			基礎薬学特別講義 I		医薬品素材学 I、総合基礎薬学特別講義 I
			薬学物理化学 I		基礎薬学特別講義 I		医薬品素材学 I、総合基礎薬学特別講義 I
	化学		薬品物性学	基礎薬学特別講義 I			
						医薬品素材学 I	



薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
<p><b>【溶液の化学】</b> 到達目標： 1) 化学ポテンシャルについて説明できる。 2) 活量と活量係数について説明できる。 3) 平衡と化学ポテンシャルの関係を説明できる。 4) 電解質のモル伝導度の濃度変化を説明できる。 5) イオンの輸率と移動度について説明できる。 6) イオン強度について説明できる。 7) 電解質の活量係数の濃度依存性 (Debye-Hückel の式) について説明できる。</p> <p><b>【電気化学】</b> 到達目標： 1) 代表的な化学電池の種類とその構成について説明できる。 2) 標準電極電位について説明できる。 3) 起電力と標準自由エネルギー変化の関係を説明できる。 △4) Nernstの式が誘導できる。 5) 濃淡電池について説明できる。 △6) 膜電位と能動輸送について説明できる。</p> <p>(4) 物質の変化 一般目標： 物質の変換過程を理解するために、化学反応速度論、および反応速度に影響を与える諸因子に関する基本的知識と技能を修得する。</p> <p><b>【反応速度】</b> 到達目標： 1) 反応次数と速度定数について説明できる。 2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能) 3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。 4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能) 5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。 6) 反応速度と温度との関係(Arrheniusの式)を説明できる。 △7) 衝突理論について概説できる。 △8) 遷移状態理論について概説できる。 9) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応など)について説明できる。 10) 酵素反応、およびその拮抗阻害と非拮抗阻害の機構について説明できる。</p> <p><b>【物質の移動】</b> 到達目標： 1) 拡散および溶解速度について説明できる。 2) 沈降現象について説明できる。 3) 流動現象および粘度について説明できる。</p> <p><b>C2 化学物質の分析</b> 一般目標： 化学物質(医薬品を含む)をその性質に基づいて分析できるようにするために、物質の定性、定量などに必要な基本的知識と技能を修得する。</p> <p>(1) 化学平衡 一般目標： 水溶液中での物質の性質を理解するために、各種の化学平衡に関する基本的知識と測定の基本的技能を修得する。</p> <p><b>【酸と塩基】</b> 到達目標： 1) 酸・塩基平衡を説明できる。 △2) 溶液の水素イオン濃度(pH)を測定できる。(技能) 3) 溶液のpHを計算できる。(知識・技能) 4) 緩衝作用について具体例を挙げて説明できる。 5) 代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。 6) 化学物質のpHによる分子形、イオン形の変化を説明できる。</p> <p><b>【各種の化学平衡】</b> 到達目標： 1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。 2) 沈殿平衡(溶解度と溶解度積)について説明できる。 3) 酸化還元電位について説明できる。 4) 酸化還元平衡について説明できる。 5) 分配平衡について説明できる。 6) イオン交換について説明できる。</p>		薬学物理化学 I		基礎薬学特別講義 I		医薬品素材学 I、総合基礎薬学特別講義 I	
		薬学物理化学 II					医薬品素材学 I、総合基礎薬学特別講義 I
		薬学物理化学 II			基礎薬学特別講義 I		医薬品素材学 I
							医薬品素材学 I
		薬学物理化学 II			基礎薬学特別講義 I		
				薬品物性学	基礎薬学特別講義 I		医療薬剤学 II、総合基礎薬学特別講義 I、総合医療薬学特別講義 I
				薬品物性学	基礎薬学特別講義 I		医療薬剤学 II、総合医療薬学特別講義 I
				薬品物性学	基礎薬学特別講義 I		医療薬剤学 II、総合基礎薬学特別講義 I、総合医療薬学特別講義 I
		化学			基礎薬学特別講義 I		
	化学	分析化学 I		基礎薬学特別講義 I		医療薬剤学 II	
		分析化学 II				医療薬剤学 II、総合医療薬学特別講義 I	
			日本薬局方 II			医療薬剤学 II、総合医療薬学特別講義 I	

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
<p><b>(2) 化学物質の検出と定量</b>  <b>一般目標：</b>            試料中に存在する物質の種類および濃度を正確に知るために、代表的な医薬品、その他の化学物質の定性・定量法を含む各種の分離分析法の基本的知識と技能を修得する。</p> <p><b>【定性試験】</b>            到達目標：            1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。            2) 日本薬局方記載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。            3) 日本薬局方記載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。</p> <p><b>【定量の基礎】</b>            到達目標：            △1) 実験値を用いた計算および統計処理ができる。(技能)            2) 医薬品分析法のバリデーションについて説明できる。            3) 日本薬局方記載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。            4) 日本薬局方記載の容量分析法について列挙できる。            5) 日本薬局方記載の生物学的定量法の特徴を説明できる。</p> <p><b>【容量分析】</b>            到達目標：            1) 中和滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。            2) 非水滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。            3) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。            4) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。            5) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。            6) 電気滴定(電位差滴定、電気伝導度滴定など)の原理、操作法および応用例を説明できる。            △7) 日本薬局方記載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(技能)</p> <p><b>【金属元素の分析】</b>            到達目標：            1) 原子吸光光度法の原理、操作法および応用例を説明できる。            2) 発光分析法の原理、操作法および応用例を説明できる。</p> <p><b>【クロマトグラフィー】</b>            到達目標：            1) クロマトグラフィーの種類を列挙し、それぞれの特徴と分離機構を説明できる。            2) クロマトグラフィーで用いられる代表的な検出法と装置を説明できる。            △3) 薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる。(知識・技能)</p> <p><b>(3) 分析技術の臨床応用</b>  <b>一般目標：</b>            薬学研究や臨床現場で分析技術を適切に応用するために、代表的な分析法の基本的知識と技能を修得する。</p> <p><b>【分析の準備】</b>            到達目標：            △1) 代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる。(技能)            2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。</p> <p><b>【分析技術】</b>            到達目標：            1) 臨床分析の分野で用いられる代表的な分析法を列挙できる。            2) 免疫反応を用いた分析法の原理、実施法および応用例を説明できる。            3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)            4) 電気泳動法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)            5) 代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。            △6) 代表的なドラッグミストリーについて概説できる。            7) 代表的な画像診断技術(X線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など)について概説できる。            8) 画像診断薬(造影剤、放射性医薬品など)について概説できる。            △9) 薬学領域で繁用されるその他の分析技術(バイオイメージング、マイクロチップなど)について概説できる。</p>							
				日本薬局方 I	基礎薬学特別講義 I		
		物理系実習、化学系実習 II					生体機能解析学 II
		分析化学 I			基礎薬学特別講義 I		
		分析化学 I・II					生体機能解析学 II
		分析化学 I、化学系実習 II			基礎薬学特別講義 I		生体機能解析学 II、総合基礎薬学特別講義 I
		化学系実習 II					
				分析化学 III	基礎薬学特別講義 I		
				日本薬局方 II	基礎薬学特別講義 I		生体機能解析学 II
		化学系実習 II					
				日本薬局方 II	臨床検査学 I		臨床検査学 II、総合基礎薬学特別講義 I
				日本薬局方 II	臨床検査学 I、基礎薬学特別講義 I		臨床検査学 II、総合基礎薬学特別講義 I
				日本薬局方 II			
	分析化学 I			臨床検査学 I		生体機能解析学 II、臨床検査学 II、総合基礎薬学特別講義 I	
	同位体医療薬学		分析化学 III	臨床検査学 I、基礎薬学特別講義 I		臨床検査学 II、総合基礎薬学特別講義 I	
	分析化学 I			臨床検査学 I		生体機能解析学 II、臨床検査学 II、総合基礎薬学特別講義 I	

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【薬毒物の分析】</b> 到達目標： 1) 毒物中毒における生体試料の取扱いについて説明できる。 2) 代表的な中毒原因物質（乱用薬物を含む）のスクリーニング法を列挙し、説明できる。 △3) 代表的な中毒原因物質を分析できる。（技能）						生体機能解析学Ⅱ
<b>C3 生体分子の姿・かたちをとらえる</b> <b>一般目標：</b> 生体の機能や医薬品の働きが三次元的な相互作用によって支配されていることを理解するために、生体分子の立体構造、生体分子が関与する相互作用、およびそれらを解析する手法に関する基本的知識と技能を修得する。  <b>(1) 生体分子を解析する手法</b> <b>一般目標：</b> 生体分子、化学物質の姿、かたちをとらえるために、それらの解析に必要な方法に関する基本的知識と技能を修得する。  <b>【分光分析法】</b> 到達目標： 1) 紫外可視吸光度測定法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。 2) 蛍光光度法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。 △3) 赤外・ラマン分光スペクトルの原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。 △4) 電子スピン共鳴 (ESR) スペクトル測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。 5) 旋光度測定法 (旋光分散)、円偏光二色性測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。 △6) 代表的な生体分子 (核酸、タンパク質) の紫外および蛍光スペクトルを測定し、構造上の特徴と関連付けて説明できる。(知識・技能)						
<b>【核磁気共鳴スペクトル】</b> 到達目標： 1) 核磁気共鳴スペクトル測定法の原理を説明できる。 △2) 生体分子の解析への核磁気共鳴スペクトル測定法の応用例について説明できる。	化学系実習Ⅱ		分析化学Ⅲ	基礎薬学特別講義Ⅰ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ
<b>【質量分析】</b> 到達目標 1) 質量分析法の原理を説明できる。 △2) 生体分子の解析への質量分析の応用例について説明できる。						生体機能解析学Ⅱ、 総合基礎薬学特別講義Ⅰ
<b>【X線結晶解析】</b> 到達目標 1) X線結晶解析の原理を概説できる。 △2) 生体分子の解析へのX線結晶解析の応用例について説明できる。	化学系実習Ⅱ		生体成分分析学	基礎薬学特別講義Ⅰ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ
<b>【相互作用の解析法】</b> 到達目標 △1) 生体分子間相互作用の解析法を概説できる。  <b>(2) 生体分子の立体構造と相互作用</b> <b>一般目標：</b> 生体分子の機能および医薬品の働きを立体的、動的にとらえるために、タンパク質、核酸および脂質などの立体構造やそれらの相互作用に関する基本的知識を修得する。						総合基礎薬学特別講義Ⅰ
<b>【立体構造】</b> 到達目標： 1) 生体分子 (タンパク質、核酸、脂質など) の立体構造を概説できる。 △2) タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。 3) タンパク質の立体構造を規定する因子 (疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合など) について、具体例を用いて説明できる。 △4) タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。 5) 核酸の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。 6) 生体膜の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。	同位体化学		分析化学Ⅲ			総合基礎薬学特別講義Ⅰ
						生体機能解析学Ⅱ
				創薬化学Ⅰ		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
<b>【相互作用】</b> 到達目標： 1) 鍵と鍵穴モデルおよび誘導適合モデルについて、具体例を挙げて説明できる。 △2) 転写・翻訳、シグナル伝達における代表的な生体分子間相互作用について、具体例を挙げて説明できる。 3) 脂質の水中における分子集合構造（膜、ミセル、膜タンパク質など）について説明できる。 △4) 生体高分子と医薬品の相互作用における立体構造的要因の重要性を、具体例を挙げて説明できる。	生体機能分子学 I		創薬化学 I			
					創薬化学 II	
			創薬化学 I			
<b>C-4 化学物質の性質と反応</b>						
<b>一般目標：</b> 化学物質（医薬品および生体物質を含む）の基本的な反応性を理解するために、代表的な反応、分離法、構造決定法などについての基本的知識と、それらを実施するための基本的技能を修得する。						
<b>（1）化学物質の基本的性質</b> <b>一般目標：</b> 基本的な無機および有機化合物の構造、物性、反応性を理解するために、電子配置、電子密度、化学結合の性質などに関する基本的知識を修得する。						
<b>【基本事項】</b> 到達目標： 1) 基本的な化合物を命名し、ルイス構造式で書くことができる。 2) 薬学領域で用いられる代表的化合物を慣用名で記述できる。 3) 有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。 4) 有機反応における結合の開裂と生成の様式について説明できる。 5) 基本的な有機反応（置換、付加、脱離、転位）の特徴を概説できる。 6) ルイス酸・塩基を定義することができる。 7) 炭素原子を含む反応中間体（カルボカチオン、カルバニオン、ラジカル、カルベン）の構造と性質を説明できる。 8) 反応の進行を、エネルギー図を用いて説明できる。 9) 有機反応を、電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。						
	薬学化学入門、有機薬化学 I		創薬化学 I・II	基礎薬学特別講義 I		総合基礎薬学特別講義 I
	有機薬化学 I					
	薬学化学入門、有機薬化学 I					
	有機薬化学 I					
<b>【有機化合物の立体構造】</b> 到達目標： 1) 構造異性体と立体異性体について説明できる。 2) キラリティーと光学活性を概説できる。 3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。 4) ラセミ体とメソ化合物について説明できる。 5) 絶対配置の表示法を説明できる。 6) Fischer投影式とNewman投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。 7) エタンおよびブタンの立体配座と安定性について説明できる。						
	有機薬化学 I		創薬化学 I・II	基礎薬学特別講義 I		総合基礎薬学特別講義 I
<b>【無機化合物】</b> 到達目標： 1) 代表的な典型元素を列挙し、その特徴を説明できる。 2) 代表的な遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。 3) 窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。 4) イオウ、リン、ハロゲンの酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。 5) 代表的な無機医薬品を列挙できる。						
	化学					
<b>【錯体】</b> 到達目標： 1) 代表的な錯体の名称、構造、基本的性質を説明できる。 2) 配位結合を説明できる。 3) 代表的なドナー原子、配位基、キレート試薬を列挙できる。 4) 錯体の安定度定数について説明できる。 5) 錯体の安定性に与える配位子の構造的要素（キレート効果）について説明できる。 6) 錯体の反応性について説明できる。 7) 医薬品として用いられる代表的な錯体を列挙できる。						
	薬学化学入門、化学	分析化学 II				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
<p><b>(2) 有機化合物の骨格</b>  <b>一般目標：</b>            脂肪族および芳香族炭化水素の性質を理解するために、それぞれの基本構造、物理的性質、反応性に関する基本的知識を修得する。</p> <p><b>【アルカン】</b>            到達目標：            1) 基本的な炭化水素およびアルキル基をIUPACの規則に従って命名することができる。            2) アルカンの基本的な物性について説明できる。            3) アルカンの構造異性体を図示し、その数を示すことができる。            4) シクロアルカンの環の歪みを決定する要因について説明できる。            5) シクロヘキサンのいす形配座と舟形配座を図示できる。            6) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向（アキシアル、エクアトリアル）を図示できる。            7) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。</p> <p><b>【アルケン・アルキンの反応性】</b>            到達目標：            1) アルケンへの代表的なシン型付加反応を列挙し、反応機構を説明できる。            2) アルケンへの臭素の付加反応の機構を図示し、反応の立体特異性（アンチ付加）を説明できる。            3) アルケンへのハロゲン化水素の付加反応の位置選択性（Markovnikov 則）について説明できる。            4) カルボカチオンの級数と安定性について説明できる。            5) 共役ジエンへのハロゲンの付加反応の特徴について説明できる。            6) アルケンの酸化的開裂反応を列挙し、構造解析への応用について説明できる。            7) アルキンの代表的な反応を列挙し、説明できる。</p> <p><b>【芳香族化合物の反応性】</b>            到達目標：            1) 代表的な芳香族化合物を列挙し、その物性と反応性を説明できる。            2) 芳香族性（Hückel則）の概念を説明できる。            3) 芳香族化合物の求電子置換反応の機構を説明できる。            4) 芳香族化合物の求電子置換反応の反応性および配向性に及ぼす置換基の効果を説明できる。            5) 芳香族化合物の代表的な求核置換反応について説明できる。</p> <p><b>(3) 官能基</b>  <b>一般目標：</b>            官能基が有機化合物に与える効果を理解するために、カルボニル基、アミノ基などの官能基を有する有機化合物について、反応性およびその他の性質に関する基本的知識を修得し、それらを応用するための基本的技能を身につける。</p> <p><b>【概説】</b>            到達目標：            1) 代表的な官能基を列挙し、個々の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。            2) 複数の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。            3) 生体内高分子と薬物の相互作用における各官能基の役割を説明できる。            △ 4) 代表的な官能基の定性試験を実施できる。（技能）            5) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。（技能）            6) 日常生活で用いられる化学物質を官能基別に列挙できる。</p> <p><b>【有機ハロゲン化合物】</b>            到達目標：            1) 有機ハロゲン化合物の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。            2) 求核置換反応（S<sub>N</sub>1およびS<sub>N</sub>2反応）の機構について、立体化学を含めて説明できる。            3) ハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化水素の機構を図示し、反応の位置選択性（Saytzeff則）を説明できる。</p> <p><b>【アルコール・フェノール・チオール】</b>            到達目標：            1) アルコール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。            2) フェノール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。            3) フェノール類、チオール類の抗酸化作用について説明できる。</p>	有機化学Ⅰ			基礎薬学特別講義Ⅰ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ	
	有機化学Ⅱ			基礎薬学特別講義Ⅰ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ	
	有機化学Ⅱ				基礎薬学特別講義Ⅰ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ
	有機化学Ⅱ						
	有機化学Ⅱ			創薬化学Ⅰ・Ⅱ	基礎薬学特別講義Ⅰ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ
		化学系実習Ⅰ		日本薬局方Ⅰ、化学系実習Ⅳ			医薬品素材Ⅱ、総合基礎薬学特別講義Ⅰ
				日本薬局方Ⅰ			総合基礎薬学特別講義Ⅰ
	有機化学Ⅱ				基礎薬学特別講義Ⅰ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ
	有機化学Ⅱ			日本薬局方Ⅰ	基礎薬学特別講義Ⅰ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
<p><b>【エーテル】</b> 到達目標： 1) エーテル類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。 2) オキシラン類の開環反応における立体特異性と位置選択性を説明できる。</p> <p><b>【アルデヒド・ケトン・カルボン酸】</b> 到達目標： 1) アルデヒド類およびケトン類の性質と、代表的な求核付加反応を列挙し、説明できる。 2) カルボン酸の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。 3) カルボン酸誘導体（酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド、ニトリル）の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。</p> <p><b>【アミン】</b> 到達目標： 1) アミン類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。 2) 代表的な生体内アミンを列挙し、構造式を書くことができる。</p> <p><b>【官能基の酸性度・塩基性度】</b> 到達目標： 1) アルコール、チオール、フェノール、カルボン酸などの酸性度を比較して説明できる。 2) アルコール、フェノール、カルボン酸、およびその誘導体の酸性度に影響を及ぼす因子を列挙し、説明できる。 3) 含窒素化合物の塩基性度を説明できる。</p> <p><b>(4) 化学物質の構造決定</b> 一般目標： 基本的な化学物質の構造決定ができるようになるために、核磁気共鳴 (NMR) スペクトル、赤外吸収 (IR) スペクトル、マススペクトルなどの代表的な機器分析法の基本的知識と、データ解析のための基本的技能を修得する。</p> <p><b>【総論】</b> 到達目標： 1) 化学物質の構造決定に用いられる機器分析法の特徴を説明できる。</p> <p><b><sup>1</sup>H NMR</b> 到達目標： 1) NMRスペクトルの概要と測定法を説明できる。 2) 化学シフトに及ぼす構造的要因を説明できる。 3) 有機化合物中の代表的な水素原子について、おおよその化学シフト値を示すことができる。 4) 重水添加による重水素置換の方法と原理を説明できる。 5) <sup>1</sup>H NMRの積分値の意味を説明できる。 6) <sup>1</sup>H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂 (カップリング) する理由と、分裂様式を説明できる。 7) <sup>1</sup>H NMRのスピンの結合定数から得られる情報を列挙し、その内容を説明できる。 8) 代表的化合物の部分構造を<sup>1</sup>H NMR から決定できる。(技能)</p> <p><b><sup>13</sup>C NMR</b> 到達目標： 1) <sup>13</sup>C NMRの測定により得られる情報の概略を説明できる。 2) 代表的な構造中の炭素について、おおよその化学シフト値を示すことができる。</p> <p><b>【IRスペクトル】</b> 到達目標： 1) IRスペクトルの概要と測定法を説明できる。 2) IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)</p> <p><b>【紫外可視吸収スペクトル】</b> 到達目標： 1) 化学物質の構造決定における紫外可視吸収スペクトルの役割を説明できる。</p> <p><b>【マススペクトル】</b> 到達目標： 1) マススペクトルの概要と測定法を説明できる。 2) イオン化の方法を列挙し、それらの特徴を説明できる。 3) ピークの種類 (基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク) を説明できる。 4) 塩素原子や臭素原子を含む化合物のマススペクトルの特徴を説明できる。 5) 代表的なフラグメンテーションについて概説できる。 6) 高分解能マススペクトルにおける分子式の決定法を説明できる。 7) 基本的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)</p>	有機薬化学Ⅱ			基礎薬学特別講義Ⅰ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ	
		有機薬化学Ⅲ	日本薬局方Ⅰ、創薬化学Ⅰ・Ⅱ		基礎薬学特別講義Ⅰ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ
		有機薬化学Ⅲ	日本薬局方Ⅰ		基礎薬学特別講義Ⅰ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ
		有機薬化学Ⅲ			基礎薬学特別講義Ⅰ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ
				生体成分分析学	基礎薬学特別講義Ⅰ		医薬品素材学Ⅰ
				生体成分分析学	基礎薬学特別講義Ⅰ		医薬品素材学Ⅰ
		化学系実習Ⅱ					
				生体成分分析学	基礎薬学特別講義Ⅰ		医薬品素材学Ⅰ
		化学系実習Ⅱ		生体成分分析学	基礎薬学特別講義Ⅰ		医薬品素材学Ⅰ
				分析化学Ⅲ	基礎薬学特別講義Ⅰ		医薬品素材学Ⅰ
				生体成分分析学	基礎薬学特別講義Ⅰ		医薬品素材学Ⅰ
		化学系実習Ⅱ					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
<p><b>【比旋光度】</b> 到達目標： 1) 比旋光度測定法の概略を説明できる。 △2) 実測値を用いて比旋光度を計算できる。(技能) △3) 比旋光度と絶対配置の関係を説明できる。 △4) 旋光分散と円二色性について、原理の概略と用途を説明できる。</p> <p><b>【総合演習】</b> 到達目標： 1) 代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる。(技能)</p> <p><b>C-5 ターゲット分子の合成</b> 一般目標： 入手容易な化合物を出発物質として、医薬品を含む目的化合物へ化学変換するために、有機合成法の基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>(1) 官能基の導入・変換 一般目標： 個々の官能基を導入、変換するために、それらに関する基本的知識と技能を修得する。</p> <p>到達目標： 1) アルケンの代表的な合成法について説明できる。 2) アルキンの代表的な合成法について説明できる。 3) 有機ハロゲン化合物の代表的な合成法について説明できる。 4) アルコールの代表的な合成法について説明できる。 5) フェノールの代表的な合成法について説明できる。 6) エーテルの代表的な合成法について説明できる。 7) アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。 8) カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。 9) カルボン酸誘導体(エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化合物、酸無水物)の代表的な合成法について説明できる。 10) アミンの代表的な合成法について説明できる。 11) 代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。 12) 代表的な官能基を他の官能基に変換できる。(技能)</p> <p>(2) 複雑な化合物の合成 一般目標： 医薬品を含む目的化合物を合成するために、代表的な炭素骨格の構築法などに関する基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p><b>【炭素骨格の構築法】</b> 到達目標： 1) Diels-Alder反応の特徴を具体例を用いて説明できる。 2) 転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法を列挙できる。 3) 代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係を説明できる。 4) 代表的な炭素-炭素結合生成反応(アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など)について概説できる。</p> <p><b>【位置および立体選択性】</b> 到達目標： 1) 代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。 2) 代表的な立体選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。</p> <p><b>【保護基】</b> 到達目標： △1) 官能基毎に代表的な保護基を列挙し、その応用例を説明できる。</p> <p><b>【光学活性化合物】</b> 到達目標： 1) 光学活性化合物を得るための代表的な手法(光学分割、不斉合成など)を説明できる。</p> <p><b>【総合演習】</b> 到達目標： 1) 課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。(知識・技能) △2) 課題として与えられた医薬品を合成できる。(技能) △3) 反応廃液を適切に処理する。(技能・態度)</p>		化学系実習Ⅱ	分析化学Ⅲ	基礎薬学特別講義Ⅰ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ	
				生体成分分析学	基礎薬学特別講義Ⅰ		医薬品素材学Ⅰ
		有機薬化学Ⅲ					
					基礎薬学特別講義Ⅰ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ
		有機薬化学Ⅳ					
					基礎薬学特別講義Ⅰ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ
		有機薬化学Ⅳ					
					基礎薬学特別講義Ⅰ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ
		有機薬化学Ⅳ					医薬品素材学Ⅱ、総合基礎薬学特別講義Ⅰ
		有機薬化学Ⅳ	創薬化学Ⅰ・Ⅱ		基礎薬学特別講義Ⅰ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ
		有機薬化学Ⅳ、化学系実習Ⅰ	創薬化学Ⅰ・Ⅱ、化学系実習Ⅳ		基礎薬学特別講義Ⅰ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ
		化学系実習Ⅰ					医薬品素材学Ⅱ、総合基礎薬学特別講義Ⅰ
		化学系実習Ⅱ					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
<p><b>C-6 生体分子・医薬品を化学で理解する</b></p> <p>一般目標： 生体分子の機能と医薬品の作用を化学構造と関連づけて理解するために、それらに関連する基本的知識と技能を修得する。</p> <p>(1) 生体分子のコアとパーツ</p> <p>一般目標： 生体分子の機能を理解するために、生体分子の基本構造とその化学的性質に関する基本的知識を修得する。</p> <p>【生体分子の化学構造】</p> <p>到達目標： 1) タンパク質の高次構造を規定する結合(アミド基間の水素結合、ジスルフィド結合など)および相互作用について説明できる。 2) 糖類および多糖類の基本構造を概説できる。 3) 糖とタンパク質の代表的な結合様式を示すことができる。 4) 核酸の立体構造を規定する化学結合、相互作用について説明できる。 5) 生体膜を構成する脂質の化学構造の特徴を説明できる。</p> <p>【生体内で機能する複素環】</p> <p>到達目標： 1) 生体内に存在する代表的な複素環化合物を列挙し、構造式を書くことができる。 2) 核酸塩基の構造を書き、水素結合を形成する位置を示すことができる。 △3) 複素環を含む代表的な補酵素(フラビン、NAD、チアミン、ピリドキサール、葉酸など)の機能を化学反応性と関連させて説明できる。</p> <p>【生体内で機能する錯体・無機化合物】</p> <p>到達目標： 1) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能について説明できる。 2) 活性酸素の構造、電子配置と性質を説明できる。 3) 一酸化窒素の電子配置と性質を説明できる。</p> <p>【化学から観る生体ダイナミクス】</p> <p>到達目標： 1) 代表的な酵素の基質結合部位が有する構造上の特徴を具体例を挙げて説明できる。 △2) 代表的な酵素(キモトリプシン、リボヌクレアーゼなど)の作用機構を分子レベルで説明できる。 △3) タンパク質リン酸化におけるATPの役割を化学的に説明できる。</p> <p>(2) 医薬品のコアとパーツ</p> <p>一般目標： 医薬品の作用を化学構造と関連づけて理解するために、医薬品に含まれる代表的な構造とその性質に関する基本的知識と技能を修得する。</p> <p>【医薬品のコンポーネント】</p> <p>到達目標： 1) 代表的な医薬品のコア構造(ファーマコフォア)を指摘し、分類できる。 △2) 医薬品に含まれる代表的な官能基を、その性質によって分類し、医薬品の効果と結びつけて説明できる。</p> <p>【医薬品に含まれる複素環】</p> <p>到達目標： 1) 医薬品として複素環化合物が繁用される根拠を説明できる。 2) 医薬品に含まれる代表的な複素環化合物を指摘し、分類することができる。 3) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。 4) 代表的な芳香族複素環の求電子試薬に対する反応性および配向性について説明できる。 5) 代表的な芳香族複素環の求核試薬に対する反応性および配向性について説明できる。</p> <p>【医薬品と生体高分子】</p> <p>到達目標： 1) 生体高分子と非共有結合的に相互作用しうる官能基を列挙できる。 2) 生体高分子と共有結合で相互作用しうる官能基を列挙できる。 △3) 分子模型、コンピューターソフトなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。(知識・技能)</p>	生体機能分子 I		創薬化学 I・II	創薬化学III、基礎薬学特別講義 I		総合基礎薬学特別講義 I	
	生体機能分子 II						
	生体機能分子 I			創薬化学 I・II	創薬化学III、基礎薬学特別講義 I		総合基礎薬学特別講義 I 医薬品素材学II、総合基礎薬学特別講義 I
	化学			創薬化学 I・II	創薬化学III、基礎薬学特別講義 I		総合基礎薬学特別講義 I
	生体機能分子 I				創薬化学III、基礎薬学特別講義 I		総合基礎薬学特別講義 I 医薬品素材学II、総合基礎薬学特別講義 I
				創薬化学 I・II	創薬化学III、基礎薬学特別講義 I		総合基礎薬学特別講義 I 医薬品素材学II、総合基礎薬学特別講義 I
				創薬化学 I・II	創薬化学III、基礎薬学特別講義 I		総合基礎薬学特別講義 I
				創薬化学 I・II	創薬化学III、基礎薬学特別講義 I		総合基礎薬学特別講義 I 医薬品素材学II、総合基礎薬学特別講義 I



薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【生体分子を模倣した医薬品】</b> 到達目標： 1) カテコールアミンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。 2) アセチルコリンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。 3) ステロイドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。 4) 核酸アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。 5) ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。		基礎薬理学	創薬化学Ⅰ・Ⅱ	創薬化学Ⅲ、基礎薬学特別講義Ⅰ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ
				創薬化学Ⅲ、基礎薬学特別講義Ⅰ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ
<b>【生体内分子と反応する医薬品】</b> 到達目標 (例示)： 1) アルキル化剤とDNA塩基の反応を説明できる。 2) インターカレーターの作用機序を図示し、説明できる。 3) β-ラクタムを持つ医薬品の作用機序を化学的に説明できる。						
<b>C-7 自然が生み出す薬物</b>						
<b>一般目標：自然界に存在する物質を医薬品として利用するために、代表的な天然物質の起源、特色、臨床応用および天然物質の含有成分の単離、構造、物性、生成系などについての基本的知識と、それらを活用するための基本的技能を修得する。</b>						
<b>(1) 薬になる動植物</b> <b>一般目標：</b> 薬として用いられる動物・植物・鉱物由来の生薬の基本的性質を理解するために、それらの基原、性状、含有成分、生成、品質評価、生産と流通、歴史的背景などについての基本的知識、およびそれらを活用するための基本的技能を修得する。						
<b>【生薬とは何か】</b> 到達目標： 1) 代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。 2) 生薬の歴史について概説できる。 △3) 生薬の生産と流通について概説できる。						
	天然医薬資源学	生薬学Ⅰ・Ⅱ		基礎薬学特別講義Ⅰ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ
						医薬品素材Ⅰ、総合基礎薬学特別講義Ⅰ
						医薬品素材Ⅰ、総合基礎薬学特別講義Ⅰ
	天然医薬資源学	生薬学Ⅰ・Ⅱ		基礎薬学特別講義Ⅰ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ
						医薬品素材Ⅰ、総合基礎薬学特別講義Ⅰ
	天然医薬資源学		天然物化学	基礎薬学特別講義Ⅰ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ
<b>【植物以外の医薬資源】</b> 到達目標： 1) 動物、鉱物由来の医薬品について具体例を挙げて説明できる。						
		生薬学Ⅰ・Ⅱ		基礎薬学特別講義Ⅰ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ
<b>【生薬成分の構造と生成】</b> 到達目標： 1) 代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの生合成経路を概説できる。 2) 代表的なテルペノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。 3) 代表的な強心配糖体の構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。 4) 代表的なアルカロイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。 5) 代表的なフラボノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。 6) 代表的なフェニルプロパノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。 7) 代表的なポリケチドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。						
	天然医薬資源学		天然物化学	基礎薬学特別講義Ⅰ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ
		生薬学Ⅰ・Ⅱ				
<b>【農薬、化粧品としての利用】</b> 到達目標： 1) 天然物質の農薬、化粧品などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。						
	天然医薬資源学		天然物化学	基礎薬学特別講義Ⅰ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
<p><b>【生薬の同定と品質評価】</b> 到達目標： 1) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。 2) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能) △3) 代表的な生薬の確認試験を実施できる。(技能) △4) 代表的な生薬の純度試験を実施できる。(技能) 5) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。</p> <p><b>(2) 薬の宝庫としての天然物</b> 一般目標： 医薬品開発における天然物の重要性と多様性を理解するために、自然界由来のシーズ(医薬品の種)および抗生物質などに関する基本的知識と技能を修得する。</p> <p><b>【シーズの探索】</b> 到達目標： 1) 医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体を、具体例を挙げて説明できる。 △2) シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して概説できる。 △3) 医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を挙げて概説できる。</p> <p><b>【天然物質の取扱い】</b> 到達目標： 1) 天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を列挙し、実施できる。(技能) △2) 代表的な天然有機化合物の構造決定法について具体例を挙げて概説できる。</p> <p><b>【微生物が生み出す医薬品】</b> 到達目標： 1) 抗生物質とは何かを説明し、化学構造に基づいて分類できる。</p> <p><b>【発酵による医薬品の生産】</b> 到達目標： 1) 微生物による抗生物質(ペニシリン、ストレプトマイシンなど)生産の過程を概説できる。</p> <p><b>【発酵による有用物質の生産】</b> 到達目標： 1) 微生物の生産する代表的な糖質、酵素を列挙し、利用法を説明できる。</p> <p><b>(3) 現代医療の中の生薬・漢方薬</b> 一般目標： 現代医療で使用される生薬・漢方薬について理解するために、漢方医学の考え方、代表的な漢方処方法の適用、薬効評価法についての基本的知識と技能を修得する。</p> <p><b>【漢方医学の基礎】</b> 到達目標： 1) 漢方医学の特徴について概説できる。 2) 漢方薬と民間薬、代替医療との相違について説明できる。 3) 漢方薬と西洋薬の基本的な利用法の違いを概説できる。 4) 漢方処方と「証」との関係について概説できる。 5) 代表的な漢方処方法の適応症と配合生薬を説明できる。 6) 漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。 △7) 漢方エキス製剤の特徴を煎液と比較して挙げて概説できる。</p> <p><b>【漢方処方法の応用】</b> 到達目標： 1) 代表的な疾患に用いられる生薬及び漢方処方法の応用、使用上の注意について概説できる。 2) 漢方薬の代表的な副作用や注意事項を説明できる。</p>							
		生薬学Ⅰ・Ⅱ	化学系実習Ⅲ		基礎薬学特別講義Ⅰ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ
					基礎薬学特別講義Ⅰ		
	天然医薬資源学	生薬学Ⅰ・Ⅱ	創薬化学Ⅰ・Ⅱ、天然物化学		基礎薬学特別講義Ⅰ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ 医薬品素材学Ⅰ、総合基礎薬学特別講義Ⅰ
			化学系実習Ⅲ		基礎薬学特別講義Ⅰ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ 医薬品素材学Ⅰ、総合基礎薬学特別講義Ⅰ
		生薬学Ⅰ・Ⅱ					
	天然医薬資源学	生薬学Ⅰ・Ⅱ		疾患薬理学Ⅰ 疾患薬理学Ⅰ、天然物化学	漢方薬学概論、基礎薬学特別講義Ⅰ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ
				漢方薬学概論			
天然医薬資源学	生薬学Ⅰ・Ⅱ	天然物化学		漢方薬学概論、基礎薬学特別講義Ⅰ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ	

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【生物系薬学を学ぶ】</b>						
<b>C8 生命体の成り立ち</b>						
一般目標： 生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能調節などに関する基本的知識、技能、態度を修得する。						
(1) ヒトの成り立ち						
一般目標： 人体の基本構造を理解するために、各器官系の構造と機能に関する基本的知識を修得する。						
<b>【概論】</b>						
到達目標： 1) ヒトの身体を構成する臓器の名称、形態および体内での位置を説明できる。 2) ヒトの身体を構成する各臓器の役割分担について概説できる。	人体生理学			基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
<b>【神経系】</b>						
到達目標： 1) 中枢神経系の構成と機能の概要を説明できる。 2) 体性神経系の構成と機能の概要を説明できる。 3) 自律神経系の構成と機能の概要を説明できる。		基礎薬理学、機能形態学	疾患薬理学Ⅰ	基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
<b>【骨格系・筋肉系】</b>						
到達目標： 1) 主な骨と関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。 2) 主な骨格筋の名称を挙げ、位置を示すことができる。	人体生理学	機能形態学		基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
<b>【皮膚】</b>						
到達目標： 1) 皮膚について機能と構造を関連づけて説明できる。		機能形態学		基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
<b>【循環器系】</b>						
到達目標： 1) 心臓について機能と構造を関連づけて説明できる。 2) 血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。 3) リンパ系について機能と構造を関連づけて説明できる。		機能形態学	疾患薬理学Ⅰ	基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
<b>【呼吸器系】</b>						
到達目標： 1) 肺、気管支について機能と構造を関連づけて説明できる。		機能形態学	疾患薬理学Ⅰ	基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
<b>【消化器系】</b>						
到達目標： 1) 胃、小腸、大腸などの消化管について機能と構造を関連づけて説明できる。 2) 肝臓、膵臓、胆嚢について機能と構造を関連づけて説明できる。		機能形態学	疾患薬理学Ⅰ	基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
<b>【泌尿器系】</b>						
到達目標： 1) 腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		機能形態学	疾患薬理学Ⅰ	基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
<b>【生殖器系】</b>						
到達目標： 1) 精巣、卵巣、子宮などの生殖系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		機能形態学		基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
<b>【内分泌系】</b>						
到達目標： 1) 脳下垂体、甲状腺、副腎などの内分泌系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		機能形態学	疾患薬理学Ⅱ	基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
<b>【感覚器系】</b>						
到達目標： 1) 眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。	人体生理学			疾患薬理学Ⅲ、基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
<b>【血液・造血器系】</b>						
到達目標： 1) 骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	人体生理学	機能形態学		疾患薬理学Ⅲ、基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
<p>(2) 生命体の基本単位としての細胞</p> <p>一般目標： 多細胞生物の成り立ちを細胞レベルで理解するために、細胞の増殖、分化、死の制御と組織構築に関する基本的知識を修得し、それらを扱うための基本的技能を身につける。</p> <p>【細胞と組織】 到達目標： 1) 細胞集合による組織構築について説明できる。 2) 臓器、組織を構成する代表的な細胞の種類を列挙し、形態および機能的特徴を説明できる。 △3) 代表的な細胞および組織を顕微鏡を用いて観察できる。(技能)</p> <p>【細胞膜】 到達目標： 1) 細胞膜の構造と性質について説明できる。 2) 細胞膜を構成する代表的な生体分子を列挙し、その機能を説明できる。 3) 細胞膜を介した物質移動について説明できる。</p> <p>【細胞内小器官】 到達目標： 1) 細胞内小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)の構造と機能を説明できる。</p> <p>【細胞の分裂と死】 到達目標： 1) 体細胞分裂の機構について説明できる。 2) 生殖細胞の分裂機構について説明できる。 3) アポトーシスとネクローシスについて説明できる。 4) 正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。</p> <p>【細胞間コミュニケーション】 到達目標： 1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。 2) 主な細胞外マトリックス分子の種類、分布、性質を説明できる。</p> <p>(3) 生体の機能調節</p> <p>一般目標： ホメオスタシス(恒常性)の維持機構を個体レベルで理解するために、生体のダイナミックな調節機構に関する基本的知識を修得する。</p> <p>【神経・筋の調節機構】 到達目標： 1) 神経系の興奮と伝導の調節機構を説明できる。 2) シナプス伝達の調節機構を説明できる。 3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。 4) 筋収縮の調節機構を説明できる。</p> <p>【ホルモンによる調節機構】 到達目標： 1) 主要なホルモンの分泌機構および作用機構を説明できる。 2) 血糖の調節機構を説明できる。</p> <p>【循環・呼吸系の調節機構】 到達目標： 1) 血圧の調節機構を説明できる。 2) 肺および組織におけるガス交換を説明できる。 3) 血液凝固・線溶系の機構を説明できる。</p> <p>【体液の調節機構】 到達目標： 1) 体液の調節機構を説明できる。 2) 尿の生成機構、尿量の調節機構を説明できる。</p> <p>【消化・吸収の調節機構】 到達目標： 1) 消化、吸収における神経の役割について説明できる。 2) 消化、吸収におけるホルモンの役割について説明できる。</p>							
		人体生理学			基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
		人体生理学、生物学実験	生物系実習Ⅰ				
		生体機能分子学Ⅱ	人体生化学Ⅰ、基礎薬理学		基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
		生体機能分子学Ⅰ	人体生化学Ⅰ		基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
					基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
		生体機能分子学Ⅱ		疾患薬理学Ⅰ	病態生理学Ⅱ、基礎薬学特別講義Ⅱ		生体機能解析学Ⅰ、総合基礎薬学特別講義Ⅱ 総合基礎薬学特別講義Ⅱ
			基礎薬理学				
		生体機能分子学Ⅰ			基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
		人体生理学	基礎薬理学	疾患薬理学Ⅰ	基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
		人体生理学	基礎薬理学、機能形態学	人体機能調節学			総合基礎薬学特別講義Ⅱ
		生体機能分子学Ⅰ	機能形態学	人体機能調節学、疾患薬理学Ⅰ	基礎薬学特別講義Ⅱ		生体機能解析学Ⅰ、総合基礎薬学特別講義Ⅱ
		機能形態学	疾患薬理学Ⅱ	基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ	
	生体機能分子学Ⅱ		疾患薬理学Ⅰ			生体機能解析学Ⅰ、総合基礎薬学特別講義Ⅱ	
	生体機能分子学Ⅱ	機能形態学		基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ	
			疾患薬理学Ⅱ				
		機能形態学	疾患薬理学Ⅱ	基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ	

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<p><b>【体温の調節機構】</b> 到達目標： 1) 体温の調節機構を説明できる。</p> <p>(4) 小さな生き物たち 一般目標： 微生物の基本的性状を理解するために、微生物の分類、構造、生活史などに関する基本的知識を修得し、併せて代表的な微生物取扱いのための基本的技能と態度を身につける。</p> <p><b>【総論】</b> 到達目標： 1) 生態系の中での微生物の役割について説明できる。 2) 原核生物と真核生物の違いを説明できる。</p> <p><b>【細菌】</b> 到達目標： 1) 細菌の構造と増殖機構を説明できる。 △2) 細菌の系統的分類について説明でき、主な細菌を列挙できる。 3) グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌の違いを説明できる。 4) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、スピロヘータ、放線菌についてその特性を説明できる。 5) 腸内細菌の役割について説明できる。 6) 細菌の遺伝子伝達 (接合、形質導入、形質転換) について説明できる。</p> <p><b>【細菌毒素】</b> 到達目標： 1) 代表的な細菌毒素の作用を説明できる。</p> <p><b>【ウイルス】</b> 到達目標： 1) 代表的なウイルスの構造と増殖過程を説明できる。 △2) ウイルスの分類法について概説できる。 △3) 代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。</p> <p><b>【真菌・原虫・その他の微生物】</b> 到達目標： 1) 主な真菌の性状について説明できる。 △2) 主な原虫、寄生虫の生活史について説明できる。</p> <p><b>【消毒と滅菌】</b> 到達目標： 1) 滅菌、消毒、防腐および殺菌、静菌の概念を説明できる。 △2) 主な消毒薬を適切に使用する。(技能・態度)(OSCEの対象) △3) 主な滅菌法を実施できる。(技能)(OSCEの対象)</p> <p><b>【検出方法】</b> 到達目標： △1) グラム染色を実施できる。(技能) △2) 無菌操作を実施できる。(技能) △3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能) △4) 細菌の同定に用いる代表的な試験法(生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験)について説明できる。 △5) 代表的な細菌を同定できる。(技能)</p>		機能形態学		基礎薬学特別講義 II		総合基礎薬学特別講義 II
		微生物学		基礎薬学特別講義 II		総合基礎薬学特別講義 II
		微生物学		基礎薬学特別講義 II		総合基礎薬学特別講義 II
		微生物学		基礎薬学特別講義 II		総合基礎薬学特別講義 II
		微生物学		基礎薬学特別講義 II		総合基礎薬学特別講義 II
		微生物学		基礎薬学特別講義 II		総合基礎薬学特別講義 II
		微生物学		基礎薬学特別講義 II		総合基礎薬学特別講義 II
			感染症治療薬概論		基礎薬学特別講義 II	総合基礎薬学特別講義 II
		生物系実習 I		基礎薬学特別講義 II		総合基礎薬学特別講義 II
		生物系実習 I				総合基礎薬学特別講義 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>C9 生命をミクロに理解する</b> <b>一般目標：</b> 生物をミクロなレベルで理解するために、細胞の機能や生命活動を支える分子の役割についての基本的知識を修得し、併せてそれらの生体分子を取り扱うための基本的技能と態度を身につける。  <b>(1) 細胞を構成する分子</b> <b>一般目標：</b> 生命の活動単位としての細胞の成り立ちを分子レベルで理解するために、その構成分子の構造、生合成、性状、機能に関する基本的知識を修得し、それらを取り扱うための基本的技能を身につける。  <b>【脂質】</b> 到達目標： 1) 脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる。 2) 脂肪酸の種類と役割を説明できる。 3) 脂肪酸の生合成経路を説明できる。 4) コレステロールの生合成経路と代謝を説明できる。  <b>【糖質】</b> 到達目標： 1) グルコースの構造、性質、役割を説明できる。 2) グルコース以外の代表的な単糖、および二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。 3) 代表的な多糖の構造と役割を説明できる。 △4) 糖質の定性および定量試験法を実施できる。(技能)  <b>【アミノ酸】</b> 到達目標： 1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。 2) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝について説明できる。 △3) アミノ酸の定性および定量試験法を実施できる。(技能)  <b>【ビタミン】</b> 到達目標： 1) 水溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質、補酵素や補欠分子として関与する生体内反応について説明できる。 2) 脂溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質と生理機能を説明できる。 3) ビタミンの欠乏と過剰による症状を説明できる。  <b>(2) 生命情報を担う遺伝子</b> <b>一般目標：</b> 生命のプログラムである遺伝子を理解するために、核酸の構造、機能および代謝に関する基本的知識を修得する。  <b>【ヌクレオチドと核酸】</b> 到達目標： 1) 核酸塩基の代謝(生合成と分解)を説明できる。 2) DNAの構造について説明できる。 3) RNAの構造について説明できる。  <b>【遺伝情報を担う分子】</b> 到達目標： 1) 遺伝子発現に関するセントラルドグマについて概説できる。 2) DNA鎖とRNA鎖の類似点と相違点を説明できる。 3) ゲノムと遺伝子の関係を説明できる。 4) 染色体の構造を説明できる。 5) 遺伝子の構造に関する基本的用語(プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど)を説明できる。 6) RNAの種類と働きについて説明できる。  <b>【転写と翻訳のメカニズム】</b> 到達目標： 1) DNAからRNAへの転写について説明できる。 2) 転写の調節について、例を挙げて説明できる。 3) RNAのプロセッシングについて説明できる。 4) RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。 5) リボソームの構造と機能について説明できる。  <b>【遺伝子の複製・変異・修復】</b> 到達目標： 1) DNAの複製の過程について説明できる。 2) 遺伝子の変異(突然変異)について説明できる。 3) DNAの修復の過程について説明できる。						
	生体機能分子学Ⅱ	人体生化学Ⅰ、食品栄養学		基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
		人体生化学Ⅰ	疾患薬理学Ⅱ			
	生体機能分子学Ⅰ	人体生化学Ⅰ、食品栄養学		基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
		生物系実習Ⅱ				
	生体機能分子学Ⅰ	人体生化学Ⅰ、食品栄養学		基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
		人体生化学Ⅱ				
		生物系実習Ⅱ				
	生体機能分子学Ⅰ	人体生化学Ⅱ、食品栄養学		基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
			疾患薬理学Ⅱ			
	生体機能分子学Ⅱ	人体生化学Ⅱ		遺伝子工学概論、基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
	生体機能分子学Ⅱ	人体生化学Ⅱ		遺伝子工学概論、基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
	生体機能分子学Ⅱ	人体生化学Ⅱ		遺伝子工学概論、基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
	生体機能分子学Ⅱ	人体生化学Ⅱ		遺伝子工学概論、基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
<b>【遺伝子多型】</b> 到達目標： 1) 一塩基変異 (SNPs) が機能におよぼす影響について概説できる。						
	生体機能分子学 II			基礎薬学特別講義 II		総合基礎薬学特別講義 II
<b>(3) 生命活動を担うタンパク質</b> 一般目標： 生命活動の担い手であるタンパク質、酵素について理解するために、その構造、性状、代謝についての基本的知識を修得し、それらを取り扱うための基本的技能を身につける。						
	生体機能分子学 I	人体生化学 I		基礎薬学特別講義 II		総合基礎薬学特別講義 II
<b>【タンパク質の構造と機能】</b> 到達目標： 1) タンパク質の主要な機能を列挙できる。 2) タンパク質の一次、二次、三次、四次構造を説明できる。 3) タンパク質の機能発現に必要な翻訳後修飾について説明できる。		人体生化学 II				
	生体機能分子学 I					
<b>【酵素】</b> 到達目標： 1) 酵素反応の特性を一般的な化学反応と対比させて説明できる。 2) 酵素を反応様式により分類し、代表的なものについて性質と役割を説明できる。 3) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。 4) 酵素反応速度論について説明できる。 5) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。 △ 6) 代表的な酵素の活性を測定できる。(技能)	生体機能分子学 I	人体生化学 I		基礎薬学特別講義 II		総合基礎薬学特別講義 II
	生体機能分子学 I					
<b>【酵素以外の機能タンパク質】</b> 到達目標： 1) 細胞内外の物質や情報の授受に必要なタンパク質 (受容体、チャネルなど) の構造と機能を概説できる。 2) 物質の輸送を担うタンパク質の構造と機能を概説できる。 3) 血漿リボタンパク質の種類と機能を概説できる。 4) 細胞内で情報を伝達する主要なタンパク質を列挙し、その機能を概説できる。 5) 細胞骨格を形成するタンパク質の種類と役割について概説できる。		生物系実習 II				
	生体機能分子学 II					生体機能解析学 I、総合基礎薬学特別講義 II
<b>【タンパク質の取扱い】</b> 到達目標： △ 1) タンパク質の定性、定量試験法を実施できる。(技能) 2) タンパク質の分離、精製と分子量の測定法を説明し、実施できる。(知識・技能) △ 3) タンパク質のアミノ酸配列決定法を説明できる。	生体機能分子学 I	人体生化学 I		基礎薬学特別講義 II		総合基礎薬学特別講義 II
	生体機能分子学 I	機能形態学				生体機能解析学 I、総合基礎薬学特別講義 II
<b>(4) 生体エネルギー</b> 一般目標： 生命活動が生体エネルギーにより支えられていることを理解するために、食物成分からのエネルギーの産生、および糖質、脂質、タンパク質の代謝に関する基本的知識を修得し、それらを取り扱うための基本的技能を身につける。		人体生理学				総合基礎薬学特別講義 II
	生体機能分子学 I	生物系実習 II		基礎薬学特別講義 II		総合基礎薬学特別講義 II
<b>【栄養素の利用】</b> 到達目標： 1) 食物中の栄養成分の消化・吸収、体内運搬について概説できる。		人体生化学 I				
	生体機能分子学 I	人体生化学 I・II、食品栄養学		基礎薬学特別講義 II		総合基礎薬学特別講義 II
<b>【ATPの産生】</b> 到達目標： 1) ATPが高エネルギー化合物であることを、化学構造をもとに説明できる。 2) 解糖系について説明できる。 3) クエン酸回路について説明できる。 4) 電子伝達系 (酸化的リン酸化) について説明できる。 5) 脂肪酸のβ酸化反応について説明できる。 6) アセチルCoAのエネルギー代謝における役割を説明できる。 7) エネルギー産生におけるミトコンドリアの役割を説明できる。 8) ATP産生阻害物質を列挙し、その阻害機構を説明できる。 9) ペントースリン酸回路の生理的役割を説明できる。 10) アルコール発酵、乳酸発酵の生理的役割を説明できる。	生体機能分子学 I	人体生化学 I		基礎薬学特別講義 II		総合基礎薬学特別講義 II
		人体生化学 II				
		人体生化学 I				
		人体生化学 II				
		人体生化学 I				
		人体生化学 II				
		人体生化学 I				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<p><b>【飢餓状態と飽食状態】</b> 到達目標： 1) グリコーゲンの役割について説明できる。 2) 糖新生について説明できる。 3) 飢餓状態のエネルギー代謝（ケトン体の利用など）について説明できる。 4) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。 5) 食餌性の血糖変動について説明できる。 6) インスリンとグルカゴンの役割を説明できる。 7) 糖から脂肪酸への合成経路を説明できる。 8) ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸について説明できる。</p> <p><b>(5) 生理活性分子とシグナル分子</b> 一般目標： 生体のダイナミックな情報ネットワーク機構を物質や細胞レベルで理解するために、代表的な情報伝達物質の種類、作用発現機構などに関する基本的知識を修得する。</p> <p><b>【ホルモン】</b> 到達目標： 1) 代表的なペプチド性ホルモンを挙げ、その産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。 2) 代表的なアミノ酸誘導体ホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。 3) 代表的なステロイドホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。 4) 代表的なホルモン異常による疾患を挙げ、その病態を説明できる。</p> <p><b>【オータコイドなど】</b> 到達目標： 1) エイコサノイドとはどのようなものか説明できる。 2) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生合成経路を説明できる。 3) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生理的意義（生理活性）を説明できる。 4) 主な生理活性アミン（セロトニン、ヒスタミンなど）の生合成と役割について説明できる。 5) 主な生理活性ペプチド（アンギオテンシン、ブラジキニンなど）の役割について説明できる。 6) 一酸化窒素の生合成経路と生体内での役割を説明できる。</p> <p><b>【神経伝達物質】</b> 到達目標： 1) モノアミン系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。 2) アミノ酸系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。 3) ペプチド系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。 4) アセチルコリンの生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。</p> <p><b>【サイトカイン・増殖因子・ケモカイン】</b> 到達目標： 1) 代表的なサイトカインを挙げ、それらの役割を概説できる。 2) 代表的な増殖因子を挙げ、それらの役割を概説できる。 △ 3) 代表的なケモカインを挙げ、それらの役割を概説できる。</p> <p><b>【細胞内情報伝達】</b> 到達目標： 1) 細胞内情報伝達に關与するセカンドメッセンジャーおよびカルシウムイオンなどを、具体例を挙げて説明できる。 2) 細胞膜受容体からGタンパク系を介して細胞内へ情報を伝達する主な経路について概説できる。 3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介して情報を伝達する主な経路について概説できる。 4) 代表的な細胞内（核内）受容体の具体例を挙げて説明できる。</p>	生体機能分子学 I	人体生化学 I、食品栄養学 人体生化学 I 人体生化学 I、食品栄養学 人体生化学 I	人体生化学 I 人体生化学 I、食品栄養学 人体生化学 I 人体生化学 II	基礎薬学特別講義 II		総合基礎薬学特別講義 II
	人体生理学	基礎薬理学 人体生理学 II 人体生理学 I	人体機能調節学 人体機能調節学、疾患薬理学 II	基礎薬学特別講義 II		総合基礎薬学特別講義 II
	人体生理学	人体生化学 I、基礎薬理学 人体生化学 II、基礎薬理学 基礎薬理学 人体生化学 II、基礎薬理学	人体機能調節学 人体機能調節学 人体機能調節学	基礎薬学特別講義 II		総合基礎薬学特別講義 II
	人体生理学	基礎薬理学		基礎薬学特別講義 II		総合基礎薬学特別講義 II
	人体生理学	基礎薬理学、免疫学 免疫学 基礎薬理学、免疫学		基礎薬学特別講義 II		総合基礎薬学特別講義 II
	人体生理学	基礎薬理学	人体機能調節学	基礎薬学特別講義 II		生体機能解析学 I、総合基礎薬学特別講義 II



薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<p>(6) 遺伝子を操作する</p> <p>一般目標： バイオテクノロジーを薬学領域で応用できるようになるために、遺伝子操作に関する基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p><b>【遺伝子操作の基本】</b> 到達目標： 1) 組換えDNA技術の概要を説明できる。 △2) 細胞からDNAを抽出できる。(技能) △3) DNAを制限酵素により切断し、電気泳動法により分離できる。(技能) △4) 組換えDNA実験指針を理解し守る。(態度) △5) 遺伝子取扱いに関する安全性と倫理について配慮する。(態度)</p> <p><b>【遺伝子のクローニング技術】</b> 到達目標： 1) 遺伝子クローニング法の概要を説明できる。 2) cDNAとゲノミックDNAの違いについて説明できる。 3) 遺伝子ライブラリーについて説明できる。 4) PCR法による遺伝子増幅の原理を説明し、実施できる。(知識・技能) 5) RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。 6) DNA塩基配列の決定法を説明できる。 △7) コンピューターを用いて特徴的な塩基配列を検索できる。(技能)</p> <p><b>【遺伝子機能の解析技術】</b> 到達目標： 1) 細胞(組織)における特定のDNAおよびRNAを検出する方法を説明できる。 2) 外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。 △3) 特定の遺伝子を導入した動物、あるいは特定の遺伝子を破壊した動物の作成法を概説できる。 △4) 遺伝子工学の医療分野での応用について例を挙げて説明できる。</p>						
	人体生理学			遺伝子工学概論、基礎薬学特別講義Ⅱ		
	生物系実習Ⅱ、生物系実習Ⅰ					総合基礎薬学特別講義Ⅱ
	生物系実習Ⅰ					
	生物系実習Ⅰ			遺伝子工学概論、基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
	生物系実習Ⅰ					生体機能解析学Ⅱ、総合基礎薬学特別講義Ⅱ
				遺伝子工学概論、基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
				遺伝子工学概論		生体機能解析学Ⅱ、総合基礎薬学特別講義Ⅱ
<p><b>C10 生体防御</b></p> <p>一般目標： 内的、外的要因によって生体の恒常性が崩れた時に生ずる変化を理解するために、生体防御機構とその破壊による疾患、および代表的な外的要因としての病原微生物に関する基本的知識と技能を修得する。</p> <p>(1) 身体をまもる</p> <p>一般目標： ヒトの主な生体防御反応について、その機構を組織、細胞、分子レベルで理解するために、免疫系に関する基本的知識を修得する。</p> <p><b>【生体防御反応】</b> 到達目標： 1) 自然免疫と獲得免疫の特徴とその違いを説明できる。 2) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーについて説明できる。 3) 補体について、その活性化経路と機能を説明できる。 4) 免疫反応の特徴(自己と非自己、特異性、記憶)を説明できる。 5) クローン選択説を説明できる。 6) 体液性免疫と細胞性免疫を比較して説明できる。</p> <p><b>【免疫を担当する組織・細胞】</b> 到達目標： 1) 免疫に関与する組織と細胞を列挙できる。 2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。 3) 食細胞が自然免疫で果たす役割を説明できる。 4) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。</p>						
			疾患薬理学Ⅱ			
	免疫学			基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
	免疫学、機能形態学					
	免疫学、機能形態学					
	免疫学			基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<p><b>【分子レベルで見た免疫のしくみ】</b> 到達目標： 1) 抗体分子の種類、構造、役割を説明できる。 2) MHC抗原の構造と機能および抗原提示経路での役割について説明できる。 3) T細胞による抗原の認識について説明できる。 4) 抗体分子およびT細胞抗原受容体の多様性を生み出す機構（遺伝子再構成）を概説できる。 5) 免疫系に関わる主なサイトカイン、ケモカインを挙げ、その作用を説明できる。</p> <p><b>(2) 免疫系の破綻・免疫系の応用</b> 一般目標： 免疫反応に基づく生体の異常を理解するために、代表的な免疫関連疾患についての基本的知識を修得する。併せて、免疫反応の臨床応用に関する基本的知識と技能を身につける。</p> <p><b>【免疫系が関係する疾患】</b> 到達目標： 1) アレルギーについて分類し、担当細胞および反応機構を説明できる。 2) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。 3) 代表的な自己免疫疾患の特徴と成因について説明できる。 4) 代表的な免疫不全症候群を挙げ、その特徴と成因を説明できる。</p> <p><b>【免疫応答のコントロール】</b> 到達目標： 1) 臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。 2) 細菌、ウイルス、寄生虫などの感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。 3) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。 △4) 代表的な免疫賦活療法について概説できる。</p> <p><b>【予防接種】</b> 到達目標： 1) 予防接種の原理とワクチンについて説明できる。 2) 主なワクチン（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチン）について基本的特徴を説明できる。 3) 予防接種について、その種類と実施状況を説明できる。</p> <p><b>【免疫反応の利用】</b> 到達目標： △1) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作製方法を説明できる。 2) 抗原抗体反応を利用した代表的な検査方法の原理を説明できる。 △3) 沈降、凝集反応を利用して抗原を検出できる。（技能） △4) ELISA法、ウェスタンブロット法などを用いて抗原を検出、判定できる。（技能）</p>		免疫学		基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
		免疫学、機能形態学	疾患薬理学Ⅱ	基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
		免疫学				
		免疫学		基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
		免疫学	公衆衛生学	基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
		免疫学				
		同位体医療薬学、免疫学		基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
		免疫学				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<p>(3) 感染症にかかる</p> <p>一般目標： 代表的な感染症を理解するため、病原微生物に関する基本的知識を修得する。</p> <p>【代表的な感染症】</p> <p>到達目標：</p> <p>1) 主なDNAウイルス (△サイトメガロウイルス、△EBウイルス、ヒトヘルペスウイルス、△アデノウイルス、△パルボウイルスB19、B型肝炎ウイルス) が引き起こす代表的な疾患について概説できる。</p> <p>2) 主なRNAウイルス (△ポリオウイルス、△コクサッキーウイルス、△エコーウイルス、△ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、△麻疹ウイルス、△ムンプスウイルス) が引き起こす代表的な疾患について概説できる。</p> <p>3) レトロウイルス (HIV、HTLV) が引き起こす疾患について概説できる。</p> <p>4) グラム陽性球菌 (ブドウ球菌、レンサ球菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。</p> <p>5) グラム陰性球菌 (淋菌、△髄膜炎菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。</p> <p>6) グラム陽性桿菌 (破傷風菌、△ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、△ジフテリア菌、△炭疽菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。</p> <p>7) グラム陰性桿菌 (大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、△チフス菌、△ペスト菌、コレラ菌、△百日咳菌、腸炎ビブリオ菌、緑膿菌、△ブルセラ菌、レジオネラ菌、△インフルエンザ菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。</p> <p>8) グラム陰性スピリルム属病原菌 (ヘリコバクター・ピロリ菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。</p> <p>9) 抗酸菌 (結核菌、非定型抗酸菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。</p> <p>10) スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。</p> <p>11) 真菌 (アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、△ムーコル) の微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。</p> <p>12) 代表的な原虫、寄生虫の代表的な疾患について概説できる。</p> <p>13) プリオン感染症の病原体の特徴と発症機序について概説できる。</p> <p>【感染症の予防】</p> <p>到達目標</p> <p>1) 院内感染について、発生要因、感染経路、原因微生物、およびその防止対策を概説できる。</p>						
		微生物学			基礎薬学特別講義Ⅱ  病態生理学Ⅱ、基礎薬学特別講義Ⅱ	
			感染症治療薬概論	病態生理学Ⅱ、基礎薬学特別講義Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅱ
【健康と環境】						
<b>C11 健康</b>						
<p>一般目標： 人とその集団の健康の維持、向上に貢献できるようになるために、栄養と健康、現代社会における疾病とその予防に関する基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>(1) 栄養と健康</p> <p>一般目標： 健康維持に必要な栄養を科学的に理解するために、栄養素、代謝、食品の安全性と衛生管理などに関する基本的知識と技能を修得する。</p> <p>【栄養素】</p> <p>到達目標：</p> <p>1) 栄養素 (三大栄養素、ビタミン、ミネラル) を列挙し、それぞれの役割について説明できる。</p> <p>2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。</p> <p>3) 脂質の体内運搬における血漿リポタンパク質の栄養学的意義を説明できる。</p> <p>4) 食品中のタンパク質の栄養的な価値 (栄養価) を説明できる。</p> <p>5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、エネルギー所要量の意味を説明できる。</p> <p>6) 栄養素の栄養所要量の意義について説明できる。</p> <p>7) 日本における栄養摂取の現状と問題点について説明できる。</p> <p>8) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。</p>						
	食品栄養学			衛生薬学特別講義		総合衛生薬学特別講義Ⅰ・Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
<p><b>【食品の品質と管理】</b> 到達目標： 1) 食品が腐敗する機構について説明できる。 2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能) 3) 食品の褐変を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。 4) 食品の変質を防ぐ方法(保存法)を説明できる。 5) 食品成分由来の発がん物質を列挙し、その生成機構を説明できる。 6) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。 7) 食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。 △8) 主な食品添加物の試験法を実施できる。(技能) 9) 代表的な保健機能食品を列挙し、その特徴を説明できる。 10) 遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。(知識・態度)</p> <p><b>【食中毒】</b> 到達目標： 1) 食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。 2) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。 3) 食中毒の原因となる自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。 4) 代表的なマイコトキシンを列挙し、それによる健康障害について概説できる。 5) 化学物質(重金属、残留農薬など)による食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。</p> <p><b>(2) 社会・集団と健康</b> 一般目標： 社会における集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握するために、保健統計と疫学に関する基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p><b>【保健統計】</b> 到達目標： 1) 集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義を概説できる。 2) 人口静態と人口動態について説明できる。 3) 国勢調査の目的と意義を説明できる。 4) 死亡に関する様々な指標の定義と意義について説明できる。 5) 人口の将来予測に必要な指標を列挙し、その意義について説明できる。</p> <p><b>【健康と疾病をめぐる日本の現状】</b> 到達目標： 1) 死因別死亡率の変遷について説明できる。 2) 日本における人口の推移と将来予測について説明できる。 3) 高齢化と少子化によりもたらされる問題点を列挙し、討議する。(知識・態度)</p> <p><b>【疫学】</b> 到達目標： 1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。 2) 疫学の三要因(病因、環境要因、宿主要因)について説明できる。 3) 疫学の種類(記述疫学、分析疫学など)とその方法について説明できる。 4) 患者・対照研究の方法の概要を説明し、オッズ比を計算できる。(知識・技能) 5) 要因・対照研究(コホート研究)の方法の概要を説明し、相対危険度、寄与危険度を計算できる。(知識・技能) △6) 医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性を概説できる。 △7) 疫学データを解釈する上での注意点を列挙できる。</p> <p><b>(3) 疾病の予防</b> 一般目標： 公衆衛生の向上に貢献するために、感染症、生活習慣病、職業病についての現状とその予防に関する基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p><b>【健康とは】</b> 到達目標： 1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。 2) 世界保健機構(WHO)の役割について概説できる。</p>		食品衛生学		衛生薬学特別講義 疾患薬理学Ⅲ、衛生薬学特別講義 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学特別講義Ⅰ・Ⅱ	
		微生物学、食品衛生学		衛生薬学特別講義		総合衛生薬学特別講義Ⅰ・Ⅱ	
		食品衛生学	環境衛生学Ⅰ				
				公衆衛生学	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学特別講義Ⅰ・Ⅱ
				公衆衛生学	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学特別講義Ⅰ・Ⅱ
				公衆衛生学	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学特別講義Ⅰ・Ⅱ
				公衆衛生学	疾患薬理学Ⅲ、衛生薬学特別講義		総合衛生薬学特別講義Ⅰ・Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<p><b>【疾病の予防とは】</b> 到達目標： 1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。 2) 疾病の予防における予防接種の意義について説明できる。 3) 新生児マスキングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。 △4) 疾病の予防における薬剤師の役割について討議する。(態度)</p> <p><b>【感染症の現状とその予防】</b> 到達目標： 1) 現代における感染症(日和見感染、院内感染、国際感染症など)の特徴について説明できる。 2) 新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。 3) 一、二、三類感染症および代表的な四類感染症を列挙し、分類の根拠を説明できる。 4) 母子感染する疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。 5) 性行為感染症を列挙し、その予防対策と治療について説明できる。 6) 予防接種法と結核予防法の定める定期予防接種の種類を挙げ、接種時期などを説明できる。</p> <p><b>【生活習慣病とその予防】</b> 到達目標： 1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。 2) 生活習慣病のリスク要因を列挙できる。 3) 食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。</p> <p><b>【職業病とその予防】</b> 到達目標： 1) 主な職業病を列挙し、その原因と症状を説明できる。</p>						
			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学特別講義 I・II
			公衆衛生学	疾患薬理学Ⅲ、衛生薬学特別講義 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学特別講義 I・II
		食品栄養学	公衆衛生学	疾患薬理学Ⅲ、衛生薬学特別講義 疾患薬理学Ⅲ、環境衛生学Ⅱ、衛生薬学特別講義		総合衛生薬学特別講義 I・II 生体機能解析学Ⅰ、総合衛生薬学特別講義 I・II 総合衛生薬学特別講義 I・II
			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学特別講義 I・II
<p><b>C12 環境</b> 一般目標： 人の健康にとってより良い環境の維持と向上に貢献できるようになるために、化学物質の人への影響、および生活環境や地球生態系と人の健康との関わりについての基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>(1) 化学物質の生体への影響 一般目標： 有害な化学物質などの生体への影響を回避できるようになるために、化学物質の毒性などに関する基本的知識を修得し、これに関連する基本的技能と態度を身につける。</p> <p><b>【化学物質の代謝・代謝的活性化】</b> 到達目標： 1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。 2) 第一相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。 3) 第二相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。</p> <p><b>【化学物質による発がん】</b> 到達目標： 1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。 2) 変異原性試験(Ames試験など)の原理を説明し、実施できる。(知識・技能) 3) 発がんのイニシエーションとプロモーションについて概説できる。 △4) 代表的ながん遺伝子とがん抑制遺伝子を挙げ、それらの異常とがん化との関連を説明できる。</p>						
		環境衛生学Ⅰ			総合衛生薬学特別講義 I・II	
		環境衛生学Ⅰ、生物系実習Ⅲ	衛生薬学特別講義		生体機能解析学Ⅰ、総合衛生薬学特別講義 I・II	
		環境衛生学Ⅰ				
		環境衛生学Ⅰ	衛生薬学特別講義		生体機能解析学Ⅰ、総合衛生薬学特別講義 I・II 総合衛生薬学特別講義 I・II	
		環境衛生学Ⅰ、病態生理学Ⅰ			生体機能解析学Ⅰ、総合衛生薬学特別講義 I・II	
		環境衛生学Ⅰ			総合衛生薬学特別講義 I・II	

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
<p><b>【化学物質の毒性】</b> 到達目標： 1) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。 2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質を列挙できる。 3) 重金属、農薬、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。 4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。 5) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量・反応関係、閾値、無毒性量 (NOAEL) などについて概説できる。 6) 化学物質の安全摂取量(1日許容摂取量など)について説明できる。 7) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制 (化審法など) を説明できる。 8) 環境ホルモン (内分泌攪乱化学物質) が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。(態度)</p> <p><b>【化学物質による中毒と処置】</b> 到達目標： 1) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。 △2) 化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、救急処置法、解毒法を検索することができる。(技能)</p> <p><b>【電離放射線の生体への影響】</b> 到達目標： 1) 人に影響を与える電離放射線の種類を列挙できる。 2) 電離放射線被曝における線量と生体損傷の関係を体外被曝と体内被曝に分けて説明できる。 3) 電離放射線および放射性核種の標的臓器・組織を挙げ、その感受性の差異を説明できる。 4) 電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子 (酸素効果など) について説明できる。 5) 電離放射線を防御する方法について概説できる。 6) 電離放射線の医療への応用について概説できる。</p> <p><b>【非電離放射線の生体への影響】</b> 到達目標： 1) 非電離放射線の種類を列挙できる。 2) 紫外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。 3) 赤外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。</p> <p><b>(2) 生活環境と健康</b> 一般目標： 生態系や生活環境を保全、維持するために、それらに影響を及ぼす自然現象、人為的活動を理解し、環境汚染物質などの成因、人体への影響、汚染防止、汚染除去などに関する基本的知識と技能を修得し、環境の改善に向かって努力する態度を身につける。</p> <p><b>【地球環境と生態系】</b> 到達目標： 1) 地球環境の成り立ちについて概説できる。 2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。 △3) 人の健康と環境の関係を人が生態系の一員であることをふまえて討議する。(態度) 4) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。 5) 食物連鎖を介した化学物質の生物濃縮について具体例を挙げて説明できる。 6) 化学物質の環境内動態と人の健康への影響について例を挙げて説明できる。 7) 環境中に存在する主な放射性核種 (天然、人工) を挙げ、人の健康への影響について説明できる。</p> <p><b>【水環境】</b> 到達目標： 1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。 2) 水の浄化法について説明できる。 3) 水の塩素処理の原理と問題点について説明できる。 4) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能) 5) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。 6) 水質汚濁の主な指標を水域ごとに列挙し、その意味を説明できる。 △7) DO, BOD, CODを測定できる。(技能) 8) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。</p>			環境衛生学 I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学特別講義 I・II 生体機能解析学 I、総合衛生薬学特別講義 I・II 総合衛生薬学特別講義 I・II 生体機能解析学 I、総合衛生薬学特別講義 I・II	
			環境衛生学 I		衛生薬学特別講義		総合衛生薬学特別講義 I・II
		同位体化学					
		同位体医療薬学			衛生薬学特別講義		総合衛生薬学特別講義 I・II
		同位体化学			環境衛生学 II、衛生薬学特別講義		総合衛生薬学特別講義 I・II
				環境衛生学 I	環境衛生学 II、衛生薬学特別講義		総合衛生薬学特別講義 I・II
				環境衛生学 I			
		同位体化学			衛生薬学特別講義		
				生物系実習 III	環境衛生学 II、衛生薬学特別講義		総合衛生薬学特別講義 I・II
				生物系実習 III			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【大気環境】</b> 到達目標： 1) 空気の成分を説明できる。 2) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源について説明できる。 3) 主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる。(知識・技能) 4) 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。				環境衛生学Ⅱ、衛生薬学特別講義		総合衛生薬学特別講義Ⅰ・Ⅱ
<b>【室内環境】</b> 到達目標： 1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能) 2) 室内環境と健康との関係について説明できる。 3) 室内環境の保全のために配慮すべき事項について説明できる。 4) シックハウス症候群について概説できる。		生物系実習Ⅲ	環境衛生学Ⅱ、衛生薬学特別講義			総合衛生薬学特別講義Ⅰ・Ⅱ
<b>【廃棄物】</b> 到達目標： 1) 廃棄物の種類を列挙できる。 2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。 △3) 医療廃棄物を安全に廃棄、処理する。(技能・態度) 4) マニフェスト制度について説明できる。 5) PRTR法について概説できる。				環境衛生学Ⅱ、衛生薬学特別講義		総合衛生薬学特別講義Ⅰ・Ⅱ
<b>【環境保全と法的規制】</b> 到達目標： 1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。 2) 環境基本法の理念を説明できる。 3) 大気汚染を防止するための法規制について説明できる。 4) 水質汚濁を防止するための法規制について説明できる。				環境衛生学Ⅱ、衛生薬学特別講義		総合衛生薬学特別講義Ⅰ・Ⅱ
<b>【薬と疾病】</b> <b>C19 薬の効くプロセス</b> 一般目標： 医薬品の作用する過程を理解するために、代表的な薬物の作用、作用機序、および体内での運命に関する基本的知識と態度を修得し、それらを応用する基本的技能を身につける。  (1) 薬の作用と生体内運命 一般目標： 作用部位に達した薬物の量と作用により薬効が決まることを理解するために、薬物の生体内における動きと作用に関する基本的知識、技能、態度を修得する。  <b>【薬の作用】</b> 到達目標： 1) 薬物の用量と作用の関係を説明できる。 2) アゴニストとアンタゴニストについて説明できる。 3) 薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。 4) 代表的な薬物受容体を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。 5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理反応を説明できる。 6) 薬効に個人差が生じる要因を列挙できる。 7) 代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。 8) 薬物依存性について具体例を挙げて説明できる。	人体生理学	基礎薬理学	医薬品安全性学、創薬化学Ⅰ・Ⅱ 創薬化学Ⅰ・Ⅱ 創薬化学Ⅰ・Ⅱ、薬物動態理論 薬物動態理論	医療薬学特別講義Ⅱ		薬効解析学Ⅰ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅳ
<b>【薬の運命】</b> 到達目標： 1) 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。 2) 薬物の代表的な投与方法(剤形、投与経路)を列挙し、その意義を説明できる。 3) 経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化(崩壊、分散、溶解など)を説明できる。 4) 薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。 5) 生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。		基礎薬理学、機能形態学	創薬化学Ⅰ・Ⅱ、薬物動態理論 薬物動態理論	疾患薬理学Ⅲ、医療薬学特別講義Ⅱ 医療薬学特別講義Ⅰ・Ⅱ		薬効解析学Ⅰ、総合医療薬学特別講義Ⅰ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅳ
<b>【薬の副作用】</b> 到達目標： 1) 薬物の主作用と副作用(有害作用)、毒性との関連について説明できる。 2) 副作用と有害事象の違いについて説明できる。		基礎薬理学	医薬品安全性学、創薬化学Ⅰ・Ⅱ 医薬品安全性学	医療薬学特別講義Ⅱ 医療薬学特別講義Ⅰ・Ⅱ		薬効解析学Ⅰ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅳ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目						
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	
<p><b>【動物実験】</b> 到達目標： △1) 動物実験における倫理について配慮する。(態度) △2) 代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能) △3) 実験動物での代表的な薬物投与法を実施できる。(技能)</p> <p><b>(2) 薬の効き方I</b> 一般目標： 神経系、循環器系、呼吸器系に作用する薬物に関する基本的知識を修得し、その作用を検出するための基本的技能を身につける。</p> <p><b>【中枢神経系に作用する薬】</b> 到達目標： 1) 代表的な全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 2) 代表的な催眠薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 3) 代表的な鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 4) 代表的な中枢神経疾患(てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など)の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 5) 代表的な精神疾患(統合失調症、うつ病など)の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 △6) 中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。</p> <p><b>【自律神経系に作用する薬】</b> 到達目標： 1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 △4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能) △技能であるからCBTには馴染まない</p> <p><b>【知覚神経系・運動神経系に作用する薬】</b> 到達目標： 1) 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 △3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能)</p> <p><b>【循環器系に作用する薬】</b> 到達目標： 1) 代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 2) 代表的な心不全治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 3) 代表的な虚血性心疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 4) 代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。</p> <p><b>【呼吸器系に作用する薬】</b> 到達目標： 1) 代表的な呼吸興奮薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 2) 代表的な鎮咳・去痰薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 3) 代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。</p> <p><b>【化学構造】</b> 到達目標： 1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。</p> <p><b>(3) 薬の効き方II</b> 一般目標： 内分泌系、消化器系、腎、血液・造血器系、代謝系、炎症、アレルギーに作用する薬物に関する基本的知識を修得する。</p> <p><b>【ホルモンと薬】</b> 到達目標： 1) ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。 2) 代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。 3) 代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。</p>			生物系実習IV				
				疾患薬理学I、創薬化学I、生物系実習IV			
				疾患薬理学I、医薬品安全性学、創薬化学I、生物系実習IV	医療薬学特別講義II		薬効解析学I、総合基礎薬学特別講義I、総合医療薬学特別講義II・IV
				疾患薬理学I、医薬品安全性学、創薬化学I			
				疾患薬理学I、医薬品安全性学、生物系実習IV			
				疾患薬理学I、創薬化学II、生物系実習IV			
				疾患薬理学I、医薬品安全性学、創薬化学II、生物系実習IV	医療薬学特別講義II		薬効解析学I、総合医療薬学特別講義II・IV
				疾患薬理学I			
				疾患薬理学I、医薬品安全性学、創薬化学II	医療薬学特別講義II		薬効解析学I、総合医療薬学特別講義II・IV
				疾患薬理学I			
				疾患薬理学I、医薬品安全性学	医療薬学特別講義II		薬効解析学I、総合医療薬学特別講義II・IV
				疾患薬理学II、医薬品安全性学、創薬化学I、生物系実習IV	臨床薬物治療学II、医療薬学特別講義II		薬効解析学I、総合医療薬学特別講義II・IV
				疾患薬理学II、医薬品安全性学、創薬化学II			
				創薬化学I・II	医療薬学特別講義II		薬効解析学I、総合医療薬学特別講義II・IV
		人体機能調節学		医薬品安全性学	医療薬学特別講義II		薬効解析学I、総合医療薬学特別講義II・IV



薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
<p><b>【消化器系に作用する薬】</b> 到達目標： 1) 代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 2) その他の消化性疾患に対する代表的治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 3) 代表的な催吐薬と制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。 4) 代表的な肝臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 5) 代表的な膵臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。</p> <p><b>【腎に作用する薬】</b> 到達目標： 1) 利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。</p> <p><b>【血液・造血器系に作用する薬】</b> 到達目標： 1) 代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。 2) 代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。 3) 代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。</p> <p><b>【代謝系に作用する薬】</b> 到達目標： 1) 代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。 2) 代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。 3) 代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。 4) カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。</p> <p><b>【炎症・アレルギーと薬】</b> 到達目標： 1) 代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。 2) 慢性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。 3) アレルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。</p> <p><b>【化学構造】</b> 到達目標： 1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。</p> <p>(4) 薬物の臓器への到達と消失 一般目標： 薬物の生体内運命を理解するために、吸収、分布、代謝、排泄の過程に関する基本的知識とそれらを解析するための基本的技能を修得する。</p> <p><b>【吸収】</b> 到達目標： 1) 薬物の主な吸収部位を列挙できる。 2) 消化管の構造、機能と薬物吸収の関係を説明できる。 3) 受動拡散(単純拡散)、促進拡散の特徴を説明できる。 4) 能動輸送の特徴を説明できる。 5) 非経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。 6) 薬物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。</p> <p><b>【分布】</b> 到達目標： 1) 薬物が生体内に取り込まれた後、組織間で濃度差が生じる要因を説明できる。 2) 薬物の脳への移行について、その機構と血液-脳関門の意義を説明できる。 3) 薬物の胎児への移行について、その機構と血液-胎盤関門の意義を説明できる。 4) 薬物の体液中での存在状態(血漿タンパク結合など)を組織への移行と関連づけて説明できる。 5) 薬物分布の変動要因(血流量、タンパク結合性、分布容積など)について説明できる。 6) 分布容積が著しく大きい代表的な薬物を列挙できる。 △7) 代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる。(技能)</p>		機能形態学	疾患薬理学Ⅱ、医薬品安全性学	臨床薬物治療学Ⅰ、医療薬学特別講義Ⅱ		薬効解析学Ⅰ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅳ	
		機能形態学	疾患薬理学Ⅱ、医薬品安全性学、創薬化学Ⅰ、生物系実習Ⅳ		医療薬学特別講義Ⅱ		薬効解析学Ⅰ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅳ
				医薬品安全性学	医療薬学特別講義Ⅱ		薬効解析学Ⅰ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅳ
				疾患薬理学Ⅱ、医薬品安全性学	医療薬学特別講義Ⅱ		薬効解析学Ⅰ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅳ
				疾患薬理学Ⅱ	病態生理学Ⅱ、医療薬学特別講義Ⅱ		薬効解析学Ⅰ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅳ
				創薬化学Ⅰ・Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		薬効解析学Ⅰ、総合基礎薬学特別講義Ⅰ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅳ
		機能形態学					総合医療薬学特別講義Ⅰ
		人体生理学		薬物動態理論	医療薬学特別講義Ⅰ		
			基礎薬理学	薬物動態理論	医療薬学特別講義Ⅰ		総合医療薬学特別講義Ⅰ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目						
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	
<p><b>【代謝】</b> 到達目標： 1) 薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位を列挙して説明できる。 2) 薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる。 3) 薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる。 4) シトクロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる。 5) 薬物の酸化反応について具体的な例を挙げて説明できる。 6) 薬物の還元・加水分解、抱合について具体的な例を挙げて説明できる。 7) 薬物代謝酵素の変動要因（誘導、阻害、加齢、SNPsなど）について説明できる。 8) 初回通過効果について説明できる。 9) 肝および固有クリアランスについて説明できる。</p> <p><b>【排泄】</b> 到達目標： 1) 腎における排泄機構について説明できる。 2) 腎クリアランスについて説明できる。 3) 糸球体ろ過速度について説明できる。 4) 胆汁中排泄について説明できる。 5) 腸肝循環を説明し、代表的な腸肝循環の薬物を列挙できる。 6) 唾液・乳汁中への排泄について説明できる。 7) 尿中排泄率の高い代表的な薬物を列挙できる。</p> <p><b>【相互作用】</b> 到達目標： 1) 薬物動態に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。 2) 薬効に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。</p> <p>(5) 薬物動態の解析 一般目標： 薬効や副作用を体内の薬物動態から定量的に理解できるようになるために、薬物動態の理論的解析に関する基本的知識と技能を修得する。</p> <p><b>【薬動学】</b> 到達目標： 1) 薬物動態に関わる代表的なパラメータを列挙し、概説できる。 2) 薬物の生物学的利用能の意味とその計算法を説明できる。 3) 線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能) △4) 線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能) 5) 線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違いを説明できる。 6) 生物学的半減期を説明し、計算できる。(知識・技能) 7) 全身クリアランスについて説明し、計算できる。(知識・技能) 8) 非線形性の薬物動態について具体例を挙げて説明できる。 9) モデルによらない薬物動態の解析法を列挙し説明できる。 △10) 薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる。(技能) △11) 点滴静注の血中濃度計算ができる。(技能) △12) 連続投与における血中濃度計算ができる。(技能)</p> <p><b>【TDM (Therapeutic Drug Monitoring)】</b> 到達目標： 1) 治療的薬物モニタリング (TDM) の意義を説明できる。 2) TDMが必要とされる代表的な薬物を列挙できる。 △3) 薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる。(技能) △4) 至適血中濃度を維持するための投与計画について、薬動学的パラメータを用いて説明できる。 △5) 代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる。(技能)</p>		基礎薬理学	薬物動態理論				
				薬物動態理論、環境衛生学 I	医療薬学特別講義 I・II		薬効解析学 I、総合医療薬学特別講義 I、総合医療薬学特別講義 II・IV
				薬物動態理論、環境衛生学 I、生物系薬理学	医療薬学特別講義 I		総合医療薬学特別講義 I
				薬物動態理論、環境衛生学 I	医療薬学特別講義 I・II		薬効解析学 I、総合医療薬学特別講義 I、総合医療薬学特別講義 II・IV
			基礎薬理学	薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		総合医療薬学特別講義 I
			機能形態学	疾患薬理学 II、薬物動態理論	医療薬学特別講義 I・II		薬効解析学 I、総合医療薬学特別講義 I、総合医療薬学特別講義 II・IV
				薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		総合医療薬学特別講義 I
				薬物動態理論	薬学疾患管理学、臨床薬物動態学、医療薬学特別講義 I		総合医療薬学特別講義 V
				臨床薬物動態解析学	医療薬学特別講義 I		総合医療薬学特別講義 I
				臨床薬物動態解析学	医療薬学特別講義 I		総合医療薬学特別講義 V

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
<p><b>C14 薬物治療</b></p> <p><b>一般目標：</b>            疾病に伴う症状と臨床検査値の変化などの確かな患者情報を取得し、患者個々に応じた薬の選択、用法・用量の設定および各々の医薬品の「使用上の注意」を考慮した適正な薬物治療に参画できるようにするために、薬物治療に関する基本的知識と技能を修得する。</p> <p><b>（1）体の変化を知る</b></p> <p><b>一般目標：</b>            身体の病的変化を病態生理学的に理解するために、代表的な症候（呼吸困難、発熱など）と臨床検査値に関する基本的知識を修得する。</p> <p><b>【症候】</b>            到達目標：            1) 以下の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を説明できる。            発熱、頭痛、発疹、黄疽、チアノーゼ、脱水、浮腫、悪心・嘔吐、嚥下障害、腹痛・下痢、便秘、腹部膨満、貧血、出血傾向、胸痛、心悸亢進・動悸、高血圧、低血圧、ショック、呼吸困難、咳、口渇、月経異常、痛み、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しびれ            けいれん、血尿、頻尿、排尿障害、視力障害、聴力障害、めまい</p> <p><b>【症候と臨床検査値】</b>            到達目標：            1) 代表的な肝臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。            2) 代表的な腎臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。            3) 代表的な呼吸機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。            4) 代表的な心臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。            5) 代表的な血液および血液凝固検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。            6) 代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。            7) 感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動を述べることができる。            8) 悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査を列挙し、推測される腫瘍部位を挙げることができる。            9) 尿および糞便を用いた代表的な臨床検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。            10) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、その検査値の臨床的意義を説明できる。            11) 代表的なバイタルサインを列挙できる。</p> <p><b>（2）疾患と薬物治療（心臓疾患等）</b></p> <p><b>一般目標：</b>            将来、適切な薬物治療に貢献できるようになるために、心臓と血管系疾患、血液・造血管器疾患、消化器系疾患、およびそれらの治療に用いられる代表的な医薬品に関する基本的知識を修得する。併せて、薬物治療実施に必要な情報を自ら収集するための基本的技能を身につける。</p> <p><b>【薬物治療の位置づけ】</b>            到達目標：            1) 代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療（外科手術、食事療法など）の位置づけを説明できる。            2) 適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。（知識・技能）</p> <p><b>【心臓・血管系の疾患】</b>            到達目標：            1) 心臓および血管系における代表的な疾患を挙げることができる。            2) 不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。            3) 心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。            4) 高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。            5) 虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。            6) 以下の疾患について概説できる。            閉塞性動脈硬化症、心原性ショック</p>							
			病態生理学Ⅰ	臨床検査学Ⅰ、医療薬学特別講義Ⅱ			臨床検査学Ⅱ、薬効解析学Ⅱ
			病態生理学Ⅰ	臨床検査学Ⅰ、医療薬学特別講義Ⅱ			臨床検査学Ⅱ、薬効解析学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅵ
					医療薬学特別講義Ⅱ		薬効解析学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅵ
					生物系実習Ⅳ		
		機能形態学	疾患薬理学Ⅱ	病態生理学Ⅱ、臨床薬物治療学Ⅱ、医療薬学特別講義Ⅱ			薬効解析学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅵ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
<p><b>【血液・造血器の疾患】</b> 到達目標： 1) 血液・造血器における代表的な疾患を挙げることができる。 2) 貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 3) 白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 4) 播種性血管内凝固症候群 (DIC) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 5) 以下の疾患について概説できる。 血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓</p> <p><b>【消化器系疾患】</b> 到達目標： 1) 消化器系の部位別 (食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、胆道、肝臓、膵臓) に代表的な疾患を挙げることができる。 2) 消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 3) 腸炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 4) 肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 5) 膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 6) 以下の疾患について概説できる。 食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病</p> <p><b>【総合演習】</b> 到達目標： △1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。(技能)</p> <p>(3) 疾患と薬物治療 (腎臓疾患等) 一般目標： 将来、適切な薬物治療に貢献できるようになるために、腎臓と尿路の疾患、生殖器疾患、呼吸器・胸部疾患、内分泌系の疾患、代謝性疾患、神経・筋疾患、およびそれらの治療に用いられる代表的な医薬品に関する基本的知識を修得する。併せて、薬物治療実施に必要な情報を自ら収集するための基本的技能を身につける。</p> <p><b>【腎臓・尿路の疾患】</b> 到達目標： 1) 腎臓および尿路における代表的な疾患を挙げることができる。 2) 腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 3) ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 4) 以下の疾患について概説できる。 糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石</p> <p><b>【生殖器疾患】</b> 到達目標： 1) 男性および女性生殖器に関する代表的な疾患を挙げることができる。 2) 前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 3) 以下の疾患について概説できる。 前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内膜症</p> <p><b>【呼吸器・胸部の疾患】</b> 到達目標： 1) 肺と気道に関する代表的な疾患を挙げることができる。 2) 閉塞性気道疾患 (気管支喘息、肺気腫) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 3) 以下の疾患について概説できる。 上気道炎 (かぜ症候群)、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌</p> <p><b>【内分泌系疾患】</b> 到達目標： 1) ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患を挙げることができる。 2) 甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 3) クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 4) 尿崩症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 5) 以下の疾患について概説できる。 上皮小体機能異常症、アルドステロン症、アジソン病</p>		機能形態学		病態生理学Ⅱ、臨床薬物治療Ⅱ、医療薬学特別講義Ⅱ		薬効解析学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅵ	
		機能形態学	疾患薬理学Ⅱ、病態生理学Ⅰ		臨床薬物治療学Ⅰ、医療薬学特別講義Ⅱ		薬効解析学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅵ
							薬効解析学Ⅱ
		機能形態学	疾患薬理学Ⅱ		臨床薬物治療学Ⅰ、医療薬学特別講義Ⅱ		薬効解析学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅵ
		機能形態学	疾患薬理学Ⅱ		臨床薬物治療学Ⅰ、医療薬学特別講義Ⅱ		薬効解析学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅵ
			疾患薬理学Ⅱ		病態生理学Ⅱ、臨床薬物治療学Ⅱ、医療薬学特別講義Ⅱ		薬効解析学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅵ
		人体機能調節学	病態生理学Ⅰ				
		人体機能調節学、機能形態学	疾患薬理学Ⅱ、病態生理学Ⅰ				
		人体機能調節学			医療薬学特別講義Ⅱ		薬効解析学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅵ
		人体機能調節学、機能形態学	病態生理学Ⅰ				
	人体機能調節学						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<p><b>【代謝性疾患】</b> 到達目標： 1) 糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 2) 高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 3) 高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。</p> <p><b>【神経・筋の疾患】</b> 到達目標： 1) 神経・筋に関する代表的な疾患を挙げることができる。 2) 脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 3) てんかんの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 4) パーキンソン病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 5) アルツハイマー病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 6) 以下の疾患について概説できる。 重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆</p> <p><b>【総合演習】</b> 到達目標： △1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。</p> <p><b>(4) 疾患と薬物治療 (精神疾患等)</b> 一般目標： 将来、適切な薬物治療に貢献できるようになるために、精神疾患、耳鼻咽喉の疾患、皮膚の疾患、眼疾患、感染症、アレルギー・免疫疾患、骨・関節疾患、およびそれらの治療に用いられる代表的な医薬品に関する基本的知識を修得する。併せて、薬物治療実施に必要な情報を自ら収集するための基本的技能を身につける。</p> <p><b>【精神疾患】</b> 到達目標： 1) 代表的な精神疾患を挙げることができる。 2) 統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 3) うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 4) 以下の疾患を概説できる。 神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症</p> <p><b>【耳鼻咽喉の疾患】</b> 到達目標： 1) 耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げることができる。 2) めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 3) 以下の疾患を概説できる。 メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎</p> <p><b>【皮膚疾患】</b> 到達目標： 1) 皮膚に関する代表的な疾患を挙げることができる。 2) アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 3) 皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 4) 以下の疾患を概説できる。 蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾癬、接触性皮膚炎、光線過敏症</p> <p><b>【眼疾患】</b> 到達目標： 1) 眼に関する代表的な疾患を挙げることができる。 2) 緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 3) 白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 4) 以下の疾患を概説できる。 結膜炎、網膜症</p>		人体生化学Ⅱ、機能形態学	疾患薬理学Ⅱ、病態生理学Ⅰ	臨床薬物治療学Ⅰ、医療薬学特別講義Ⅱ		薬効解析学Ⅱ、臨床診療科概論Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅵ 薬効解析学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅵ
		機能形態学	疾患薬理学Ⅰ、病態生理学Ⅰ	臨床薬物治療学Ⅰ、医療薬学特別講義Ⅱ		薬効解析学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅳ
		人体生理学			医療薬学特別講義Ⅱ	薬効解析学Ⅱ
		人体生理学	疾患薬理学Ⅰ、病態生理学Ⅰ、生物系実習Ⅳ	臨床薬物治療学Ⅰ、医療薬学特別講義Ⅱ		薬効解析学Ⅱ、臨床診療科概論Ⅰ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅳ
			疾患薬理学Ⅰ、病態生理学Ⅰ			
		機能形態学		疾患薬理学Ⅲ、病態生理学Ⅱ、臨床薬物治療学Ⅱ、医療薬学特別講義Ⅱ		薬効解析学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅳ
		機能形態学		疾患薬理学Ⅲ、医療薬学特別講義Ⅱ		
			疾患薬理学Ⅱ			薬効解析学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅳ
		機能形態学		疾患薬理学Ⅲ、臨床薬物治療学Ⅱ、医療薬学特別講義Ⅱ 疾患薬理学Ⅲ、医療薬学特別講義Ⅱ		
		人体生理学		疾患薬理学Ⅲ、病態生理学Ⅱ、臨床薬物治療学Ⅱ、医療薬学特別講義Ⅱ		薬効解析学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅳ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
<p><b>【骨・関節の疾患】</b> 到達目標： 1) 骨、関節に関する代表的な疾患を挙げることができる。 2) 骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 3) 慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 4) 以下の疾患を概説できる。 変形性関節症、骨軟化症</p> <p><b>【アレルギー・免疫疾患】</b> 到達目標： 1) 代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げることができる。 2) アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 3) 自己免疫疾患（全身性エリテマトーデスなど）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。 4) 後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。</p> <p><b>【移植医療】</b> 到達目標： 1) 移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。</p> <p><b>【緩和ケアと長期療養】</b> 到達目標： 1) 癌性疼痛に対して使用される薬物を列挙し、使用上の注意について説明できる。 △2) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について説明できる。</p> <p><b>【総合演習】</b> 到達目標： △1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。（技能）</p> <p><b>(5) 病原微生物・悪性新生物と戦う</b> 一般目標： 生体内で異常に増殖あるいは複製することにより人体に疾患を生じる細菌、ウイルスなど、および悪性新生物に対する薬物の作用機序を理解し、薬物治療へ応用できるようにするために、抗菌薬、抗悪性腫瘍薬などに関する基本的知識を修得する。</p> <p><b>【感染症】</b> 到達目標： 1) 主な感染症を列挙し、その病態と原因を説明できる。</p> <p><b>【抗菌薬】</b> 到達目標： 1) 抗菌薬を作用点に基づいて分類できる。 2) 代表的な抗菌薬の基本構造を示すことができる。 3) 代表的なβ-ラクタム系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。 4) テトラサイクリン系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。 5) マクロライド系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。 6) アミノ配糖体系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。 7) ピリドンカルボン酸系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。 8) サルファ薬（ST合剤を含む）の有効な感染症を列挙できる。 9) 代表的な抗結核薬を列挙し、作用機序を説明できる。 △10) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤を挙げ、その作用機序を説明できる。 11) 代表的な抗菌薬の使用上の注意について説明できる。 12) 特徴的な組織移行性を示す抗菌薬を列挙できる。</p> <p><b>【抗原虫・寄生虫薬】</b> 到達目標： △1) 代表的な抗原虫・寄生虫薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。</p> <p><b>【抗真菌薬】</b> 到達目標： 1) 代表的な抗真菌薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。</p>	人体生理学		疾患薬理学Ⅱ	病態生理学Ⅱ、臨床薬物治療学Ⅱ、医療薬学特別講義Ⅱ		薬効解析学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅳ	
		免疫学	疾患薬理学Ⅱ	病態生理学Ⅱ、臨床薬物治療学Ⅱ、医療薬学特別講義Ⅱ			薬効解析学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅳ
		免疫学		医療薬学特別講義Ⅱ			
				臨床薬物治療学Ⅰ、医療薬学特別講義Ⅱ			薬効解析学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅵ
				医療薬学特別講義Ⅱ			薬効解析学Ⅱ
				医療薬学特別講義Ⅱ			薬効解析学Ⅱ
				感染症治療薬概論	病態生理学Ⅱ、臨床薬物治療学Ⅱ		薬効解析学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅵ
				感染症治療薬概論	臨床薬物治療学Ⅱ		薬効解析学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅵ
				感染症治療薬概論	臨床薬物治療学Ⅱ		薬効解析学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅵ
				感染症治療薬概論	臨床薬物治療学Ⅱ		薬効解析学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅵ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<p><b>【抗ウイルス薬】</b> 到達目標： 1) 代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。 △2) 抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点を挙げ、説明できる。</p> <p><b>【抗菌薬の耐性と副作用】</b> 到達目標： △1) 主要な化学療法薬の耐性獲得機構を説明できる。 2) 主要な化学療法薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。</p> <p><b>【悪性腫瘍の病態と治療】</b> 到達目標： 1) 悪性腫瘍の病態生理、症状、治療について概説できる。 △2) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概説できる。 △3) 化学療法薬が有効な悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。</p> <p><b>【抗悪性腫瘍薬】</b> 到達目標： 1) 代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる。 2) 代表的なアルキル化薬を列挙し、作用機序を説明できる。 3) 代表的な代謝拮抗薬を列挙し、作用機序を説明できる。 4) 代表的な抗腫瘍抗生物質を列挙し、作用機序を説明できる。 5) 抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイドを列挙し、作用機序を説明できる。 6) 抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬を列挙し、作用機序を説明できる。 7) 代表的な白金錯体を挙げ、作用機序を説明できる。 △8) 代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造を示すことができる。</p> <p><b>【抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用】</b> 到達目標： △1) 主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。 2) 主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。 3) 副作用軽減のための対処法を説明できる。</p>			感染症治療薬概論	臨床薬物治療学Ⅰ、 臨床薬物治療学Ⅱ		薬効解析学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅵ
			感染症治療薬概論	臨床薬物治療学Ⅱ		薬効解析学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅵ
				臨床薬物治療学Ⅰ、 医療薬学特別講義Ⅱ		薬効解析学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅵ
			感染症治療薬概論	臨床薬物治療学Ⅰ、 医療薬学特別講義Ⅱ		薬効解析学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅵ
				臨床薬物治療学Ⅰ		薬効解析学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅱ・Ⅵ
			コミュニケーション学、 医療情報学	調剤学総論、医療薬学特別講義Ⅰ		総合医療薬学特別講義Ⅲ
			医療情報学	調剤学総論、薬事関係法規論、医療薬学特別講義Ⅰ		総合医療薬学特別講義Ⅲ
			医療情報学	調剤学総論、医療薬学特別講義Ⅰ		総合医療薬学特別講義Ⅲ
			医療情報学	調剤学総論、薬事関係法規論、医療薬学特別講義Ⅰ		総合医療薬学特別講義Ⅲ
				調剤学総論、医療薬学特別講義Ⅰ		総合医療薬学特別講義Ⅲ
<p><b>C15 薬物治療に役立つ情報</b> 一般目標： 薬物治療に必要な情報を医療チームおよび患者に提供するために、医薬品情報ならびに患者から得られる情報の収集、評価、加工などに関する基本的知識を修得し、それらを活用するための基本的技能と態度を身につける。</p> <p>(1) 医薬品情報 一般目標： 医薬品の適正使用に必要な医薬品情報を理解し、正しく取り扱うことができるようになるために、医薬品情報の収集、評価、加工、提供、管理に関する基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p><b>【情報】</b> 到達目標： 1) 医薬品として必須の情報を列挙できる。 2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割を説明できる。 3) 医薬品の開発過程で得られる情報の種類を列挙できる。 4) 医薬品の市販後に得られる情報の種類を列挙できる。 5) 医薬品情報に関係する代表的な法律と制度について概説できる。</p> <p><b>【情報源】</b> 到達目標： 1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料について説明できる。 2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。 3) 厚生労働省、製薬企業などの発行する資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。 4) 医薬品添付文書(医療用、一般用)の法的位置づけと用途を説明できる。 5) 医薬品添付文書(医療用、一般用)に記載される項目を列挙し、その必要性を説明できる。 6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと用途を説明できる。 △7) 医療用医薬品添付文書と医薬品インタビューフォームの使い分けができる。(技能)</p>						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
<p><b>【収集・評価・加工・提供・管理】</b> 到達目標： △1) 目的(効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など)に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。(技能) 2) 医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。 △3) 医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる。(技能) △4) 医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する。(知識・態度) △5) 主な医薬品情報の提供手段を列挙し、それらの特徴を説明できる。</p> <p><b>【データベース】</b> 到達目標： 1) 代表的な医薬品情報データベースを列挙し、それらの特徴を説明できる。 △2) 医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索できる。(知識・技能) △3) インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。(技能)</p> <p><b>【EBM (Evidence-Based Medicine)】</b> 到達目標： 1) EBMの基本概念と有用性について説明できる。 2) EBM実践のプロセスを概説できる。 △3) 臨床研究法(ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など)の長所と短所を概説できる。 △4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。(知識・技能) △5) 真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違いを説明できる。 △6) 臨床適用上の効果指標(オッズ比、必要治療数、相対危険度など)について説明できる。</p> <p><b>【総合演習】</b> 到達目標： △1) 医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目を列挙できる。 △2) 医薬品に関する論文を評価、要約し、臨床上の問題を解決するために必要な情報を提示できる。(知識・技能)</p> <p><b>(2) 患者情報</b> 一般目標： 個々の患者への適正な薬物治療に貢献できるようになるために、患者からの情報の収集、評価に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p><b>【情報と情報源】</b> 到達目標： 1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。 2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。</p> <p><b>【収集・評価・管理】</b> 到達目標： 1) 問題志向型システム(POS)を説明できる。 △2) 薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる。(技能) △3) 患者、介護者との適切なインタビューから患者基本情報を収集できる。(技能) △4) 得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する。(知識・技能) △5) SOAPなどの形式で患者記録を作成できる。(技能) △6) チーム医療において患者情報を共有することの重要性を感じとる。(態度) △7) 患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる。(知識・態度)</p> <p><b>(3) テーラーメイド薬物治療を目指して</b> 一般目標： 個々の患者に応じた投与計画を立案できるようになるために、薬物治療の個別化に関する基本的知識と技能を修得する。</p> <p><b>【遺伝的素因】</b> 到達目標： 1) 薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。 2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。 3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。</p>			医療情報学	調剤学総論、医療薬学特別講義Ⅰ		総合医療薬学特別講義Ⅲ	
				医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		総合医療薬学特別講義Ⅲ
				医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		総合医療薬学特別講義Ⅲ
				医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		総合医療薬学特別講義Ⅲ
				医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		総合医療薬学特別講義Ⅲ
				コミュニケーション学、医療情報学	薬学疾患管理学、医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬剤学Ⅰ、総合医療薬学特別講義Ⅲ
				コミュニケーション学、医療情報学	薬学疾患管理学、医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬剤学Ⅰ、総合医療薬学特別講義Ⅲ
					臨床薬物動態学、医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬剤学Ⅰ、総合医療薬学特別講義Ⅴ



薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
<p><b>【年齢的要因】</b> 到達目標： 1) 新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。 2) 幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。 3) 高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。</p> <p><b>【生理的要因】</b> 到達目標： 1) 生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点を説明できる。 2) 授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。 △3) 栄養状態の異なる患者（肥満など）に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。</p> <p><b>【合併症】</b> 到達目標： 1) 腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。 2) 肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。 3) 心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。</p> <p><b>【投与計画】</b> 到達目標： △1) 患者固有の薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。(知識・技能) 2) ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。 △3) 薬動力学的パラメーターを用いて投与設計ができる。(知識・技能) 4) 薬物作用の日内変動を考慮した用法について概説できる。</p> <p><b>【医薬品をつくる】</b> <b>C16 製剤化のサイエンス</b> 一般目標： 製剤化の方法と意義を理解するために、薬物と製剤材料の物性、医薬品への加工、および薬物送達システムに関する基本的知識と技能を修得する。</p> <p>(1) 製剤材料の性質 一般目標： 薬物と製剤材料の性質を理解し、応用するために、それらの物性に関する基本的知識、および取扱いに関する基本的技能を修得する。</p> <p><b>【物質の溶解】</b> 到達目標： 1) 溶液の濃度と性質について説明できる。 2) 物質の溶解とその速度について説明できる。 3) 溶解した物質の膜透過速度について説明できる。 4) 物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割を説明できる。</p> <p><b>【分散系】</b> 到達目標： 1) 界面の性質について説明できる。 2) 代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。 3) 乳剤の型と性質について説明できる。 4) 代表的な分散系を列挙し、その性質について説明できる。 5) 分散粒子の沈降現象について説明できる。</p> <p><b>【製剤材料の物性】</b> 到達目標： 1) 流動と変形（レオロジー）の概念を理解し、代表的なモデルについて説明できる。 △2) 高分子の構造と高分子溶液の性質について説明できる。 3) 製剤分野で汎用される高分子の物性について説明できる。 4) 粉体の性質について説明できる。 5) 製剤材料としての分子集合体について説明できる。 6) 薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法を列挙し、説明できる。 △7) 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概略を説明できる。 △8) 製剤材料の物性を測定できる。(技能)</p>				臨床薬物動態学、医療薬学特別講義 I		医療薬剤学 I、総合医療薬学特別講義 V	
				臨床薬物動態学、医療薬学特別講義 I			医療薬剤学 I、総合医療薬学特別講義 V
				臨床薬物動態学、医療薬学特別講義 I			医療薬剤学 I、総合医療薬学特別講義 V
			臨床薬物動態解析学	医療薬学特別講義 I			医療薬剤学 I、総合医療薬学特別講義 V
				臨床薬物動態学、医療薬学特別講義 I			
			臨床薬物動態解析学	医療薬学特別講義 I	臨床薬物動態学、医療薬学特別講義 I		
			製剤材料学	医療薬学特別講義 I			医療薬剤学 II、総合医療薬学特別講義 I
			製剤材料学	医療薬学特別講義 I			医療薬剤学 II、総合医療薬学特別講義 I
		製剤材料学	医療薬学特別講義 I			医療薬剤学 II、総合医療薬学特別講義 I	
		同位体化学					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
<p>(2) 剤形をつくる</p> <p>一般目標： 医薬品の用途に応じた適切な剤形を調製するために、製剤の種類、有効性、安全性、品質などに関する基本的知識と、調製を行う際の基本的技能を修得する。</p> <p>【代表的な製剤】 到達目標： 1) 代表的な剤形の種類と特徴を説明できる。 2) 代表的な固形製剤の種類と性質について説明できる。 3) 代表的な半固形製剤の種類と性質について説明できる。 4) 代表的な液状製剤の種類と性質について説明できる。 5) 代表的な無菌製剤の種類と性質について説明できる。 6) エアゾール剤とその類似製剤について説明できる。 7) 代表的な製剤添加物の種類と性質について説明できる。 8) 代表的な製剤の有効性と安全性評価法について説明できる。</p> <p>【製剤化】 到達目標： 1) 製剤化の単位操作および汎用される製剤機械について説明できる。 △2) 単位操作を組み合わせて代表的な製剤を調製できる。(技能) △3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。</p> <p>【製剤試験法】 到達目標： 1) 日本薬局方の製剤に関連する試験法を列挙できる。 △2) 日本薬局方の製剤に関連する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる。(技能)</p> <p>(3) DDS (Drug Delivery System : 薬物送達システム)</p> <p>一般目標： 薬物治療の有効性、安全性、信頼性を高めるために、薬物の投与形態や薬物体内動態の制御法などを工夫したDDSに関する基本的知識を修得する。</p> <p>【DDSの必要性】 到達目標： 1) 従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点を列挙できる。 2) DDSの概念と有用性について説明できる。</p> <p>【放出制御型製剤】 到達目標： 1) 放出制御型製剤(徐放性製剤を含む)の利点について説明できる。 2) 代表的な放出制御型製剤を列挙できる。 3) 代表的な徐放性製剤における徐放化の手段について説明できる。 4) 徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質について説明できる。 5) 経皮投与製剤の特徴と利点について説明できる。 6) 腸溶製剤の特徴と利点について説明できる。</p> <p>【ターゲティング】 到達目標： 1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。 2) 代表的なドラッグキャリアーを列挙し、そのメカニズムを説明できる。</p> <p>【プロドラッグ】 到達目標： 1) 代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと有用性について説明できる。</p> <p>【その他のDDS】 到達目標： △1) 代表的な生体膜透過促進法について説明できる。</p>							
				製剤工学	医療薬学特別講義 I		医療薬剤学 II、総合医療薬学特別講義 I
				製剤工学	医療薬学特別講義 I		医療薬剤学 II、総合医療薬学特別講義 I
				製剤工学	医療薬学特別講義 I		医療薬剤学 II、総合医療薬学特別講義 I
				創薬化学 I	薬物送達学、調剤学総論、医療薬学特別講義 I		医療薬剤学 II、総合医療薬学特別講義 III
					薬物送達学、調剤学総論、医療薬学特別講義 I		医療薬剤学 II、総合医療薬学特別講義 III
					薬物送達学、医療薬学特別講義 I		医療薬剤学 II、総合医療薬学特別講義 III
				創薬化学 I	薬物送達学、医療薬学特別講義 I		医療薬剤学 II、総合医療薬学特別講義 III
					薬物送達学、医療薬学特別講義 I		医療薬剤学 II、総合医療薬学特別講義 III

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
<p><b>C17 医薬品の開発と生産</b></p> <p>一般目標： 将来、医薬品開発と生産に参画できるようになるために、医薬品開発の各プロセスについての基本的知識を修得し、併せてそれらを実施する上で求められる適切な態度を身につける。</p> <p>(1) 医薬品開発と生産のながれ</p> <p>一般目標： 医薬品開発と生産の実際を理解するために、医薬品創製と製造の各プロセスに関する基本的知識を修得し、社会的重要性に目を向ける態度を身につける。</p> <p>【医薬品開発のコンセプト】</p> <p>到達目標： △1) 医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。 2) 疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。</p> <p>【医薬品市場と開発すべき医薬品】</p> <p>到達目標： △1) 医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。 △2) 新規医薬品の価格を決定する要因について概説できる。 3) ジェネリック医薬品の役割について概説できる。 △4) 希少疾病に対する医薬品 (オーファンドラッグ) 開発の重要性について説明できる。</p> <p>【非臨床試験】</p> <p>到達目標： △1) 非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。</p> <p>【医薬品の承認】</p> <p>到達目標： △1) 臨床試験の目的と実施概要を説明できる。 △2) 医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。 3) 市販後調査の制度とその意義について説明できる。 △4) 医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション (ICH) について概説できる。</p> <p>【医薬品の製造と品質管理】</p> <p>到達目標： △1) 医薬品の工業的規模での製造工程の特色を開発レベルのそれと対比させて概説できる。 △2) 医薬品の品質管理の意義と、薬剤師の役割について説明できる。 △3) 医薬品製造において環境保全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。</p> <p>【規範】</p> <p>到達目標： 1) GLP (Good Laboratory Practice)、GMP (Good Manufacturing Practice)、GCP (Good Clinical Practice)、GPMSP (Good Post-Marketing Surveillance Practice) の概略と意義について説明できる。</p> <p>【特許】</p> <p>到達目標： △1) 医薬品の創製における知的財産権について概説できる。</p> <p>【薬害】</p> <p>到達目標： 1) 代表的な薬害の例 (サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジンなど) について、その原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)</p> <p>(2) リード化合物の創製と最適化</p> <p>一般目標： ドラッグデザインの科学的な考え方を理解するために、標的生体分子との相互作用および基盤となるサイエンスと技術に関する基本的知識と技能を修得する。</p> <p>【医薬品創製の歴史】</p> <p>到達目標： 1) 古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。</p>							
				医療情報学	薬事関係法規論		総合医療薬学特別講義Ⅲ
				医薬品開発・経済学、医療情報学			
				医薬品開発・経済学、創薬化学Ⅰ	薬事関係法規論		薬事・医事関係法規特別講義、総合医療薬学特別講義Ⅲ
							総合医療薬学特別講義Ⅲ
			基礎薬理学	医薬品開発・経済学	薬事関係法規論		総合医療薬学特別講義Ⅲ
			基礎薬理学	医薬品開発・経済学	薬事関係法規論		総合医療薬学特別講義Ⅲ
				医薬品開発・経済学	薬事関係法規論		総合医療薬学特別講義Ⅲ
			基礎薬理学		薬事関係法規論		総合医療薬学特別講義Ⅲ
				医薬品開発・経済学	薬事関係法規論		総合医療薬学特別講義Ⅲ
				医薬品開発・経済学			総合医療薬学特別講義Ⅲ
			創薬化学Ⅰ				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
<p><b>【標的生体分子との相互作用】</b> 到達目標： △1) 医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。 △2) 医薬品と標的分子の相互作用を、具体例を挙げて立体化学的観点から説明できる。 △3) 立体異性体と生物活性の関係について具体例を挙げて説明できる。 △4) 医薬品の構造とアゴニスト活性、アンタゴニスト活性との関係について具体例を挙げて説明できる。</p> <p><b>【スクリーニング】</b> 到達目標： △1) スクリーニングの対象となる化合物の起源について説明できる。 △2) 代表的なスクリーニング法を列挙し、概説できる。</p> <p><b>【リード化合物の最適化】</b> 到達目標： △1) 定量的構造活性相関のパラメーターを列挙し、その薬理活性に及ぼす効果について概説できる。(5) △2) 生物学的等価性(バイオアイソスター)の意義について概説できる。(1)(5) △3) 薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。(1)(5)</p> <p><b>(3) バイオ医薬品とゲノム情報</b> 一般目標： 医薬品としてのタンパク質、遺伝子、細胞を適正に利用するために、それらを用いる治療に関する基本的知識を修得し、倫理的態度を身につける。併せて、ゲノム情報の利用に関する基本的知識を修得する。</p> <p><b>【組換え体医薬品】</b> 到達目標： 1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。 2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。 3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。</p> <p><b>【遺伝子治療】</b> 到達目標： △1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)</p> <p><b>【細胞を利用した治療】</b> 到達目標： △1) 再生医療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)</p> <p><b>【ゲノム情報の創薬への利用】</b> 到達目標： △1) ヒトゲノムの構造と多様性を説明できる。 △2) バイオインフォマティクスについて概説できる。 △3) 遺伝子多型(欠損、増幅)の解析に用いられる方法(ゲノミックサブプロット法など)について概説できる。 △4) ゲノム情報の創薬への利用について、創薬ターゲットの探索の代表例(イマチニブなど)を挙げ、ゲノム創薬の流れについて説明できる。</p> <p><b>【疾患関連遺伝子】</b> 到達目標： △1) 代表的な疾患(癌、糖尿病など)関連遺伝子について説明できる。 △2) 疾患関連遺伝子情報の薬物療法への応用例を挙げ、概説できる。</p> <p><b>(4) 治験</b> 一般目標： 医薬品開発において治験がどのように行われるかを理解するために、治験に関する基本的知識とそれを実施する上で求められる適切な態度を修得する。</p> <p><b>【治験の意義と業務】</b> 到達目標： 1) 治験に関してヘルシンキ宣言が意図するところを説明できる。 2) 医薬品創製における治験の役割を説明できる。 3) 治験(第I、II、およびIII相)の内容を説明できる。 △4) 公正な治験の推進を確保するための制度を説明できる。 △5) 治験における被験者の人権の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。(態度) △6) 治験業務に携わる各組織の役割と責任を概説できる。</p>			創薬化学 I				
				創薬化学 I			
				創薬化学 I			医療薬理学 II、総合医療薬学特別講義 III
							生体機能解析学 II
							生体機能解析学 II
							生体機能解析学 II
							生体機能解析学 II
				疾患薬理学 II			生体機能解析学 II
			基礎薬理学				
				医薬品開発・経済学、医療情報学	薬事関係法規論		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
<p><b>【治験における薬剤師の役割】</b> 到達目標： △1) 治験における薬剤師の役割(治験薬管理者など)を説明できる。 △2) 治験コーディネーターの業務と責任を説明できる。 △3) 治験に際し、被験者に説明すべき項目を列挙できる。 △4) インフォームド・コンセントと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。(態度)</p> <p>(5) バイオスタティスティクス 一般目標： 医薬品開発、薬剤疫学、薬剤経済学などの領域において、プロトコル立案、データ解析、および評価に必要な統計学の基本的知識と技能を修得する。</p> <p><b>【生物統計の基礎】</b> 到達目標： △1) 帰無仮説の概念を説明できる。 △2) パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。 △3) 主な二群間の平均値の差の検定法(t-検定、Mann-Whitney U検定)について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能) △4) <math>\chi^2</math>検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能) △5) 最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる。(知識・技能) △6) 主な多重比較検定法(分散分析、Dunnnett検定、Tukey検定など)の概要を説明できる。 △7) 主な多変量解析の概要を説明できる。</p> <p><b>【臨床への応用】</b> 到達目標： △1) 臨床試験の代表的な研究デザイン(症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験)の特色を説明できる。 △2) バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。 △3) バイアスを回避するための計画上の技法(盲検化、ランダム化)について説明できる。 △4) リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能) △5) 基本的な生存時間解析法(Kaplan-Meier曲線など)の特徴を説明できる。</p> <p><b>C18 薬学と社会</b> 一般目標： 社会において薬剤師が果たすべき責任、義務等を正しく理解できるようになるために、薬学を取り巻く法律、制度、経済および薬局業務に関する基本的知識を修得し、それらを活用するための基本的技能と態度を身につける。</p> <p>(1) 薬剤師を取り巻く法律と制度 一般目標： 患者の権利を考慮し、責任をもって医療に参画できるようになるために、薬事法、薬剤師法などの医療および薬事関係法規、制度の精神とその施行に関する基本的知識を修得し、それらを遵守する態度を身につける。</p> <p><b>【医療の担い手としての使命】</b> 到達目標： △1) 薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚する。(態度) △2) 医療過誤、リスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を果たす。(態度)</p> <p><b>【法律と制度】</b> 到達目標： 1) 薬剤師に関連する法令の構成を説明できる。 2) 薬事法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。 3) 薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。 4) 薬剤師に関わる医療法の内容を説明できる。 △5) 医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わりを説明できる。 6) 医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を概説できる。 7) 製造物責任法を概説できる。</p> <p><b>【管理薬】</b> 到達目標： 1) 麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。 2) 覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。 3) 大麻取締法およびあへん法を概説できる。 4) 毒物及び劇物取締法を概説できる。</p>			医薬品開発・経済学	薬事関係法規論			
							医療薬剤学 I
				医療情報学			医療薬剤学 I
						薬学疾患管理学、薬事関係法規論	薬事・薬事関係法規特別講義
					調剤学総論、薬事関係法規論		薬事・薬事関係法規特別講義
				調剤学総論、薬事関係法規論		薬事・薬事関係法規特別講義	

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
<p><b>【放射性医薬品】</b> 到達目標： △1) 放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準(放射性医薬品基準など)および制度について概説できる。 △2) 代表的な放射性医薬品を列挙し、その品質管理に関する試験法を概説できる。</p> <p><b>(2) 社会保障制度と薬剤経済</b> 一般目標： 公平で質の高い医療を受ける患者の権利を保障するしくみを理解するために、社会保障制度と薬剤経済の基本的知識と技能を修得する。</p> <p><b>【社会保障制度】</b> 到達目標： 1) 日本における社会保障制度のしくみを説明できる。 2) 社会保障制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。 3) 介護保険制度のしくみを説明できる。 4) 高齢者医療保健制度のしくみを説明できる。</p> <p><b>【医療保険】</b> 到達目標： 1) 医療保険の成り立ちと現状を説明できる。 2) 医療保険のしくみを説明できる。 3) 医療保険の種類を列挙できる。 △4) 国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点について概説できる。</p> <p><b>【薬剤経済】</b> 到達目標： △1) 国民医療費の動向を概説できる。 2) 保険医療と薬価制度の関係を概説できる。 △3) 診療報酬と薬価基準について説明できる。 △4) 医療費の内訳を概説できる。 △5) 薬物治療の経済評価手法を概説できる。 △6) 代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる。(知識・技能)</p> <p><b>(3) コミュニティーファーマシー</b> 一般目標： コミュニティーファーマシー(地域薬局)のあり方と業務を理解するために、薬局の役割や業務内容、医薬分業の意義、セルフメディケーションなどに関する基本的知識と、それらを活用するための基本的態度を修得する。</p> <p><b>【地域薬局の役割】</b> 到達目標： 1) 地域薬局の役割を列挙できる。 2) 在宅医療および在宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。 3) 学校薬剤師の役割を説明できる。</p> <p><b>【医薬分業】</b> 到達目標： 1) 医薬分業のしくみと意義を説明できる。 △2) 医薬分業の現状を概説し、将来像を展望する。(知識・態度) △3) かかりつけ薬局の意義を説明できる。</p> <p><b>【薬局の業務運営】</b> 到達目標： 1) 保険薬剤師療養担当規則および保険医療養担当規則を概説でき △2) 薬局の形態および業務運営ガイドラインを概説できる。 △3) 医薬品の流通のしくみを概説できる。 △4) 調剤報酬および調剤報酬明細書(レセプト)について説明できる。</p> <p><b>【OTC薬・セルフメディケーション】</b> 到達目標： △1) 地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。(態度) 2) 主な一般用医薬品(OTC薬)を列挙し、使用目的を説明できる。 3) 漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。</p>		同位体医薬薬学		実務実習事前教育		医療薬剤学Ⅱ	
			医療情報学	薬事関係法規論、薬学健康管理学			薬事・医事関係法規特別講義、医療薬剤学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅰ
			医療情報学	薬事関係法規論、薬学健康管理学			薬事・医事関係法規特別講義、医療薬剤学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅰ
			医薬品開発・経済学、医療情報学	薬事関係法規論			薬事・医事関係法規特別講義、医療薬剤学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅰ
							医療薬剤学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅰ
				薬事関係法規論、薬学健康管理学			薬事・医事関係法規特別講義、医療薬剤学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅰ
				薬事関係法規論、薬学健康管理学			薬事・医事関係法規特別講義、医療薬剤学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅰ
				薬事関係法規論、薬学健康管理学			薬事・医事関係法規特別講義、医療薬剤学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅰ
			医療情報学	薬事関係法規論、薬学健康管理学			薬事・医事関係法規特別講義、医療薬剤学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅰ
							医療薬剤学Ⅱ、総合医療薬学特別講義Ⅰ

(基礎資料3-2) 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名または実習項目名を実施学年の欄に記入してください。
- 2 同じ科目名・項目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。
- 3 「(7)の事前学習のまとめ」において大学でSBOsの設定がある場合は、記入してください。必要ならば、行を適宜追加してください。

実務実習モデル・コアカリキュラム(実務実習事前学習)SBOs	該 当 科 目		
	3年	4年	5年
<b>教育目標(一般目標・到達目標)</b> <b>(I) 実務実習事前学習</b> <b>一般目標:</b> 卒業後、医療、健康保険事業に参画できるようになるために、病院実務実習・薬局実務実習に先立って、大学内で調剤および製剤、服薬指導などの薬剤師職務に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。 <b>(1) 事前学習を始めるにあたって</b> <b>一般目標:</b> 事前学習に積極的に取り組むために、病院と薬局での薬剤師業務の概要と社会的使命を理解する。 <b>《薬剤師業務に注目する》</b> <b>到達目標:</b> 1. 医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。 2. 医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。 3. 薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。(態度) <b>《チーム医療に注目する》</b> <b>到達目標:</b> 4. 医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。 5. チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。 △ 6. 自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。(態度) <b>《医薬分業に注目する》</b> <b>到達目標:</b> 7. 医薬分業の仕組みと意義を概説できる。 <b>(2) 処方せんと調剤</b> <b>一般目標:</b> 医療チームの一員として調剤を正確に実施できるようになるために、処方せん授受から服薬指導までの流れに関連する基本的知識、技能、態度を修得する。 <b>《処方せんの基礎》</b> <b>到達目標:</b> 1. 処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。 2. 処方オーダーリングシステムを概説できる。 3. 処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。 4. 調剤を法的根拠に基づいて説明できる。 5. 代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。(知識・技能) 6. 不適切な処方せんの処置について説明できる。 <b>《医薬品の用法・用量》</b> <b>到達目標:</b> 7. 代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。 8. 患者に適した剤形を選択できる。(知識・技能) 9. 患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量について説明できる。 △10. 患者の特性に適した用量を計算できる。(技能) 11. 病態(腎、肝疾患など)に適した用量設定について説明できる。 <b>《服薬指導の基礎》</b> <b>到達目標:</b> 12. 服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。 <b>《調剤室業務入門》</b> <b>到達目標:</b> △13. 代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。(技能) △14. 処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。(技能) △15. 処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。(技能) △16. 調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。(技能) △17. 処方せんの鑑査の意義とその必要性について討議する。(態度)		実務実習事前教育	
		実務実習事前教育	
		実務実習事前教育	
		実務実習事前教育	
		実務実習事前教育	
		実務実習事前教育	
		実務実習事前教育	
		実務実習事前教育	
		実務実習事前教育	

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学習）SBOs	該 当 科 目			
	3年	4年	5年	
<p><b>(3) 疑義照会</b>  <b>一般目標：</b>            処方せん上の問題点が指摘できるようになるために、用法・用量、禁忌、相互作用などを含む調剤上注意すべき事項に関する基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>《疑義照会の意義と根拠》  <b>到達目標：</b>            1. 疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。            2. 代表的な配合変化の組み合わせとその理由を説明できる。            △3. 特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する。（技能）            4. 不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。</p> <p>《疑義照会入門》  <b>到達目標：</b>            △5. 処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。            6. 代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。            7. 代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。            8. 代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。            9. 疑義照会の流れを説明できる。            △10. 疑義照会をシミュレートする。（技能・態度）</p> <p><b>(4) 医薬品の管理と供給</b>  <b>一般目標：</b>            病院・薬局における医薬品の管理と供給を正しく行うために、内服薬、注射剤などの取扱い、および院内製剤・薬局製剤に関する基本的知識と技能を修得する。</p> <p>《医薬品の安定性に注目する》  <b>到達目標：</b>            1. 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。            2. 代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。</p> <p>《特別な配慮を要する医薬品》  <b>到達目標：</b>            3. 毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。            4. 麻薬、向精神薬などの管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。            5. 血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。            6. 輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。            7. 代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。            8. 生物製剤の管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。            △ 9. 麻薬の取扱いをシミュレートできる。（技能）            △10. 代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。            △11. 放射性医薬品の管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。</p> <p>《製剤化の基礎》  <b>到達目標：</b>            △12. 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。            △13. 薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。            △14. 代表的な院内製剤を調製できる。（技能）            △15. 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。（知識・技能）            △16. 抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。（技能）</p> <p>《注射剤と輸液》  <b>到達目標：</b>            17. 注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。            △18. 代表的な配合変化を検出できる。（技能）            19. 代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。            △20. 体内電解質の過不足を判断して補正できる。（技能）</p> <p>《消毒薬》  <b>到達目標：</b>            21. 代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。            22. 消毒薬調製時の注意点を説明できる。</p>		実務実習事前教育		
			実務実習事前教育	
			実務実習事前教育	
			実務実習事前教育	
			実務実習事前教育	
			実務実習事前教育	
			実務実習事前教育	
			実務実習事前教育	
			実務実習事前教育	
			実務実習事前教育	



実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学習）SBOs	該 当 科 目			
	3年	4年	5年	
<p>(5) リスクマネージメント</p> <p>一般目標： 薬剤師業務が人命にかかわる仕事であることを認識し、患者が被る危険を回避できるようにするために、医薬品の副作用、調剤上の危険因子とその対策、院内感染などに関する基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>《安全管理に注目する》 到達目標 1. 薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる。 2. 誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。 3. 院内感染の回避方法について説明できる。</p> <p>《副作用に注目する》 到達目標： 4. 代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。</p> <p>《リスクマネージメント入門》 到達目標： 5. 誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。 △6. リスクを回避するための具体策を提案する。（態度） △7. 事故が起こった場合の対処方法について提案する。（態度）</p> <p>(6) 服薬指導と患者情報</p> <p>一般目標： 患者の安全確保とQOL向上に貢献できるようになるために、服薬指導などに関する基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>《服薬指導に必要な技能と態度》 到達目標： 1. 患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。 2. 代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。 3. 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。 △4. インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。（態度） △5. 適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。（技能・態度） △6. 医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。（知識・態） 7. 患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。</p> <p>《患者情報の重要性に注目する》 到達目標： 8. 服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。 △9. 患者背景、情報（コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など）を把握できる。（技） 10. 医師、看護師などの情報の共有化の重要性を説明できる。</p> <p>《服薬指導入門》 到達目標： △11. 代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。（知識・技能） △12. 共感的態度で患者インタビューを行う。（技能・態度） △13. 患者背景に配慮した服薬指導ができる。（技能） △14. 代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。（技能）</p> <p>(7) 事前学習のまとめ</p> <p>一般目標： 病院実務実習、薬局実務実習に先立って大学内で行った事前学習の効果を高めるために、調剤および服薬指導などの薬剤師職務を総合的に実習する。</p>		実務実習事前教育		
			実務実習事前教育	
			実務実習事前教育	
			実務実習事前教育	
			実務実習事前教育	
			実務実習事前教育	
			実務実習事前教育	
			実務実習事前教育	
			実務実習事前教育	
			実務実習事前教育	
			実務実習事前教育	
			実務実習事前教育	
			実務実習事前教育	
			実務実習事前教育	

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学習）SBOs	該 当 科 目			
	3年	4年	5年	
<p><b>(II) 病院実習</b></p> <p>一般目標： 病院薬剤師の業務と責任を理解し、チーム医療に参画できるようになるために、調剤および製剤、服薬指導などの薬剤師業務に関する基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p><b>(1) 病院調剤を実践する</b></p> <p>一般目標： 病院において調剤を通して患者に最善の医療を提供するために、調剤、医薬品の適正な使用ならびにリスクマネージメントに関連する基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>《病院調剤業務の全体の流れ》</p> <p>到達目標： 1. 患者の診療過程に同行し、その体験を通して診療システムを概説できる。 2. 病院内での患者情報の流れを図式化できる。 3. 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。 4. 薬剤部門を構成する各セクションの業務を体験し、その内容を相互に関連づけて説明できる。 5. 処方せん（外来、入院患者を含む）の受付から患者への医薬品交付、服薬指導に至るまでの流れを概説できる。 6. 病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の重要性を説明できる。</p> <p>《計数・計量調剤》</p> <p>到達目標： 7. 処方せん（麻薬、注射剤を含む）の形式、種類および記載事項について説明できる。 8. 処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量など）が整っているか確認できる。 9. 代表的な処方せんについて、処方内容が適正であるか判断できる。 10. 薬歴に基づき、処方内容が適正であるか判断できる。 11. 適切な疑義照会の実務を体験する。 12. 薬袋、薬札に記載すべき事項を列挙し、記入できる。 13. 処方せんの記載に従って正しく医薬品の取りそろえができる。     (技能) 14. 錠剤、カプセル剤の計数調剤ができる。 (技能) 15. 代表的な医薬品の剤形を列挙できる。 16. 代表的な医薬品の色・形、識別コードから識別できる。(技能) 17. 医薬品の識別に色、形などの外観が重要であることを、具体例を挙げて説明できる。 18. 代表的な医薬品の商品名と一般名を対比できる。 19. 異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる。 20. 毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの調剤ができる。(技能) 21. 一回量(一包化) 調剤の必要性を判断し、実施できる。     (知識・技能) 22. 散剤、液剤などの計量調剤ができる。(技能) 23. 調剤機器(秤量器、分包機など)の基本的な取扱いができる。(技能) 24. 細胞毒性のある医薬品の調剤について説明できる。 25. 特別な注意を要する医薬品(抗悪性腫瘍薬など)の取扱いを体験する。(技能) 26. 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能) 27. 調剤された医薬品に対して、鑑査の実務を体験する。(技能)</p> <p>《服薬指導》</p> <p>到達目標： 28. 患者向けの説明文書の必要性を理解して、作成、交付できる。     (知識・技能) 29. 患者に使用上の説明が必要な眼軟膏、坐剤、吸入剤などの取扱い方を説明できる。 30. 自己注射が承認されている代表的な医薬品を調剤し、その取扱い方を説明できる。 31. お薬受け渡し窓口において、薬剤の服用方法、保管方法および使用上の注意について適切に説明できる。 32. 期待する効果が十分に現れていないか、あるいは副作用が疑われる場合のお薬受け渡し窓口における対処法について提案する。(知識・態度)</p>			実務実習	
				実務実習
				実務実習
				実務実習
				実務実習

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学習）SBOs	該 当 科 目		
	3年	4年	5年
<p>《注射剤調剤》</p> <p>到達目標：</p> <p>33. 注射剤調剤の流れを概説できる。</p> <p>34. 注射処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量など）が整っているか確認できる。（技能）</p> <p>35. 代表的な注射剤処方せんについて、処方内容が適正であるか判断できる。（技</p> <p>36. 処方せんの記載に従って正しく注射剤の取りそろえができる。（知識・技能）</p> <p>37. 注射剤（高カロリー栄養輸液など）の混合操作を実施できる。（技能）</p> <p>38. 注射剤の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。</p> <p>39. 毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの注射剤の調剤と適切な取扱いができる。（技</p> <p>40. 細胞毒性のある注射剤の調剤について説明できる。</p> <p>41. 特別な注意を要する注射剤（抗悪性腫瘍薬など）の取扱いを体験する。（技能）</p> <p>42. 調剤された注射剤に対して、正しい鑑査の実務を体験する。（技能）</p>			実務実習
<p>《安全対策》</p> <p>到達目標：</p> <p>43. リスクマネジメントにおいて薬剤師が果たしている役割を説明できる。</p> <p>44. 調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列挙できる。</p> <p>45. 商品名の綴り、発音あるいは外観が類似した代表的な医薬品を列挙できる。</p> <p>46. 医薬品に関わる過失あるいは過誤について、適切な対処法を討議する。（態度）</p> <p>47. インシデント、アクシデント報告の実例や、現場での体験をもとに、リスクマネジメントについて討議する。（態度）</p> <p>48. 職務上の過失、過誤を未然に防ぐための方策を提案できる。（態度）</p> <p>49. 実習中に生じた諸問題（調剤ミス、過誤、事故、クレームなど）を、当該機関で用いられるフォーマットに正しく記入できる。（技能）</p>			実務実習
<p>（2）医薬品を動かす・確保する</p> <p>一般目標：</p> <p>医薬品を正確かつ円滑に供給し、その品質を確保するために、医薬品の管理、供給、保存に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。</p>			
<p>《医薬品の管理・供給・保存》</p> <p>到達目標：</p> <p>1. 医薬品管理の流れを概説できる。</p> <p>2. 医薬品の適正在庫の意義を説明できる。</p> <p>3. 納品から使用までの医薬品の動きに係わる人達の仕事を見学し、薬剤師業務と関連づけて説明できる。</p> <p>4. 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。</p> <p>5. 納入医薬品の検収を体験し、そのチェック項目を列挙できる。</p> <p>6. 同一商品名の医薬品に異なった規格があるものについて具体例を列挙できる。</p> <p>7. 院内における医薬品の供給方法について説明できる。</p> <p>8. 請求のあった医薬品を取り揃えることができる。（技能）</p>			実務実習
<p>《特別な配慮を要する医薬品》</p> <p>到達目標：</p> <p>9. 麻薬・向精神薬および覚せい剤原料の取扱いを体験する。（技能）</p> <p>10. 毒薬、劇薬を適切に取り扱うことができる。（技能）</p> <p>11. 血漿分画製剤の取扱いを体験する。（技能）</p> <p>12. 法的な管理が義務付けられている医薬品（麻薬、向精神薬、劇薬、毒薬、特定生物由来製剤など）を挙げ、その保管方法を見学し、その意義について考察する。（態度）</p>			実務実習
<p>《医薬品の採用・使用中止》</p> <p>到達目標：</p> <p>13. 医薬品の採用と使用中止の手続きを説明できる。</p> <p>14. 代表的な同種・同効薬を列挙できる。</p>			実務実習
<p>（3）情報を正しく使う</p> <p>一般目標：</p> <p>医薬品の適正使用に必要な情報を提供できるようになるために、薬剤部門における医薬品情報管理（DI）業務に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。</p>			
<p>《病院での医薬品情報》</p> <p>到達目標：</p> <p>1. 医薬品情報源のなかで、当該病院で使用しているものの種類と特徴を説明でき</p> <p>2. 院内への医薬品情報提供の手段、方法を概説できる。</p> <p>3. 緊急安全性情報、不良品回収、製造中止などの緊急情報の取扱い方法について説明できる。</p> <p>4. 患者、医療スタッフへの情報提供における留意点を列挙できる。</p>			実務実習

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学習）SBOs	該 当 科 目			
	3年	4年	5年	
<p>《情報の入手・評価・加工》</p> <p>到達目標：</p> <p>5. 医薬品の基本的な情報を、文献、MR（医薬情報担当者）などの様々な情報源から収集できる。（技能）</p> <p>6. DIニュースなどを作成するために、医薬品情報の評価、加工を体験する。（技</p> <p>7. 医薬品・医療用具等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。（知識・技</p> <p>《情報提供》</p> <p>到達目標：</p> <p>8. 医療スタッフからの質問に対する適切な報告書の作成を体験する。（知識・技能）</p> <p>9. 医療スタッフのニーズに合った情報提供を体験する。（技能・態度）</p> <p>10. 患者のニーズに合った情報の収集、加工および提供を体験する。（技能・態度）</p> <p>11. 情報提供内容が適切か否かを追跡できる。（技能）</p> <p>（4）ベッドサイドで学ぶ</p> <p>一般目標：</p> <p>入院患者に有効性と安全性の高い薬物治療を提供するために、薬剤師病棟業務の基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>《病棟業務の概説》</p> <p>到達目標：</p> <p>1. 病棟業務における薬剤師の業務（薬剤管理、与薬、リスクマネージメント、供給管理など）を概説できる。</p> <p>2. 薬剤師の業務内容について、正確に記録をとり、報告することの目的を説明でき</p> <p>3. 病棟における薬剤の管理と取扱いを体験する。（知識・技能・態度）</p> <p>《医療チームへの参加》</p> <p>到達目標：</p> <p>4. 医療スタッフが日常使っている専門用語を適切に使用できる。（技能）</p> <p>5. 病棟において医療チームの一員として他の医療スタッフとコミュニケーションする。（技能・態度）</p> <p>《薬剤管理指導業務》</p> <p>到達目標：</p> <p>6. 診療録、看護記録、重要な検査所見など、種々の情報源から必要な情報を収集できる。（技能）</p> <p>7. 報告に必要な要素（5W1H）に留意して、収集した情報を正確に記載できる（薬歴、服薬指導歴など）。（技能）</p> <p>8. 収集した情報ごとに誰に報告すべきか判断できる。（技能）</p> <p>9. 患者の診断名、病態から薬物治療方針を把握できる。（技能）</p> <p>10. 使用医薬品の使用上の注意と副作用を説明できる。</p> <p>11. 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。</p> <p>12. 医師の治療方針を理解したうえで、患者への適切な服薬指導を体験する。（技能・</p> <p>13. 患者の薬に対する理解を確かめるための開放型質問方法を実施する。（技能・態</p> <p>14. 薬に関する患者の質問に分かり易く答える。（技能・態度）</p> <p>15. 患者との会話を通して、服薬状況を把握することができる。（知識・技能）</p> <p>16. 代表的な医薬品の効き目を、患者との会話や患者の様子から確かめることができる。（知識・技能）</p> <p>17. 代表的な医薬品の副作用を、患者との会話や患者の様子から気づくことができる。（知識・技能）</p> <p>18. 患者がリラックスし自らすすんで話ができるようなコミュニケーションを実施できる。（技能・態度）</p> <p>19. 患者に共感的態度で接する。（態度）</p> <p>20. 患者の薬物治療上の問題点をリストアップし、SOAPを作成できる。（技能）</p> <p>21. 期待する効果が現れていないか、あるいは不十分と思われる場合の対処法について提案する。（知識・技能）</p> <p>22. 副作用が疑われる場合の適切な対処法について提案する。（知識・態度）</p>			実務実習	
				実務実習
				実務実習
				実務実習
				実務実習
				実務実習
				実務実習
				実務実習
				実務実習
				実務実習

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学習）SBOs	該 当 科 目			
	3年	4年	5年	
<p>《処方支援への関与》</p> <p>到達目標： 23. 治療方針決定のプロセスおよびその実施における薬剤師の関わりを見学し、他の医療スタッフ、医療機関との連携の重要性を感じとる。（態度）</p> <p>24. 適正な薬物治療の実施について、他の医療スタッフと必要な意見を交換する。（態</p> <p>（5）薬剤を造る・調べる</p> <p>一般目標： 患者個々の状況に応じた適切な剤形の医薬品を提供するため、院内製剤の必要性を認識し、院内製剤の調製ならびにそれらの試験に必要とされる基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>《院内で調製する製剤》</p> <p>到達目標： 1. 院内製剤の必要性を理解し、以下に例示する製剤のいずれかを調製できる。（軟膏、坐剤、散剤、液状製剤（消毒薬を含む）など）（技能） 2. 無菌製剤の必要性を理解し、以下に例示する製剤のいずれかを調製できる。（点眼液、注射液など）（技能）</p> <p>《薬物モニタリング》</p> <p>到達目標： 3. 実際の患者例に基づきTDMのデータを解析し、薬物治療の適正化について討議する。（技能・態度）</p> <p>《中毒医療への貢献》</p> <p>到達目標： 4. 薬物中毒患者の中毒原因物質の検出方法及び解毒方法について討議する。（知識、態</p> <p>（6）医療人としての薬剤師</p> <p>一般目標： 常に患者の存在を念頭におき、倫理観を持ち、かつ責任感のある薬剤師となるために、医療の担い手としてふさわしい態度を修得する。</p> <p>到達目標： 1. 患者および医薬品に関連する情報の授受と共有の重要性を感じとる。（態度） 2. 患者にとって薬に関する窓口である薬剤師の果たすべき役割を討議し、その重要性を感じとる。（態度） 3. 患者の健康の回復と維持に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。 4. 生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する。（態度） 5. 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守する。（態度） 6. 職務上知り得た情報について守秘義務を守る。（態度）</p> <p>（Ⅲ）薬局実習</p> <p>一般目標： 薬局の社会的役割と責任を理解し、地域医療に参画できるようになるために、保険調剤、医薬品などの供給・管理、情報提供、健康相談、医療機関や地域との関わりについての基本的な知識、技能、態度を修得する。</p> <p>（1）薬局アイテムと管理</p> <p>一般目標： 薬局で取り扱うアイテム（品目）の医療、保健・衛生における役割を理解し、それらの管理と保存に関する基本的知識と技能を修得する。</p> <p>《薬局アイテムの流れ》</p> <p>到達目標： 1. 薬局で取り扱うアイテムが医療の中で果たす役割について説明できる。 2. 薬局で取り扱うアイテムの保健・衛生、生活の質の向上に果たす役割を説明でき 3. 薬局アイテムの流通機構に係わる人達の仕事を見学し、薬剤師業務と関連づけて説明できる。</p> <p>《薬局製剤》</p> <p>到達目標： 4. 代表的な薬局製剤・漢方製剤について概説できる。 5. 代表的な薬局製剤・漢方製剤を調製できる。</p> <p>《薬局アイテムの管理と保存》</p> <p>到達目標： 6. 医薬品の適正在庫とその意義を説明できる。 7. 納入医薬品の検収を体験し、そのチェック項目（使用期限、ロットなど）を列挙 8. 薬局におけるアイテムの管理、配列の概要を把握し、実務を体験する。（知識・</p>			実務実習	
				実務実習
				実務実習
				実務実習
				実務実習
				実務実習
				実務実習
				実務実習
				実務実習
				実務実習
				実務実習

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学習）SBOs	該 当 科 目			
	3年	4年	5年	
<p>《特別な配慮を要する医薬品》</p> <p>到達目標：</p> <p>9. 麻薬、向精神薬などの規制医薬品の取扱いについて説明できる。</p> <p>10. 毒物、劇物の取扱いについて説明できる。</p> <p>11. 法的な管理が義務付けられている医薬品（麻薬、向精神薬、劇薬、毒薬、特定生物由来製剤など）を挙げ、その保管方法を見学し、その意義について考察する。（態度）</p> <p>（2）情報のアクセスと活用</p> <p>一般目標：</p> <p>医薬品の適正使用に必要な情報を提供できるようになるために、薬局における医薬品情報管理業務に関する基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>《薬剤師の心構え》</p> <p>到達目標：</p> <p>1. 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守する。（態度）</p> <p>2. 職務上知り得た情報について守秘義務を守る。（態度）</p> <p>《情報の入手と加工》</p> <p>到達目標：</p> <p>3. 医薬品の基本的な情報源（厚生労働省、日本製薬工業協会、製薬企業、日本薬剤師会、卸など）の種類と特徴を正しく理解し、適切に選択できる。（知識・技能）</p> <p>4. 基本的な医薬品情報（警告、禁忌、効能、副作用、相互作用など）を収集できる。（技能）</p> <p>5. 処方内容から得られる患者情報を的確に把握できる。（技能）</p> <p>6. 薬歴簿から得られる患者情報を的確に把握できる。（技能）</p> <p>7. 緊急安全性情報、不良品回収、製造中止などの緊急情報の取扱い方法を説明できる。</p> <p>8. 問い合わせに対し、根拠に基づいた論理的な報告書を作成できる。（知識・技能）</p> <p>9. 医薬品・医療用具等安全性情報報告用紙に必要事項を記載できる。（知識・技能）</p> <p>《情報の提供》</p> <p>到達目標：</p> <p>10. 入手した情報を評価し、患者に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。（技能・態度）</p> <p>11. 入手した患者情報を、必要に応じ、適正な手続きを経て他の医療従事者に提供できる。（技能・態度）</p> <p>12. 患者および医薬品に関連する情報の授受と共有の重要性を感じとる。（態度）</p> <p>（3）薬局調剤を実践する</p> <p>一般目標：</p> <p>薬局調剤を適切に行うために、調剤、医薬品の適正な使用、リスクマネジメントに関連する基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>《保険調剤業務の全体の流れ》</p> <p>到達目標：</p> <p>1. 保険調剤業務の全体の流れを理解し、処方せんの受付から調剤報酬の請求までの概要を説明できる。</p> <p>2. 保険薬局として認定される条件を、薬局の設備と関連づけて具体的に説明できる。</p> <p>《処方せんの受付》</p> <p>到達目標：</p> <p>3. 処方せん（麻薬を含む）の形式および記載事項について説明できる。</p> <p>4. 処方せん受付時の対応および注意事項（患者名の確認、患者の様子、処方せんの使用期限、記載不備、偽造処方せんへの注意など）について説明できる。</p> <p>5. 初来局患者への対応と初回質問表の利用について説明できる。</p> <p>6. 初来局および再来局患者から収集すべき情報の内容について説明できる。</p> <p>7. 処方せん受付時の対応ができる。（技能・態度）</p> <p>8. 生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する。（態度）</p> <p>9. 患者が自らすすんで話ができるように工夫する。（技能・態度）</p> <p>10. 患者との会話などを通じて、服薬上の問題点（服薬状況、副作用の発現など）を把握できる。（技能）</p> <p>《処方せんの鑑査と疑義照会》</p> <p>到達目標：</p> <p>11. 処方せんが正しく記載されていることを確認できる。（技能）</p> <p>12. 処方せんに記載された処方薬の妥当性を、医薬品名、分量、用法、用量、薬物相互作用などの知識に基づいて判断できる。（知識・技能）</p> <p>13. 薬歴簿を参照して処方内容の妥当性を判断できる。（知識・技能）</p> <p>14. 疑義照会の行い方を身につける。（知識・態度）</p> <p>15. 疑義照会事例を通して、医療機関との連携、患者への対応をシミュレートする。（技能・態度）</p>			実務実習	
				実務実習
				実務実習
				実務実習
				実務実習
				実務実習
				実務実習
				実務実習
				実務実習
				実務実習

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学習）SBOs	該 当 科 目		
	3年	4年	5年
<p>《計数・計量調剤》</p> <p>到達目標：</p> <p>16. 薬袋、薬札に記載すべき事項を列挙できる。</p> <p>17. 処方せんの記載に従って正しく医薬品の取りそろえができる。（技能）</p> <p>18. 錠剤、カプセル剤などの計数調剤ができる。（技能）</p> <p>19. 代表的な医薬品の剤形を列挙できる。</p> <p>20. 医薬品の識別に色、形などの外観が重要であることを、具体例を挙げて説明でき</p> <p>21. 代表的な医薬品の商品名と一般名を対比できる。</p> <p>22. 同一商品名の医薬品に異なった規格があるものについて具体例を列挙できる。</p> <p>23. 異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる。</p> <p>24. 代表的な同種・同効薬を列挙できる。</p> <p>25. 代表的な医薬品を色・形、識別コードから識別できる。（技能）</p> <p>26. 一回量（一包化）調剤を必要とするケースについて説明できる。</p> <p>27. 一回量（一包化）調剤を実施できる。（技能）</p> <p>28. 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。（知識・技</p> <p>29. 散剤、液剤などの計量調剤ができる。（技能）</p> <p>30. 調剤機器（秤量器、分包機など）の基本的取扱いができる。（技能）</p> <p>31. 毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの調剤と取扱いができる。（技能）</p> <p>32. 特別な注意を要する医薬品（抗悪性腫瘍薬など）の取扱いを体験する。（技能）</p>			実務実習
<p>《計数・計量調剤の鑑査》</p> <p>到達目標：</p> <p>33. 調剤された医薬品に対して、鑑査の実務を体験する。（技能）</p>			実務実習
<p>《服薬指導の基礎》</p> <p>到達目標：</p> <p>34. 適切な服薬指導を行うために、患者から集める情報と伝える情報を予め把握できる。（知識・技能）</p> <p>35. 薬歴管理の意義と重要性を説明できる。</p> <p>36. 薬歴簿の記載事項を列挙し、記入できる。（知識・技能）</p> <p>37. 薬歴簿の保管、管理の方法、期間などについて説明できる。</p> <p>38. 妊婦、小児、高齢者などへの服薬指導において、配慮すべき事項を列挙できる。</p> <p>39. 患者に使用上の説明が必要な眼軟膏、坐剤、吸入剤などの取扱い方を説明できる。（技能）</p> <p>40. 自己注射が承認されている代表的な医薬品を調剤し、その取扱い方を説明でき</p>			実務実習
<p>《服薬指導入門実習》</p> <p>到達目標：</p> <p>41. 指示通りに医薬品を使用するように適切な指導ができる。（技能）</p> <p>42. 薬歴簿を活用した服薬指導ができる。（技能）</p> <p>43. 患者向けの説明文書を使用した服薬指導ができる。（技能）</p> <p>44. お薬手帳、健康手帳を使用した服薬指導ができる。（技能）</p>			実務実習
<p>《服薬指導実践実習》</p> <p>到達目標：</p> <p>45. 患者に共感的態度で接する。（態度）</p> <p>46. 患者との会話を通じて病態、服薬状況（コンプライアンス）、服薬上の問題点などを把握できる。（技能）</p> <p>47. 患者が必要とする情報を的確に把握し、適切に回答できる。（技能・態度）</p> <p>48. 患者との会話を通じて使用薬の効き目、副作用に関する情報を収集し、必要に応じて対処法を提案する。（技能・態度）</p> <p>49. 入手した情報を評価し、患者に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。（技能・態度）</p>			実務実習
<p>《調剤録と処方せんの保管・管理》</p> <p>到達目標：</p> <p>50. 調剤録の法的規制について説明できる。</p> <p>51. 調剤録への記入事項について説明できる。</p> <p>52. 調剤録の保管、管理の方法、期間などについて説明できる。</p> <p>53. 調剤後の処方せんへの記入事項について説明できる。</p> <p>54. 処方せんの保管、管理の方法、期間などについて説明できる。</p>			実務実習
<p>《調剤報酬》</p> <p>到達目標：</p> <p>55. 調剤報酬を算定し、調剤報酬明細書（レセプト）を作成できる。（技能）</p> <p>56. 薬剤師の技術評価の対象について説明できる。</p>			実務実習

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学習）SBOs	該 当 科 目			
	3年	4年	5年	
<p>《安全対策》</p> <p>到達目標：</p> <p>57. 代表的な医療事故訴訟あるいは調剤過誤事例について調査し、その原因について指導薬剤師と話し合う。（知識・態度）</p> <p>58. 名称あるいは外観が類似した代表的な医薬品を列挙できる。</p> <p>59. 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、抗糖尿病薬など）を列挙でき</p> <p>60. 調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列挙できる。</p> <p>61. 調剤中に過誤が起こりやすいポイントについて討議する。（態度）</p> <p>62. 過誤が生じたときの対応策を討議する。（態度）</p> <p>63. インシデント、アクシデント報告の記載方法を説明できる。</p> <p>（４）薬局カウンターで学ぶ</p> <p>一般目標：</p> <p>地域社会での健康管理における薬局と薬剤師の役割を理解するために、薬局カウンターでの患者、顧客の接遇に関する基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>《患者・顧客との接遇》</p> <p>到達目標：</p> <p>1. かかりつけ薬局・薬剤師の役割について指導薬剤師と話し合う。（態度）</p> <p>2. 患者、顧客に対して適切な態度で接する。（態度）</p> <p>3. 疾病の予防および健康管理についてアドバイスできる。（技能・態度）</p> <p>4. 医師への受診勧告を適切に行うことができる。（技能・態度）</p> <p>《一般用医薬品・医療用具・健康食品》</p> <p>到達目標：</p> <p>5. セルフメディケーションのための一般用医薬品、医療用具、健康食品などを適切に選択・供給できる。（技能）</p> <p>6. 顧客からモニタリングによって得た副作用および相互作用情報への対応策について説明できる。</p> <p>《カウンター実習》</p> <p>到達目標：</p> <p>7. 顧客が自らすすんで話ができるように工夫する。（技能・態度）</p> <p>8. 顧客が必要とする情報を的確に把握する。（技能・態度）</p> <p>9. 顧客との会話を通じて使用薬の効き目、副作用に関する情報を収集できる。（技能・態度）</p> <p>10. 入手した情報を評価し、顧客に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。（技能・態度）</p> <p>（５）地域で活躍する薬剤師</p> <p>一般目標：</p> <p>地域に密着した薬剤師として活躍できるようになるために、在宅医療、地域医療、地域福祉、災害時医療、地域保健などに関する基本的知識、技能、態度を修得</p> <p>《在宅医療》</p> <p>到達目標：</p> <p>1. 訪問薬剤師管理指導業務について説明できる。</p> <p>2. 在宅医療における医療廃棄物の取り扱いについて説明できる。</p> <p>3. 薬剤師が在宅医療に関わることの意義を指導薬剤師と話し合う。（態度）</p> <p>《地域医療・地域福祉》</p> <p>到達目標：</p> <p>4. 病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の重要性を説明できる。</p> <p>5. 当該地域における休日、夜間診療と薬剤師の役割を説明できる。</p> <p>6. 当該地域での居宅介護、介護支援専門員などの医療福祉活動の状況を把握できる。（知識・技能）</p> <p>《災害時医療と薬剤師》</p> <p>到達目標：</p> <p>7. 緊急災害時における、当該薬局および薬剤師の役割について説明できる。</p> <p>《地域保健》</p> <p>到達目標：</p> <p>8. 学校薬剤師の職務を見出し、その役割を説明できる。</p> <p>9. 地域住民に対する医薬品の適正使用の啓発活動における薬剤師の役割を説明でき</p> <p>10. 麻薬・覚せい剤等薬物乱用防止運動における薬剤師の役割について説明できる。</p> <p>11. 日用品に係る薬剤師の役割について説明できる。</p> <p>12. 日用品に含まれる化学物質の危険性を列挙し、わかりやすく説明できる。</p> <p>13. 誤飲、誤食による中毒および食中毒に対して適切なアドバイスできる。（知識・技</p> <p>14. 生活環境における消毒の概念について説明できる。</p> <p>15. 話題性のある薬物および健康問題について、科学的にわかりやすく説明できる。</p>			実務実習	
				実務実習
				実務実習
				実務実習
				実務実習
				実務実習
				実務実習
				実務実習
				実務実習
				実務実習
				実務実習
				実務実習



実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学習）SBOs	該 当 科 目		
	3年	4年	5年
<p>(6) 薬局業務を総合的に学ぶ</p> <p>一般目標： 調剤、服薬指導、患者・顧客接遇などの薬局薬剤師の職務を総合的に実習する。</p> <p>《総合実習》</p> <p>到達目標：</p> <p>1. 薬局業務を総合的に実践する。</p> <p>2. 患者の健康の回復と維持に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を感じとる。</p> <p>3. 薬が病気の治癒、進行防止を通して、病気の予後とQOLの改善に貢献していることを感じとる。（態度）</p>			
			実務実習

(基礎資料3-3) 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。  
 2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>A 基本事項</b>						
(1)薬剤師の使命						
①医療人として						
1.常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)	早期臨床体験 I			実務実習事前学習 薬学演習	実務実習	
2.患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)	早期臨床体験 I			実務実習事前学習 薬学演習	実務実習	
3.チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)	早期臨床体験 I			実務実習事前学習 薬学演習	実務実習	
4.患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	早期臨床体験 I		コミュニケーション学			
5.生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)			コミュニケーション学			
6.一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)			コミュニケーション学			
7.様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)			コミュニケーション学			
②薬剤師が果たすべき役割						
1.患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)	薬学概論					
2.薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。	薬学概論					
3.医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。	薬学概論					
4.医薬品の効果が確率的であることを説明できる。	薬学概論			薬事関係法規論		
5.医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。	薬学概論			薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義
6.健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。	薬学概論			薬学健康管理学		薬事医事関係法規 総合講義
7.薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。	薬学概論					
8.現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度)	薬学概論					
③患者安全と薬害の防止						
1.医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)				実務実習事前学習 薬学演習		
2.WHOによる患者安全の考え方について概説できる。				実務実習事前学習 薬事関係法規論		
3.医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。			医療情報学	実務実習事前学習 薬学健康管理学		
4.医薬品に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。				実務実習事前学習		
5.重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)			医薬品安全性学			
6.代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。			医薬品安全性学			
7.代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)			医薬品安全性学			
④薬学の歴史と未来						
1.薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	薬学概論		創薬化学I 感染症治療薬概論			
2.薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。	薬学概論		創薬化学I 感染症治療薬概論			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)について説明できる。	薬学概論			実務実習事前学習 薬学健康管理学		
4 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。(知識・態度)	薬学概論		感染症治療薬概論			
(2)薬剤師に求められる倫理観						
①生命倫理						
1 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度)	薬学概論		コミュニケーション学			
2 生命倫理の諸原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)について説明できる。	薬学概論		コミュニケーション学			
3 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学概論		コミュニケーション学			
4 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。	薬学概論			実務実習事前学習		
②医療倫理						
1 医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。				薬事関係法規論 調剤学総論		薬事医事関係法規 総合講義
2 薬剤師が遵守すべき倫理規範(薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等)について説明できる。				薬事関係法規論 調剤学総論		薬事医事関係法規 総合講義
3 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。			コミュニケーション学	調剤学総論		薬事医事関係法規 総合講義
③患者の権利						
1 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)	薬学概論		コミュニケーション学		実務実習	
2 患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。	薬学概論			薬事関係法規論	実務実習	
3 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。	薬学概論		医療情報学	実務実習事前学習 薬学健康管理学	実務実習	
4 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度)	薬学概論		医療情報学	実務実習事前学習 薬学健康管理学	実務実習	
④研究倫理						
1 臨床研究における倫理規範(ヘルシンキ宣言等)について説明できる。			医薬品開発・経済学	薬事関係法規論 薬学演習	薬学研究Ⅰ	薬事医事関係法規 総合講義 薬学研究Ⅱ
2 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。			医薬品開発・経済学	薬学演習	薬学研究Ⅰ	薬事医事関係法規 総合講義 薬学研究Ⅱ
3 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規を遵守して研究に取り組む。(態度)				薬学演習	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ
(3)信頼関係の構築						
①コミュニケーション						
1 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。			コミュニケーション学			
2 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。			コミュニケーション学			
3 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。			コミュニケーション学			
4 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。			コミュニケーション学			
5 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度)			コミュニケーション学	実務実習事前学習	実務実習	
6 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度)			コミュニケーション学	実務実習事前学習	実務実習	
7 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)			コミュニケーション学	実務実習事前学習	実務実習	
8 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)			コミュニケーション学	実務実習事前学習	実務実習	
9 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)			コミュニケーション学	実務実習事前学習	実務実習	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
②患者・生活者と薬剤師						
1 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。	薬学概論			実務実習事前学習	実務実習	
2 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)			コミュニケーション学	実務実習事前学習	実務実習	
(4)多職種連携協働とチーム医療						
1 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。				実務実習事前学習	実務実習	実務実習後学習
2 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。				実務実習事前学習	実務実習	実務実習後学習
3 チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。				実務実習事前学習	実務実習	実務実習後学習
4 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)				実務実習事前学習	実務実習	実務実習後学習
5 チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)				実務実習事前学習	実務実習	実務実習後学習
(5)自己研鑽と次世代を担う人材の育成						
①学習の在り方						
1 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)	薬学概論		感染症治療薬概論	薬学演習	薬学研究Ⅰ	総合薬学演習 薬学研究Ⅱ
2 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)			物理系実習Ⅱ	薬学演習	薬学研究Ⅰ	総合薬学演習 薬学研究Ⅱ
3 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)			物理系実習Ⅱ	薬学演習	薬学研究Ⅰ	総合薬学演習 薬学研究Ⅱ
4 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)			物理系実習Ⅱ	薬学演習	薬学研究Ⅰ	総合薬学演習 薬学研究Ⅱ
5 インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)			物理系実習Ⅱ	薬学演習	薬学研究Ⅰ	総合薬学演習 薬学研究Ⅱ
②薬学教育の概要						
1 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	薬学概論			薬学演習	実務実習	総合薬学演習 薬学研究Ⅱ
2 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)	薬学概論			薬学演習	実務実習	総合薬学演習 薬学研究Ⅱ
③生涯学習						
1 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	薬学概論			薬学演習 調剤学総論	薬学研究Ⅰ	総合薬学演習 薬学研究Ⅱ
2 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能)				薬学演習 調剤学総論	薬学研究Ⅰ	総合薬学演習 薬学研究Ⅱ
④次世代を担う人材の育成						
1 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度)	薬学概論				薬学研究Ⅰ	総合薬学演習 薬学研究Ⅱ
2 後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度)					薬学研究Ⅰ	総合薬学演習 薬学研究Ⅱ
B 薬学と社会						
(1)人と社会に関わる薬剤師						
1 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。			コミュニケーション学			
2 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度)				実務実習事前学習	実務実習	
3 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度)				実務実習事前学習	実務実習	
4 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)				実務実習事前学習 薬事関係法規論	実務実習	
5 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)				実務実習事前学習 薬学演習	実務実習 薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2)薬剤師と医薬品等に係る法規範						
①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範						
1 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる				薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義
2 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる				薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義
3 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる				薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義
4 薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について概説できる				薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義
5 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる				薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義
6 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる				薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義
7 個人情報の取扱いについて概説できる				薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義
8 薬剤師の刑事責任、民事責任(製造物責任を含む)について概説できる				薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義
②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範						
1 医薬品・医療機器法(現 薬事法)の目的及び医薬品等(医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器)の定義について説明できる				薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義
2 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる				薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義
3 治験の意義と仕組みについて概説できる				薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義
4 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる				薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義
5 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる				薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義
6 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる				薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義
7 医薬品等の取扱いに関する医薬品・医療機器法(現 薬事法)の規定について説明できる				薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義
8 日本薬局方の意義と構成について説明できる			日本薬局方 I 日本薬局方 II	薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義
9 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる				薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義
10 健康被害救済制度について説明できる				薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義
11 レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる				薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義
③特別な管理を要する薬物等に係る法規範						
1 麻薬、向精神薬、覚せい剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる				薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義
2 覚せい剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる				薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義
3 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる				薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義
(3)社会保障制度と医療経済						
①医療、福祉、介護の制度						
1 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる				薬物健康管理学 薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義
2 医療保険制度について説明できる。				薬物健康管理学 薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義
3 療養担当規則について説明できる。				薬物健康管理学 薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義
4 公費負担医療制度について概説できる。				薬物健康管理学 薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義
5 介護保険制度について概説できる。				薬物健康管理学 薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6 薬価基準制度について概説できる。				薬物健康管理学 薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義
7 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。				薬物健康管理学 薬事関係法規論		臨床薬学総合講義 I
②医薬品と医療の経済性						
1 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。			医薬品開発経済学	薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義
2 国民医療費の動向について概説できる。			医薬品開発経済学	薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義
3 後発医薬品とその役割について説明できる。			医薬品開発経済学	薬事関係法規論		薬事医事関係法規 総合講義
4 薬物療法の経済評価手法について概説できる。			医薬品開発経済学			臨床薬学総合講義 I
(4)地域における薬局と薬剤師						
①地域における薬局の役割						
1 地域における薬局の機能と業務について説明できる。	早期臨床体験 I			薬学健康管理学	実務実習	薬事医事関係法規 総合講義 臨床薬学総合講義 I
2 医薬分業の意義と動向を説明できる。	早期臨床体験 I			薬学健康管理学	実務実習	薬事医事関係法規 総合講義
3 かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。	早期臨床体験 I			薬学健康管理学	実務実習	薬事医事関係法規 総合講義
4セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。	早期臨床体験 I			薬学健康管理学	実務実習	薬事医事関係法規 総合講義 臨床薬学総合講義 I
5 災害時の薬局の役割について説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	薬事医事関係法規 総合講義
6 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	薬事医事関係法規 総合講義
②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師						
1 地域包括ケアの理念について説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	薬事医事関係法規 総合講義 臨床薬学総合講義 I
2 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	薬事医事関係法規 総合講義 臨床薬学総合講義 I
3 学校薬剤師の役割について説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	薬事医事関係法規 総合講義 臨床薬学総合講義 I
4 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。				薬学健康管理学	実務実習	薬事医事関係法規 総合講義 臨床薬学総合講義 I
5 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識・態度)				薬学健康管理学	実務実習	薬事医事関係法規 総合講義 臨床薬学総合講義 I
G1 物質の物理的性質						
(1)物質の構造						
①化学結合						
1 化学結合の様式について説明できる	薬学化学入門 有機薬化学 I 化学	薬学物理化学 II		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2 分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる	有機薬化学 I 化学	薬学物理化学 II		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3 共役や共鳴の概念を説明できる	薬学化学入門 有機薬化学 I 化学	薬学物理化学 II		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
②分子間相互作用						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 ファンデルワールス力について説明できる	化学	薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2 静電相互作用について例を挙げて説明できる	化学	薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる	薬学化学入門 化学	薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
4 分散力について例を挙げて説明できる	薬学化学入門 化学	薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
5 水素結合について例を挙げて説明できる	薬学化学入門 化学	薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
6 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる	化学	薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
7 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる	化学	薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
③原子・分子の挙動						
1 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる		薬学物理化学Ⅱ	分析化学Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる			分析化学Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる			分析化学Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
4 光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる			分析化学Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
5 光の散乱および干渉について説明できる			分析化学Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
6 結晶構造と回折現象について概説できる		同位体化学	分析化学Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
④放射線と放射能						
1 原子の構造と放射壊変について説明できる		同位体化学		実務実習事前学習		
2 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる		同位体化学		実務実習事前学習		
3 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる		同位体化学		実務実習事前学習		
4 核反応および放射平衡について説明できる		同位体化学		実務実習事前学習		
5 放射線測定の方法と利用について概説できる		同位体化学		実務実習事前学習		
(2)物質のエネルギーと平衡						
①気体の微視的状態と巨視的状態						
1 ファンデルワールスの状態方程式について説明できる	薬学物理学入門	薬学物理化学Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる	薬学物理学入門	薬学物理化学Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3 エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる	薬学物理学入門	薬学物理化学Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
②エネルギー						
1 熱力学における系、外界、境界について説明できる		薬学物理化学Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2 熱力学第一法則を説明できる		薬学物理化学Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3 状態関数と経路関数の違いを説明できる		薬学物理化学Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
4 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる		薬学物理化学Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
5 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる		薬学物理化学Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
6 エンタルピーについて説明できる		薬学物理化学Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
7 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる		薬学物理化学Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
③自発的な変化						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 エントロピーについて説明できる		薬学物理化学 I		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2 熱力学第二法則を説明できる		薬学物理化学 I		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3 熱力学第三法則を説明できる		薬学物理化学 I		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
4 ギブズエネルギーについて説明できる		薬学物理化学 I		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
5 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる		薬学物理化学 I		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
④化学平衡の原理						
1 ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる			薬学物理化学IV	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2 ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる			薬学物理化学IV	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる			薬学物理化学IV	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
4 共役反応の原理について説明できる			薬学物理化学IV	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
⑤相平衡						
1 相変化に伴う熱の移動について説明できる			薬学物理化学IV 物理系実習 II	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2 相平衡と相律について説明できる			薬学物理化学IV 物理系実習 II	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3 状態図について説明できる			薬学物理化学IV 物理系実習 II	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
⑥溶液の性質						
1 希薄溶液の束一的性質について説明できる			薬学物理化学IV	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2 活量と活量係数について説明できる		薬学物理化学 II	薬学物理化学IV	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3 電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる		薬学物理化学 II		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
4 イオン強度について説明できる		薬学物理化学 II		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
⑦電気化学						
1 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる		薬学物理化学 II		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2 電極電位 (酸化還元電位) について説明できる		薬学物理化学 II		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
(3)物質の変化						
①反応速度						
1 反応次数と速度定数について説明できる			薬学物理化学III 物理薬剤学	物理系薬学特別講義 医療薬学特別講義I		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義II
2 微分型速度式を積分型速度式に変換できる			薬学物理化学III 物理薬剤学	物理系薬学特別講義 医療薬学特別講義I		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義II
3 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる			薬学物理化学III 物理薬剤学	物理系薬学特別講義 医療薬学特別講義I		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義II
4 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる			薬学物理化学III 物理薬剤学	物理系薬学特別講義 医療薬学特別講義I		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義II
5 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる			薬学物理化学III 物理薬剤学	物理系薬学特別講義 医療薬学特別講義I		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義II
6 反応速度と温度との関係を説明できる			薬学物理化学III 物理薬剤学	物理系薬学特別講義 医療薬学特別講義I		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義II
7 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応、酵素反応など)について説明できる			薬学物理化学III 物理薬剤学	物理系薬学特別講義 医療薬学特別講義I		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義II
C2 化学物質の分析						



平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(1) 分析の基礎						
① 分析の基本						
1. 分析に用いる器具を正しく使用できる。(知識・技能)		分析化学 I 物理系実習 I	物理系実習 II	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2. 測定値を適切に取り扱うことができる。(知識・技能)		分析化学 I 物理系実習 I		臨床検査学 物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3. 分析法のバリデーションについて説明できる。		分析化学 I		臨床検査学 物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
(2) 溶液中の化学平衡						
① 酸・塩基平衡						
1. 酸・塩基平衡の概念について説明できる。	薬学化学入門	分析化学 I 物理系実習 I		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2. pH および解離定数について説明できる。(知識・技能)	薬学化学入門	分析化学 I		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3. 溶液のpH を測定できる。(技能)		分析化学 I				
4. 緩衝作用や緩衝液について説明できる。	薬学化学入門	分析化学 I		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
② 各種の化学平衡						
1. 錯体・キレート生成平衡について説明できる。		分析化学 II		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2. 沈殿平衡について説明できる。	薬学化学入門	分析化学 II		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3. 酸化還元平衡について説明できる。	薬学化学入門 化学	分析化学 II		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
4. 分配平衡について説明できる。			日本薬局方 II 物理系実習 II	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
(3) 化学物質の定性分析・定量分析						
① 定性分析						
1. 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。			日本薬局方 I	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2. 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。			日本薬局方 I	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
② 定量分析(容量分析・重量分析)						
1. 中和滴定(非水滴定を含む)の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学 I 物理系実習 I		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2. キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学 I 物理系実習 I		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3. 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学 I 物理系実習 I		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
4. 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学 I 物理系実習 I		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
5. 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(知識・技能)		分析化学 I 分析化学 II 物理系実習 I		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
6. 日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。		分析化学 I	日本薬局方 I 日本薬局方 II	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
7. 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。		分析化学 I	日本薬局方 II	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
(4) 機器を用いる分析法						
① 分光分析法						
1. 紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。			分析化学 III 物理系実習 III	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2. 蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。			分析化学Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3. 赤外吸収 (IR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。			分析化学Ⅲ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
4. 原子吸光光度法、誘導結合プラズマ (ICP) 発光分光分析法およびICP 質量分析法の原理および応用例を説明できる。			分析化学Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
5. 旋光度測定法 (旋光分散) の原理および応用例を説明できる。			分析化学Ⅲ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
6. 分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。(技能)			分析化学Ⅲ 物理系実習Ⅲ			
②核磁気共鳴スペクトル測定法						
1. 核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。			分析化学Ⅳ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
③質量分析法						
1. 質量分析法の原理および応用例を説明できる。			分析化学Ⅳ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
④X線分析法						
1. X線結晶解析の原理および応用例を概説できる。		同位体化学	分析化学Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2. 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概説できる。		同位体化学	分析化学Ⅲ 製剤学	物理系薬学特別講義 実務実習事前学習		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義II
⑤熱分析						
1. 熱重量測定法の原理を説明できる。			薬学物理化学Ⅲ 製剤学	物理系薬学特別講義 実務実習事前学習		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義II
2. 示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。			薬学物理化学Ⅲ 製剤学	物理系薬学特別講義 実務実習事前学習		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義II
(5)分離分析法						
①クロマトグラフィー						
1. クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。			日本薬局方Ⅱ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2. 薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。			日本薬局方Ⅱ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3. 液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。			日本薬局方Ⅱ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
4. ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。			日本薬局方Ⅱ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
5. クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。(知識・技能)			日本薬局方Ⅱ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
②電気泳動法						
1. 電気泳動法の原理および応用例を説明できる。		生物系実習Ⅰ	日本薬局方Ⅱ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
(6)臨床現場で用いる分析技術						
①分析の準備						
1. 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。			日本薬局方Ⅰ 日本薬局方Ⅱ	臨床検査学 物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2. 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。				臨床検査学 物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
②分析技術						
1. 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。			日本薬局方Ⅰ 日本薬局方Ⅱ	臨床検査学 物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2. 免疫化学的測定法の原理を説明できる。			日本薬局方Ⅱ	臨床検査学 物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3. 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。			日本薬局方Ⅱ	臨床検査学 物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
4. 代表的なドラッグメカニズムについて概説できる。			日本薬局方Ⅱ	臨床検査学 物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
5. 代表的な画像診断技術 (X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など) について概説できる。		同位体医療薬学	分析化学Ⅲ	臨床検査学 物理系薬学特別講義 実務実習事前学習		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義Ⅱ
C3 化学物質の性質と反応						
(1) 化学物質の基本的性質						
①基本事項						
1. 代表的な化合物をIUPAC規則に基づいて命名することができる。	有機薬学Ⅰ	有機薬学Ⅲ 有機薬学Ⅳ		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。	有機薬学Ⅰ			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。	薬学化学入門 有機薬学Ⅰ	有機薬学Ⅲ 有機薬学Ⅳ		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
4. 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。	薬学化学入門 有機薬学Ⅰ	有機薬学Ⅲ 有機薬学Ⅳ		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
5. ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。	有機薬学Ⅰ	有機薬学Ⅲ 有機薬学Ⅳ		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
6. 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離) の特徴を理解し、分類できる。	有機薬学Ⅰ	有機薬学Ⅲ 有機薬学Ⅳ		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
7. 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル) の構造と性質を説明できる。	有機薬学Ⅰ	有機薬学Ⅲ		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
8. 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。	薬学化学入門 有機薬学Ⅰ	有機薬学Ⅲ 有機薬学Ⅳ		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
9. 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。	有機薬学Ⅰ	有機薬学Ⅲ	化学系実習Ⅰ	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
②有機化合物の立体構造						
1. 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。	有機薬学Ⅰ		創薬化学Ⅰ	創薬化学Ⅲ 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. キラリティーと光学活性の関係を概説できる。	有機薬学Ⅰ		創薬化学Ⅰ	創薬化学Ⅲ 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。	有機薬学Ⅰ		創薬化学Ⅰ	創薬化学Ⅲ 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
4. ラセミ体とメソ体について説明できる。	有機薬学Ⅰ		創薬化学Ⅰ	創薬化学Ⅲ 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
5. 絶対配置の表示法を説明し、キラル化合物の構造を書くことができる。	有機薬学Ⅰ		創薬化学Ⅰ	創薬化学Ⅲ 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
6. 炭素-炭素二重結合の立体異性 ( <i>cis</i> , <i>trans</i> ならびに <i>E</i> , <i>Z</i> 異性) について説明できる。	有機薬学Ⅰ	有機薬学Ⅲ 有機薬学Ⅳ	創薬化学Ⅰ	創薬化学Ⅲ 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
7. フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。	有機薬学Ⅰ	有機薬学Ⅲ 有機薬学Ⅳ	創薬化学Ⅰ	創薬化学Ⅲ 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
8. エタン、ブタンの立体配座とその安定性について説明できる。	有機薬学Ⅰ		創薬化学Ⅰ	創薬化学Ⅲ 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
(2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応						
①アルカン						
1. アルカンの基本的な性質について説明できる。	有機薬学Ⅰ			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. アルカンの構造異性体を図示することができる。	有機薬学Ⅰ			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。	有機薬学Ⅰ			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
4. シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。	有機薬学Ⅰ			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
5. 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	有機薬学Ⅰ			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
②アルケン・アルキン						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1. アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機薬化学II	有機薬化学III		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機薬化学II			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機薬化学II			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
③芳香族化合物						
1. 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。		有機薬化学III		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 芳香族性の概念を説明できる。		有機薬化学III		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. 芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。		有機薬化学III		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
4. 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。		有機薬化学III		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
5. 代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。		有機薬化学III		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
(3)官能基の性質と反応						
①概説						
1. 代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。	有機薬化学II	有機薬化学III 有機薬化学IV	創薬化学I 化学系実習III	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。			化学系実習I			
②有機ハロゲン化合物						
1. 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機薬化学II			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 求核置換反応の特徴について説明できる。	有機薬化学II			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. 脱離反応の特徴について説明できる。	有機薬化学II	有機薬化学IV		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
③アルコール・フェノール・エーテル						
1. アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機薬化学II	有機薬化学III	化学系実習I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機薬化学II					化学系薬学総合講義
④アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体						
1. アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機薬化学III 有機薬化学IV	化学系実習I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. カルボン酸の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機薬化学IV	化学系実習III	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. カルボン酸誘導体（酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド）の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機薬化学IV	化学系実習III	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
⑤アミン						
1. アミン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機薬化学IV	創薬化学I、II	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
⑥電子効果						
1. 官能基が及ぼす電子効果について概説できる。	有機薬化学I	有機薬化学III 有機薬化学IV				化学系薬学総合講義
⑦酸性度・塩基性度						
1. アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。	有機薬化学I	有機薬化学III 有機薬化学IV	化学系実習III	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 含窒素化合物の塩基性度を比較して説明できる。		有機薬化学IV		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
(4)化学物質の構造決定						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
①核磁気共鳴(NMR)						
1. <sup>1</sup> H および <sup>13</sup> C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。			分析化学IV 物理系実習III	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2. 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。			分析化学IV 物理系実習III	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3. <sup>1</sup> H NMR の積分値の意味を説明できる。			分析化学IV 物理系実習III	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
4. <sup>1</sup> H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する基本的な分裂様式を説明できる。			分析化学IV 物理系実習III	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
5. 代表的な化合物の部分構造を <sup>1</sup> H NMR から決定できる。			分析化学IV 物理系実習III	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
②赤外吸収(IR)						
1. IR スペクトルより得られる情報を概説できる。			分析化学IV 物理系実習III	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2. IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。			分析化学IV 物理系実習III	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
③質量分析(MS)						
1. マススペクトルより得られる情報を概説できる。			分析化学IV 物理系実習III	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2. 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。			分析化学IV 物理系実習III	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3. ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)説明できる。			分析化学IV 物理系実習III	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
4. 代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。			分析化学IV 物理系実習III	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
④総合演習						
1. 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。			物理系実習III	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
(5)無機化合物・錯体の構造と性質						
①無機化合物・錯体						
1. 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。	化学			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。	化学		化学系実習I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. 活性酸素と窒素化合物の名称、構造、性質を列挙できる。	化学		創薬化学I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
4. 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。	化学		創薬化学I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
5. 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。	化学		創薬化学II	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
C4 生体分子・医薬品の化学による理解						
(1)医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質						
①医薬品の標的となる生体高分子の化学構造						
1. 代表的な生体高分子を構成する小分子(アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど)の構造に基づく科学的な性質を説明できる。	生体機能分子学 I 生体機能分子学 II		創薬化学I 創薬化学II			化学系薬学総合講義
2. 医薬品の標的となる生体高分子(タンパク質、核酸など)の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。	生体機能分子学 I 生体機能分子学 II		創薬化学I 創薬化学II			化学系薬学総合講義
②生体内で機能する小分子						
1. 細胞膜受容体および細胞内(核内)受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。		疾患薬理学 I	創薬化学I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。		疾患薬理学 I	創薬化学I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。		疾患薬理学 I	創薬化学I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4. 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。		疾患薬理学 I	創薬化学I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
(2) 生体反応の化学による理解						
① 生体内で機能するリン、硫黄化合物						
1. リン化合物（リン酸誘導体など）および硫黄化合物（チオール、ジスルフィド、チオエステルなど）の構造と化学的性質を説明できる。			創薬化学I			化学系薬学総合講義
2. リン化合物（リン酸誘導体など）および硫黄化合物（チオール、ジスルフィド、チオエステルなど）の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。			創薬化学I			化学系薬学総合講義
② 酵素阻害剤と作用様式						
1. 不可逆的酵素阻害剤の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。			創薬化学I 創薬化学II	化学系薬学特別講義		
2. 基質アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。			創薬化学I 創薬化学II	化学系薬学特別講義		
3. 遷移状態アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。			創薬化学I 創薬化学II	化学系薬学特別講義		
③ 受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト						
1. 代表的な受容体のアゴニスト（作用薬、作動薬、刺激薬）とアンタゴニスト（拮抗薬、遮断薬）との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。		疾患薬理学 I	創薬化学I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。		疾患薬理学 I	創薬化学I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
④ 生体内で起こる有機反応						
1. 代表的な生体分子（脂肪酸、コレステロールなど）の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。			創薬化学I 創薬化学II			化学系薬学総合講義
2. 異物代謝の反応（発がん性物質の代謝的活性化など）を有機化学の観点から説明できる。						化学系薬学総合講義
(3) 医薬品の化学構造と性質、作用						
① 医薬品と生体分子の相互作用						
1. 医薬品と生体分子との相互作用を化学的な観点（結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など）から説明できる。			創薬化学I 創薬化学II	創薬化学III		化学系薬学総合講義
② 医薬品の化学構造に基づく性質						
1. 医薬品の構造からその物理化学的性質（酸性、塩基性、疎水性、親和性など）を説明できる。			創薬化学I 創薬化学II	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。			創薬化学I 創薬化学II	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
③ 医薬品のコンポーネント						
1. 代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。			創薬化学I 創薬化学II	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. バイオアイソスター（生物学的等価体）について、代表的な例を挙げて概説できる。			創薬化学I 創薬化学II	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。			創薬化学I 創薬化学II	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
④ 酵素に作用する医薬品の構造と性質						
1. ヌクレオチドおよび核酸塩基アナログを有する代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			創薬化学II	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			創薬化学II	基礎薬学特別講義I		化学系薬学総合講義
3. スルホンアミド構造をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			創薬化学II 化学系実習III	創薬化学III 化学系薬学特別講義 創薬化学III		化学系薬学総合講義
4. キノロン骨格をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5. β-ラクタム構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
6. ペプチドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			創薬化学II	基礎薬学特別講義I		化学系薬学総合講義
⑤受容体に作用する医薬品の構造と性質						
1. カテコールアミン骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		疾患薬理学 I	創薬化学I 創薬化学II	基礎薬学特別講義I		化学系薬学総合講義
2. アセチルコリンアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		疾患薬理学 I	創薬化学I	基礎薬学特別講義I		化学系薬学総合講義
3. ステロイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		疾患薬理学 I	創薬化学II	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
4. ベンゾジアゼピン骨格およびバルビタール骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		疾患薬理学 I	創薬化学II	基礎薬学特別講義I		化学系薬学総合講義
5. オピオイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		疾患薬理学 I	創薬化学II	基礎薬学特別講義I		化学系薬学総合講義
⑥DNAに作用する医薬品の構造と性質						
1. DNAと結合する医薬品（アルキル化剤、シスプラチン類）を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。			感染症治療薬概論	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. DNAにインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。			感染症治療薬概論	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。			感染症治療薬概論	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
⑦イオンチャンネルに作用する医薬品の構造と性質						
1. イオンチャンネルに作用する医薬品の代表的な基本構造（ジヒドロピリジンなど）の特徴を説明できる。		疾患薬理学 I	創薬化学II	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
C5 自然が生み出す薬物						
(1) 薬になる動植物						
①薬用植物						
1. 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げることができる。	天然医薬資源学	生薬学I 生薬学 II		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。(知識、技能)	天然医薬資源学			化学系薬学特別講義		
3. 植物の主な内部形態について説明できる。	天然医薬資源学					
4. 法律によって取り扱いが規制されている植物(ケシ、アサ)の特徴を説明できる。		生薬学I 生薬学 II		化学系薬学特別講義		
②生薬の基原						
1. 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類由来)を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。	天然医薬資源学	生薬学I 生薬学 II		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
③生薬の用途						
1. 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。	天然医薬資源学	生薬学I 生薬学 II		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。		生薬学I 生薬学 II		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
④生薬の同定と品質評価						
1. 生薬の同定と品質評価法について概説できる。	天然医薬資源学		化学系実習III	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。	天然医薬資源学		化学系実習III	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)			化学系実習III			
4. 代表的な生薬の確認試験を説明できる。		生薬学I 生薬学 II	化学系実習III	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5. 代表的な生薬の純度試験を説明できる。		生薬学I 生薬学II		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
(2)薬の宝庫としての天然物						
①生薬由来の生物活性物質の構造と作用						
1. 生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの生合成経路を概説できる。			天然物化学	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			天然物化学	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			天然物化学	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
4. テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	天然医薬資源学		天然物化学	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
5. アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	天然医薬資源学		天然物化学	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
②微生物由来の生物活性物質の構造と作用						
1. 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。			感染症治療薬概論	創薬化学III 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			感染症治療薬概論	創薬化学III 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③天然生物活性物質の取扱い						
1. 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識、技能)			化学系実習III			
④天然生物活性物質の利用						
1. 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。	天然医薬資源学		天然物化学	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。	天然医薬資源学		天然物化学	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. 農薬や香料品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。	天然医薬資源学		天然物化学	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
C6 生命現象の基礎						
(1)細胞の構造と機能						
①細胞膜						
1. 細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。	生体機能分子学II			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。	生体機能分子学II			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
②細胞小器官						
1. 細胞小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)やリボソームの構造と機能を説明できる。	生体機能分子学II			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③細胞骨格						
1. 細胞骨格の構造と機能を説明できる。	生体機能分子学II			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
(2)生命現象を担う分子						
①脂質						
1. 代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生体機能分子学II	人体生化学I 食品栄養学	創薬化学I	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
②糖質						
1. 代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生体機能分子学I	人体生化学I 食品栄養学	創薬化学I	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義



平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2. 代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生体機能分子学 I	人体生化学I 食品栄養学	創薬化学I	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③アミノ酸						
1. アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生体機能分子学 I	人体生化学I 食品栄養学	創薬化学I	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
④タンパク質						
1. タンパク質の構造(一次、二次、三次、四次構造)と性質を説明できる。	生体機能分子学 I	人体生化学I	創薬化学I	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑤ヌクレオチドと核酸						
1. ヌクレオチドと核酸(DNA、RNA)の種類、構造、性質を説明できる。	生体機能分子学 II	人体生化学I	創薬化学I	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑥ビタミン						
1. 代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。	生体機能分子学 I	人体生化学I 食品栄養学		生物系薬学特別講義 衛生薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑦微量元素						
1. 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。	生体機能分子学 I	食品栄養学		衛生薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑧生体分子の定性、定量						
1. 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。(技能)		生物系実習II				
(3)生命活動を担うタンパク質						
①タンパク質の構造と機能						
1. 多彩な機能をもつタンパク質(酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質)を列挙し 概説できる。	生体機能分子学 I	人体生化学I、 人体生化学II		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
②タンパク質の成熟と分解						
1. タンパク質の翻訳後の成熟過程(細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾)について説明できる。		人体生化学II	創薬化学I	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. タンパク質の細胞内での分解について説明できる。		人体生化学II		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③酵素						
1. 酵素反応の特性と反応口度論を説明できる。	生体機能分子学 I	人体生化学I		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。	生体機能分子学 I	人体生化学I		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。	生体機能分子学 I	人体生化学I		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4. 酵素反応速度を測定し、解析できる。(技能)		生物系実習II				
④酵素以外のタンパク質						
1. 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。		人体生化学I		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 血漿リボタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。		人体生化学I		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
(4)生命情報を担う遺伝子						
①概論						
1. 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。	生体機能分子学 II	人体生化学II		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。	生体機能分子学 II	人体生化学II		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
②遺伝情報を担う分子						
1. 染色体の構造(ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど)を説明できる。	生体機能分子学Ⅱ	人体生化学Ⅱ		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 遺伝子の構造(プロモーター、エンハンサー、エクソン、イントロンなど)を説明できる。	生体機能分子学Ⅱ	人体生化学Ⅱ		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. RNAの種類(hnRNA、mRNA、rRNA、tRNAなど)と機能について説明できる。	生体機能分子学Ⅱ	人体生化学Ⅱ		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③遺伝子の複製						
1. DNAの複製の過程について説明できる。	生体機能分子学Ⅱ	人体生化学Ⅱ		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
④転写・翻訳の過程と調節						
1. DNAからRNAへの転写の過程について説明できる。		人体生化学Ⅱ		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. エピジェネティックな転写制御について説明できる。		人体生化学Ⅱ		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. 転写因子による転写制御について説明できる。		人体生化学Ⅱ		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4. RNAのプロセシング(キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など)について説明できる。		人体生化学Ⅱ		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
5. RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。		人体生化学Ⅱ		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑤遺伝子の変異・修復						
1. DNAの変異と修復について説明できる。	生体機能分子学Ⅱ	人体生化学Ⅱ		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑥組換えDNA						
1. 遺伝子工学技術(遺伝子クローニング、cDNAクローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など)を概説できる。	生体機能分子学Ⅱ	生物系実習Ⅰ		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 遺伝子改変生物(遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物)について概説できる。		生物系実習Ⅰ		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
(5)生体エネルギーと生命活動を支える代謝系						
①概論						
1. エネルギー代謝の概要を説明できる。		人体生化学Ⅰ 食品栄養学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
②ATPの産生と糖質代謝						
1. 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。		人体生化学Ⅰ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. クエン酸回路(TCAサイクル)について説明できる。		人体生化学Ⅰ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. 電子伝達系(酸化的リン酸化)とATP合成酵素について説明できる。		人体生化学Ⅰ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4. グリコーゲンの代謝について説明できる。		人体生化学Ⅰ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
5. 糖新生について説明できる。		人体生化学Ⅰ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③脂質代謝						
1. 脂肪酸の生合成とβ酸化について説明できる。		人体生化学Ⅰ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. コレステロールの生合成と代謝について説明できる。		人体生化学Ⅰ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
④飢餓状態と飽食状態						
1. 飢餓状態のエネルギー代謝(ケトン体の利用など)について説明できる。		人体生化学Ⅰ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。		人体生化学Ⅰ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
⑤その他の代謝系						
1. アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝(尿素回路など)について説明できる。		人体生化学II		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. ヌクレオチドの生合成と分解について説明できる。		人体生化学II		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. ペントースリン酸回路について説明できる。		人体生化学I		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
(6)細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達						
①概論						
1. 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。		人体生化学II	人体機能調節学	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
②細胞内情報伝達						
1. 細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。		疾患薬理学 I	人体機能調節学	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 細胞膜受容体から G タンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。		疾患薬理学 I	人体機能調節学	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。		疾患薬理学 I	人体機能調節学	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4. 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。		疾患薬理学 I	人体機能調節学	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
5. 細胞内(核内)受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。		疾患薬理学 I	人体機能調節学	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③細胞間コミュニケーション						
1. 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	生体機能分子学 II			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。	生体機能分子学 II			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
(7)細胞の分裂と死						
①細胞分裂						
1. 細胞周期とその制御機構について説明できる。		人体生化学II		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。		人体生化学II		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
②細胞死						
1. 細胞死(アポトーシスとネクローシス)について説明できる。		人体生化学I		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③がん細胞						
1. 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。		人体生化学II		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。		人体生化学II	環境衛生学I	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
07 人体の成り立ちと生体機能の調節						
(1)人体の成り立ち						
①遺伝						
1. 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。				遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 遺伝子多型について概説できる。	生体機能分子学 II			遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. 代表的な遺伝疾患を概説できる。	生体機能分子学 II			遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
②発生						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1. 個体発生について概説できる。	薬学生物学入門	人体生化学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。	薬学生物学入門	人体生化学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③器官系概論						
1. 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。	機能形態学Ⅰ			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類(上皮、内皮、間葉系など)を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。	機能形態学Ⅰ			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. 実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。(技能)			生物系実習Ⅳ	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4. 代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。(技能)			生物系実習Ⅳ	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
④神経系						
1. 中枢神経系について概説できる。	機能形態学Ⅰ			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 末梢(体性・自律)神経系について概説できる。	機能形態学Ⅰ			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑤骨格系・筋肉系						
1. 骨、筋肉について概説できる。		機能形態学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。		機能形態学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑥皮膚						
1. 皮膚について概説できる。		機能形態学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑦循環器系						
1. 心臓について概説できる。		機能形態学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 血管系について概説できる。		機能形態学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. リンパ管系について概説できる。		機能形態学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑧呼吸器系						
1. 肺、気管支について概説できる。		機能形態学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑨消化器系						
1. 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。	機能形態学Ⅰ			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。	機能形態学Ⅰ			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑩泌尿器系						
1. 泌尿器系について概説できる。		機能形態学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑪生殖系						
1. 生殖系について概説できる。	機能形態学Ⅰ			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑫内分泌系						
1. 内分泌系について概説できる。	機能形態学Ⅰ			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑬感覚器系						
1. 感覚器系について概説できる。		機能形態学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑭血液・造血器系						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1. 血液・造血管系について概説できる。		機能形態学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
(2) 生体機能の調節						
① 神経による調節機構						
1. 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。	機能形態学Ⅰ			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学Ⅰ			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。	機能形態学Ⅰ			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4. 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。		機能形態学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
② ホルモン・内分泌系による調節機構						
1. 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学Ⅰ			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③ オータコイドによる調節機構						
1. 代表的なオータコイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学Ⅰ			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
④ サイトカイン・増殖因子による調節機構						
1. 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。		機能形態学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑤ 血圧の調節機構						
1. 血圧の調節機構について概説できる。		機能形態学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑥ 血糖の調節機構						
1. 血糖の調節機構について概説できる。	機能形態学Ⅰ			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑦ 体液の調節						
1. 体液の調節機構について概説できる。		機能形態学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。		機能形態学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑧ 体温の調節						
1. 体温の調節機構について概説できる。		機能形態学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑨ 血液凝固・線溶系						
1. 血液凝固・線溶系の機構について概説できる。		機能形態学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑩ 性周期の調節						
1. 性周期の調節機構について概説できる。	機能形態学Ⅰ			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
08 生体防御と微生物						
(1) 身体をまもる						
① 生体防御反応						
1 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2 免疫反応の特徴（自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容）を説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
②免疫を担当する組織・細胞						
1免疫に関する組織を列挙し、その役割を説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。		免疫学		臨床検査学 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③分子レベルで見た免疫のしくみ						
1自然免疫および獲得免疫における異物認識を比較して説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2MHC抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3T細胞とB細胞による抗原認識の多様性（遺伝子再構成）と活性化について説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。		免疫学		臨床検査学 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
5免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
(2)免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用						
①免疫応答の制御と破綻						
1炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4臓器移植と免疫応答との関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
5感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。		微生物学 免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
6. 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学特別講義
(3)微生物の基本						
①総論						
1. 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
②細菌						
1.細菌の分類や性質(系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など)を説明できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 細菌の構造と増殖機構について説明できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. 細菌の異化作用(呼吸と発酵)および同化作用について説明できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4. 細菌の遺伝子伝達(接合、形質導入、形質転換)について説明できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
5. 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。		微生物学	感染症治療薬概論	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
6. 代表的な細菌毒素について説明できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③ウイルス						
1. ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
④真菌・原虫・蠕虫						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1. 真菌の性状を概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 原虫および蠕虫の性状を概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑤消毒と滅菌						
1. 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 主な滅菌法および消毒法について説明できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑥検出方法						
1. グラム染色を実施できる。(技能)		生物系実習 I				
2. 無菌操作を実施できる。(技能)		生物系実習 I				
3. 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)		生物系実習 I				
(4)病原体としての微生物						
①感染の成立と共生						
1. 感染の成立(感染源、感染経路、侵入門戸など)と共生(腸内細菌など)について説明できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 日和見感染と院内感染について説明できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
②代表的な病原体						
1. DNAウイルス(ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B型肝炎ウイルスなど)について概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. RNAウイルス(ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV など)について概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. グラム陽性球菌(ブドウ球菌、レンサ球菌など)およびグラム陽性桿菌(破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、デフィシル菌など)について概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4. グラム陰性球菌(淋菌、髄膜炎菌など)およびグラム陰性桿菌(大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など)について概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
5. グラム陰性らせん菌(ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリなど)およびスピロヘータについて概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
6. 抗酸菌(結核菌、らい菌など)について概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
7. マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
8. 真菌(アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白癬菌など)について概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
9. 原虫(マラリア原虫、トキソプラズマ、腔トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど)、蠕虫(回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど)について概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
D1 健康						
(1)社会・集団と健康						
①健康と疾病の概念						
1 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
②保健統計						
1 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2 人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
3 人口動態（死因別死亡率など）の変遷について説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
③疫学						
1 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
2 疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
3 疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
4 リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。（知識・技能）			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
(2) 疾病の予防						
①疾病の予防とは						
1 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
2 健康増進政策（健康日本21など）について概説できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
②感染症とその予防						
1 現代における感染症（日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など）の特徴について説明できる。		微生物学	公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
2 感染症法における、感染症とその分類について説明できる。		微生物学	公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
3 代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。		微生物学	公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
4 予防接種の意義と方法について説明できる。		微生物学	公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
③生活習慣病とその予防						
1 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
2 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。			公衆衛生学 食品栄養学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
3 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。（態度）			食品栄養学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
④母子保健						
1 新生児マスキリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
2 母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
⑤労働衛生						
1 代表的な労働災害、職業性疾病について説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
2 労働衛生管理について説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
(3) 栄養と健康						
①栄養						
1 五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。		食品栄養学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
2 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。		食品栄養学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
3 食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。		食品栄養学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義



平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4五大栄養素以外の食品成分（食物繊維、抗酸化物質など）の機能について説明できる。		食品栄養学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
5エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。		食品栄養学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
6日本人の食事摂取基準について説明できる。		食品栄養学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
7栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。		食品栄養学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
8疾病治療における栄養の重要性を説明できる。		食品栄養学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
②食品機能と食品衛生						
1炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。		食品衛生学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
2油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。（知識・技能）		食品衛生学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
3食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。		食品衛生学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
4食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。		食品衛生学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
5代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。		食品衛生学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
6特別用途食品と保健機能食品について説明できる。		食品衛生学 食品栄養学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
7食品衛生に関する法的規制について説明できる。		食品衛生学 食品栄養学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
③食中毒と食品汚染						
1代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。		食品衛生学 微生物学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
2食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。		食品衛生学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
3化学物質（重金属、残留農薬など）やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。		食品衛生学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
D2 環境						
(1)化学物質・放射線の生体への影響						
①化学物質の毒性						
1代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。			環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
2 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。			環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
3 重金属、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。		食品衛生学	環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
4 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。			環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
5薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。（知識・態度）				衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
6 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。		食品衛生学	環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
7 代表的な中毒原因物質（乱用薬物を含む）の試験法を列挙し、概説できる。				衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
②化学物質の安全性評価と適正使用						
1個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。（態度）			環境衛生学I			
2 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。			環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
3毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量（NOAEL）などについて概説できる。			環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
4化学物質の安全摂取量（1日許容摂取量など）について説明できる。			環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制（化審法、化管法など）を説明できる。		食品衛生学		衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
③化学物質による発がん						
1発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。			環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
2遺伝毒性試験（Ames試験など）の原理を説明できる。			環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
3発がんに至る過程（イニシエーション、プロモーションなど）について概説できる。			環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
④放射線の生体への影響						
1電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。		同位体医療薬学		衛生薬学特別講義 実務実習事前学習		総合衛生薬学 総合講義
2代表的な放射性核種（天然、人工）と生体との相互作用を説明できる。		同位体化学		衛生薬学特別講義 実務実習事前学習		総合衛生薬学 総合講義
3電離放射線を防御する方法について概説できる。		同位体医療薬学		衛生薬学特別講義 実務実習事前学習		総合衛生薬学 総合講義
4非電離放射線（紫外線、赤外線など）を列挙し、生体への影響を説明できる。		同位体化学		環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
(2)生活環境と健康						
①地球環境と生態系						
1地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
2生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。			環境衛生学I	環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
3化学物質の環境内動態（生物濃縮など）について例を挙げて説明できる。			環境衛生学I	環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
4地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
5人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。（態度）			環境衛生学I	環境衛生学II		
②環境保全と法的規制						
1典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
2環境基本法の理念を説明できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
3環境汚染（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など）を防止するための法規制について説明できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
③水環境						
1原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
水の浄化法、塩素処理について説明できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
3水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。（知識・技能）				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
4下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
5水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
6富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
④大気環境						
1 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
2 主な大気汚染物質を測定できる。（技能）				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
3 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
⑤室内環境						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
2 室内環境と健康との関係について説明できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
⑥廃棄物						
1 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
2 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
3 マニフェスト制度について説明できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学 総合講義
E 医療薬学						
E1 薬の作用と体の変化						
(1)薬の作用						
①薬の作用						
1. 薬の用量と作用の関係を説明できる。		疾患薬理学 I	医薬品安全性学	医療薬学特別講義 II		医療薬学総合講義 I
2. アゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)について説明できる。		疾患薬理学 I		医療薬学特別講義 II		医療薬学総合講義 I
3. 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。		疾患薬理学 I		医療薬学特別講義 II		医療薬学総合講義 I
4. 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。		疾患薬理学 I		医療薬学特別講義 II		医療薬学総合講義 I
5. 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。(C6(6)【2細胞内情報伝達】1.~5.参照)		疾患薬理学 I		医療薬学特別講義 II		医療薬学総合講義 I
6. 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。		疾患薬理学 I	薬物動態理論	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
7. 薬物の選択(禁忌を含む)、用法、用量の変更が必要となる要因(年齢、疾病、妊娠等)について具体例を挙げて説明できる。		疾患薬理学 I	薬物動態理論	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義 I		薬科処方解析 臨床薬学総合講義 I
8. 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。(E4(1)【2吸収】5.【4代謝】5.【5排泄】5.参照)		疾患薬理学 I	薬物動態理論	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義 I		薬科処方解析 臨床薬学総合講義 I
9. 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。		疾患薬理学 I				
②動物実験						
1. 動物実験における倫理について配慮できる。(態度)				生物系実習IV		
2. 実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)				生物系実習IV		
3. 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能)				生物系実習IV		
③日本薬局方						
1. 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。		疾患薬理学 I				
(2)身体の病的変化を知る						
①症候						
1. 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。 ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸痛、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血痰・喀血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満(腹水を含む)、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛、記憶障害、知覚異常(しびれを含む)・神経痛、視力障害、聴力障害			病態・薬物治療学 I 病態・薬物治療学 II	病態・薬物治療学 III 病態・薬物治療学 IV 疾患薬理学 IV 医療薬学特別講義 II		薬科処方解析学 医療薬学総合講義 I
②病態・臨床検査						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅳ 臨床検査学 実務実習事前学習 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ
2. 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅳ 臨床検査学 実務実習事前学習 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ
3. 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅳ 臨床検査学 実務実習事前学習 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ
4. 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅳ 臨床検査学 実務実習事前学習 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ
5. 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅳ 臨床検査学 実務実習事前学習 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ
6. 代表的な生理機能検査(心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等)、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅳ 臨床検査学 実務実習事前学習 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ
7. 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅳ 臨床検査学 実務実習事前学習 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ
8. 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅳ 臨床検査学 実務実習事前学習 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ
(3)薬物治療の位置づけ						
1. 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療(外科手術など)の位置づけを説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		薬科処方解析学 医療薬学総合講義Ⅰ
2. 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。(知識・技能)				実務実習事前学習	実務実習	薬科処方解析学
(4)医薬品の安全性						
1. 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。			医薬品安全性学	医療薬学特別講義Ⅰ		薬科処方解析学 医療薬学総合講義Ⅰ
2. 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。			医薬品安全性学	医療薬学特別講義Ⅰ		薬科処方解析学 医療薬学総合講義Ⅰ
3. 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。 血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー(ショックを含む)、代謝障害			医薬品安全性学	医療薬学特別講義Ⅰ		薬科処方解析学

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4. 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。(態度)		疾患薬理学Ⅰ		疾患薬理学Ⅳ		
E 医療薬学						
E2 薬理・病態・薬物治療						
(1) 神経系の疾患と薬						
①自律神経系に作用する薬						
1. 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。			疾患薬理学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。			疾患薬理学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。			疾患薬理学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
4. 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			生物系実習Ⅳ			
②体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療						
1. 知覚神経・運動神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。			疾患薬理学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。			疾患薬理学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 知覚神経・運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			生物系実習Ⅳ			
4. 以下の疾患について説明できる。 進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré(ギラン・バレー)症候群、重症筋無力症(重複)			疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
④中枢神経系の疾患の薬、病態、治療						
1. 全身麻酔薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			疾患薬理学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		
2. 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用(WHO 三段階除痛ラダーを含む)を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 中枢興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			疾患薬理学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		
4. 統合失調症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
5. うつ病、躁うつ病(双極性障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
6. 不安神経症(パニック障害と全般性不安障害)、心身症、不眠症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
7. てんかんについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
8. 脳血管疾患(脳内出血、脳梗塞(脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血)、くも膜下出血)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
9. Parkinson(パーキンソン)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
10. 認知症(Alzheimer(アルツハイマー)型認知症、脳血管性認知症等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
11. 片頭痛について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)について説明できる。			疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
12. 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			生物実習Ⅳ			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
13. 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。(態度)			病態・薬物治療学Ⅱ	疾患薬理学Ⅳ 病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		
14. 以下の疾患について説明できる。 脳炎・髄膜炎(重複)、多発性硬化症(重複)、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy(ナルコレプシー)、薬物依存症、アルコール依存症 ④化学構造と薬効			病態・薬物治療学Ⅱ	疾患薬理学Ⅳ 病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
1. 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			創薬化学Ⅰ 創薬化学Ⅱ			
(2)免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬						
①抗炎症薬						
1. 抗炎症薬(ステロイド性および非ステロイド性)および解熱性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。			疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 創傷治癒の過程について説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬・病態・治療						
1. アレルギー治療薬(抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等)の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 免疫抑制薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息(重複)			疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
4. 以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態(病態生理、症状等)および対処法を説明できる。Stevens-Johnson(スティーブンス・ジョンソン)症候群、中毒性表皮壊死症(重複)、薬剤性過敏症候群、薬疹			病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
5. アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
6. 以下の疾患について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。尋常性乾癬、水疱症、光線過敏症、ペーチェット病			病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
7. 以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。バセドウ病(重複)、橋本病(重複)、悪性貧血(重複)、アジソン病、1型糖尿病(重複)、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血(重複)シェーグレン症候群			疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
8. 以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。全身性エリテマトーデス、強皮症、多発筋炎/皮膚筋炎、関節リウマチ(重複)			疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
9. 臓器移植(腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血)について、拒絶反応および移植片対宿主病(GVHD)の病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
③骨・関節・カルシウム代謝の疾患薬、病態、治療						
1. 関節リウマチについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 骨粗鬆症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 変形性関節症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4. カルシウム代謝の異常を伴う疾患（副甲状腺機能亢進（低下）症、骨軟化症（くる病を含む）、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
④化学構造と薬効						
1. 免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。			創薬化学Ⅱ	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
(3)循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬						
①循環器系疾患の薬、病態、治療						
1. 以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。不整脈の例示：上室性期外収縮（PAC）、心室性期外収縮（PVC）、心房細動（Af）、発作性上室頻拍（PSVT）、WPW症候群、心室頻拍（VT）、心室細動（VF）、房室ブロック、QT延長症候群			疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 急性および慢性心不全について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
4. 以下の高血圧症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
5. 以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症（ASO）、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患			病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
6. 循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）			生物系実習Ⅳ			
②血液・造血器系疾患の薬、病態、治療						
1. 止血薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 以下の貧血について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血（悪性貧血等）、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血（AIHA）、腎性貧血、鉄芽球性貧血			疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
4. 播種性血管内凝固症候群（DIC）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
5. 以下の疾患について治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。血友病、血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）、白血球減少症、血栓性血小板減少症、白血球減少症、悪性リンパ腫（重複）【E2 (7)】【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】参照			病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
③泌尿器系、生殖器系疾患の薬、病態、薬物治療						
1. 利尿薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 疾患薬理学Ⅲ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 疾患薬理学Ⅲ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. ネフローゼ症候群について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 疾患薬理学Ⅲ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
4. 過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 疾患薬理学Ⅲ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
5. 以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。慢性腎臓病（CKD）、糸球体腎炎（重複）、糖尿病性腎症（重複）、薬剤性腎症（重複）、腎盂腎炎（重複）、膀胱炎（重複）、尿路感染症（重複）、尿路結石			病態・薬物治療学Ⅰ 疾患薬理学Ⅲ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6. 以下の生殖器系疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。前立腺肥大症、子宮内膜症、子宮筋腫			病態・薬物治療学Ⅰ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
7. 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
8. 以下の生殖器系疾患について説明できる。 異常妊娠、異常分娩、不妊症				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
④化学構造と薬効						
1. 循環系・泌尿器系・生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			創薬化学Ⅰ 創薬化学Ⅱ	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
(4)呼吸器系・消化器系の疾患と薬						
①呼吸器系疾患の薬、病態、治療						
1. 気管支喘息について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患（ニコチン依存症を含む）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 間質性肺炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
4. 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
②消化器系疾患の薬、病態、治療						
1. 以下の上部消化器疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 胃食道逆流症（逆流性食道炎を含む）、消化性潰瘍、胃炎			疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 肝疾患（肝炎、肝硬変（ウイルス性を含む）、薬剤性肝障害）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
4. 膵炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
5. 胆道疾患（胆石症、胆道炎）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
6. 機能的消化管障害（過敏性腸症候群を含む）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
7. 便秘・下痢について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
8. 悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物（催吐薬）の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
9. 痔について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
③化学構造と薬効						
1. 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			創薬化学Ⅱ	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
(5)代謝系・内分泌系の疾患と薬						



平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
①代謝系疾患の薬、病態、治療						
1. 糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 脂質異常症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
②内分泌系疾患の薬、病態、治療						
1. 性ホルモン関連薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. Basedow（バセドウ）病について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 甲状腺炎（慢性（橋本病）、亜急性）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
4. 尿崩症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
5. 以下の疾患について説明できる。先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH 不適合分泌症候群（SIADH）、副甲状腺機能亢進症・低下症、Cushing（クッシング）症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全（急性、慢性）、子宮内膜症（重複）、アジソン病（重複）				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
③化学構造と薬効						
1. 代謝系・内分佈系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。			疾患薬理学Ⅲ	創薬化学Ⅲ 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
(6)感覚器・皮膚の疾患と薬						
①眼疾患の薬、病態、治療						
1. 緑内障について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				疾患薬理学Ⅳ 病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 白内障について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				疾患薬理学Ⅳ 病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				疾患薬理学Ⅳ 病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
4. 以下の疾患について概説できる。 結膜炎（重複）、網膜炎、ぶどう膜炎、網膜色素変性症				疾患薬理学Ⅳ 病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
②耳鼻咽喉の疾患の薬、病態、治療						
1. めまい（動揺病、Meniere（メニエール）病等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				疾患薬理学Ⅳ 病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎（重複）、花粉症（重複）、副鼻腔炎（重複）、中耳炎（重複）、口内炎・咽喉炎・扁桃腺炎（重複）、喉頭蓋炎			病態・薬物治療学Ⅰ	疾患薬理学Ⅳ 病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
③皮膚疾患の薬、病態、治療						
1. アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。[E2 (2) 【②免疫・炎症・アレルギーの薬、病態、治療】参照]			病態・薬物治療学Ⅰ	疾患薬理学Ⅳ 病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2. 皮膚真菌症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。【E2(7)】【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】				疾患薬理学Ⅳ 病態・薬物治療学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅳ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 褥瘡について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				疾患薬理学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
4. 以下の疾患について概説できる。 蕁麻疹(重複)、薬疹(重複)、水疱症(重複)、乾癬(重複)、接触性皮膚炎(重複)、光線過敏症(重複)			病態・薬物治療学Ⅰ	疾患薬理学Ⅳ 病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
④化学構造と薬効						
1. 感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			創薬化学Ⅰ 創薬化学Ⅱ	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
(7)病原微生物(感染症)・悪性新生物(がん)と薬						
①抗菌薬						
1. 以下の抗菌薬の薬理(薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性)および臨床適用を説明できる。β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体(アミノグリコシド)系、キノロン系、グリコペチド系、抗結核薬、サルファ剤(SIT 合剤を含む)、その他の抗菌薬			感染症治療薬概論	創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤(ワクチン等)を挙げ、その作用機序を説明できる。		微生物学 免疫学		衛生薬学特別講義 生物系薬学特別講義		医療薬学総合講義Ⅰ 生物系薬学総合講義
②抗菌薬の耐性						
1. 主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。			感染症治療薬概論	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③細菌感染症の薬、病態、治療						
1. 以下の呼吸器感染症について、病態(病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 上気道炎(かぜ症候群(大部分がウイルス感染症を含む)、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎)				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 以下の消化器感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎			病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 以下の感覚器感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
4. 以下の尿路感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎			病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
5. 以下の性感染症について、病態(病態生理、症状等)、予防方法および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 梅毒、淋病、クラミジア症等				病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
6. 脳炎、髄膜炎について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
7. 以下の皮膚細菌感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 伝染性膿痂疹、丹毒、癰、毛囊炎、ハンセン病				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
8. 感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)				病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
9. 以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等			感染症治療薬概論	病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
10. 以下の全身性細菌感染症について、病態(病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 シフテリア、劇症型A群β溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症				病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
④ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1. ヘルペスウイルス感染症(単純ヘルペス、水痘・带状疱疹)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、予防方法および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			感染症治療薬概論	病態・薬物治療学Ⅲ 創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			感染症治療薬概論	病態・薬物治療学Ⅲ 創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. インフルエンザについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			感染症治療薬概論	病態・薬物治療学Ⅲ 創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
4. ウイルス性肝炎(HAV、HBV、HCV)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態(病態生理(急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん)、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。(重複)			感染症治療薬概論 病態・薬物治療学Ⅱ	創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
5. 後天性免疫不全症候群(AIDS)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		免疫学(病態)	感染症治療薬概論 病態・薬物治療学Ⅰ	創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
6. 以下のウイルス感染症(プリオン病を含む)について、感染経路と予防方法および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。伝染性紅斑(リンゴ病)、手足口病、伝染性単核球症、突発性発疹、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Creutzfeldt-Jakob(クロイツフェルト-ヤコブ)病			病態・薬物治療学Ⅱ	創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
⑤真菌感染症の薬、病態、治療						
1. 抗真菌薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			感染症治療薬概論	創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		
2. 以下の真菌感染症について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症				病態・薬物治療学Ⅲ 創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
⑥原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療						
1. 以下の原虫感染症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢			感染症治療薬概論	医療薬学特別講義Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅲ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。回虫症、蟯虫症、アニサキス症			感染症治療薬概論	病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
⑦悪性腫瘍						
1. 腫瘍の定義(良性腫瘍と悪性腫瘍の違い)を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。 組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査(細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー(腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む))、悪性腫瘍の疫学(がん罹患の現状およびがん死亡の現状)、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。			病態・薬物治療学Ⅰ			医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療						
1. 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性)および臨床適用を説明できる。 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬			感染症治療薬概論 (作用機序のみ) 病態・薬物治療学Ⅰ	創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 抗悪性腫瘍薬の主な副作用(下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害(手足症候群を含む)、血小板減少等)の軽減のための対処法を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
4. 代表的ながん化学療法剤のレジメン(FOLFOX等)について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅳ 創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
5. 以下の白血病について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 急性(慢性)骨髄性白血病、急性(慢性)リンパ性白血病、成人T細胞白血病(ATL)				病態・薬物治療学Ⅲ 創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6. 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅲ 創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
7. 骨肉腫について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅳ 創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
8. 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆嚢・胆管癌、膵癌			病態・薬物治療学Ⅱ	創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
9. 肺癌について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅳ 創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
10. 以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭、咽頭、鼻腔・副鼻腔、口腔の悪性腫瘍				病態・薬物治療学Ⅳ 創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
11. 以下の生殖器の悪性腫瘍について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。前立腺癌、子宮癌、卵巣癌			病態・薬物治療学Ⅰ	創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
12. 腎・尿路系の悪性腫瘍(腎癌、膀胱癌)について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
13. 乳癌について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
⑨がん終末期医療と緩和ケア						
1. がん終末期の病態(病態生理、症状等)と治療を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ			医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. がん性疼痛の病態(病態生理、症状等)と薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ			医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
⑩化学構造と薬効						
1. 病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			感染症治療薬概論	創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		
(8)バイオ・細胞医薬品とゲノム情報						
①組換え体医薬品						
1. 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。				創薬化学Ⅲ 遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。				創薬化学Ⅲ 遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. 組換え体医薬品の安全性について概説できる。				創薬化学Ⅲ 遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
②遺伝子治療						
1. 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)				創薬化学Ⅲ 遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③細胞、組織を利用した移植医療						
1. 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)				創薬化学Ⅲ 遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 摘出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。				創薬化学Ⅲ 遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. 臍帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。				創薬化学Ⅲ 遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4. 胚性幹細胞(ES細胞)、人工多能性幹細胞(iPS細胞)を用いた細胞移植医療について概説できる。				創薬化学III 遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
(9) 要指導医薬品・一般用医薬品・セルフメディケーション						
1. 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。				薬学健康管理学		臨床薬学総合講義 I
2. 一般用医薬品のリスクの程度に応じた分類（第一類、第二類、第三類）について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。				薬学健康管理学		臨床薬学総合講義 I
3. 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患を列挙できる。				薬学健康管理学		臨床薬学総合講義 I
4. 一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。（技能）				薬学健康管理学	実務実習	
5. 以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病 等				薬学健康管理学		臨床薬学総合講義 I
6. 主な養生法（運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む）とその健康の保持・促進における意義を説明できる。				薬学健康管理学		臨床薬学総合講義 I
7. 一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。				薬学健康管理学		臨床薬学総合講義 I
8. 一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。（技能）				薬学健康管理学	実務実習	臨床薬学総合講義 I
(10) 医療の中の漢方薬						
① 漢方薬の基礎						
1. 漢方の特徴について概説できる。	天然医薬資源学	生薬学I	疾患薬理学III	漢方薬学概論 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 以下の漢方の基本用語を説明できる。陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証		生薬学I		漢方薬学概論 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。				漢方薬学概論 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
4. 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保険機能食品などとの相違について説明できる。	天然医薬資源学	生薬学I		漢方薬学概論 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
② 漢方薬の応用						
1. 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。		生薬学I		漢方薬学概論 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 日本薬局方に記載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる		生薬学I	疾患薬理学III	漢方薬学概論 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。		生薬学I	疾患薬理学III	漢方薬学概論 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
③ 漢方薬の注意点						
1. 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。		生薬学I		漢方薬学概論 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
(11) 薬物療法の最適化						
① 総合演習						
1. 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。（知識・態度）				事前学習		実務実習事後学習
2. 過剰量の医薬品による副作用への対応（解毒薬を含む）を討議する。（知識・態度）				事前学習		実務実習事後学習
3. 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。（知識・態度）				事前学習		実務実習事後学習
E3 薬物治療に役立つ情報						
(1) 医薬品情報						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
①情報						
1. 医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
2. 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
3. 医薬品(後発医薬品等を含む)の開発過程で行われる試験(非臨床試験、臨床試験、安定性試験等)と得られる医薬品情報について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
4. 医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
5. 医薬品情報に関係する代表的な法律・制度(「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、GPSP、RMP など)とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
②情報源						
1. 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
2. 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
3. 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
4. 医薬品添付文書(医療用、一般用)の法的位置づけについて説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
5. 医薬品添付文書(医療用、一般用)の記載項目(警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など)を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
6. 医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
③収集・評価・加工・提供・管理						
1. 目的(効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など)に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。(技能)			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
2. MEDLINE などの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。(知識・技能)			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
3. 医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
4. 臨床試験などの原著論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。(技能)			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
5. 医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法と注意点(知的所有権、守秘義務など)について説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
④EBM(Evidence-Based Medicine)						
1. EBM の基本概念と実践のプロセスについて説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
2. 代表的な臨床研究法(ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など)の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
3. 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性(研究結果の正確度や再現性)と外的妥当性(研究結果の一般化の可能性)について概説できる。(E3(1)【3収集・評価・加工・提供・管理】参照)			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
4. メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
⑤生物統計						
1. 臨床研究における基本的な統計量(平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など)の意味と違いを説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
2. 帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
3. 代表的な分布(正規分布、t分布、二項分布、ポアソン分布、 $\chi^2$ 分布、F分布)について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
4. 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
5. 二群間の差の検定(t検定、 $\chi^2$ 検定など)を実施できる。(技能)			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
6. 主な回帰分析(直線回帰、ロジスティック回帰など)と相関係数の検定について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
7. 基本的な生存時間解析法(カプラン・マイヤー曲線など)について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
⑥臨床研究デザインと解析						
1. 臨床研究(治験を含む)の代表的な手法(介入研究、観察研究)を列挙し、それらの特徴を概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
2. 臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
3. 観察研究での主な疫学研究デザイン(症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など)について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
4. 副作用の因果関係を評価するための方法(副作用判定アルゴリズムなど)について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
5. 優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
6. 介入研究の計画上の技法(症例数設定、ランダム化、盲検化など)について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
7. 統計解析時の注意点について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
8. 介入研究の効果指標(真のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント)の違いを、例を挙げて説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
臨床研究の結果(有効性、安全性)の主なパラメータ(相対リスク、相対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合)を説明し、計算できる。(知識・技能)			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
⑦医薬品の比較・評価						
1. 病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。			医療情報学(新規)	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
2. 医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性や安全性について比較・評価できる。(技能)			医療情報学(新規)	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
3. 医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・評価できる。(技能)			医療情報学(新規)	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
(2)患者情報						
①情報と情報源						
1. 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。			医療情報学	薬学疾患管理学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
2. 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。			医療情報学	薬学疾患管理学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
②収集・評価・管理						
1. 問題志向型システム(POS)を説明できる。			医療情報学	薬学疾患管理学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
2. SOAP形式などの患者情報の記録方法について説明できる。			医療情報学	薬学疾患管理学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
3. 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。			医療情報学	薬学疾患管理学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
4. 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。(A(2)【3患者の権利】参照)			医療情報学	薬学疾患管理学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
(3)個別化医療						
①遺伝的素因						
1. 薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。			医療情報学	薬学疾患管理学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
2. 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因(薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など)について、例を挙げて説明できる。			医療情報学	薬学疾患管理学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
3. 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。			医療情報学	薬学疾患管理学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
②年齢的要因						
1. 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。			医療情報学	薬学疾患管理学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
2. 高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。			医療情報学	薬学疾患管理学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
③臓器機能低下						
1. 腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			医療情報学	薬学疾患管理学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
2. 肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			医療情報学	薬学疾患管理学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
3. 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			医療情報学	薬学疾患管理学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
④その他の要因						
1. 薬物の効果に影響する生理的要因(性差、閉経、日内変動など)を列挙できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 II
2. 妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。			医療情報学	薬学疾患管理学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 II
3. 栄養状態の異なる患者(肥満、低アルブミン血症、腹水など)における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 II
⑤個別化医療の計画・立案						
1. 個別の患者情報(遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など)と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。(技能)			医療情報学	薬学疾患管理学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 II
2. コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 II
E4 薬の生体内運命						
(1)薬物の体内動態						
①生体膜透過						
1. 薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
2. 薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
②吸収						
1. 経口投与された薬物の吸収について説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
2. 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
3. 薬物の吸収に影響する因子(薬物の物性、生理学的要因など)を列挙し、説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
4. 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			薬物動態理論	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
5. 初回通過効果について説明できる。			薬物動態理論			臨床薬学総合講義 I
③分布						
1. 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
2. 薬物の組織移行性(分布容積)と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
3. 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
4. 血液-組織間門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
5. 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I 医療薬学総合講義 II



平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6. 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			薬物動態理論	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
④代謝						
1. 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
2. 薬物代謝の第I相反応(酸化・還元・加水分解)、第II相反応(抱合)について、例を挙げて説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
3. 代表的な薬物代謝酵素(分子種)により代謝される薬物を列挙できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
4. プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
5. 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げ、説明できる。			薬物動態理論	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
⑤排泄						
1. 薬物の尿中排泄機構について説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
2. 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
3. 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
4. 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
5. 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			薬物動態理論	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
(2)薬物動態の解析						
①薬物速度論						
1. 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ(全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など)の概念を説明できる。			臨床薬物動態解析学	実務実習事前学習		臨床薬学総合講義 I
2. 線形1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる(急速静注・経口投与[単回および反復投与]、定速静注)。(知識、技能)			臨床薬物動態解析学	実務実習事前学習		臨床薬学総合講義 I
3. 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。(知識、技能)			臨床薬物動態解析学	実務実習事前学習		臨床薬学総合講義 I
4. モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。			臨床薬物動態解析学	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
5. 組織クリアランス(肝、腎)および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。			薬物動態理論 臨床薬物動態解析学	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
6. 薬物動態学-薬力学解析(PK-PD 解析)について概説できる。			臨床薬物動態解析学	臨床薬物動態学 実務実習事前学習		臨床薬学総合講義 I
②TDM (Therapeutic Drug Monitoring) と投与設計						
1. 治療薬物モニタリング(TDM)の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。			臨床薬物動態解析学	実務実習事前学習		臨床薬学総合講義 I
2. TDM を行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。			臨床薬物動態解析学	実務実習事前学習		臨床薬学総合講義 I
3. 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。(知識、技能)			臨床薬物動態解析学	実務実習事前学習		臨床薬学総合講義 I
4. ポピュレーションファーマコキネティクス の概念と応用について概説できる。			臨床薬物動態解析学	実務実習事前学習		臨床薬学総合講義 I
E5 製剤化のサイエンス						
(1)製剤の性質						
①固形材料						
1 粉体の性質について説明できる。			物理薬理学	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
2 結晶(安定形および準安定形)や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。			物理薬理学	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 II

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3 固形材料の溶解現象(溶解度、溶解平衡など)や溶解した物質の拡散と溶解度について説明できる。〔C2(2)【1酸・塩基平衡】1.及び【2各種の化学平衡】2.参照〕			物理薬剤学	医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
4 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子(pH や温度など)について説明できる。			物理薬剤学	医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
5 固形材料の溶解度や溶解度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			物理薬剤学	医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
②半固形・液状材料						
1 流動と変形(レオロジー)について説明できる。			製剤学	医療薬学特別講義I		臨床薬学総合講義I
2 高分子の構造と高分子溶液の性質(粘度など)について説明できる。			製剤学	医療薬学特別講義I		臨床薬学総合講義I
③分散系材料						
1 界面の性質(界面張力、分配平衡、吸着など)や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。〔C2(2)【2各種の化学平衡】4.参照〕			物理薬剤学	医療薬学特別講義I		
2 代表的な分散系(分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など)を列挙し、その性質について説明できる。			物理薬剤学	医療薬学特別講義I		
3 分散した粒子の安定性と分離現象(沈降など)について説明できる。			物理薬剤学	医療薬学特別講義I		
4 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			物理薬剤学	医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
④薬物及び製剤材料の物性						
1 製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。			物理薬剤学	医療薬学特別講義I		臨床薬学総合講義I
2 薬物の安定性(反応速度、複合反応など)や安定性に影響を及ぼす因子(pH、温度など)について説明できる。〔C1(3)【1反応速度】1.~7.参照〕			物理薬剤学	医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
3 薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			物理薬剤学	医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
(2)製剤設計						
①代表的な製剤						
1 製剤化の概要と意義について説明できる。			製剤学			
2 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤学	医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
3 粘膜に適用する製剤(点眼剤、吸入剤など)の種類とその特性について説明できる。			製剤学	薬物送達学 医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
4 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤学	医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
5 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤学	薬物送達学 医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
6 その他の製剤(生薬関連製剤、透析に用いる製剤など)の種類と特性について説明できる。			製剤学	医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
②製剤化と製剤試験法						
1 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。			製剤学	医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
2 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。			製剤学	医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
3 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
4 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義I		臨床薬学総合講義I 医療薬学総合講義II
③生物学的同等性						
1 製剤の特性(適用部位、製剤からの薬物の放出性など)を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義I		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3)DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム)						
①DDSの必要性						
1 DDS の概念と有用性について説明できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
2 代表的な DDS 技術を列挙し、説明できる。〔プロドラッグについては、E4(1)【4代謝】4.も参照〕				薬物送達学 医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
②コントロールドリリース(放出制御)						
1 コントロールドリリースの概要と意義について説明できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義I		
2 投与部位ごとに、代表的なコントロールドリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義I		
3 コントロールドリリース技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義I		
③ターゲティング(標的指向化)						
1 ターゲティングの概要と意義について説明できる				薬物送達学 医療薬学特別講義I		
2 投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義I		臨床薬学総合講義I
3 ターゲティング技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義I		臨床薬学総合講義I
④吸収改善						
1 吸収改善の概要と意義について説明できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義I		
2 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義I		臨床薬学総合講義I
3 吸収改善技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義I		臨床薬学総合講義I
F 薬学臨床						
(1)薬学臨床の基礎						
①早期臨床体験						
1 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する	早期臨床体験 I					
2 地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。	早期臨床体験 I					
3 一次救命処置(心肺蘇生、外傷対応等)を説明し、シミュレータを用いて実施できる。		早期臨床体験 II		事前学習		
②臨床における心構え						
1 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。				事前学習	実務実習	
2 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる				事前学習	実務実習	
3 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する				事前学習	実務実習	
4 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する					実務実習	臨床薬学総合講義II
5 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する					実務実習	臨床薬学総合講義II 実務実習事後学習
6 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。					実務実習	臨床薬学総合講義II 実務実習事後学習
7 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する					実務実習	臨床薬学総合講義II 実務実習事後学習
③臨床実習の基礎						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1 前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。	薬学概論			調剤学総論 事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
2 前) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。				薬学疾患管理学	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
3 前) 病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。	薬学概論			調剤学総論	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
4 前) 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。	薬学概論			調剤学総論	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
5 前) 薬剤師の関わる社会保障制度（医療、福祉、介護）の概略を説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
6 病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。				調剤学総論	実務実習	実務実習事後学習
7 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。				薬学疾患管理学	実務実習	実務実習事後学習
8 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。					実務実習	実務実習事後学習
9 急性期医療（救急医療・集中治療・外傷治療等）や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。					実務実習	実務実習事後学習
10 周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。					実務実習	実務実習事後学習
11 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。					実務実習	実務実習事後学習
12 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。					実務実習	実務実習事後学習
13 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。				薬学健康管理学	実務実習	実務実習事後学習
14 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	実務実習事後学習
15 来局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。					実務実習	実務実習事後学習
(2) 処方せんに基づく調剤						
①法令・規則等の理解と遵守						
1 前) 調剤業務に関わる事項（処方せん、調剤録、疑義照会等）の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。				薬学疾患管理学 事前学習		薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
2 調剤業務に関わる法的文書（処方せん、調剤録等）の適切な記載と保存・管理ができる。					実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
3 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。					実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
4 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
②処方せんと疑義照会						
1 前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。				薬学疾患管理学	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
2 前) 処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。				調剤学総論	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
3 前) 処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。				薬学疾患管理学 事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
4 前) 処方せんの監査の意義、その必要性和注意点について説明できる。				薬学疾患管理学 事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
5 前) 処方せんを監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。				調剤学総論 事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
6 前) 処方せん等に基づき疑義照会ができる。				事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
7 処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量等）が適切であるか確認できる				事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
8 注射薬処方せんの記載事項（医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等）が適切であるか確認できる				事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
9 処方せんの正しい記載方法を例示できる				事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
10 薬歴、診療録、患者の状態から処方妥当であるか判断できる					実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
11 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。					実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
③処方せんに基づく医薬品の調製						
1 前) 薬袋、薬札（ラベル）に記載すべき事項を適切に記入できる。				事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
2 前) 主な医薬品の成分（一般名）、商標名、剤形、規格等を列挙できる。				事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
3 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。				事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
4 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。				事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
5 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。				事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
6 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。				事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
7 前) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる				事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
8 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる				事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
9 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。					実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
10 適切な手順で後発医薬品を選択できる					実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
11 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。					実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
12 錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる					実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
13 一回量（一包化）調剤の必要性を判断し、実施できる。					実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
14 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる				事前学習 調剤学総論	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
15 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。				事前学習 調剤学総論	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
16 注射剤（高カロリー輸液等）の無菌的混合操作を実施できる。				事前学習 調剤学総論	実務実習	実務実習事後学習
17 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる				事前学習	実務実習	実務実習事後学習
18 特別な注意を要する医薬品（劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等）の調剤と適切な取扱いができる。					実務実習	実務実習事後学習
19 調剤された薬剤に対して、監査が実施できる				事前学習	実務実習	実務実習事後学習
④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育						
1 前) 適切な態度で、患者・来局者と対応できる。				事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
2 前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。				事前学習 調剤学総論	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
3 前) 患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。				事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
4 前) 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる				事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
5 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。				事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
6 前) 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤（眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等）の取扱い方法を説明できる				事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
7 前) 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。				薬学疾患管理学	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
8 前) 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる				調剤学総論 薬学疾患管理学	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
9 患者・来局者に合わせて適切な応対ができる。					実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
10 患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる					実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
11 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。					実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
12 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。					実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
13 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な応対ができる。					実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
14 お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる					実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
15 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる					実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
⑤医薬品の供給と管理						
1 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。				調剤学総論 事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
2 前) 医薬品管理の流れを概説できる。				調剤学総論 事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
3 前) 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚せい剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。				調剤学総論 事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
4 前) 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。				調剤学総論 事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
5 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。		同位体医療薬学		調剤学総論 事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
6 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。				調剤学総論 事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
7 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。				調剤学総論 事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
8 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。				調剤学総論 事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
9 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。					実務実習	実務実習事後学習
10 医薬品の適切な在庫管理を実施する					実務実習	
11 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。					実務実習	実務実習事後学習
12 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。					実務実習	実務実習事後学習
13 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する					実務実習	
⑥安全管理						
1 前) 処方から服薬（投薬）までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。				薬学疾患管理学 事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
2 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の特徴と注意点を列挙できる				調剤学総論 事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
3 前) 代表的なインシデント（ヒヤリハット）、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する				事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
4 前) 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。				事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
5 前) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。				事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
6 前) 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。				事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
7 前) 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。				事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
8 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の安全管理を体験する。				事前学習	実務実習	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
9 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。					実務実習	実務実習事後学習
10 施設内のインシデント（ヒヤリハット）、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる					実務実習	実務実習事後学習
11 施設内の安全管理指針を遵守する					実務実習	実務実習事後学習
12 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する					実務実習	実務実習事後学習
13 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる					実務実習	実務実習事後学習
14 院内での感染対策（予防、蔓延防止など）について具体的な提案ができる					実務実習	実務実習事後学習
(3)薬物療法の実践						
①患者情報の把握						
1 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。			医療情報学		実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
2 前) 患者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる			医療情報学		実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
3 前) 身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。			医療情報学	事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
4 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる			医療情報学		実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
5 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる			医療情報学		実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
6 患者・来局者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。					実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
7 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。					実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
②医薬品情報の収集と活用						
前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。			医療情報学		実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
2 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる					実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
3 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。					実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
4 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。					実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
5 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する					実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
6 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。					実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
③処方設計と薬物療法の実践(処方設計と提案)						
1 前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。				臨床薬物動態学 薬学疾患管理学	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
2 前) 病態（肝・腎障害など）や生理的特性（妊婦・授乳婦、小児、高齢者など）等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。				臨床薬物動態学 薬学疾患管理学	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
3 前) 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。				事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
4 前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。				事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
5 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。				調剤学総論 事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
6 前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。				調剤学総論 事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
7 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。					実務実習	薬科処方解析
8 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方立案できる。				薬学疾患管理学	実務実習	薬科処方解析
9 患者の状態（疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等）や薬剤の特徴（作用機序や製剤的性質等）に基づき、適切な処方立案できる。				薬学疾患管理学	実務実習	薬科処方解析
10 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルパスを活用できる。				薬学疾患管理学	実務実習	薬科処方解析学
11 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる					実務実習	薬科処方解析学
12 アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる					実務実習	薬科処方解析学
13 処方立案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。					実務実習	薬科処方解析学
14 処方立案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる					実務実習	薬科処方解析学
(4)処方設計と薬物療法の実践(薬物療法における効果と副作用の評価)						
1 前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。				薬学疾患管理学	実務実習	薬科処方解析
2 前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる				薬学疾患管理学	実務実習	薬科処方解析
3 前) 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる				薬学疾患管理学	実務実習	薬科処方解析
4 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる				薬学疾患管理学	実務実習	薬科処方解析
5 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定提案ができる。					実務実習	薬科処方解析学
6 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる				事前学習	実務実習	薬科処方解析学
7臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。					実務実習	薬科処方解析
8 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。					実務実習	薬科処方解析
9 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。			医薬品安全性学		実務実習	薬科処方解析
10 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる				事前学習	実務実習	薬科処方解析
11 報告に必要な要素（5W1H）に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。					実務実習	実務実習事後学習
12 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。					実務実習	実務実習事後学習
13 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる					実務実習	実務実習事後学習
(4)チーム医療への参画						
①医療機関におけるチーム医療						
1 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。				事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
2 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。				事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
3 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法（連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等）を説明できる。				薬学健康管理学 事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
4 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる					実務実習	実務実習事後学習
5 医師・看護師等の他職種と患者の状態（病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等）、治療開始後の変化（治療効果、副作用、心理状態、QOL等）の情報を共有する。					実務実習	実務実習事後学習
6 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議（カンファレンスや患者回診への参加等）する					実務実習	実務実習事後学習



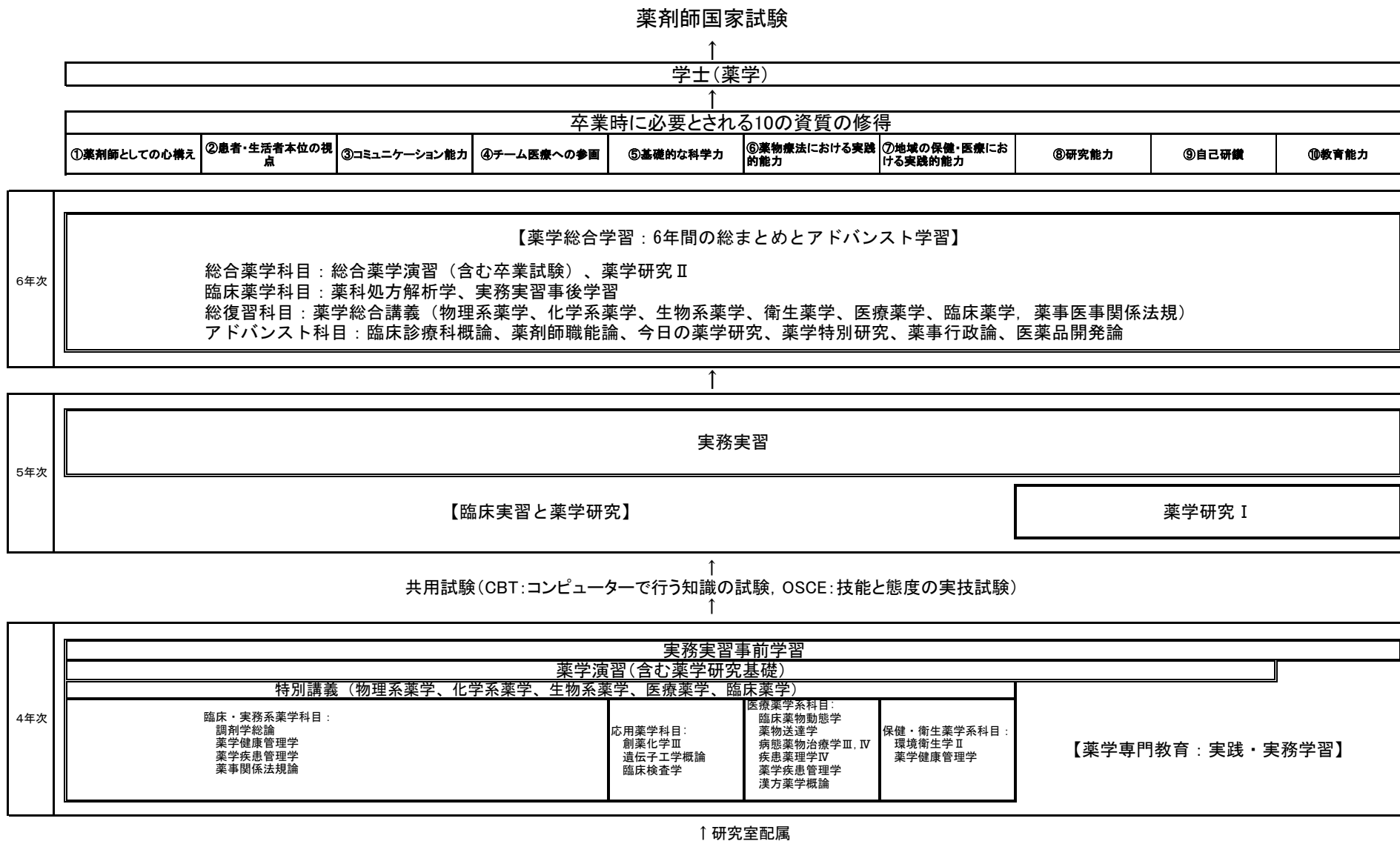
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
7 医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する					実務実習	実務実習事後学習
8 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。					実務実習	実務実習事後学習
9 病院内の多様な医療チーム（ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等）の活動に薬剤師の立場で参加できる。					実務実習	実務実習事後学習
②地域におけるチーム医療						
1前）地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制（地域包括ケア）およびその意義について説明できる。				薬学健康管理学 事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
2 前）地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する				薬学健康管理学 事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
3 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。					実務実習	実務実習事後学習
4 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する					実務実習	実務実習事後学習
(5)地域の保健・医療・福祉への参画						
①在宅（訪問）医療・介護への参画						
1 前）在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
2 前）在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
3 前）在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
4 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務（訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務）を体験する。					実務実習	実務実習事後学習
5 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。					実務実習	実務実習事後学習
6 在宅患者の病状（症状、疾患と重症度、栄養状態等）とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。					実務実習	実務実習事後学習
②地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動）への						
1 前）地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動（薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等）について説明できる。				薬学健康管理学 事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
2 前）公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。			公衆衛生学	薬学健康管理学	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
3 学校薬剤師の業務を体験する。					実務実習	
4 地域住民の衛生管理（消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等）における薬剤師活動を体験する。					実務実習	
③プライマリケア、セルフメディケーションの実践						
1 前）現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。				事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
2 前）代表的な症候（頭痛・腹痛・発熱等）を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる				薬学健康管理学 事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
3 前）代表的な症候に対する薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。				薬学健康管理学 事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
4 前）代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。				薬学健康管理学 事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
5 薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる					実務実習	実務実習事後学習
6 来局者から収集した情報や身体所見などに基づき、来局者の病状（疾患、重症度等）や体調を推測できる。					実務実習	実務実習事後学習

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
7 来局者に対して、病状に合わせた適切な対応（医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等）を選択できる					実務実習	実務実習事後学習
8 選択した薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点などを来局者に適切に判りやすく説明できる					実務実習	実務実習事後学習
9 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。					実務実習	
④災害時医療と薬剤師						
1 前) 災害時医療について概説できる。				薬学健康管理学	実務実習	
2 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。					実務実習	実務実習事後学習
3 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する					実務実習	
6 薬学研究						
(1) 薬学における研究の位置づけ						
1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。				総合薬学演習 (含む薬学研究基礎)	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ
2. 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。				総合薬学演習 (含む薬学研究基礎)	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ
3. 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)				総合薬学演習 (含む薬学研究基礎)	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ
4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)				総合薬学演習 (含む薬学研究基礎)	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ
(2) 研究に必要な法規範と倫理						
1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。				総合薬学演習 (含む薬学研究基礎)	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ
2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。				総合薬学演習 (含む薬学研究基礎)	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ
3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)A-(2)-4-3 再掲				総合薬学演習 (含む薬学研究基礎)	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ
(3) 研究の実践						
1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能)				総合薬学演習 (含む薬学研究基礎)	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ
2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能)				総合薬学演習 (含む薬学研究基礎)	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ
3. 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度)				総合薬学演習 (含む薬学研究基礎)	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ
4. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)				総合薬学演習 (含む薬学研究基礎)	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ
5. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度)				総合薬学演習 (含む薬学研究基礎)	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ
6. 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)				総合薬学演習 (含む薬学研究基礎)	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ

(基礎資料4) カリキュラム・マップ

[注] 1 カリキュラム・マップは、ディプロマ・ポリシーあるいは、求める資質への到達経路を学生に理解させるよう示すものです。

6年間の履修の流れ:カリキュラムマップ(平成27年度以降入学生)



3年次	<p>臨床・実務系薬学科目 医薬品安全性学 医療情報学 コミュニケーション学 医薬品開発・経済学</p>	<p>物理薬学系科目： 薬学物理化学Ⅲ,Ⅳ 日本薬局方Ⅰ,Ⅱ 分析化学Ⅲ,Ⅳ</p>	<p>医療薬学系科目： 疾患薬理学Ⅱ,Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅰ,Ⅱ</p>	<p>衛生薬学系科目： 環境衛生学Ⅰ 公衆衛生学</p>	<p>実習科目： 物理系実習Ⅱ,Ⅲ 化学系実習Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ 生物系実習Ⅲ,Ⅳ</p>	<p>【薬学専門教育：専門応用学習】</p>
	<p>共通教育科目： 総合教養科目 外国語科目 保健体育科目 単位互換科目</p>	<p>化学系薬学科目： 天然物化学 創薬化学Ⅰ,Ⅱ</p>	<p>物理薬剤学 製剤学 薬物動態理論 臨床薬物動態解析学</p>			
2年次	<p>臨床・実務系薬学科目 早期臨床体験Ⅱ</p>	<p>物理薬学系科目： 薬学物理化学Ⅰ,Ⅱ 分析化学Ⅰ,Ⅱ 同位体化学</p>	<p>医療薬学系科目： 疾患薬理学Ⅰ 同位体医療薬学</p>	<p>衛生薬学系科目： 食品栄養学 食品衛生学</p>	<p>実習科目： 物理系実習Ⅰ 生物系実習Ⅰ,Ⅱ</p>	<p>【薬学専門教育：専門基礎学習】</p>
	<p>共通教育科目： 総合教養科目 外国語科目 保健体育科目 単位互換科目</p>	<p>化学系薬学科目： 生薬学Ⅰ,Ⅱ 有機薬化学Ⅲ,Ⅳ</p>	<p>生物系薬学科目： 人体生化学Ⅰ,Ⅱ 機能形態学Ⅱ 微生物学 免疫学</p>			
1年次	<p>臨床・実務系薬学科目 薬学概論 早期臨床体験Ⅰ</p>	<p>物理薬学系科目： 薬学物理学入門 薬学計算法</p>				<p>【薬学入門教育：薬学や医療を取り巻く環境を理解して、薬学や医療に対する目的意識を醸成する。薬学を学ぶ上で必要な基礎知識を学ぶ。】</p> <p>【共通教育：現代社会に対する正確な理解と深い洞察力とを合わせ持ち社会的良識と幅広い視野を持つ品格のある医療人になるために、豊かな知性と感性を身につける。】</p>
	<p>共通教育科目： 総合教養科目 外国語科目 保健体育科目 単位互換科目</p>	<p>化学系薬学科目： 薬学化学入門 化学 有機薬化学Ⅰ,Ⅱ 天然医薬資源学</p>	<p>生物系薬学科目： 薬学生物学入門 機能形態学Ⅰ 生体機能分子学Ⅰ,Ⅱ</p>			

科目番号	1年次専門科目	科目番号	2年次専門科目	科目番号	3年次専門科目	科目番号	4年次専門科目	科目番号	5年次専門科目	科目番号	6年次専門科目
1P1	薬学物理学入門	2P1	薬学物理化学Ⅰ	3P1	薬学物理化学Ⅲ	4P1	※物理系薬学特別講義	5R1	※実務実習	6P1	※物理系薬学総合講義
1P2	薬学計算法	2P2	薬学物理化学Ⅱ	3P2	薬学物理化学Ⅳ	4C1	漢方薬学概論	5S1	※薬学研究Ⅰ	6C1	※化学系薬学総合講義
1C1	薬学化学入門	2P3	分析化学Ⅰ	3P3	日本薬局方Ⅰ	4C2	創薬化学Ⅲ			6B1	※生物系薬学総合講義
1C2	化学	2P4	分析化学Ⅱ	3P4	日本薬局方Ⅱ	4C3	※化学系薬学特別講義			6H1	※衛生薬学総合講義
1C3	有機薬化学Ⅰ	2P5	※物理系実習Ⅰ	3P5	分析化学Ⅲ	4B1	遺伝子工学概論			6M1	※医療薬学総合講義Ⅰ
1C4	有機薬化学Ⅱ	2C1	生薬学Ⅰ	3P6	分析化学Ⅳ	4B2	臨床検査学			6M2	※医療薬学総合講義Ⅲ
1C5	天然医薬資源学	2C2	生薬学Ⅱ	3P7	※物理系実習Ⅱ	4B3	※生物系薬学特別講義			6M3	※医療薬学総合講義Ⅳ
1B1	薬学生物学入門	2C3	有機薬化学Ⅲ	3P8	※物理系実習Ⅲ	4H1	環境衛生学Ⅱ			6Y1	薬科処方解析学
1B2	機能形態学Ⅰ	2C4	有機薬化学Ⅳ	3C1	天然物化学	4H2	※衛生薬学特別講義			6Y2	臨床薬学総合講義Ⅰ
1B3	生体機能分子学Ⅰ	2B1	人体生化学Ⅰ	3C2	創薬化学Ⅰ	4M1	病態・薬物治療学Ⅲ			6Y3	医療薬学総合講義Ⅱ
1B4	生体機能分子学Ⅱ	2B2	人体生化学Ⅱ	3C3	創薬化学Ⅱ	4M2	病態・薬物治療学Ⅳ			6R1	実務実習事後学習
1S1	薬学概論	2B3	微生物学	3C4	※化学系実習Ⅰ	4M3	疾患薬理学Ⅳ			6R2	臨床薬学総合講義Ⅱ
1S2	早期臨床体験Ⅰ	2B4	免疫学	3C5	※化学系実習Ⅱ	4M4	※医療薬学特別講義Ⅱ			6R3	※薬事・医事関係法規総合講義
		2B5	※生物系実習Ⅰ	3C6	※化学系実習Ⅲ	4Y1	薬物送達学			6S1	※薬学研究Ⅱ
		2B6	※生物系実習Ⅱ	3B1	感染症治療薬概論	4Y2	臨床薬物動態学			6S2	※総合薬学演習(含卒業試験)
		2H1	食品栄養学	3B2	人体機能調節学	4Y3	薬学健康管理学			6A1	臨床診療科概論
		2H2	食品衛生学	3H1	環境衛生学Ⅰ	4Y4	薬学疾患管理学			6A2	薬剤師職能論
		2M1	機能形態学Ⅱ	3H2	公衆衛生学	4Y5	※医療薬学特別講義Ⅰ			6A3	今日の薬学研究
		2M2	疾患薬理学Ⅰ	3H3	※生物系実習Ⅲ	4Y6	※実務実習事前学習			6A4	薬学特別研究
		2Y1	同位体化学	3M1	疾患薬理学Ⅱ	4R1	薬事関係法規論			6A5	薬事行政論
		2Y2	同位体医療薬学	3M2	疾患薬理学Ⅲ	4R2	調剤学総論			6A6	医薬品開発論
		2S1	※早期臨床体験Ⅱ	3M3	病態・薬物治療学Ⅰ	4S1	※薬学演習(含薬学研究基礎)				
				3M4	病態・薬物治療学Ⅱ						
				3M5	※生物系実習Ⅳ						
				3Y1	物理薬剤学						
				3Y2	製剤学						
				3Y3	薬物動態理論						
				3Y4	臨床薬物動態解析学						
				3Y5	医薬品安全性学						
				3Y6	医療情報学						
				3R1	コミュニケーション学						
				3R2	医薬品開発・経済学						

P	物理分野	M	薬理分野	A	アドバンスト分野
C	化学分野	Y	薬剤分野		
B	生物分野	R	実務分野		
H	衛生分野	S	総合分野		

※は必修科目

6年卒業時に必要とされる10の資質		①薬剤師としての心構え	②患者・生活者本位の視点	③コミュニケーション能力	④チーム医療への参画	⑤基礎的な科学力	⑥薬物療法における実践的能力	⑦地域の保健・医療における実践的能力	⑧研究能力	⑨自己研鑽	⑩教育能力	
資質の内容		医療の担い手として、豊かな人間性と、生命の尊厳についての深い認識をもち、薬剤師の義務及び法令を遵守するとともに、人の命と健康な生活を守る使命感、責任感及び倫理観を有する。	患者の人権を尊重し、患者及びその家族の秘密を守り、常に患者・生活者の立場に立って、これらの人々の安全と利益を最優先する。	患者・生活者、他職種から情報を適切に収集し、これらの人々に有益な情報を提供するためのコミュニケーション能力を有する。	医療機関や地域における医療チームに積極的に参画し、相互の尊重のもとに薬剤師に求められる行動を適切にとる。	生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要な科学に関する基本的知識・技能・態度を有する。	薬物療法を主体的に計画、実施、評価し、安全で有効な医薬品の使用を推進するために、医薬品を供給し、調剤、服薬指導、処方設計の提案等の薬学的管理を実践する能力を有する。	地域の保健、医療、福祉、介護及び行政等に参画・連携して、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有する。	薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を有する。	薬学・医療の進歩に対応するために、医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。	次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する。	
各資質に対応する授業科目		履修年次	科目分野	科目番号(科目番号に対応する科目名は、○頁の科目番号表を参照のこと)								
6年次	P					6P1						
	C					6C1						
	B					6B1						
	H					6H1		6H1				
	M					6M1, 6M2	6M1, 6M2, 6M3					
	Y	6Y2, 6Y3	6Y2, 6Y3	6Y2, 6Y3	6Y2, 6Y3	6Y2, 6Y3	6Y1, 6Y2, 6Y3	6Y2	6Y3	6Y2, 6Y3		
	R	6R1, 6R2, 6R3	6R1, 6R3	6R1	6R1, 6R2, 6R3		6R1, 6R2, 6R3	6R1, 6R3			6R1	
	S	6S2	6S2	6S1	6S2	6S1	6S2	6S2	6S1	6S1, 6S2	6S1	
	A	6A1, 6A2, 6A5	6A1, 6A2, 6A5	6A2, 6A4	6A1, 6A2	6A3	6A1, 6A2	6A1, 6A2, 6A5	6A1, 6A3, 6A6	6A1, 6A2, 6A3, 6A4, 6A6	6A1, 6A2, 6A4	
	5年次	P										
C												
B												
H												
M												
Y												
R		5R1	5R1	5R1	5R1	5R1	5R1	5R1	5R1	5R1	5R1	
S				5S1		5S1			5S1	5S1	5S1	
A												
4年次		P					4P1					
	C					4C1, 4C2, 4C3	4C1	4C1	4C2	4C2		
	B					4B1, 4B2, 4B3			4B1, 4B2, 4B3			
	H					4H1, 4H2		4H1, 4H2				
	M					4M3, 4M4	4M1, 4M2, 4M3, 4M4		4M1, 4M2, 4M3			
	Y	4Y3, 4Y4, 4Y5, 4Y6	4Y4, 4Y5, 4Y6	4Y6	4Y3, 4Y4, 4Y5, 4Y6	4Y1, 4Y5, 4Y6	4Y1, 4Y2, 4Y4, 4Y5, 4Y6	4Y3, 4Y6	4Y1, 4Y6	4Y1, 4Y5, 4Y6	4Y6	
	R	4R1, 4R2	4R2	4R2	4R2	4R1, 4R2		4R1				
	S	4S1	4S1	4S1	4S1	4S1		4S1	4S1			
	A											
	3年次	P			3P7, 3P8		3P1, 3P2, 3P3, 3P4, 3P5, 3P6			3P1, 3P2, 3P3, 3P4, 3P5, 3P6		
C						3C1, 3C2, 3C3, 3C4, 3C5, 3C6			3C2, 3C3, 3C4, 3C5, 3C6	3C2, 3C3, 3C4		
B			3B1		3B1	3B1, 3B2	3B1		3B1, 3B2	3B1		
H				3H3		3H1, 3H2, 3H3		3H2	3H3			
M						3M1, 3M2, 3M5	3M1, 3M2, 3M3, 3M4		3M3, 3M4, 3M5			
Y		3Y2, 3Y5	3Y5		3Y2, 3Y3	3Y1, 3Y2, 3Y3, 3Y4, 3Y5	3Y2, 3Y3, 3Y4, 3Y5, 3Y6		3Y1, 3Y3, 3Y6	3Y6		
R		3R1, 3R2	3R1, 3R2	3R1	3R1					3R2		
S												
A												
2年次		P			2P5		2P1, 2P2, 2P3, 2P4, 2P5			2P1, 2P2, 2P3, 2P4, 2P5		
	C					2C1, 2C2, 2C3, 2C4			2C3, 2C4	2C3, 2C4		
	B					2B1, 2B2, 2B3, 2B4, 2B5, 2B6	2B4		2B1, 2B2, 2B3, 2B4, 2B5, 2B6			
	H					2H1, 2H2						
	M					2M1, 2M2	2M2	2M2	2M1, 2M2	2M1, 2M2		
	Y	2Y2	2Y2			2Y1, 2Y2		2Y2	2Y1, 2Y2			
	R											
	S	2S1	2S1	2S1			2S1		3R2			
	A											
	1年次	P					1P1, 1P2					
C						1C1, 1C2, 1C3, 1C4, 1C5			1C2, 1C3, 1C4	1C2, 1C3, 1C4		
B						1B1, 1B2, 1B3, 1B4			1B1, 1B2, 1B3, 1B4	1B2		
H												
M												
Y												
R												
S		1S1, 1S2	1S1, 1S2	1S2	1S1		1S1		1S1			
A												

六年制で学ぶこと

(13台・14台)

		基礎 ←					→ 臨床、その他応用	
年次	科目	物理系薬学	化学系薬学	生物系薬学	健康と環境、法規	医薬品をつくる	薬と疾病	アドバンスト教育
1年次	薬学入門 早期体験学習 薬学概論	薬学物理学入門	薬学化学入門 有機薬化学Ⅰ,Ⅱ 天然医薬資源学	薬学生物学入門 機能形態学Ⅰ 生体機能分子学Ⅰ,Ⅱ				
2年次	共通教育科目	薬学物理化学Ⅰ,Ⅱ 分析化学Ⅰ,Ⅱ 同位体化学	生薬学Ⅰ,Ⅱ 有機薬化学Ⅲ,Ⅳ	人体生化学Ⅰ,Ⅱ 機能形態学Ⅱ 微生物学 免疫学	食品栄養学 食品衛生学		疾患薬理学Ⅰ 同位体医療薬学	
		物理系実習Ⅰ		生物系実習Ⅰ,Ⅱ				
3年次		薬学物理化学Ⅲ H本薬局方Ⅰ,Ⅱ 分析化学Ⅲ 生体成分分析学	天然物化学 創薬化学Ⅰ,Ⅱ	人体機能調節学	環境衛生学Ⅰ 公衆衛生学	物理薬理学 製剤学 薬物動態理論 臨床薬物動態解析学	感染症治療薬概論 疾患薬理学Ⅱ,Ⅲ 医薬品安全性学 病態・薬物治療学Ⅰ・Ⅱ	コミュニケーション学 医薬品開発・経済学 医療情報学
		物理系実習Ⅱ・Ⅲ	化学系実習Ⅰ～Ⅲ	生物系実習Ⅲ,Ⅳ				
4年次		1～4年前期科目総復習(薬学演習(含中間試験))						
		基礎薬学特別講義Ⅰ	基礎薬学特別講義Ⅰ	基礎薬学特別講義Ⅱ	衛生薬学特別講義	医療薬学特別講義Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ
		実務実習事前学習						
5年次		共用試験 CBT (コンピューターで行う知識の試験)						
		共用試験 OSCE (技術と態度についての試験)						
6年次		特別実習 (卒業研究)						
		実務実習 (病院実習、薬局実習)						
6年次		総合基礎薬学特別講義Ⅰ	総合基礎薬学特別講義Ⅰ	総合基礎薬学特別講義Ⅱ	総合衛生薬学特別講義 薬事・医事関係法規特別講義	薬料処方解析学	臨床診療科概論	臨床検査学Ⅱ
		総合薬学演習(含卒業試験)						
薬剤師国家試験								

六年制で学ぶこと

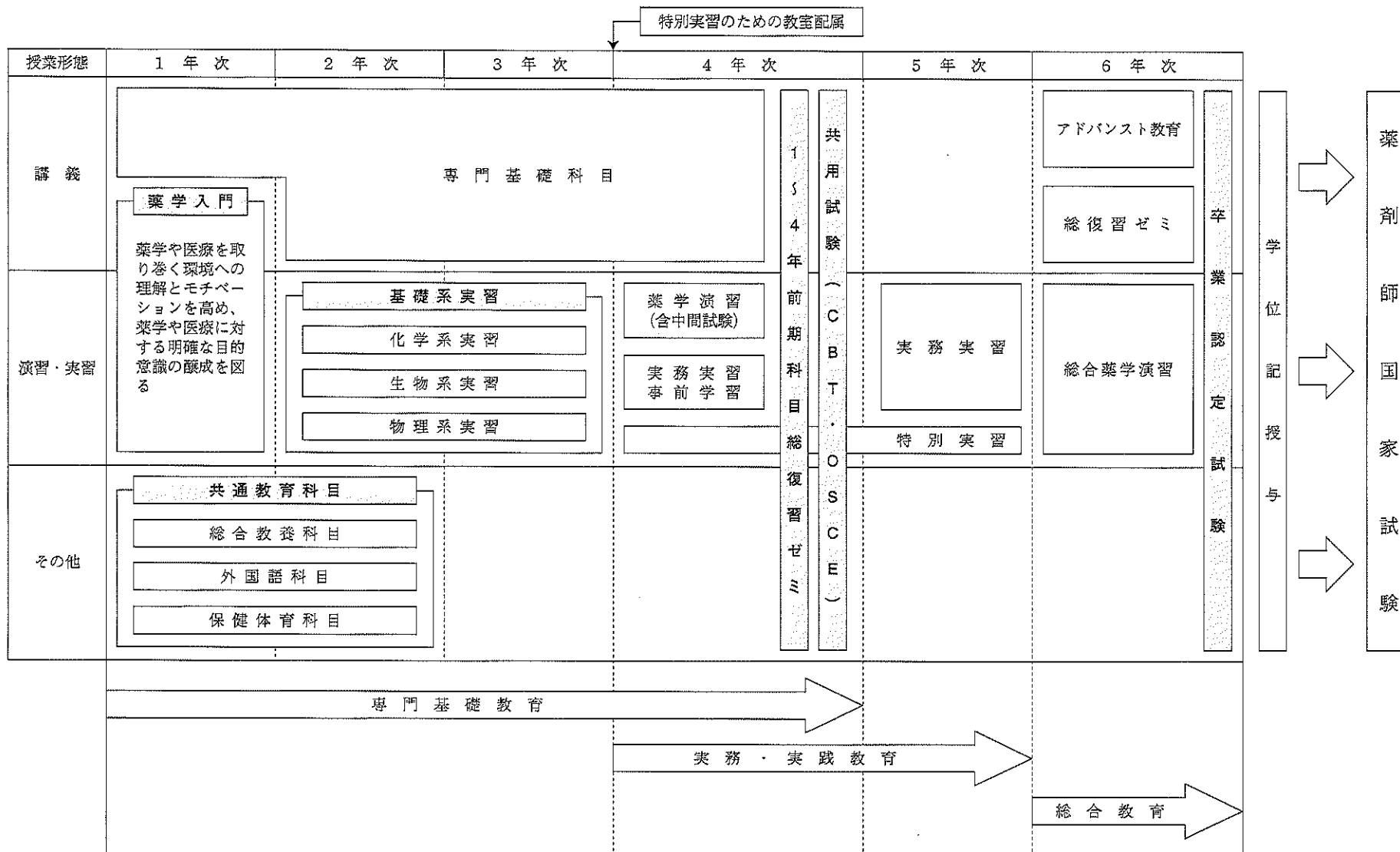
(06台~12台)

		基礎 ←					→ 臨床、その他応用	
年次	科目	物理系薬学	化学系薬学	生物系薬学	健康と環境、法規	医薬品をつくる	薬と疾病	アドバンスト教育
1年次	薬学入門 早期体験学習 薬学概論	薬学物理学入門 物理学	薬学化学入門 有機薬化学Ⅰ,Ⅱ 天然医薬資源学 化学実験	薬学生物学入門 人体生理学 生体機能分子学Ⅰ,Ⅱ 生物学実験				
2年次		薬学物理化学Ⅰ,Ⅱ 分析化学Ⅰ,Ⅱ 同位体化学 物理系実習	生薬学Ⅰ,Ⅱ 有機薬化学Ⅲ,Ⅳ 化学系実習Ⅰ,Ⅱ	人体生化学Ⅰ,Ⅱ 機能形態学 微生物学 免疫学 生物系実習Ⅰ,Ⅱ	食品栄養学 食品衛生学		基礎薬理学 同位体医療薬学	
3年次		薬物物性学 日本薬局方Ⅰ,Ⅱ 分析化学Ⅲ 生体成分分析学	天然物化学 創薬化学Ⅰ,Ⅱ 化学系実習Ⅲ,Ⅳ	人体機能調節学 生物系実習Ⅲ,Ⅳ	環境衛生学Ⅰ 公衆衛生学	製剤材料学 製剤Ⅰ,Ⅱ 薬物動態理論 臨床薬物動態解析学	感染症治療薬概論 疾患薬理学Ⅰ,Ⅱ 医薬品安全性学 病態生理学Ⅰ	コミュニケーション学 医薬品開発・経済学 医療情報学
4年次		1~4年前期科目総復習(薬学演習(含中間試験))						
		基礎薬学特別講義Ⅰ	基礎薬学特別講義Ⅰ	基礎薬学特別講義Ⅱ	衛生薬学特別講義	医療薬学特別講義Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ
		実務実習事前教育						
		共用試験 CBT (コンピューターで行う知識の試験)						
		共用試験 OSCE (技術と態度についての試験)						
5年次		特別実習 (卒業研究)						
		実務実習 (病院実習、薬局実習)						
6年次		生体機能解析学Ⅱ	医薬品素材学Ⅰ,Ⅱ	生体機能解析学Ⅰ,Ⅱ	生体機能解析学Ⅰ	医療薬理学Ⅰ,Ⅱ	臨床診療科概論Ⅰ,Ⅱ 薬効解析学Ⅰ,Ⅱ	臨床検査学Ⅱ
		総合基礎薬学特別講義Ⅰ	総合基礎薬学特別講義Ⅰ	総合基礎薬学特別講義Ⅱ	総合衛生薬学特別講義Ⅰ,Ⅱ 薬事・医事関係法規特別講義	総合医療薬学特別講義Ⅰ,Ⅲ,Ⅴ	総合医療薬学特別講義Ⅱ,Ⅳ,Ⅵ	総合医療薬学特別講義Ⅰ~Ⅵ
		総合薬学演習(含卒業試験)						
		薬剤師国家試験						



講義、実習、演習の関連

(14台以前)



平成26年度入学生 (14名)

薬学部 薬学科

※印は必修

		第1・2・3年次						第4年次		第5年次		第6年次	
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通科目	総合教養科目	人文科学	哲学A 2 哲学B 2 宗教学A 2 宗教学B 2 西本史A 2 西本史B 2 西本文学A 2 西本文学B 2	哲学B 2 倫理学A 2 倫理学B 2 東洋史A 2 東洋史B 2 西洋文学A 2 西洋文学B 2	論理学A 2 論理学B 2 日本史A 2 日本史B 2 日本文学A 2 日本文学B 2								
		社会科学	法政学A 2 法政学B 2 経済学A 2 経済学B 2 社会学A 2 社会学B 2 文化人類学A 2 文化人類学B 2	法政学B 2 政治学A 2 政治学B 2 商社会学A 2 商社会学B 2 社会心理学A 2 社会心理学B 2 文化人類学B 2	日本国憲法 2 社会学A 2 社会学B 2 商学A 2 商学B 2 心理学A 2 心理学B 2								
		自然科学	統計入門 2 生物学実験 1 地学環境 2 科学・技術・倫理と社会 2 [環境科学・倫理科学等 2]	物理学の世界 2 生命・健康と医療 2 文化と教育 2	化学実験 1 国際化と日本 2 現代を生きる 2								
		総合系科目 学修基盤											
	外国語科目	第1	※フレンチマン・イングリッシュI 1 ※フレンチマン・イングリッシュII 1 ※フレンチマン・イングリッシュIII 1 ※フレンチマン・イングリッシュIV 1	※ドイツ語I 1 ※ドイツ語II 1 ※フランス語I 1 ※フランス語II 1 ※英語基礎 2									
		第2	ドイツ語IA 2 ドイツ語IB 2 フランス語IA 2 フランス語IB 2 中国語IA 2 中国語IB 2 ロシア語IA 2 ロシア語IB 2 スペイン語IA 2 スペイン語IB 2 朝鮮語IA 2 朝鮮語IB 2	ドイツ語IIA 2 ドイツ語IIB 2 フランス語IIA 2 フランス語IIB 2 中国語IIA 2 中国語IIB 2 ロシア語IIA 2 ロシア語IIB 2 スペイン語IIA 2 スペイン語IIB 2 朝鮮語IIA 2 朝鮮語IIB 2									
	保健体育科目	※生涯スポーツ演習I 1	※生涯スポーツ演習II 1 生涯スポーツ演習III 1 生涯スポーツ演習IV 1 生涯スポーツ論 2										
	単位互換科目	他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうち薬学部教授会が適当と認める科目											
	専門教育科目	1年次科目	薬学物理学入門 2 薬学生物学入門 2 機能形態学I 2 薬学化学入門 2 化学 2 薬学計算法 2 薬学概論 1 有機薬化学I 2 有機薬化学II 2 生体機能分子学I 2 生体機能分子学II 2 天然医薬資源学 1 早期体験学習 1										
		2年次科目		薬学物理化学I 2 薬学物理化学II 2 人体生化学I 2 人体生化学II 2 機能形態学II 2 疾患薬理学I 2 疾患薬理学II 2 分析化学I 2 分析化学II 2 微生物学 2 免疫学 2 生薬学I 2 生薬学II 2 食品栄養学 2 食品衛生学 2 有機薬化学III 2 有機薬化学IV 2 同位体薬化学 2 同位体医療薬学 2 ※物理系実習I 1 ※生物系実習I 1 ※生物系実習II 1									

(注) ( ) 内は今年度休講。

※印は必修

	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次		第6年次		
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
専門教育科目	3年次科目			薬学物理化学Ⅱ	1								
				コミュニケーション学	1								
				感染症治療薬概論	1								
				天然物化学	1								
				人体機能調節学	1								
				日本薬局方Ⅰ	1								
				日本薬局方Ⅱ	1								
				疾患薬理学Ⅰ	1								
				疾患薬理学Ⅱ	1								
				物理薬剤学	1								
				製剤学	1								
				薬物動態理論	1								
				臨床薬物動態解析学	1								
				創薬化学Ⅰ	1								
				創薬化学Ⅱ	1								
				環境衛生学Ⅰ	1								
				公衆衛生学Ⅰ	1								
		分析化学Ⅲ	1										
		生体成分分析学	1										
		医薬品開発・経済学	1										
		医薬品安全性学	1										
		医療情報学	1										
		病態・薬物治療学Ⅰ	1										
		病態・薬物治療学Ⅱ	1										
		※物理系実習Ⅱ	1										
		※物理系実習Ⅲ	1										
		※化学系実習Ⅰ	1										
		※化学系実習Ⅱ	1										
		※化学系実習Ⅲ	1										
		※生物系実習Ⅳ	1										
	4年次科目					病態・薬物治療学Ⅲ	1						
						病態・薬物治療学Ⅳ	1						
						疾患薬理学Ⅳ	1						
						薬物送達学	1						
						臨床薬物動態学	1						
						薬学健康管理学	1						
						薬事関係法規論	1						
						漢方薬学概論	1						
						環境衛生学Ⅱ	1						
						遺伝子工学概論	1						
						創薬化学Ⅲ	1						
						調剤学総論	1						
						臨床検査学Ⅰ	1						
						薬学疾患管理学	1						
						基礎薬学特別講義Ⅰ	2						
						基礎薬学特別講義Ⅱ	2						
						衛生薬学特別講義Ⅰ	2						
					医療薬学特別講義Ⅰ	2							
					医療薬学特別講義Ⅱ	2							
					※薬学演習(含中間試験)	2							
					※実務実習事前学習	4							
	5年次科目								※実務実習	20			
									※特別実習	14			
	6年次科目										臨床診療科概論	2	
											臨床検査学Ⅱ	2	
											薬科処方解析学	2	
											薬剤師の科能について	2	
											アドバンスト特別実習	2	
											今日の薬学研究	2	
											総合基礎薬学特別講義Ⅰ	2	
											総合基礎薬学特別講義Ⅱ	2	
											総合衛生薬学特別講義	2	
											総合医療薬学特別講義Ⅰ	2	
											総合医療薬学特別講義Ⅱ	2	
											総合医療薬学特別講義Ⅲ	2	
											総合医療薬学特別講義Ⅳ	2	
										総合医療薬学特別講義Ⅴ	2		
										総合医療薬学特別講義Ⅵ	2		
										薬事・医療関係法規特別講義	2		
										※総合薬学演習(含卒論試験)	2		

平成25年度入学生 (13台)

薬学部 薬学科

※印は必修

		第1・2・3年次						第4年次		第5年次		第6年次	
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通教育科目	総合科目	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	倫理学A	2					
			理学B	2	倫理学A	2	倫理学B	2					
			宗教学A	2	宗教学B	2	日本史A	2					
			東洋史A	2	東洋史B	2	東洋史B	2					
			西学A	2	西学B	2	日本文学A	2					
	社会科学	政治学A	2	政治学B	2	日本国憲法	2						
		経済学B	2	商学A	2	経済学A	2						
		社会学A	2	社会学B	2	商学B	2						
		地理学B	2	心理学A	2	地理学A	2						
		文化人類学A	2	文化人類学B	2	心理学B	2						
自然科学	統計入門	2	物理の世界	2	化学実験	1							
	生物学実験	1											
	(地球環境)	2	(施設と医療)	2	(生命倫理と医療技術)	2							
	(国際化と日本)	2	(人口と食糧)	2	(戦争と平和)	2							
	(情報と社会)	2	(文化と教育)	2	(地域文化)	2							
外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インテグレートⅠ	1								
		※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インテグレートⅡ	1								
		※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インテグレートⅢ	1								
		※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インテグレートⅣ	1								
		※フレッシュマン・イングリッシュⅤ	1	海外英語研修	2								
	第2	ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2								
		ドイツ語ⅠB	2	ドイツ語ⅡB	2								
		フランス語ⅠA	2	フランス語ⅡA	2								
		フランス語ⅠB	2	フランス語ⅡB	2								
		中国語ⅠA	2	中国語ⅡA	2								
保健体育科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ演習Ⅱ	1									
			生涯スポーツ演習Ⅲ	1									
			生涯スポーツ演習Ⅳ	1									
			生涯スポーツ論	2									
	単位互換科目	他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち薬学部教授会が適当と認める科目											
専門教育科目	1年次科目	薬学物理学入門	2										
		薬学生物学入門	2										
		機能形態学Ⅰ	2										
		薬学化学入門	2										
		薬学計算法	2										
	2年次科目	薬学仮論	1										
		有機薬化学Ⅰ	2	薬学物理化学Ⅰ	2								
		有機薬化学Ⅱ	2	薬学物理化学Ⅱ	2								
		生体機能分子学Ⅰ	2	人体生化学Ⅰ	2								
		生体機能分子学Ⅱ	2	人体生化学Ⅱ	2								
天然医薬資源学	2	機能形態学Ⅱ	2										
早期体験学習	1	薬学病理学Ⅰ	2										
		薬学病理学Ⅱ	2										
		人体生化学Ⅲ	2										
		人体生化学Ⅳ	2										
		機能形態学Ⅲ	2										
		機能形態学Ⅳ	2										
		薬学病理学Ⅲ	2										
		薬学病理学Ⅳ	2										
		食品衛生学Ⅰ	2										
		食品衛生学Ⅱ	2										
		有機薬化学Ⅲ	2										
		有機薬化学Ⅳ	2										
		同位体薬理学	2										
		同位体薬理学Ⅱ	2										
		※物理系実習Ⅰ	1										
		※生物系実習Ⅰ	1										
		※生物系実習Ⅱ	1										

(注) ( )内は今年度休講。

※印は必修

		第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次		第6年次		
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
専 門 教 育 科 目	3 年 次 科 目					薬学物理化学Ⅲ	1							
						コミュニケーション学	1							
						感染症治療薬概論	1							
						天然物化学	1							
						人体機能調節学	1							
						日本薬局方Ⅰ	1							
						日本薬局方Ⅱ	1							
						疾患薬理学Ⅱ	1							
						疾患薬理学Ⅲ	1							
						物理薬剤学	1							
						製剤学	1							
						薬物動態概論	1							
				臨床薬物動態解析学	1									
				創薬化学Ⅰ	1									
				創薬化学Ⅱ	1									
				環境衛生学Ⅰ	1									
				公衆衛生学	1									
				分析化学Ⅲ	1									
				生体成分分析学	1									
				医薬品開発・経済学	1									
				医薬品安全性学	1									
				医療情報学	1									
				病態・薬物治療学Ⅰ	1									
				病態・薬物治療学Ⅱ	1									
				※物理系実習Ⅱ	1									
				※物理系実習Ⅲ	1									
				※化学系実習Ⅰ	1									
				※化学系実習Ⅱ	1									
				※化学系実習Ⅲ	1									
				※生物系実習Ⅲ	1									
				※生物系実習Ⅳ	1									
	4 年 次 科 目					病態・薬物治療学Ⅲ	1							
						病態・薬物治療学Ⅳ	1							
						疾患薬理学Ⅳ	1							
						薬物送達学	1							
						臨床薬物動態学	1							
						薬学健康管理学	1							
						薬事関係法規論	1							
						漢方薬学概論	1							
						環境衛生学Ⅱ	1							
						遺伝子工学概論	1							
						創薬化学Ⅲ	1							
						製剤学総論	1							
					臨床検査学Ⅰ	1								
					薬学疾患管理学	1								
					基礎薬学特別講義Ⅰ	2								
					基礎薬学特別講義Ⅱ	2								
					衛生薬学特別講義	2								
					医療薬学特別講義Ⅰ	2								
					医療薬学特別講義Ⅱ	2								
					※薬学演習(含中間試験)	2								
					※実務実習前学習	4								
	5年次科目									※実務実習	20			
										※特別実習	14			
	6 年 次 科 目											臨床診療科概論	2	
												臨床検査学Ⅱ	2	
												薬科処方解析学	2	
												薬剤師の職能について	2	
												アドバンスト特別実習	2	
												今日の薬学研究	2	
												総合基礎薬学特別講義Ⅰ	2	
												総合基礎薬学特別講義Ⅱ	2	
												総合衛生薬学特別講義	2	
												総合医療薬学特別講義Ⅰ	2	
												総合医療薬学特別講義Ⅱ	2	
												総合医療薬学特別講義Ⅲ	2	
											総合医療薬学特別講義Ⅳ	2		
											総合医療薬学特別講義Ⅴ	2		
											総合医療薬学特別講義Ⅵ	2		
											薬事・医薬関係法規特別講義	2		
											※総合薬学演習(含卒業試験)	2		

平成20~24年度入学生 (08~12台)

薬学部 薬学科

※印は必修

		第1・2・3年次						第4年次		第5年次		第6年次	
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通教育科目	人文科学	哲学A 2 倫理学B 2 宗教学A 2 日本史B 2 西洋史A 2 日本文学B 2 西洋文学A 2 芸術B 2		哲学B 2 倫理学A 2 宗教学B 2 東洋史A 2 西洋史B 2 中国文学A 2 西洋文学B 2		倫理学A 2 倫理学B 2 日本史A 2 東洋史B 2 日本文学A 2 中国文学B 2							
	社会科学	政治学A 2 政治学B 2 経済学A 2 社会学A 2 社会学B 2		政治学B 2 政治学A 2 商学A 2 社会学B 2 心理学A 2		日本国憲法 2 経済学A 2 経済学B 2 商学A 2 商学B 2 心理学B 2							
	総合系科目	(地球環境) 2 (国際化と日本) 2 (情報と社会) 2 (科学・技術と社会) 2		(健康と医療) 2 (人口と食糧) 2 (文化と教育) 2 (現代を生きる) 2		(生命倫理と医療技術) 2 (戦争と平和) 2 (地域文化) 2							
外国語科目	第1	※フレキシブル・イングリッシュI 1 ※フレキシブル・イングリッシュII 1 ※フレキシブル・イングリッシュIII 1 ※フレキシブル・イングリッシュIV 1		※フレキシブル・イングリッシュI 1 ※フレキシブル・イングリッシュII 1 ※フレキシブル・イングリッシュIII 1 ※フレキシブル・イングリッシュIV 1 海外英語研修 2									
	第2	ドイツ語IA 2 ドイツ語IB 2 フランス語IA 2 フランス語IB 2 中国語IA 2 中国語IB 2 ロシア語IA 2 ロシア語IB 2 スペイン語IA 2 スペイン語IB 2 朝鮮語IA 2 朝鮮語IB 2		ドイツ語IIA 2 ドイツ語IIB 2 フランス語IIA 2 フランス語IIB 2 中国語IIA 2 中国語IIB 2 ロシア語IIA 2 ロシア語IIB 2 スペイン語IIA 2 スペイン語IIB 2 朝鮮語IIA 2 朝鮮語IIB 2									
保健体育科目	※生涯スポーツ演習I 1		※生涯スポーツ演習II 1		生涯スポーツ演習III 1 生涯スポーツ演習IV 1 生涯スポーツ論 2								
専門教育科目	1年次科目	薬学物理学入門 2 薬学理学入門 2 薬学生物学入門 2 薬学化学入門 2 化学計算法 2 薬学統計学 2 薬学概論 2 有機薬化学I 2 有機薬化学II 2 生体機能分子学I 2 生体機能分子学II 2 天然医薬資源学 2 早期体験学習 1 化学実験 1 生物学実験 1											
	2年次科目			薬学物理化学I 2 薬学物理化学II 2 人体生化学I 2 人体生化学II 2 機能形態薬理学 2 基礎薬理学 2 分析化学I 2 分析化学II 2 微生物学 2 免疫薬学 2 生薬学I 2 生薬学II 2 食品薬理学 2 食品衛生学 2 有機薬化学III 2 有機薬化学IV 2 同位体化学 2 同位体医薬薬学 2 ※物理系実習I 1 ※物理系実習II 1 ※化学系実習I 1 ※化学系実習II 1 ※生物系実習I 1 ※生物系実習II 1									

(注) [ ]内は今年度休講。

※印は必修

		第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次		第6年次				
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位			
専 門 教 育 科 目	3 年 次 科 目					薬品物性学 I 1 コミュニケーション学 I 1 感染症治療薬概論 I 1 天然物化学 I 1 人体機能調節学 I 1 日本薬局方I I 1 日本薬局方II I 1 疾患薬理学I I 1 疾患薬理学II I 1 製剤材料科学 I 1 製剤工学 I 1 薬物動態理論 I 1 臨床薬物動態解析学 I 1 創薬化学I I 1 創薬化学II I 1 環境衛生学I I 1 公衆衛生学 I 1 分析化学III I 1 生体成分分析学 I 1 医薬品開発・経済学 I 1 医薬品安全性学 I 1 医療情報学 I 1 病態生理学I I 1 ※化学系実習III I 1 ※化学系実習IV I 1 ※生物系実習III I 1 ※生物系実習IV I 1										
	4 年 次 科 目							臨床薬物治療学I I 1 臨床薬物治療学II I 1 疾患薬理学III I 1 薬物送達学 I 1 臨床薬物動態学 I 1 薬学健康管理学 I 1 薬事関係法規論 I 1 漢方薬学概論 I 1 環境衛生学II I 1 遺伝子工学概論 I 1 創薬化学III I 1 病態生理学II I 1 調剤学総論 I 1 臨床検査学I I 1 薬学疾患管理学 I 1 基礎薬学特別講義I I 2 基礎薬学特別講義II I 2 衛生薬学特別講義 I 2 医療薬学特別講義I I 2 医療薬学特別講義II I 2 ※薬学演習(含中間試験) I 2 ※実務実習事前教育 I 4								
	5 年 次 科 目									※実務実習 I 20 ※特別実習 I 14						
	6 年 次 科 目											臨床診療科概論I I 1 臨床診療科概論II I 1 臨床検査学II I 1 医療薬理学I I 1 医療薬理学II I 1 生体機能解析学I I 1 生体機能解析学II I 1 医薬品素材学I I 1 医薬品素材学II I 1 薬効解析学I I 1 薬効解析学II I 1 総合基礎薬学特別講義I I 2 総合基礎薬学特別講義II I 2 総合衛生薬学特別講義I I 2 総合衛生薬学特別講義II I 2 総合医療薬学特別講義I I 2 総合医療薬学特別講義II I 2 総合医療薬学特別講義III I 2 総合医療薬学特別講義IV I 2 総合医療薬学特別講義V I 2 総合医療薬学特別講義VI I 2 薬事・法規関係法規特別講義 I 2 ※総合薬学演習(含卒業試験) I 2				

(基礎資料5) 語学教育の要素

(新カリキュラム)

科目名	開講年次	要素			
		読み	書き	聞く	話す
フレッシュマン・イングリッシュI~IV	1	○	○	○	○
インターミディエイト・イングリッシュI~IV	2	○	○	○	○
海外英語研修	2	○	○	○	○
アドバンスト・イングリッシュI、II	3	○	○	○	○
ドイツ語IA・IB	1	○	○	○	○
フランス語IA・IB	1	○	○	○	○
中国語IA・IB	1	○	○	○	○
ロシア語IA・IB	1	○	○	○	○
スペイン語IA・IB	1	○	○	○	○
朝鮮語IA・IB	1	○	○	○	○
ドイツ語IIA・IIB	2	○	○	○	○
フランス語IIA・IIB	2	○	○	○	○
中国語IIA・IIB	2	○	○	○	○
ロシア語IIA・IIB	2	○	○	○	○
スペイン語IIA・IIB	2	○	○	○	○
朝鮮語IIA・IIB	2	○	○	○	○
薬学演習 (含薬学研究基礎)	4	○	○		
薬学研究 I	5	○	○		
総合薬学演習 (含卒業試験)	6	○	○		

[注] 要素欄の該当するものに○印をお付けください。



(基礎資料5) 語学教育の要素

(旧カリキュラム)

科目名	開講年次	要素			
		読み	書き	聞く	話す
フレッシュマン・イングリッシュI~IV	1	○	○	○	○
インターミディエイト・イングリッシュI~IV	2	○	○	○	○
海外英語研修	2	○	○	○	○
ドイツ語IA・IB	1	○	○	○	○
フランス語IA・IB	1	○	○	○	○
中国語IA・IB	1	○	○	○	○
ロシア語IA・IB	1	○	○	○	○
スペイン語IA・IB	1	○	○	○	○
朝鮮語IA・IB	1	○	○	○	○
ドイツ語IIA・IIB	2	○	○	○	○
フランス語IIA・IIB	2	○	○	○	○
中国語IIA・IIB	2	○	○	○	○
ロシア語IIA・IIB	2	○	○	○	○
スペイン語IIA・IIB	2	○	○	○	○
朝鮮語IIA・IIB	2	○	○	○	○
薬学演習(含中間試験)	4	○	○		
特別実習	5	○	○		
総合薬学演習(含卒業試験)	6	○	○		

[注] 要素欄の該当するものに○印をお付けください。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

\*前期(4月～6月)は、4班に分けてローテーションする

平成30年4月								
(週)	(曜日)	(日)	班	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月							
	火							
	水							
	木							
	金							
第2週	月							
	火							
	水							
	木							
	金	1	全班			S407, 408, 409 講義・演習		
第3週	月							
	火	2	①				S407 実習	
	水							
	木	3	①				S407 実習	
	金	4	①				S407 実習	
第4週	月							
	火	2	②				S407 実習	
	水							
	木	3	②				S407 実習	
	金	4	②				S407 実習	

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号(主となる)と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートをコピーして適宜追加し、作成してください。
  - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。(例示:学祭、OSCE、予備日、祝日)
  - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成30年5月								
(週)	(曜日)	(日)	班	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月							
	火							
	水							
	木							
	金							
第2週	月							
	火	2	③				S407 実習	
	水							
	木	3	③				S407 実習	
	金	4	③				S407 実習	
第3週	月							
	火	2	④				S407 実習	
	水							
	木	3	④				S407 実習	
	金	4	④				S407 実習	
第4週	月							
	火	5	①				S408~410 実習	
	水							
	木	6	①				S408~410 実習	
	金	7	①				S408~410 実習	
第5週	月							
	火	5	②				S408~410 実習	
	水							
	木	6	②				S408~410 実習	
	金							

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートをコピーして適宜追加し、作成してください。
  - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）
  - 3 **上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。**

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成28年6月								
(週)	(曜日)	(日)	班	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月							
	火							
	水							
	木							
	金	7	②				S408~410 実習	
第2週	月							
	火	5	③				S408~410 実習	
	水							
	木	6	③				S408~410 実習	
	金	7	③				S408~410 実習	
第3週	月							
	火	5	④				S408~410 実習	
	水							
	木	6	④				S408~410 実習	
	金	7	②				S408~410 実習	
第4週	月							
	火							
	水							
	木							
	金							
第5週	月							
	火							
	水							
	木							
	金							

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートをコピーして適宜追加し、作成してください。
  - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）
  - 3 **上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。**

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

\* 後期(9月~12月)は、全体を6グループに分け、各項目をローテーションする。

平成30年9月								
(週)	(曜日)	(日)	班	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月							
	火							
	水							
	木							
	金							
第2週	月							
	火							
	水							
	木							
	金							
第3週	月							
	火							
	水							
	木							
	金	1日	全班				S101~S107 講義・演習	
第4週	月	2日	A			S210, 211実習	S411~413実習	
			B			S210実習 (S201~202講義)		
			C					
			D			S504, 505講義、フィジカルマネジメント実習		
			E					
			F					
	水	3日	A			S210, 211実習	S411~413実習	
			B			S210実習 (S201~202講義)		
			C					
			D			S504, 505講義、フィジカルマネジメント実習		
			E					
			F					
	木	4日	A			S210, 211実習	S411~413実習	
			B			S210実習 (S201~202講義)		
			C					
			D			S504, 505講義、フィジカルマネジメント実習		
			E					
			F					
	金	5日	A			S210, 211実習	S411~413実習	
			B			S210実習 (S201~202講義)		
			C					
			D			S504, 505講義、フィジカルマネジメント実習		
			E					
			F					
第5週	月	6日	A			S205~208講義、TDM演習		
			B			S210, 211実習	S411~413実習	
			C			S210実習 (S201~202講義)		
			D			S602, 604講義、S603, 606 演習		
			E			S504, 505講義、フィジカルマネジメント実習		
			F					
	水	7日	A			S205~208講義、TDM演習		
			B			S210, 211実習	S411~413実習	
			C			S210実習 (S201~202講義)		
			D			S602, 604講義、S603, 606 演習		
			E			S504, 505講義、フィジカルマネジメント実習		
			F					
	木	8日	A			S205~208講義、TDM演習		
			B			S210, 211実習	S411~413実習	
			C			S210実習 (S201~202講義)		
			D			S602, 604講義、S603, 606 演習		
			E			S504, 505講義、フィジカルマネジメント実習		
			F					
	金	9日	A			S205~208講義、TDM演習		
			B			S210, 211実習	S411~413実習	
			C			S210実習 (S201~202講義)		
			D			S602, 604講義、S603, 606 演習		
			E			S504, 505講義、フィジカルマネジメント実習		
			F					

- [注] 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号(主となる)と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートをコピーして適宜追加し、作成してください。
- 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。(例示:学祭、OSCE、予備日、祝日)
- 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

		平成30年10月					
週	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	火	10日	A				
			B			S205～208講義、T08演習	
			C		S210, 211実習	S411～413実習	
			D		S210実習 (S201～202講義)		
			E		S602, 604講義, S603, 606 演習		
			F		S504, 505講義, 7/12 8/17/23/27実習		
	水	11日	A			S205～208講義, T08演習	
			B		S210, 211実習	S411～413実習	
			C		S210実習 (S201～202講義)		
			D		S602, 604講義, S603, 606 演習		
			E		S504, 505講義, 7/12 8/17/23/27実習		
			F				
	木	12日	A			S205～208講義, T08演習	
			B		S210, 211実習	S411～413実習	
			C		S210実習 (S201～202講義)		
			D		S602, 604講義, S603, 606 演習		
			E		S504, 505講義, 7/12 8/17/23/27実習		
			F				
	金	13日	A			S205～208講義, T08演習	
			B		S210, 211実習	S411～413実習	
			C		S210実習 (S201～202講義)		
			D		S602, 604講義, S603, 606 演習		
			E		S504, 505講義, 7/12 8/17/23/27実習		
			F				
第2週	火	14日	A			S504, 505講義, 7/12 8/17/23/27実習	
			B			S205～208講義, T08演習	
			C		S210, 211実習	S411～413実習	
			D		S210実習 (S201～202講義)		
			E		S602, 604講義, S603, 606 演習		
			F		S504, 505講義, 7/12 8/17/23/27実習		
	水	15日	A			S205～208講義, T08演習	
			B		S210, 211実習	S411～413実習	
			C		S210実習 (S201～202講義)		
			D		S602, 604講義, S603, 606 演習		
			E		S504, 505講義, 7/12 8/17/23/27実習		
			F				
	木	16日	A			S205～208講義, T08演習	
			B		S210, 211実習	S411～413実習	
			C		S210実習 (S201～202講義)		
			D		S602, 604講義, S603, 606 演習		
			E		S504, 505講義, 7/12 8/17/23/27実習		
			F				
	金	17日	A			S205～208講義, T08演習	
			B		S210, 211実習	S411～413実習	
			C		S210実習 (S201～202講義)		
			D		S602, 604講義, S603, 606 演習		
			E		S504, 505講義, 7/12 8/17/23/27実習		
			F				
第3週	火	18日	A			S602, 604講義, S603, 606 演習	
			B		S504, 505講義, 7/12 8/17/23/27実習		
			C			S205～208講義, T08演習	
			D		S210, 211実習	S411～413実習	
			E		S210実習 (S201～202講義)		
			F		S602, 604講義, S603, 606 演習		
	水	19日	A			S602, 604講義, S603, 606 演習	
			B		S504, 505講義, 7/12 8/17/23/27実習		
			C			S205～208講義, T08演習	
			D		S210, 211実習	S411～413実習	
			E		S210実習 (S201～202講義)		
			F		S602, 604講義, S603, 606 演習		
	木	20日	A			S602, 604講義, S603, 606 演習	
			B		S504, 505講義, 7/12 8/17/23/27実習		
			C			S205～208講義, T08演習	
			D		S210, 211実習	S411～413実習	
			E		S210実習 (S201～202講義)		
			F		S602, 604講義, S603, 606 演習		
	金	21日	A			S602, 604講義, S603, 606 演習	
			B		S504, 505講義, 7/12 8/17/23/27実習		
			C			S205～208講義, T08演習	
			D		S210, 211実習	S411～413実習	
			E		S210実習 (S201～202講義)		
			F		S602, 604講義, S603, 606 演習		
第4週	火	22日	A			S210実習 (S201～202講義)	
			B			S602, 604講義, S603, 606 演習	
			C		S504, 505講義, 7/12 8/17/23/27実習		
			D			S205～208講義, T08演習	
			E		S210, 211実習	S411～413実習	
			F		S210実習 (S201～202講義)		
	水	23日	A			S210実習 (S201～202講義)	
			B			S602, 604講義, S603, 606 演習	
			C		S504, 505講義, 7/12 8/17/23/27実習		
			D			S205～208講義, T08演習	
			E		S210, 211実習	S411～413実習	
			F		S210実習 (S201～202講義)		
	木	24日	A			S210実習 (S201～202講義)	
			B			S602, 604講義, S603, 606 演習	
			C		S504, 505講義, 7/12 8/17/23/27実習		
			D			S205～208講義, T08演習	
			E		S210, 211実習	S411～413実習	
			F		S210実習 (S201～202講義)		
	金	25日	A			S210実習 (S201～202講義)	
			B			S602, 604講義, S603, 606 演習	
			C		S504, 505講義, 7/12 8/17/23/27実習		
			D			S205～208講義, T08演習	
			E		S210, 211実習	S411～413実習	
			F		S210実習 (S201～202講義)		
第5週	火	26日	A				
			B				
			C			S602, 604講義, S603, 606 演習	
			D				
			E				
			F			S205～208講義, T08演習	
	水	27日	A				
			B				
			C			S602, 604講義, S603, 606 演習	
			D				
			E				
			F			S205～208講義, T08演習	
	木	28日	A				
			B				
			C			S602, 604講義, S603, 606 演習	
			D				
			E				
			F			S205～208講義, T08演習	
	金	29日	A				
			B				
			C			S602, 604講義, S603, 606 演習	
			D				
			E				
			F			S205～208講義, T08演習	

[注] 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを御示に便し、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方針」で用いられている競争(定本)と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートをコピーして適宜追加し、作成してください。

2 大学行事、祭日等は、表頭に記入してください。(例示：学祭、05E、予備日、祝日)

3 上記1の内容が記載されていれば、次期抽選の選定を無効とする事ができます。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成30年11月									
(週)	(曜日)	(日)	班	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	
第1週	木	28日	A						
			B						
			C				S602.604講義、S603.606 演習		
			D						
			E						
			F				S205~208講義、TDM演習		
金						学園祭 休日			
第2週	月								
	火	29日	A						
			B						
			C				S602.604講義、S603.606 演習		
			D						
			E						
			F				S205~208講義、TDM演習		
	水	30日	A			S210実習	S411~413実習	S210.211実習	
			B			S210.211実習	S210実習	S411~413実習	
			C			S411~413実習	S210.211実習	S210実習	
			D						
			E						
			F						
	木	31日	A			S210実習	S411~413実習	S210.211実習	
			B			S210.211実習	S210実習	S411~413実習	
			C			S411~413実習	S210.211実習	S210実習	
			D						
			E						
			F						
	金	32日	A						
			B						
			C						
			D			S210実習	S411~413実習	S210.211実習	
			E			S210.211実習	S210実習	S411~413実習	
F					S411~413実習	S210.211実習	S210実習		
第3週	月								
	火	33日	A						
			B						
			C						
			D				S210実習	S411~413実習	S210.211実習
			E				S210.211実習	S210実習	S411~413実習
			F				S411~413実習	S210.211実習	S210実習
	水		A					予備日	
			B						
			C						
			D						
			E						
			F						
	木		A					予備日	
			B						
			C						
			D						
			E						
			F						
	金		A					予備日	
			B						
			C						
			D						
			E						
F									
第4週	月								
	火								
	水								
	木								
	金								
第5週	月								
	火								
	水								
	木								
	金								

- [注]
- 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートをコピーして適宜追加し、作成してください。
  - 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）
  - 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式を提出することができます。**

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成30年12月								
(週)	(曜日)	(日)	班	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週								
第2週	月							
	火							
	水							
	木	34日	全班	OSCE説明会		S701 (ローテーション)		
	金	35日	全班	S701 (ローテーション)				
第3週	月	37日	全班	S701 (ローテーション)				
	火	38日	全班	S701 (ローテーション)				
	水							
	木							
	金							
	土			OSCE1日目				
	日			OSCE2日目				

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号(主となる)と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートをコピーして適宜追加し、作成してください。
  - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。(例示:学祭、OSCE、予備日、祝日)
  - 3 **上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。**



(基礎資料7) 学生受入状況について(入学試験種類別)

学部	学科名	入試の種類		平成26年度入試	平成27年度入試	平成28年度入試	平成29年度入試	平成30年度入試	平成31年度入試	募集定員数に対する 入学者数の比率 (6年間の平均)
				(25年度実施)	(26年度実施)	(27年度実施)	(28年度実施)	(29年度実施)	(30年度実施)	
薬学部	一般入試(系統別日程)	受験者数		463	442	363	359	359	340	131
		合格者数		83	30	39	50	54	75	
		入学者数(A)		28	4	14	15	12	22	
		募集定員数(B)		10	10	10	15	15	15	
		A/B*100(%)		280	40	140	100	80	147	
	一般入試(前期日程+理科重視)	受験者数		1,812	1,743	1,671	1,650	1,507	1,393	114
		合格者数		402	303	351	355	349	304	
		入学者数(A)		168	137	122	144	133	114	
		募集定員数(B)		120	120	120	120	120	115	
		A/B*100(%)		140	114	102	120	111	99	
	一般入試(後期日程)	受験者数		200	188	173	150	156	122	95
		合格者数		10	20	22	10	10	18	
		入学者数(A)		4	13	16	5	7	12	
		募集定員数(B)		10	10	10	10	10	10	
		A/B*100(%)		40	130	160	50	70	120	
	センタープラス型入試	受験者数		385	379	333	319	304	313	67
		合格者数		61	66	65	60	57	58	
		入学者数(A)		4	9	13	2	6	6	
		募集定員数(B)		10	10	10	10	10	10	
		A/B*100(%)		40	90	130	20	60	60	
センター試験利用入試(I型)	受験者数		398	419	362	339	326	278	25	
	合格者数		62	52	67	70	66	53		
	入学者数(A)		8	1	2	0	3	1		
	募集定員数(B)		10	10	10	10	10	10		
	A/B*100(%)		80	10	20	0	30	10		
センター試験利用入試(II型)	受験者数				32	114	167	174	85	
	合格者数				16	22	35	38		
	入学者数(A)				2	2	9	8		
	募集定員数(B)				5	5	5	10		
	A/B*100(%)				40	40	180	80		
A方式推薦	受験者数		162	145	152	120	146	110	100	
	合格者数		40	35	36	30	30	30		
	入学者数(A)		40	35	36	30	30	30		
	募集定員数(B)		40	35	35	30	30	30		
	A/B*100(%)		100	100	103	100	100	100		
指定校推薦	受験者数		28	32	30	33	32	34	100	
	合格者数		28	32	30	33	32	34		
	入学者数(A)		28	32	30	33	32	34		
	募集定員数(B)		全受験者を合格	全受験者を合格	全受験者を合格	全受験者を合格	全受験者を合格	全受験者を合格		
	A/B*100(%)		100	100	100	100	100	100		
附属付属高校推薦(大濠)	受験者数		7	11	7	13	11	11	推薦枠人数	
	合格者数		1	1	4	2	5	4		
	入学者数(A)		1	1	4	2	5	4		
	募集定員数(B)		10	10	10	10	10	10		
	A/B*100(%)		10	10	40	20	50	40		
附属高校推薦(若葉)	受験者数		5	3	7	1	6	1	推薦枠人数	
	合格者数		3	1	1	0	0	0		
	入学者数(A)		3	1	1	0	0	0		
	募集定員数(B)		7	7	7	7	7	7		
	A/B*100(%)		43	14	14	0	0	0		
留学生入試	受験者数		0	0	2	2	1	2		
	合格者数		0	0	0	0	0	0		
	入学者数(A)		0	0	0	0	0	0		
	募集定員数(B)		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名		
	A/B*100(%)									
社会人入試	受験者数		1	1	1	0	1	1		
	合格者数		0	0	0	0	0	0		
	入学者数(A)		0	0	0	0	0	0		
	募集定員数(B)		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名		
	A/B*100(%)									
帰国子女入試	受験者数		0	0	1	1	1	1		
	合格者数		0	0	1	0	0	0		
	入学者数(A)		0	0	0	0	0	0		
	募集定員数(B)		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名		
	A/B*100(%)									
学科計	受験者数		3,420	3,316	3,086	3,051	2,965	2,730	指定校推薦、附属高校推薦、 留学生入試、社会人入試及び 帰国子女入試除く	
	合格者数		658	506	596	597	601	576		
	入学者数(A)		252	199	205	198	200	193		
	募集定員数(B)		200	195	200	200	200	200		
	A/B*100(%)		126	102	103	99	100	97		
編(転)入試験	受験者数		0	0	0	0	0	0	平成32年度入試から廃止	
	合格者数		0	0	0	0	0	0		
	入学者数(A)		0	0	0	0	0	0		
	募集定員数(B)		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名		
	A/B*100(%)									

- [注] 1 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。  
 なお、該当しない入試方法は削除してください。
- 2 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合[A/B\*100(%)]を算出してください。
- 3 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
- 4 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
- 5 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
- 6 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に(備考)〇年次に・・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名と注ぎ記入してください。

(基礎資料8) 教員・職員の数

表1. 大学設置基準(別表第1)の対象となる薬学科(6年制)の専任教員

教授	准教授	専任講師	助教	合計	基準数 <sup>1)</sup>
22名	20名	3名	43名	88名	36名
上記における臨床実務経験を有する者の内数					
教授	准教授	専任講師	助教	合計	必要数 <sup>2)</sup>
3名	4名	0名	6名	13名	6名

1) 大学設置基準第13条別表第1のイ(表1)及び備考4に基づく数

2) 上記基準数の6分の1(大学設置基準第13条別表第1のイ備考10)に相当する数

表2. 薬学科(6年制)の教育研究に携わっている表1. 以外の薬学部教員

助手 <sup>1)</sup>	兼任教員 <sup>2)</sup>
0名	0名

1) 学校教育法第92条⑨による教員として大学設置基準第10条2の教育業務及び研究に携わる者

2) 4年制学科を併設する薬学部で、薬学科の専門教育を担当する4年制学科の専任教員

表3. 演習、実習、実験などの補助に当たる教員以外の者

TA	SA	その他 <sup>1)</sup>	合計
12名	0名	0名	12名

1) 実習などの補助を担当する臨時、契約職員など。

表4. 薬学部専任の職員

事務職員	技能職員 <sup>1)</sup>	その他 <sup>2)</sup>	合計
8名	5名	2名	15名

1) 薬用植物園や実験動物の管理、電気施設など保守管理に携わる職員

2) 司書、保健・看護職員など

※技能職員(5名)の内訳(教育技術職員2名・労務職員3名)

(基礎資料9) 専任教員(基礎資料8の表1)の年齢構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率
70代	0名	0名	0名	0名	0名	0.00%
60代	14名	1名	1名	2名	18名	20.46%
50代	8名	4名	0名	1名	13名	14.77%
40代	0名	14名	1名	6名	21名	23.86%
30代	0名	1名	1名	28名	30名	34.09%
20代	0名	0名	0名	6名	6名	6.82%
合計	22名	20名	3名	43名	88名	100.00 %

専任教員の定年年齢:( 65 歳 )

※本学の定年に関しては、「学校法人福岡大学職員の定年に関する規程」で定められており、原則として平成14年4月1日(改正施行日)以降採用の教授・准教授は65歳、改正施行日前の採用者は70歳と規定されている。

※助教・助手の定年は63歳。

(参考資料) 専任教員(基礎資料8の表1)の男女構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率
男性	21名	20名	0名	30名	71名	80.68%
女性	1名	0名	3名	13名	17名	19.32%

(基礎資料10) 教員の教育担当状況

表1. 薬学科(6年制)専任教員(基礎資料8の表1)が担当する授業科目と担当時間

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>
薬学科	教授	安藝 初美	69	女	博(薬)	2008.4.1	早期臨床体験Ⅰ	22.50	0.75
							物理系実習Ⅱ	108.00	3.60
							薬学物理化学Ⅲ	45.00	1.50
							物理系薬学特別講義	3.00	0.10
							薬学演習(含薬学研究基礎)	22.50	0.75
							総合基礎薬学特別講義Ⅰ	4.50	0.15
							総合薬学演習(含卒業試験)	22.50	0.75
							薬学物理化学Ⅳ	45.00	1.50
							授業担当時間の合計	273.00	9.10
							教授実務	今給黎 修	54
						医薬品開発・経済学	45.00	1.50	
						薬学疾患管理学	9.00	0.30	
						実務実習	596.25	19.88	
						総合医療薬学特別講義Ⅴ	3.00	0.10	
						授業担当時間の合計	660.00	22.00	
教授	岩崎 克典	61	男	薬博	2006.4.1	早期臨床体験Ⅰ	22.50	0.75	
						疾患薬理学Ⅱ【13台以降】	45.00	1.50	
						疾患薬理学Ⅲ【13台以降】	45.00	1.50	
						生物系実習Ⅳ	108.00	3.60	
						医療薬学特別講義Ⅱ	3.00	0.10	
						薬学演習(含薬学研究基礎)	22.50	0.75	
						総合医療薬学特別講義Ⅱ	6.00	0.20	
						総合医療薬学特別講義Ⅳ	3.00	0.10	
						総合薬学演習(含卒業試験)	22.50	0.75	
						授業担当時間の合計	277.50	9.25	
教授	江川 孝	53	男	薬博	2017.4.1	早期臨床体験Ⅰ	22.50	0.75	
						総合医療薬学特別講義Ⅴ	10.50	0.35	
						実務実習事前学習	108.00	3.60	
						薬学概論	9.00	0.30	
						総合医療薬学特別講義Ⅰ	4.50	0.15	
						薬剤師の職能について	27.00	0.90	
授業担当時間の合計	181.50	6.05							
教授	遠城寺 宗近	58	男	博(医)	2014.4.1	病態・薬物治療学Ⅱ	27.00	0.90	
						早期臨床体験Ⅰ	22.50	0.75	
						早期臨床体験Ⅱ	91.50	3.05	
						医療薬学特別講義Ⅱ	3.00	0.10	
						薬学演習(含薬学研究基礎)	22.50	0.75	
						実務実習事前学習	79.50	2.65	
						臨床診療科概論	21.00	0.70	
						総合医療薬学特別講義Ⅱ	6.00	0.20	
						総合医療薬学特別講義Ⅵ	6.00	0.20	
						総合薬学演習(含卒業試験)	22.50	0.75	
病態・薬物治療学Ⅳ	10.50	0.35							
授業担当時間の合計	312.00	10.40							
教授	鹿志毛 信広	56	男	博(薬)	2008.4.1	早期臨床体験Ⅰ	22.50	0.75	
						生物系実習Ⅰ	99.00	3.30	
						感染症治療薬概論	45.00	1.50	
						生物系薬学特別講義	1.50	0.05	
						薬学演習(含薬学研究基礎)	22.50	0.75	
						総合基礎薬学特別講義Ⅱ	4.50	0.15	
						衛生薬学特別講義	3.00	0.10	
						総合衛生薬学特別講義	4.50	0.15	
						総合薬学演習(含卒業試験)	22.50	0.75	
						遺伝子工学概論	45.00	1.50	
アドバンスト特別実習	4.50	0.15							
授業担当時間の合計	274.50	9.15							
教授	片岡 泰文	68	男	薬博	2001.4.1	早期臨床体験Ⅰ	22.50	0.75	
						薬学健康管理学	21.00	0.70	
						薬学疾患管理学	24.00	0.80	
						薬学演習(含薬学研究基礎)	22.50	0.75	
						医療薬学特別講義Ⅰ	1.50	0.05	
						実務実習事前学習	117.00	3.90	
						薬科処方解析学	3.00	0.10	
						総合医療薬学特別講義Ⅰ	3.00	0.10	
						総合薬学演習(含卒業試験)	22.50	0.75	
						授業担当時間の合計	237.00	7.90	
教授実務	神村 英利	57	男	薬博	2008.4.1	早期臨床体験Ⅰ	9.00	0.30	
						薬事関係法規論	24.00	0.80	
						コミュニケーション学	36.00	1.20	
						実務実習	906.00	30.20	
						薬事・医事関係法規特別講義	12.00	0.40	
						薬学概論	3.00	0.10	
授業担当時間の合計	990.00	33.00							

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>
薬学科	教授	加留部 善晴	67	男	薬博	2000.10.1	早期臨床体験Ⅰ	22.50	0.75
							同位体化学	45.00	1.50
							同位体医療薬学	45.00	1.50
							薬学演習(含薬学研究基礎)	22.50	0.75
							衛生薬学特別講義	1.50	0.05
							実務実習事前学習	102.00	3.40
							◎		
							総合衛生薬学特別講義	4.50	0.15
							総合医療薬学特別講義Ⅲ	1.50	0.05
							総合薬学演習(含卒業試験)	22.50	0.75
	薬学概論	6.00	0.20						
	授業担当時間の合計	273.00	9.10						
	教授	金城 順英	61	男	薬博	2005.4.1	早期臨床体験Ⅰ	19.50	0.65
							生薬学Ⅰ	42.00	1.40
							生薬学Ⅱ	42.00	1.40
							化学系実習Ⅱ	108.00	3.60
							◎		
							化学系薬学特別講義	3.00	0.10
							薬学演習(含薬学研究基礎)	22.50	0.75
							総合基礎薬学特別講義Ⅰ	3.00	0.10
							総合薬学演習(含卒業試験)	22.50	0.75
							授業担当時間の合計	262.50	8.75
	教授	須本 國弘	69	男	薬博	1988.4.1	早期臨床体験Ⅰ	19.5	0.65
							創薬化学Ⅰ	36	1.2
							創薬化学Ⅱ	45	1.5
							化学系実習Ⅲ	108	3.6
							◎		
							化学系薬学特別講義	3	0.1
							薬学演習(含薬学研究基礎)	22.5	0.75
							総合基礎薬学特別講義Ⅰ	4.5	0.15
							総合薬学演習(含卒業試験)	22.5	0.75
							授業担当時間の合計	261.00	8.70
	教授	高田 二郎	66	男	博(薬)	2008.4.1	早期臨床体験Ⅰ	22.5	0.75
							物理薬剤学	39	1.3
							製剤学	6	0.2
							薬物送達学	21	0.7
							医療薬学特別講義Ⅰ	3	0.1
							薬学演習(含薬学研究基礎)	22.5	0.75
							実務実習事前学習	108	3.6
							◎		
							総合医療薬学特別講義Ⅲ	4.5	0.15
							総合薬学演習(含卒業試験)	22.5	0.75
総合医療薬学特別講義Ⅰ	4.5	0.15							
授業担当時間の合計	253.50	8.45							
教授	中島 学	63	男	博(医)	2007.4.1	早期臨床体験Ⅰ	22.50	0.75	
						◎			
						早期臨床体験Ⅱ	82.50	2.75	
						免疫学	33.00	1.10	
						病態・薬物治療学Ⅰ	9.00	0.30	
						医療薬学特別講義Ⅱ	3.00	0.10	
						薬学演習(含薬学研究基礎)	22.50	0.75	
						実務実習事前学習	81.00	2.70	
						◎			
						総合基礎薬学特別講義Ⅱ	6.00	0.20	
						総合医療薬学特別講義Ⅱ	6.00	0.20	
						総合医療薬学特別講義Ⅵ	4.50	0.15	
						総合薬学演習(含卒業試験)	22.50	0.75	
						病態・薬物治療学Ⅲ	12.00	0.40	
福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	1.50	0.05							
授業担当時間の合計	306.00	10.20							
教授	能田 均	61	男	薬博	2005.10.1	早期臨床体験Ⅰ	22.50	0.75	
						分析化学Ⅰ	45.00	1.50	
						分析化学Ⅱ	45.00	1.50	
						物理系実習Ⅰ	108.00	3.60	
						◎			
						物理系薬学特別講義	3.00	0.10	
						薬学演習(含薬学研究基礎)	22.50	0.75	
						総合基礎薬学特別講義Ⅰ	1.50	0.05	
						総合薬学演習(含卒業試験)	22.50	0.75	
						授業担当時間の合計	270.00	9.00	
教授	原 周司	67	男	薬博	2008.4.1	早期臨床体験Ⅰ	22.50	0.75	
						医薬品安全性学	12.00	0.40	
						調剤学総論	7.50	0.25	
						医療薬学特別講義Ⅰ	3.00	0.10	
						薬学演習(含薬学研究基礎)	22.50	0.75	
						実務実習事前学習	117.00	3.90	
						◎			
						総合医療薬学特別講義Ⅲ	4.50	0.15	
総合薬学演習(含卒業試験)	22.50	0.75							
授業担当時間の合計	211.50	7.05							

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>						
薬学科	教授	藤岡 稔大	60	男	薬博	2006.4.1	早期臨床体験Ⅰ	22.50	0.75						
							物理系実習Ⅲ	◎	108.00	3.60					
							分析化学Ⅲ		45.00	1.50					
							分析化学Ⅳ		45.00	1.50					
							物理系薬学特別講義		4.50	0.15					
							薬学演習(含薬学研究基礎)		22.50	0.75					
							総合薬学演習(含卒業試験)		22.50	0.75					
							授業担当時間の合計		270.00	9.00					
							教授	本田 伸一郎	53	男	博(理)	2017.4.1	早期臨床体験Ⅰ	22.50	0.75
													人体生化学Ⅰ		45.00
	人体生化学Ⅱ		45.00	1.50											
	生物系実習Ⅱ	◎	108.00	3.60											
	生物系薬学特別講義		3.00	0.10											
	薬学演習(含薬学研究基礎)		22.50	0.75											
	総合基礎薬学特別講義Ⅱ		7.50	0.25											
	総合薬学演習(含卒業試験)		22.50	0.75											
	今日の薬学研究		1.50	0.05											
	授業担当時間の合計		277.50	9.25											
	教授	丸岡 博	57	男	博(薬)	2013.4.1	早期臨床体験Ⅰ	18.00	0.60						
							有機薬化学Ⅰ		45.00	1.50					
							有機薬化学Ⅱ		45.00	1.50					
							化学系実習Ⅰ	◎	63.00	2.10					
							化学系薬学特別講義		4.50	0.15					
							薬学演習(含薬学研究基礎)		22.50	0.75					
							総合基礎薬学特別講義Ⅰ		4.50	0.15					
							総合薬学演習(含卒業試験)		22.50	0.75					
							授業担当時間の合計		225.00	7.50					
							教授	見明 史雄	69	男	農博	2001.10.1	早期臨床体験Ⅰ	22.50	0.75
	微生物学		45.00	1.50											
	生物系実習Ⅰ	◎	99.00	3.30											
	生物系薬学特別講義		3.00	0.10											
	衛生薬学特別講義		3.00	0.10											
	薬学演習(含薬学研究基礎)		22.50	0.75											
	総合基礎薬学特別講義Ⅱ		4.50	0.15											
	総合衛生薬学特別講義		4.50	0.15											
	総合薬学演習(含卒業試験)		22.50	0.75											
	授業担当時間の合計		226.50	7.55											
	教授	三島 健一	55	男	博(薬)	2014.4.1	早期臨床体験Ⅰ	22.50	0.75						
							疾患薬理学Ⅰ【13台以降】		45.00	1.50					
							生物系実習Ⅳ	◎	108.00	3.60					
							生物系薬学特別講義		3.00	0.10					
							医療薬学特別講義Ⅱ		3.00	0.10					
薬学演習(含薬学研究基礎)								22.50	0.75						
総合基礎薬学特別講義Ⅱ								6.00	0.20						
総合医療薬学特別講義Ⅱ								6.00	0.20						
総合医療薬学特別講義Ⅳ								6.00	0.20						
総合薬学演習(含卒業試験)								22.50	0.75						
機能形態学Ⅱ								45.00	1.50						
アドバンスト特別実習							◎	4.50	0.15						
授業担当時間の合計								294.00	9.80						
教授	山方 健司	69	男	薬博	2005.10.1	早期臨床体験Ⅰ	22.50	0.75							
						有機薬化学Ⅲ		36.00	1.20						
						有機薬化学Ⅳ		36.00	1.20						
						化学系実習Ⅰ	◎	108.00	3.60						
						化学系薬学特別講義		3.00	0.10						
						薬学演習(含薬学研究基礎)		22.50	0.75						
						総合基礎薬学特別講義Ⅰ		4.50	0.15						
						総合薬学演習(含卒業試験)		22.50	0.75						
						授業担当時間の合計		255.00	8.50						
						教授	山野 茂	67	男	薬博	2008.4.1	早期臨床体験Ⅰ	22.50	0.75	
食品栄養学		45.00	1.50												
環境衛生学Ⅰ		18.00	0.60												
生物系実習Ⅲ	◎	99.00	3.30												
衛生薬学特別講義		4.50	0.15												
薬学演習(含薬学研究基礎)		22.50	0.75												
総合衛生薬学特別講義		9.00	0.30												
総合薬学演習(含卒業試験)		22.50	0.75												
授業担当時間の合計		243.00	8.10												

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>
薬学科	准教授	池田 浩人	54	男	博(薬)	2016.4.1	早期臨床体験Ⅰ	22.50	0.75
							薬学物理化学Ⅰ	45.00	1.50
							薬学物理化学Ⅱ	45.00	1.50
							物理系実習Ⅱ	108.00	3.60
							薬学演習(含薬学研究基礎)	22.50	0.75
							総合薬学演習(含卒業試験)	22.50	0.75
							物理系薬学特別講義	4.50	0.15
							総合基礎薬学特別講義Ⅰ	4.50	0.15
							今日の薬学研究	1.50	0.05
							授業担当時間の合計	276.00	9.20
							病態・薬物治療学Ⅱ	9.00	0.30
	准教授	大江 賢治	53	男	博(医)	2016.4.1	早期臨床体験Ⅰ	22.50	0.75
							早期臨床体験Ⅱ	93.00	3.10
							医療薬学特別講義Ⅱ	1.50	0.05
							薬学演習(含薬学研究基礎)	22.50	0.75
							実務実習事前学習	79.50	2.65
							臨床診療科概論	16.50	0.55
							今日の薬学研究	1.50	0.05
							総合医療薬学特別講義Ⅱ	3.00	0.10
							総合医療薬学特別講義Ⅵ	6.00	0.20
							総合薬学演習(含卒業試験)	22.50	0.75
							病態・薬物治療学Ⅳ	12.00	0.40
	アドバンスト特別実習	4.50	0.15						
	授業担当時間の合計	294.00	9.80						
	准教授	大川 雅史	48	男	博(薬)	2008.4.1	天然医薬資源学	42.00	1.40
							早期臨床体験Ⅰ	19.50	0.65
							天然物化学	42.00	1.40
							化学系実習Ⅱ	94.50	3.15
							漢方薬学概論	13.50	0.45
							化学系薬学特別講義	3.00	0.10
							薬学演習(含薬学研究基礎)	22.50	0.75
							総合基礎薬学特別講義Ⅰ	4.50	0.15
							総合薬学演習(含卒業試験)	22.50	0.75
							授業担当時間の合計	264.00	8.80
							准教授 実務	緒方 憲太郎	49
	薬学概論	9.00	0.30						
	医薬品安全性学	9.00	0.30						
	調剤学総論	7.50	0.25						
	総合医療薬学特別講義Ⅴ	6.00	0.20						
	実務実習	949.50	31.65						
	授業担当時間の合計	990.00	33.00						
	准教授	桂林 秀太郎	44	男	博(医)	2014.10.1	今日の薬学研究	22.50	0.75
							医療薬学特別講義Ⅱ	3.00	0.10
							総合医療薬学特別講義Ⅱ	6.00	0.20
							早期臨床体験Ⅰ	22.50	0.75
							生物系実習Ⅳ	108.00	3.60
							薬学演習(含薬学研究基礎)	22.50	0.75
							総合薬学演習(含卒業試験)	22.50	0.75
							総合医療薬学特別講義Ⅳ	3.00	0.10
							疾患薬理学Ⅳ	39.00	1.30
	授業担当時間の合計	249.00	8.30						
	准教授	小迫 知弘	43	男	博(医)	2012.4.1	早期臨床体験Ⅰ	22.50	0.75
							生物系実習Ⅱ	108.00	3.60
							生物系薬学特別講義	3.00	0.10
							薬学演習(含薬学研究基礎)	22.50	0.75
							臨床検査学	39.00	1.30
							臨床検査学Ⅱ	22.50	0.75
							総合基礎薬学特別講義Ⅱ	6.00	0.20
							総合薬学演習(含卒業試験)	22.50	0.75
							人体機能調節学	45.00	1.50
							授業担当時間の合計	291.00	9.70
	准教授	佐藤 朝光	45	男	博(薬)	2014.10.1	生体機能分子学Ⅰ	45.00	1.50
							早期臨床体験Ⅰ	22.50	0.75
							生物系実習Ⅰ	97.50	3.25
							生物系薬学特別講義	3.00	0.10
							衛生薬学特別講義	1.50	0.05
							薬学演習(含薬学研究基礎)	22.50	0.75
							総合基礎薬学特別講義Ⅱ	6.00	0.20
							総合衛生薬学特別講義	4.50	0.15
							総合薬学演習(含卒業試験)	22.50	0.75
							生体機能分子学Ⅱ	42.00	1.40
							今日の薬学研究	1.50	0.05
	授業担当時間の合計	268.50	8.95						

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>						
薬学科	准教授	佐野 和憲	38	男	博(薬)	2018.4.1	医療薬学特別講義Ⅱ	1.50	0.05						
							総合医療薬学特別講義Ⅱ	3.00	0.10						
							総合医療薬学特別講義Ⅳ	4.50	0.15						
							早期臨床体験Ⅰ	22.50	0.75						
							生物系実習Ⅳ	108.00	3.60						
							薬学演習(含薬学研究基礎)	22.50	0.75						
							総合薬学演習(含卒業試験)	22.50	0.75						
							機能形態学Ⅰ	45.00	1.50						
							生物系薬学特別講義	3.00	0.10						
							総合基礎薬学特別講義Ⅱ	4.50	0.15						
							授業担当時間の合計	237.00	7.90						
	准教授	首藤 英樹	57	男	博(薬)	2007.4.1	早期臨床体験Ⅰ	22.50	0.75						
							臨床薬物動態学	24.00	0.80						
							臨床薬物動態解析学	24.00	0.80						
							医療薬学特別講義Ⅰ	3.00	0.10						
							薬学演習(含薬学研究基礎)	22.50	0.75						
							実務実習事前学習	85.50	2.85						
							薬科処方解析学	4.50	0.15						
							総合医療薬学特別講義Ⅰ	3.00	0.10						
							総合薬学演習(含卒業試験)	22.50	0.75						
							授業担当時間の合計	211.50	7.05						
							准教授	田川 義展	63	男	薬博	2007.4.1	早期臨床体験Ⅰ	18.00	0.60
	化学系実習Ⅲ	108.00	3.60												
	創薬化学Ⅲ	45.00	1.50												
	化学系薬学特別講義	4.50	0.15												
	薬学演習(含薬学研究基礎)	22.50	0.75												
	総合基礎薬学特別講義Ⅰ	4.50	0.15												
	総合薬学演習(含卒業試験)	22.50	0.75												
	授業担当時間の合計	225.00	7.50												
	准教授	道具 伸也	42	男	博(薬)	2008.4.1							薬物動態理論	6.00	0.20
													臨床薬物動態学	21.00	0.70
													医療薬学特別講義Ⅰ	3.00	0.10
							薬学演習(含薬学研究基礎)	22.50	0.75						
							実務実習事前学習	117.00	3.90						
							薬科処方解析学	4.50	0.15						
							総合医療薬学特別講義Ⅰ	6.00	0.20						
							総合薬学演習(含卒業試験)	22.50	0.75						
							早期臨床体験Ⅰ	22.50	0.75						
							授業担当時間の合計	225.00	7.50						
							准教授 実務	富永 宏治	46	男	博(薬)	2008.4.1	早期臨床体験Ⅰ	22.50	0.75
	薬学概論	9.00	0.30												
	薬学健康管理学	24.00	0.80												
	調剤学総論	7.50	0.25												
	実務実習事前学習	108.00	3.60												
	薬科処方解析学	6.00	0.20												
	総合医療薬学特別講義Ⅰ	4.50	0.15												
	授業担当時間の合計	181.50	6.05												
	准教授 実務	林 稔展	42	男	博(薬)	2018.4.1							薬学概論	9.00	0.30
													早期臨床体験Ⅰ	22.50	0.75
													実務実習事前学習	108.00	3.60
							薬学疾患管理学	15.00	0.50						
							総合医療薬学特別講義Ⅴ	3.00	0.10						
							授業担当時間の合計	157.50	5.25						
							准教授	巴山 忠	41	男	博(薬)	2016.4.1	早期臨床体験Ⅰ	22.50	0.75
													物理系実習Ⅲ	108.00	3.60
													薬学演習(含薬学研究基礎)	22.50	0.75
													総合薬学演習(含卒業試験)	22.50	0.75
													日本薬局方Ⅰ	45.00	1.50
	日本薬局方Ⅱ	45.00	1.50												
	総合基礎薬学特別講義Ⅰ	1.50	0.05												
	物理系薬学特別講義	4.50	0.15												
	アドバンス特別実習	4.50	0.15												
	今日の薬学研究	1.50	0.05												
	授業担当時間の合計	277.50	9.25												
	准教授 実務	松尾 宏一	54	男	博(薬)	2013.4.1	早期臨床体験Ⅰ	6.75	0.23						
							コミュニケーション学	9.00	0.30						
							薬事関係法規論	21.00	0.70						
							実務実習	608.25	20.28						
							薬事・医事関係法規特別講義	10.50	0.35						
							総合医療薬学特別講義Ⅰ	4.50	0.15						
	授業担当時間の合計	660.00	22.00												



学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>
薬学科	准教授	松末 公彦	49	男	博(薬)	2009.4.1	早期臨床体験 I	22.50	0.75
							食品衛生学	45.00	1.50
							公衆衛生学	45.00	1.50
							生物系実習Ⅲ	99.00	3.30
							衛生薬学特別講義	4.50	0.15
							薬学演習(含薬学研究基礎)	22.50	0.75
							総合衛生薬学特別講義	9.00	0.30
							総合薬学演習(含卒業試験)	22.50	0.75
							授業担当時間の合計	270.00	9.00
							早期臨床体験 I	22.50	0.75
	物理薬剤学	6.00	0.20						
	製剤学	39.00	1.30						
	薬物送達学	24.00	0.80						
	医療薬学特別講義 I	3.00	0.10						
	薬学演習(含薬学研究基礎)	22.50	0.75						
	実務実習事前学習	108.00	3.60						
	総合医療薬学特別講義Ⅲ	4.50	0.15						
	総合薬学演習(含卒業試験)	22.50	0.75						
	今日の薬学研究	1.50	0.05						
	総合医療薬学特別講義 I	4.50	0.15						
	授業担当時間の合計	258.00	8.60						
	医療情報学	45.00	1.50						
	薬学演習(含薬学研究基礎)	22.50	0.75						
	早期臨床体験 I	22.50	0.75						
	実務実習事前学習	117.00	3.90						
	総合薬学演習(含卒業試験)	22.50	0.75						
	医療薬学特別講義 I	3.00	0.10						
	総合医療薬学特別講義Ⅲ	4.50	0.15						
	総合医療薬学特別講義 I	4.50	0.15						
	アドバンス特別実習	9.00	0.30						
	授業担当時間の合計	250.50	8.35						
	早期臨床体験 I	22.50	0.75						
	薬物動態理論	36.00	1.20						
	臨床薬物動態解析学	21.00	0.70						
	医療薬学特別講義 I	3.00	0.10						
	薬学演習(含薬学研究基礎)	22.50	0.75						
	実務実習事前学習	117.00	3.90						
	薬科処方解析学	4.50	0.15						
	総合医療薬学特別講義 I	6.00	0.20						
	総合薬学演習(含卒業試験)	22.50	0.75						
	授業担当時間の合計	255.00	8.50						
	早期臨床体験 I	22.50	0.75						
物理系実習 I	108.00	3.60							
環境衛生学Ⅱ	45.00	1.50							
臨床検査学	6.00	0.20							
衛生薬学特別講義	4.50	0.15							
薬学演習(含薬学研究基礎)	22.50	0.75							
総合衛生薬学特別講義	9.00	0.30							
総合薬学演習(含卒業試験)	22.50	0.75							
アカデミックスキルズゼミⅡ	22.50	0.75							
授業担当時間の合計	262.50	8.75							
総合基礎薬学特別講義 I	3.00	0.10							
早期臨床体験 I	22.50	0.75							
化学系実習 I	108.00	3.60							
薬学演習(含薬学研究基礎)	22.50	0.75							
総合薬学演習(含卒業試験)	22.50	0.75							
化学	36.00	1.20							
有機薬化学Ⅲ	9.00	0.30							
授業担当時間の合計	223.50	7.45							
早期臨床体験 I	21.00	0.70							
化学系実習Ⅲ	108.00	3.60							
薬学化学入門	36.00	1.20							
物理系薬学特別講義	3.00	0.10							
薬学演習(含薬学研究基礎)	22.50	0.75							
総合薬学演習(含卒業試験)	22.50	0.75							
化学系薬学特別講義	1.50	0.05							
授業担当時間の合計	214.50	7.15							

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>
薬学科	講師	安河内 友世	39	女	博(歯)	2014.10.1	総合医療薬学特別講義II	6.00	0.20
							早期臨床体験 I	22.50	0.75
							早期臨床体験 II	◎ 94.50	3.15
							薬学演習(含薬学研究基礎)	22.50	0.75
							実務実習事前学習	◎ 79.50	2.65
							総合薬学演習(含卒業試験)	22.50	0.75
							免疫学	3.00	0.10
							病態・薬物治療学 I	10.50	0.35
							医療薬学特別講義 II	3.00	0.10
							総合医療薬学特別講義 VI	6.00	0.20
							病態・薬物治療学 III	7.50	0.25
							生物系薬学特別講義	3.00	0.10
							臨床診療科概論	7.50	0.25
							授業担当時間の合計	288.00	9.60
	助教	相川 晃慶	32	男	修(薬)	2014.4.1	早期臨床体験 I	22.5	0.75
							生物系実習 II	◎ 108	3.6
							薬学演習(含薬学研究基礎)	22.5	0.75
							総合薬学演習(含卒業試験)	22.5	0.75
							授業担当時間の合計	175.5	5.85
	助教	藍原 大甫	33	男	博(薬)	2014.4.1	早期臨床体験 I	22.5	0.75
							生物系実習 III	◎ 108	3.6
							薬学演習(含薬学研究基礎)	22.5	0.75
							総合薬学演習(含卒業試験)	22.5	0.75
							環境衛生学 I	4.5	0.15
	授業担当時間の合計	180	6						
	助教	糸山 美紀	35	女	修(薬)	2009.4.1	早期臨床体験 I	22.5	0.75
							薬学演習(含薬学研究基礎)	22.5	0.75
							実務実習事前学習	◎ 108	3.6
							総合薬学演習(含卒業試験)	22.5	0.75
							化学	9	0.3
	授業担当時間の合計	184.5	6.15						
	助教	入江 圭一	44	男	博(薬)	2014.10.1	早期臨床体験 I	22.5	0.75
							生物系実習 IV	◎ 108	3.6
							薬学演習(含薬学研究基礎)	22.5	0.75
							総合薬学演習(含卒業試験)	22.5	0.75
							今日の薬学研究	1.5	0.05
	授業担当時間の合計	177	5.9						
	助教実務	大津 友紀	42	女		2014.4.1	早期臨床体験 I	9	0.3
							実務実習	◎ 981	32.7
	授業担当時間の合計	990	33						
	助教	大波多 友規	30	男	博(薬)	2007.4.1	早期臨床体験 I	22.5	0.75
							薬学演習(含薬学研究基礎)	22.5	0.75
							総合薬学演習(含卒業試験)	22.5	0.75
							物理系実習 II	◎ 108	3.6
	授業担当時間の合計	175.5	5.85						
	助教	小野 和彦	40	男	博(薬)	2007.4.1	早期臨床体験 I	22.5	0.75
							実務実習事前学習	◎ 117	3.9
薬学演習(含薬学研究基礎)							22.5	0.75	
総合薬学演習(含卒業試験)							22.5	0.75	
授業担当時間の合計							184.5	6.15	
助教	甲斐 麻美子	58	女	薬博	2015.10.1	早期臨床体験 I	22.5	0.75	
						実務実習事前学習	◎ 108	3.6	
						薬剤師の職能について	◎ 27	0.9	
						授業担当時間の合計	157.5	5.25	
助教	木村 郁哉	27	男	修(薬)	2007.4.1	早期臨床体験 I	22.5	0.75	
						薬学演習(含薬学研究基礎)	22.5	0.75	
						総合薬学演習(含卒業試験)	22.5	0.75	
						実務実習事前学習	◎ 117	3.9	
						授業担当時間の合計	184.5	6.15	
助教	木村 公彦	43	男	修(薬)	2007.4.1	早期臨床体験 I	22.5	0.75	
						薬学演習(含薬学研究基礎)	22.5	0.75	
						実務実習事前学習	◎ 117	3.9	
						総合薬学演習(含卒業試験)	22.5	0.75	
						授業担当時間の合計	184.5	6.15	
助教	窪田 香織	43	女	博(農)	2009.4.1	早期臨床体験 I	22.5	0.75	
						生物系実習 IV	◎ 108	3.6	
						薬学演習(含薬学研究基礎)	22.5	0.75	
						総合薬学演習(含卒業試験)	22.5	0.75	
						総合医療薬学特別講義 IV	3	0.1	
授業担当時間の合計	178.5	5.95							
助教	古賀 允久	39	男	博(薬)	2009.4.1	早期臨床体験 I	22.5	0.75	
						薬学演習(含薬学研究基礎)	22.5	0.75	
						実務実習事前学習	◎ 117	3.9	
						総合薬学演習(含卒業試験)	22.5	0.75	
						薬学疾患管理学	3	0.1	
授業担当時間の合計	187.5	6.25							

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	助教	古賀 鈴依子	31	女	博(薬)	2013.4.1	早期臨床体験 I	22.5	0.75	
							物理系実習 I	◎	108	3.6
							薬学演習(含薬学研究基礎)		22.5	0.75
							総合薬学演習(含卒業試験)		22.5	0.75
							今日の薬学研究		1.5	0.05
							授業担当時間の合計	177	5.9	
	助教	後藤 将太郎	25	男	博(薬)	2013.4.1	早期臨床体験 I	22.5	0.75	
							薬学演習(含薬学研究基礎)		22.5	0.75
							実務実習事前学習	◎	108	3.6
							総合薬学演習(含卒業試験)		22.5	0.75
							授業担当時間の合計		175.5	5.85
	助教	坂口 洋平	33	男	博(薬)	2013.4.1	早期臨床体験 I	22.5	0.75	
							物理系実習 I	◎	108	3.6
							薬学演習(含薬学研究基礎)		22.5	0.75
							総合薬学演習(含卒業試験)		22.5	0.75
							授業担当時間の合計		175.5	5.85
	助教	坂本 大輔	32	男	博(薬)	2013.4.1	早期臨床体験 I	22.5	0.75	
							生物系実習 I	◎	108	3.6
							薬学演習(含薬学研究基礎)		22.5	0.75
							総合薬学演習(含卒業試験)		22.5	0.75
							授業担当時間の合計		175.5	5.85
	助教	佐藤 陽菜	28	女	博(薬)	2013.4.1	早期臨床体験 I	22.5	0.75	
							生物系実習 II	◎	108	3.6
							薬学演習(含薬学研究基礎)		22.5	0.75
							総合薬学演習(含卒業試験)		22.5	0.75
							授業担当時間の合計		175.5	5.85
	助教	瀬戸口 修一	32	男	博(薬)	2013.4.1	早期臨床体験 I	22.5	0.75	
							薬学演習(含薬学研究基礎)		22.5	0.75
実務実習事前学習							◎	108	3.6	
総合薬学演習(含卒業試験)								22.5	0.75	
授業担当時間の合計								175.5	5.85	
助教	高瀬 友美	26	女	博(薬)	2013.4.1	早期臨床体験 I	6.75	0.225		
						実務実習	◎	653.25	21.775	
						授業担当時間の合計	660	22		
助教	高田 芙友子	38	女	博(薬)	2007.4.1	薬学演習(含薬学研究基礎)		22.5	0.75	
						実務実習事前学習	◎	117	3.9	
						総合薬学演習(含卒業試験)		22.5	0.75	
						早期臨床体験 I		22.5	0.75	
						薬物動態理論		3	0.1	
						今日の薬学研究	1.5	0.05		
						授業担当時間の合計	189	6.3		
助教	土橋 良太	40	男	博(薬)	2007.4.1	早期臨床体験 I	22.5	0.75		
						化学系実習 II	◎	108	3.6	
						薬学演習(含薬学研究基礎)		22.5	0.75	
						総合薬学演習(含卒業試験)		22.5	0.75	
						生薬学 I		3	0.1	
						生薬学 II	3	0.1		
						今日の薬学研究	1.5	0.05		
						授業担当時間の合計	183	6.1		
助教	寺田 一樹	36	男	博(薬)	2016.4.1	早期臨床体験 I	22.5	0.75		
						薬学演習(含薬学研究基礎)		22.5	0.75	
						実務実習事前学習	◎	108	3.6	
						実務実習事前学習	◎	117	3.9	
						総合薬学演習(含卒業試験)		22.5	0.75	
						総合医療薬学特別講義III	3	0.1		
						授業担当時間の合計	295.5	9.85		
助教	刀根 菜七子	31	女	博(薬)	2013.4.1	薬学化学入門		9	0.3	
						早期臨床体験 I		22.5	0.75	
						薬学演習(含薬学研究基礎)		22.5	0.75	
						総合薬学演習(含卒業試験)		22.5	0.75	
						実務実習事前学習	◎	117	3.9	
						授業担当時間の合計	193.5	6.45		
助教	富田 陵子	32	女	修(薬)	2010.4.1	早期臨床体験 I	22.5	0.75		
						物理系実習 III	◎	108	3.6	
						薬学演習(含薬学研究基礎)		22.5	0.75	
						総合薬学演習(含卒業試験)		22.5	0.75	
						総合基礎薬学特別講義 I		4.5	0.15	
						授業担当時間の合計	180	6		
助教 実務	長郷 あかね	36	女	修(薬)	2010.4.1	早期臨床体験 I	9	0.3		
実務実習						◎	981	32.7		
						授業担当時間の合計	990	33		
助教 実務	中島 章雄	31	男		2015.4.1	早期臨床体験 I	6.75	0.225		
						実務実習	◎	653.25	21.775	
						授業担当時間の合計	660	22		

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	助教	中島 幸彦	62	男	薬修	2007.4.1	早期臨床体験Ⅰ	22.5	0.75	
							生物系実習Ⅰ	◎	108	3.6
							薬学演習(含薬学研究基礎)		22.5	0.75
							総合薬学演習(含卒業試験)		22.5	0.75
							生体機能分子学Ⅱ		3	0.1
							授業担当時間の合計		178.5	5.95
							早期臨床体験Ⅰ		22.5	0.75
							実務実習事前学習	◎	108	3.6
							薬剤師の職能について	◎	27	0.9
							今日の薬学研究		1.5	0.05
	授業担当時間の合計		159	5.3						
	早期臨床体験Ⅰ		22.5	0.75						
	化学系実習Ⅱ	◎	108	3.6						
	薬学演習(含薬学研究基礎)		22.5	0.75						
	総合薬学演習(含卒業試験)		22.5	0.75						
	天然医薬資源学		3	0.1						
	天然物化学		3	0.1						
	授業担当時間の合計		181.5	6.05						
	早期臨床体験Ⅰ		22.5	0.75						
	早期臨床体験Ⅱ	◎	106.5	3.55						
	薬学演習(含薬学研究基礎)		22.5	0.75						
	実務実習事前学習	◎	85.5	2.85						
	総合薬学演習(含卒業試験)		22.5	0.75						
	免疫学		6	0.2						
	病態・薬物治療学Ⅰ		1.5	0.05						
	病態・薬物治療学Ⅲ		1.5	0.05						
	授業担当時間の合計		268.5	8.95						
	早期臨床体験Ⅰ		22.5	0.75						
	早期臨床体験Ⅱ	◎	106.5	3.55						
	薬学演習(含薬学研究基礎)		22.5	0.75						
	実務実習事前学習	◎	85.5	2.85						
	総合薬学演習(含卒業試験)		22.5	0.75						
	免疫学		3	0.1						
	病態・薬物治療学Ⅰ		1.5	0.05						
	病態・薬物治療学Ⅲ		1.5	0.05						
	授業担当時間の合計		265.5	8.85						
	早期臨床体験Ⅰ		22.5	0.75						
	化学系実習Ⅲ	◎	108	3.6						
	薬学演習(含薬学研究基礎)		22.5	0.75						
	総合薬学演習(含卒業試験)		22.5	0.75						
	創薬化学Ⅰ		9	0.3						
	授業担当時間の合計		184.5	6.15						
	早期臨床体験Ⅰ		22.5	0.75						
	化学系実習Ⅰ	◎	108	3.6						
	薬学演習(含薬学研究基礎)		22.5	0.75						
	総合薬学演習(含卒業試験)		22.5	0.75						
	有機薬化学Ⅳ		9	0.3						
	今日の薬学研究		1.5	0.05						
	授業担当時間の合計		186	6.2						
	早期臨床体験Ⅰ		22.5	0.75						
	薬学演習(含薬学研究基礎)		22.5	0.75						
	総合薬学演習(含卒業試験)		22.5	0.75						
	生物系実習Ⅲ	◎	108	3.6						
	今日の薬学研究		1.5	0.05						
	授業担当時間の合計		177	5.9						
	早期臨床体験Ⅰ		22.5	0.75						
	薬学演習(含薬学研究基礎)		22.5	0.75						
	実務実習事前学習	◎	117	3.9						
	総合薬学演習(含卒業試験)		22.5	0.75						
	授業担当時間の合計		184.5	6.15						
	早期臨床体験Ⅰ		22.5	0.75						
	薬学演習(含薬学研究基礎)		22.5	0.75						
	実務実習事前学習	◎	117	3.9						
	総合薬学演習(含卒業試験)		22.5	0.75						
	授業担当時間の合計		184.5	6.15						
	早期臨床体験Ⅰ		22.5	0.75						
	早期臨床体験Ⅱ	◎	105	3.5						
	薬学演習(含薬学研究基礎)		22.5	0.75						
	実務実習事前学習	◎	85.5	2.85						
	総合薬学演習(含卒業試験)		22.5	0.75						
	病態・薬物治療学Ⅱ		9	0.3						
	総合医療薬学特別講義Ⅱ		3	0.1						
	医療薬学特別講義Ⅱ		1.5	0.05						
	授業担当時間の合計		271.5	9.05						

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	助教	森 征慶	33	男	博(薬)	2015.4.1	早期臨床体験Ⅰ	22.5	0.75	
							早期臨床体験Ⅱ	◎	108	3.6
							薬学演習(含薬学研究基礎)		22.5	0.75
							実務実習事前学習	◎	85.5	2.85
							総合薬学演習(含卒業試験)		22.5	0.75
							授業担当時間の合計		261	8.7
	助教実務	安高 勇氣	35	男	博(薬)	2009.4.1	早期臨床体験Ⅰ		9	0.3
							実務実習	◎	979.5	32.65
							今日の薬学研究		1.5	0.05
							授業担当時間の合計		990	33
	助教	山下 郁太	28	男	博(薬)	2009.4.1	早期臨床体験Ⅰ		22.5	0.75
							生物系実習Ⅳ	◎	108	3.6
							薬学演習(含薬学研究基礎)		22.5	0.75
							総合薬学演習(含卒業試験)		22.5	0.75
							授業担当時間の合計		175.5	5.85
	助教	湯川 美穂	62	女	薬修	2007.4.1	早期臨床体験Ⅰ		22.5	0.75
							物理系実習Ⅱ	◎	108	3.6
							薬学演習(含薬学研究基礎)		22.5	0.75
							総合薬学演習(含卒業試験)		22.5	0.75
							授業担当時間の合計		175.5	5.85
	助教	渡瀬 大輔	35	男	修(薬)	2010.4.1	早期臨床体験Ⅰ		22.5	0.75
							薬学演習(含薬学研究基礎)		22.5	0.75
							実務実習事前学習	◎	108	3.6
							総合薬学演習(含卒業試験)		22.5	0.75
授業担当時間の合計								175.5	5.85	
助教	渡辺 拓也	37	男	博(薬)	2014.4.1	早期臨床体験Ⅰ		22.5	0.75	
						生物系実習Ⅳ	◎	108	3.6	
						薬学演習(含薬学研究基礎)		22.5	0.75	
						総合薬学演習(含卒業試験)		22.5	0.75	
						疾患薬理学Ⅳ		6	0.2	
						総合医療薬学特別講義Ⅳ		3	0.1	
授業担当時間の合計		184.5	6.15							

1) 薬学科(6年制)専任教員のみが対象ですが、2学科制薬学部で4年制学科の兼任教員となっている場合は(兼任学科名)を付記してください。

2) 臨床における実務経験を有する専任教員には、職名に(実務)と付記してください。

3) 「授業担当科目」には、「卒業研究」の指導を除く全ての授業担当科目(兼任学科の科目も含む)を記入し、実習科目は科目名の右欄に◎を付してください。

4) 「授業時間」には、当該教員がその科目で行う延べ授業時間を時間数を、以下に従ってご記入ください。

※講義科目は時間割から計算される実際の時間数(1コマ90分の授業15回担当すれば、 $90 \times 15 \div 60 = 22.5$ 時間)を記入します。

※複数教員で分担している場合は授業回数を分担回数とし、履修者が多いため同一科目を反復開講している場合は授業時間数に反復回数を乗じます。

※実習科目では、同一科目を複数教員(例えば、教授1名と助教、助手2名)が担当していても、常時共同で指導している場合は分担担当としません。

5) 「年間で平均した週当たり授業時間」には、総授業時間を「30」(授業が実施される1年間の基準週数)で除した値を記入してください。

開講する週数が30週ではない大学でも、大学間の比較ができるよう「30」で除してください。

(基礎資料10) 教員の教育担当状況 (続)

表2. 助手(基礎資料8の表2)の教育担当状況

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	就任年月日	授業担当科目	総授業時間	年間で平均した週当り授業時間	
			該当なし							

(以下に同じ様式で記入欄を追加し、ハンドブックの例示に従ってご記入ください)

[注] 担当時間数などの記入について表1の脚注に倣ってください。兼任教員については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。

表3. 兼任教員(基礎資料8の表2)が担当する薬学科(6年制)の専門科目と担当時間

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	現職就任年月日	授業担当科目	総授業時間	年間で平均した週当り授業時間	
〇〇薬科学科										
			4年制学科を設置していないため、該当なし							
〇〇薬科学科										

(以下に同じ様式で記入欄を追加し、ハンドブックの例示に従ってご記入ください)

[注] 担当時間数などの記入について表1の脚注に倣ってください。兼任教員については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。

(基礎資料11) 卒業研究の配属状況および研究室の広さ

4年生の在籍学生数	234 名
5年生の在籍学生数	228 名
6年生の在籍学生数	303 名

	配属講座など	指導教員数	4年生 配属学生数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計	卒業研究を実施する 研究室の面積 (m <sup>2</sup> )
1	薬化学	4	14	15	19	48	268.07
2	医薬品化学	4	14	14	17	45	310.4
3	機器分析学	5	12	13	8	33	393.33
4	生薬学	4	13	14	15	42	314.5
5	生化学(生化学・病態生化学)	4	13	12	29	54	455.73
6	衛生化学	4	12	13	17	42	300.4
7	微生物薬品化学	5	13	14	19	46	319.6
8	薬品分析学(薬品分析学・生体機能分析学)	4	14	13	17	44	484.17
9	薬品物理化学	4	12	13	16	41	322.77
10	臨床疾患薬理学	4	15	13	19	47	438.46
11	生体機能制御学	4	13	14	17	44	291.74
12	免疫・分子治療学	4	15	13	18	46	318.9
13	臨床薬物治療学	4	15	12	9	36	309.77
14	薬学疾患管理学(処方分析学・薬物動態学)	8	26	26	39	91	1482.03
15	創剤学(放射薬品学・薬物送達学)	7	18	17	29	64	605.65
16	医薬品情報学	5	15	12	15	42	315.52
合 計		74	234	228	303	765	

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
- 2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。
- 3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。

(基礎資料12-1) 薬学科の教育に使用する施設の状況

施設 <sup>1)</sup>		座席数	室数	収容人員合計	備 考
講義室・演習室 <sup>2)</sup>	大講義室	259~375	4	1,174	固定机
	中講義室	130~161	8	1,162	固定机
	小講義室	60~92	3	222	固定机(1教室のみ可動機あり)
	小グループ演習室(SGD)	16	10	160	
	コンピューター演習室	150	1	150	CBTで使用
実習室	化学系実習室	80	2	160	薬化学、生薬学、医薬品化学で使用
	生物系実習室	80	2	160	微生物薬品化学、衛生化学、生化学、生体機能制御学、臨床疾患薬理学で使用
	物理系実習室	80	1	80	薬品物理化学、薬品分析学、機器分析学で使用
	医療系(事前学習)実習室	10~80	12	316	免疫・分子治療学、臨床薬物治療学で使用 実務実習事前学習ではDI実習室(1室)、調剤実習室(1室)、薬局実習室(1室)、TDM実習室(1室)、輸液調剤実習室(2室)、薬剤反応性診断実習室(2室)、製剤室(3室)、研修室A~C(1室)を使用している
自習室等	学習室	5~48	11	276	自習室は他に図書館(基礎資料13)・オープン端末室がある
	ラウンジ(解放スペース)	80 45	2	125	無線LAN設置(17号館1階80人・16号館1階45人)
薬用植物園・薬草園	※以下の概要を任意の様式で記載してください。 1) 設置場所(薬学部キャンパス内か別キャンパスか) ・大学キャンパス内 2) 施設の構成と規模 ・4,774㎡:温室、薬木園、作業舎、堆肥倉庫を配置 3) 栽培している植物種の数 ・約500種類 4) その他の特記事項 ・市民に開放している				

- 1) 総合大学では薬学部の教育で使用している講義室、演習室、実習室などを対象にしてください。
- 2) 講義室・演習室には収容人数による適当な区分を設け、同じ区分での座席数の範囲を示してください。  
また、固定席か可変席か、その他特記すべき施設などを、例示を参考にして備考に記入してください。



(基礎資料12-2) 卒業研究などに使用する施設

表1. 講座・研究室の施設

施設名 <sup>1)</sup>	面積 <sup>2)</sup>	収容人員 <sup>3)</sup>	室数 <sup>4)</sup>	備 考
教員個室	26m <sup>2</sup>	1人	45	個室は教授・准教授のみ。1人共同部屋
実験室・研究室(大)	128m <sup>2</sup>	13人	6	講師以下は教員室・実験室・研究室等にデスクがある。(102.90~155.10m <sup>2</sup> )
実験室・研究室(中)	67m <sup>2</sup>	12人	29	〃 (51.50~81.20m <sup>2</sup> )
実験室・研究室(小)	28m <sup>2</sup>	7人	71	〃 (11.46~48.95m <sup>2</sup> )
器材室・倉庫など	24m <sup>2</sup>	0人	9	

- 1) 講座・研究室が占有する施設(隣接する2~3講座で共用する施設を含む)を記載してください。  
実験室・研究室に広さが異なるものがある場合は、「大・小」、「大・中・小」のように大まかに区分してください。
- 2) 同じ区分の部屋で面積に若干の違いがある場合、面積には平均値を記入してください。
- 3) 1室当たりの収容人数を記入してください。同じ区分の部屋で若干の違いがある場合は平均値を記入してください。
- 4) 薬学科の卒業研究を担当する講座・研究室が占有する部屋の合計数を記入してください。(ひとつの講座・研究室当たりの数ではありません。)

表2. 学部で共用する実験施設

施設の区分 <sup>1)</sup>	室数	施設の内容
大型測定機器室	1	中央機器室NMR/MS室
実験動物施設(動物舎)	22	実験室(11室)、飼育室(10室)、手術室(11室)
R I 実験施設	29	R I センターが付設されている。

- 1) 大まかな用途による区分を設け、各区分に含まれる室数と施設の内容を列記してください。(面積などは不要です)

(基礎資料13) 学生閲覧室等の規模

図書室（館）の名称	学生閲覧室 座席数（A）	学生収容 定員数（B） <sup>1)</sup>	収容定員に対する 座席数の割合（%） $A/B * 100$	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況 <sup>2)</sup>	備 考 <sup>3)</sup>
中央図書館	1,934	10,318	18.7	グループ学習室 情報サービス室 研究用個室 読書支援室 貴重書閲覧室 多目的ホール AVコーナー	126 102 28 4 12 182 61	PC, VHS, CD, BD, マイク, プロジェクター, 電動スクリーン, PC用電源, スキャナー, オンデマンドプリンタ, 点字ディスプレイ, 点字プリンタ, デジタル図書, 再生機, ヘッドホン	
薬学部分室	254	1,414	18.0		なし	なし	
計	2,188	11,732	18.6		515		

1) 「学生収容定員数（B）」欄には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。

2) 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理端末をいくつ設置しているか等を記載してください。

3) 「備考」欄には「学生収容定員（B）」の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。

(基礎資料14) 図書、資料の所蔵数および受け入れ状況

H30年3月31日付

図書館の名称	図書の冊数		定期刊行物の種類		視聴覚資料の 所蔵数 (点数) <sup>2)</sup>	電子ジャー ナルの種類 (種類) <sup>3)</sup>	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の全冊数	開架図書の 冊数(内) <sup>1)</sup>	内国書	外国書			平成28年度	平成27年度	平成26年度	
中央図書館	1,276,240	263,540	7,189	3,454	12,661	39,072	11,628	11,055	15,171	
薬学部分室	80,146	57,117	271	462	631		1,104	951	1,306	
計	1,356,386	320,657	7,460	3,916	13,292	39,072	12,732	12,006	16,477	

[注] 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。

- 1) 開架図書の冊数(内)は、図書の全冊数のうち何冊かを記入してください。
- 2) 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含め、所蔵数については、タイトル数を記載してください。
- 3) 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。

## (基礎資料15)専任教員の教育および研究活動の業績(掲載教員一覧)

No.	頁番号	資格名称	教員氏名	No.	頁番号	資格名称	教員氏名
1	162	教授	安藝 初美	46	226	助教	相川 晃慶
2	163	教授	今給黎 修	47	227	助教	藍原 大甫
3	164	教授	岩崎 克典	48	228	助教	糸山 美紀
4	165	教授	江川 孝	49	229	助教	入江 圭一
5	169	教授	遠城寺 宗近	50	231	助教	大津 友紀
6	172	教授	鹿志毛 信広	51	232	助教	大波多 友規
7	174	教授	片岡 泰文	52	233	助教	小野 和彦
8	175	教授	神村 英利	53	235	助教	甲斐 麻美子
9	177	教授	加留部 善晴	54	236	助教	木村 郁哉
10	178	教授	金城 順英	55	237	助教	木村 公彦
11	179	教授	須本 國弘	56	238	助教	窪田 香織
12	181	教授	高田 二郎	57	239	助教	古賀 允久
13	183	教授	中島 学	58	240	助教	古賀 鈴依子
14	184	教授	能田 均	59	242	助教	後藤 将太郎
15	186	教授	原 周司	60	243	助教	坂口 洋平
16	187	教授	藤岡 稔大	61	245	助教	坂本 大輔
17	189	教授	本田 伸一郎	62	246	助教	佐藤 陽菜
18	190	教授	丸岡 博	63	247	助教	瀬戸口 修一
19	191	教授	見明 史雄	64	248	助教	高瀬 友美
20	192	教授	三島 健一	65	249	助教	高田 芙友子
21	194	教授	山方 健司	66	251	助教	土橋 良太
22	195	教授	山野 茂	67	252	助教	寺田 一樹
23	196	准教授	池田 浩人	68	253	助教	刀根 菜七子
24	198	准教授	大江 賢治	69	254	助教	富田 陵子
25	201	准教授	大川 雅史	70	255	助教	長郷 あかね
26	202	准教授	緒方 憲太郎	71	256	助教	中島 章雄
27	203	准教授	桂林 秀太郎	72	257	助教	中島 幸彦
28	204	准教授	小迫 知弘	73	258	助教	中野 大輔
29	206	准教授	佐藤 朝光	74	259	助教	中野 貴文
30	207	准教授	佐野 和憲	75	260	助教	西中川 拓也
31	209	准教授	首藤 英樹	76	261	助教	櫛川 舞
32	210	准教授	田川 義展	77	263	助教	古舘 信
33	211	准教授	道具 伸也	78	264	助教	益本 英一
34	212	准教授	冨永 宏治	79	265	助教	松尾 康平
35	213	准教授	林 稔展	80	266	助教	松本 純一
36	214	准教授	巴山 忠	81	267	助教	松本 太一
37	216	准教授	松尾 宏一	82	268	助教	村田 雄介
38	217	准教授	松末 公彦	83	269	助教	森 征慶
39	218	准教授	松永 和久	84	270	助教	安高 勇気
40	219	准教授	右田 啓介	85	272	助教	山下 郁太
41	220	准教授	山内 淳史	86	273	助教	湯川 美穂
42	221	准教授	吉田 秀幸	87	275	助教	渡瀬 大輔
43	223	講師	中原 史	88	276	助教	渡辺 拓也
44	224	講師	壬生 伸子				
45	225	講師	安河内 友世				

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 薬品物理化学	職名 教授	氏名 安藝 初美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2018/4/1	電子黒板の活用 CBT形式小テスト (マークシート)
2 作成した教科書、教材、参考書		2014/3/1 2014/9/1 2017/9/1	薬学物理化学 第5版 薬学物理化学演習 第3版 NEW パワーブック 物理薬剤学・製剤学 第3版
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			特になし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Difference in formation mechanism of inclusion complex between configuration isomers of gallate-type catechin and $\beta$ -cyclodextrin	共著	2018/9/1	Journal of Thermal Analysis and Calorimetry DOI.org/10.1007/s10973-018-76080-2
(論文) Preparation and antiviral activity of some new C3- and C5-symmetrical tri-substituted triazine derivatives having bezylamine substituents	共著	2018/8/1	Chem. Pharm. Bull. vol. 66 No. 8
(論文) 他2			
(論文) Drug-tea polyphenol interaction (II) complexation of piperazine derivatives with green tea polyphenol	共著	2017/3/1	Thermochimica Acta vol. 653 No. 10
(論文) Improving water solubility of nateglinide by complexation of $\beta$ -cyclodextrin	共著	2016/3/1	Journal of Thermal Analysis and Calorimetry vol. 123 No. 3
(論文) Prediction of Thermodynamic Functions of Solvation by Dispersion-Corrected Density Functional Theory Calculations	共著	2016/12/1	Journal of Chemical and Pharmaceutical Research Vol/8. No. 9
(論文) Synthesis and antibacterial evaluation of some new 5-substituted hydantoins and novel twin-drug type derivatives	共著	2016/4/1	HETEROCYCLES Vol.2, No.6
(論文) Synthesis and Antiviral Evaluation of Some C3-Symmetrical Trialkoxy-Substituted 1,3,5-Triazines and Their Molecular Geometry	共著	2015/11/1	Chemical & Pharmaceutical Bulletin Vol. 63, No. 11
(論文) こんにやく粉を使用した服薬用とろみ水の力学的特性	共著	2015/10/1	高分子論文集 Vol. 72 No. 10
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) とろみ水や服薬ゼリーで錠剤を服用した場合に主薬の溶出に及ぼす影響 : パルプロ酸ナトリウム錠 200 mg		2018/6/1	医療薬学フォーラム2018
(演題名) 輸液と脂肪乳剤の混合持続点滴における配合変化		2018/10/1	第54回熱測定討論会
III 学会および社会における主な活動			
平成19年1月～平成30年	日本薬学会論文審査員		
平成21年1月～平成31年5月	福岡県公害専門委員		
平成28年10月～平成29年11月	第53回熱測定討論会実行委員長		
平成28年10月～平成29年11月	8th International and 10th China-Japan Joint Symposium on Calorimetry and Thermal Analysis (CATS-2017) 副実行委員長		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 実務薬剤学	職名 教授	氏名 今給黎 修
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 授業内練習問題実施による実践的教育	平成28年～30年	薬学部3年生担当科目「医薬品開発経済学」において、授業内で実践的薬剤経済学モデル分析計算をトレーニングさせている。講義で指導した内容を理解できているかの確認として学生からの評価が高い。	
2 作成した教科書、教材、参考書 薬学疾患管理学テキスト2018	平成28年～30年	薬学部4年生担当科目「薬学疾患管理学」において、より臨床に即した内容を想定し、毎年最新のガイドラインを基に処方解析のためのテキストを作成している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 高校生に対する模擬講義	平成29年 6月22日 9月16日 11月13日	福岡県立嘉穂高校、西南学院高等学校および福岡大学附属大濠高等学校2年生に対して「くすりができるまで～薬剤師の関わり～」というテーマで模擬講義を実施した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 薬学生に対する実務実習指導	平成28年～30年	実務系教員として、医療現場において薬学生に対して実務実習指導を実施した。現場では薬剤師と共同で講義、実習等のスケジュール管理を行い、現場でのスムーズな受け入れ体制を構築した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Methotrexate髄腔内投与での副作用発現症例における併用薬の影響	共著	平成30年1月	YAKUGAKU ZASSHI, 138/01, 111-115
（論文）多剤耐性菌感染症に対して多職種連携を通じて薬剤師が感染症治療および感染対策に貢献できた一例	共著	平成30年5月	日本病院薬剤師会雑誌, 54/5, 582-588
（論文）実務実習における注射無菌調製手技取得のための視聴覚教材活用効果の検討	共著	平成30年6月	日本病院薬剤師会雑誌, 54/6, 736-741
（論文）Association between medication adherence and illness perceptions in atrial fibrillation patients treated with direct oral anticoagulants: An observational cross-sectional pilot study	共著	平成30年8月	PLOS ONE, 13/9, e0204814
（論文）薬剤耐性緑膿菌に関連する臨床的背景因子の検討	共著	平成30年12月	日本病院薬剤師会雑誌, 54/12, 1538-1542
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	
（演題名）直接経口抗凝固薬内服中の心房細動患者における服薬ノンアドヒアランスに関連する因子の検討		平成30年3月	第82回日本循環器学会学術集会
III 学会および社会における主な活動			
平成29年4月～	日本医薬品安全性学会理事・評議員		
平成29年6月～	福岡県病院薬剤師会理事・オンコロジー研修会代表世話人		
平成29年6月	福岡地区勤務薬剤師会理事・学術委員長		
平成30年6月～	筑紫薬剤師会副会長		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福岡大学	講座名	臨床疾患薬理学
職名	教授	氏名	岩崎克典
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年月日	概要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年12月20日	疾患薬理学IIおよびIII;教科書をさらに分かりやすくまとめ、最先端の新薬情報や学会での情報をプリントにして配布している。講義には画像、動画等を駆使して学生の興味を引いている。
2	作成した教科書、教材、参考書	2015年10月16日 2018年3月30日 2018年12月1日	医療薬学 I薬の作用と体の変化および薬理・病態・薬物治療(1)東京化学同人 新しい疾患薬理学南江堂 パートナー機能形態学 改訂第3版
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2017年8月24日	薬理学実習の実践方法(国公私立薬理学関連教員会議)
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)
	(総説) 不眠に処方される漢方薬の作用機序	共著	平成30年10月
	(論文) Tokishakuyakusan ameliorates spatial memory deficits induced by ovariectomy combined with $\beta$ -amyloid in rats, Nobuaki Egashira	共著	平成30年2月
	(論文) The antipsychotic trifluoperazine reduces marble-burying behavior in mice via D2 and 5-HT2A receptors: Implications for obsessive-compulsive disorder.	共著	平成30年5月
	(論文) Behavioral defects in a DCTN1G71A transgenic mouse model of Perry syndrome.	共著	平成30年2月
	(論文) The Traditional Japanese Herbal Medicine Hachimijiogan Elicits Neurite Outgrowth Effects in PC12 Cells and Improves Cognitive in AD Model Rats via Phosphorylation of CREB.	共著	平成29年11月
	2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月
	(演題名) 認知症モデル動物を用いた睡眠障害の漢方薬による改善効果		2018年2月
	(演題名) 不眠における漢方治療の薬理学的研究の最前線		2018年7月
			学会名
			第62回福岡大学東洋医学研究会総会
			漢方メンタルセミナー2018
III 学会および社会における主な活動			
平成27年9月125日	学会主催 日本薬学会九州支部コロキウム		
平成29年8月25日~26日	学会主催 第34回和漢医薬学会		
平成30年8月23日~24日	学会主催 日本薬学会生体機能と創薬シンポジウム		
平成28年4月1日~	日本薬学会BPB学会論文審査員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福岡大学	講座名	臨床薬学
職名	教授	氏名	江川 孝
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2013年度	医療コミュニケーション教育の実践：医療接遇用のシナリオを作成して医療コミュニケーション演習にロールプレイを取り入れた。他8件 平成25年教員評価：平成25年教員評価（A：水準を超えている，B：水準に達している，C：水準に達していない）でB評価を得た。
		2014年度	薬学海外研修の引率：薬学海外研修の引率を4期にわたり行い、学生の日常生活のケアの他に 見学先の病院や薬局にて講義の通訳をした。他 平成26年教員評価：平成26年教員評価（A：水準を超えている，B：水準に達している，C：水準に達していない）でA評価を得た。
		2015年度	PBL型フィジカルアセスメント演習の構築とe-ラーニングによる補完：ハイブリッド型フィジカルアセスメント演習をPBL型の演習に変更してe-ラーニングによる補完を行った。 平成27年度（後期）授業評価アンケート：学生による「いきものと物質・後期」の授業評価アンケートにおいて総合評価3.22点（4点満点）を得た。
		2016年度	セルフメディケーショントリアージ演習の導入：PBLによるハイブリッド型フィジカルアセスメント演習にてセルフメディケーショントリアージ演習を行い学生の臨床推論能力を開発する方略を構築した。 平成28年度（前期）授業評価アンケート：学生による「医療薬学・前期」の授業評価アンケートにおいて総合評価3.25点（4点満点）を得た。
		2017年度	学生による「薬剤管理指導概論・前期」の授業 薬剤師を対象にした災害薬事実践ワーク：災害薬事コーディネーターを対象にした災害薬事のための研修プログラムを開発した。
		2018年度	アドバンストPBL型フィジカルアセスメント演習の導入：PBL型フィジカルアセスメント演習に心電図シナリオを追加して全人的な臨床推論のための演習方略を開発した。
2	作成した教科書、教材、参考書	2013年3月31日	新編 プログラム学習による病態と処方解析，廣川書店，東京
		2013年5月1日	薬剤師・国試がわかる本2014別冊，テコム薬学，東京
		2014年5月1日	薬剤師・国試がわかる本2015別冊，テコム薬学，東京
		2015年1月30日	新しい医学教育の流れ2014冬，薬学教育に有用なe-ラーニング支援ツール，三恵社，東京
		2015年1月30日	新しい医学教育の流れ2014春，チーム連携のための医療シナリオ作成，三恵社，東京
		2015年3月1日	処方提案につなげる薬物治療ハンドブック，南江堂，東京
		2015年5月1日	薬剤師・国試がわかる本2016別冊，テコム薬学，東京
		2016年4月1日	セルフメディケーショントリアージ用のアルゴリズム
		2016年5月1日	薬剤師・国試がわかる本2017別冊，テコム薬学，東京
		2017年4月1日	災害時の基本原則についての視聴覚コンテンツ
		2018年4月1日	改定コアカリに対応した実務実習計画書・実務実習スケジュール



3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2013年9月21日	第23回日本医療薬学会年会, シンポジウム「実務実習前の5年生を対象にした医療用シミュレーターによるPBL教育」	
	2013年10月18日	第54回医学教育セミナーとワークショップin九州大学「患者のためのチーム医療における薬学部学生および薬剤師のコミュニケーションスキルアップのために何が必要か？」	
	2014年6月29日	Asian Association of Schools of Pharmacy 3rd Pharmacy Deans Forum: An interactive problem-based learning (PBL) for pharmacy education utilizing a medical simulator	
	2015年6月14日	第1回岡山薬学フォーラム「高度な専門性を有する医療人養成に向けた就実大学薬学部臨床薬学教育研究センターの取組み」	
	2015年6月25日	The 15th Asian Conference on Clinical Pharmacy, Plenary lecture [Strategy for pharmacy education utilizing medical simulator]	
	2017年7月29日	The 17th Asian Conference on Clinical Pharmacy, Symposium 7, Pharmacy Education [Recent developments in pharmacy education with simulation-based learning]	
	2018年2月12日	日本災害医療薬剤師学会第7回学術大会, シンポジウム2, 研修・訓練から実災害対応へ～そのように実災害対応へ繋げるか～「薬学生・薬剤師を対象にした災害対応研修の在り方」	
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)	2014年1月19日	鳥根県薬剤師会, 中四国調整機構第三者委員会講習会「実務実習におけるハラスメントの定義とトラブル事例」	
	2014年1月21日	鳥取県薬剤師会, 中四国調整機構第三者委員会講習会「事例から学ぶ実務実習におけるハラスメント」	
	2017年10月21日	福岡大学市民カレッジ第51回薬学部卒業後教育講座「薬剤師の腕の見せ所」	
	2017年11月12日	平成29年災害薬事コーディネーター及び災害支援薬剤師専門研修会	
	2017年11月18日	第3回宮崎市郡薬剤師会「薬剤師繋がるフォーラム」	
	2017年11月26日	福岡市認知症対応力向上研修会	
	2018年10月19日	平成30年度第2回博多区多職種連携研修会「認知症対応力向上のために～薬剤師に望まれること・できること～」	
	2018年12月2日	福岡市認知症対応力向上研修会	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書)			
新編 プログラム学習による病態と処方解析	共著	2013年3月	廣川書店, 東京
新しい医学教育の流れ2014冬, 薬学教育に有用なe-Learning支援ツール	共著	2015年1月	三恵社, 東京
新しい医学教育の流れ2014春, チーム連携のための医療シナリオ作成	共著	2015年1月	三恵社, 東京
処方提案につなげる薬物治療ハンドブック	共著	2015年3月	南江堂, 東京
(論文)			
The Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Disaster: A report on volunteer activity for radioactivity screening of temporary returnees to the evacuation zone.	共著	2013年7月	Genes and Environment, 35, 73-79
地域医療型共同薬物治療管理(CDTM)導入の試み～疑義照会の事後報告導入がジェネリック医薬品利用率及び医療費に及ぼす影響～	共著	2014年1月	日本プライマリケア連合学会誌, 36, 302-307
フルオロウラシル内服薬のPTPシート汚染原因の検討	共著	2015年3月	医療薬学, 41, 630-172
Prevention of the exposure by cyclophosphamide oral tablet	共著	2015年7月	Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences, 16:

Assessment of drug content uniformity of atropine sulfate triturate by liquid chromatography-tandem mass spectrometry, X-ray powder diffraction, and Raman chemical imaging.	共著	2016年2月	Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences, 10: 2:04, doi: 10.1186/s40780-016-0038-
Clinical assessment of postoperative anemia associated with edoxaban in patients undergoing total knee arthroplasty compared to fondaparinux	共著	2016年4月	Biological & Pharmaceutical Bulletin, 39, 516-523
ネパール大地震災害に対する医療活動における薬剤師の関わり	共著	2016年5月	医療薬学, 42, 356-363
Goreisan Prevents Brain Edema after Cerebral Ischemic Stroke by Inhibiting Aquaporin 4 Upregulation in Mice.	共著	2017年11月	J Stroke Cerebrovasc, 3, 758-763
The clinical impact of edoxaban for the patients with postoperative anemia after total hip arthroplasty.	共著	2018年5月	Eur J Orthop Surg Traumatol, 1349-1358
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
今後起こり得る有事の薬剤師の支援活動の在り方等について考える ―支援薬剤師を対象としたアンケート調査結果から―	共著	2018年2月1日	第23回日本集団災害医学会総会・学術集会 (横浜)
災害時の医薬品供給体制への提言 -平成28年熊本地震の経験から-	共著	2018年2月1日	第23回日本集団災害医学会総会・学術集会 (横浜)
シンポジウム2, 研修・訓練から実災害対応へ～そのように実災害対応へ繋げるか～「薬学生・薬剤師を対象にした災害対応研修の在り方」	共著	2018年2月12日	日本災害医療薬剤師学会第7回学術大会
テガフル配合口腔内崩壊錠のPTPシートに付着するフルオロウラシル	共著	2018年3月17日	日本臨床腫瘍薬学会学術大会2018 (横浜)
がん領域に特化したアドバンスト病院実習とその評価	共著	2018年3月17日	日本臨床腫瘍薬学会学術大会2018 (横浜)
救急領域患者における薬物動態変動に応じたrTMの至適投与量の後ろ向き調査	共著	2018年3月26日	日本薬学会 第138回年会 (金沢)
Keynote Speech - Drug Harm Reduction and Establishment of it's Mechanism [Recognize the risk and safe handling of antitumor drugs for the hierarchy control]	単著	2018年5月12日	2018 Forbidden City International Pharmacist Forum, Beijing, China
パネルディスカッション, 局地災害:平成29年7月九州北部豪雨「九州北部豪雨災害における医薬品供給体制の検証」	共著	2018年6月9日	第22回日本救急医学会九州地方会
Neuroprotective effect of recombinant human soluble thrombomodulin against cerebral ischemic stroke via regulation of high-mobility group box 1 in mice	共著	2018年7月	18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology, Kyoto, Japan
アルツハイマー型認知症の妻を持つ高次脳機能障害患者が在宅での服薬に成功した一症例	共著	2018年9月22日	第8回日本認知症予防学会学術集会 (東京)
高齢者支援センターと連携した地域に向けた認知症予防活動	共著	2018年9月29日	日本医療マネジメント学会第21回岡山県支部学術集会
The Role of the JDR Medical Team in the 2nd Regional Collaboration Drill of the ARCH project.	共著	2018年10月	APCDM2018, Kobe, Japan
Long-term treatment with recombinant human soluble thrombomodulin improves ischemic brain damage via regulating systemic HMGB1 levels in mice	共著	2018年11月	Neuroscience 2018, San Diego, USA
地位医療における共同薬物治療 (CDTM) に向けた取り組み (第6報) ポジティブリストによる疑義照会業務の改善効果	共著	2018年11月23日	第28回日本医療薬学会年会
感染症由来DIC患者に対するトロンボモジュリンとアンチトロンビンⅢ製剤併用の効果	共著	2018年11月23日	第28回日本医療薬学会年会
セレコキシブの溶解性に対するビタミンD3製剤の影響	共著	2018年11月23日	第28回日本医療薬学会年会

シンポジウム59 多職種連携の中で高度な専門性を発揮するチーム医療の推進-様々な臨床現場の取り組みから-「薬剤師職能を活かした災害医療分野での多職種連携」	共著	2018年11月25日	第28回日本医療薬学会年会(神戸)
シンポジウム66 薬剤師による国際貢献の現状と課題~世界のために共に考えよう、日本の薬剤師の活躍を~「ASEAN災害医療連携強化プロジェクトでの薬剤師活動」	共著	2018年11月25日	第28回日本医療薬学会年会(神戸)
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
学会活動			
平成26年4月~	日本注射薬臨床情報学会 理事		
平成29年1月~	日本災害医学会 薬事委員会		
平成30年2月~	日本災害医療薬剤師学会 理事		
平成30年4月~	日本医療薬学会 国際交流委員		
災害救護活動			
2015年5月7日~20日	国際緊急援助隊医療チーム、ネパール地震災害に対する国際緊急援助隊医療チーム派遣(2次隊・薬剤師)、ネパール共和国		
2015年8月31日	内閣府、船舶を活用した医療機能の提供に係る実証訓練(ロジスティック)、東京湾		
2016年4月16日~18日	平成28年熊本地震、岡山DMAT調整本部(ロジスティック)、岡山県庁		
2016年4月27日~5月3日	平成28年熊本地震、日本集団災害医学会災害コーディネーターサポートチーム(ロジスティック)、阿蘇医療センター		
2016年5月13日~16日	平成28年熊本地震、日本薬剤師会薬事班(救護)、益城町		
2016年12月2日~4日	内閣府、大規模災害時における災害医療の強化に関する調査・検討(ロジスティック)、高知		
2017年7月7日~9日	平成29年九州北部豪雨災害、福岡DMAT調整本部(ロジスティック)、福岡県庁		
2018年7月11日~13日	平成30年西日本豪雨災害、日本DMATロジスティックチーム(ロジスティック)、愛媛県庁		
2018年7月16日~22日	平成30年西日本豪雨災害、日本集団災害医学会災害コーディネーターサポートチーム(ロジスティック)、倉敷市保健所・備中県民局		
2018年8月3日~5日	平成30年大規模地震時医療活動訓練(ロジスティック)、宮崎県庁		
2018年10月13日~14日	平成30年度日米共同統合防災訓練における船舶を活用した医療活動実証訓練(ロジスティック)、和歌山県沖		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 臨床薬物治療学	職名 教授	氏名 遠城寺 宗近
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成25～30年	学生が講義内容を講義中に十分に理解できるよう、まとめのプリントとスライドを作成し、また試験対策として、試験問題例を解説した(毎年更新)	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成25～30年	講義ごとにまとめのプリントとスライド、試験対策問題集を作成して講義を行っている(毎年更新)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特記事項なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成28～30年 平成28年2月 平成25～28年	FD講演会出席 研究倫理教育講演会出席 生物入試問題作成	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) Nutrition therapy for liver diseases based on the status of nutritional intake. In: Coles L, ed. Clinical nutrition: The interface between metabolism, diet, and disease.	共著	平成25年	Apple Academic Press, Taylor and Francis
(著書) Dietary habits and behaviors associated with nonalcoholic fatty liver disease. In: Ma L, Chua M-S, and So S eds. World Clinical Hepatology.	共著	平成27年	Baishideng Publishing Group Inc
(著書) Lipid metabolism and the liver. In: Ohira H, ed. The liver in systemic diseases.	共著	平成28年	Springer
(著書) Enhanced intracellular delivery and improved antitumor efficacy of menaquinone-4. In: Gordeladze JO, ed. Vitamin K2 - vital for health and wellbuing.	共著	平成29年	InTech
(論文) B型及びC型肝炎ウイルスに関連する検査の変遷	共著	平成25年11月	生物試料分析 2013; 36: 343-351.
(論文) Intrahepatic microcirculatory disorder, parenchymal hypoxia and NOX4 upregulation result in zonal differences in hepatocyte apoptosis following lipopolysaccharide- and D-galactosamine-induced acute liver failure in rats.	共著	平成26年2月	Int J Mol Med 2014; 33: 254-262
(論文) Association between visceral fat and body mass index in patients with cirrhosis.	共著	平成26年2月	J Pharm Nutr Sci 2014; 4: 1-5.
(論文) Dietary habits and behaviors associated with nonalcoholic fatty liver disease.	共著	平成26年2月	World J Gastroenterol 2014; 20: 1756-1767.
(論文) 非アルコール性脂肪肝に対するプロバイオティクスによる栄養療法	共著	平成26年2月	福岡医学雑誌 2014; 105: 42-47.
(論文) Sodium 4-phenylbutyrate suppresses the development of dextran sulfate sodium-induced colitis in mice.	共著	平成26年3月	Exp Ther Med 2014; 7: 573-578.
(論文) Exenatide improves hepatic steatosis by enhancing lipid use in adipose tissue in nondiabetic rats.	共著	平成26年3月	World J Gastroenterol 2014; 20: 2653-2663.
(論文) The effects of zinc and other divalent cations on M-current in ventral tegmental area dopamine neurons.	共著	平成26年12月	J Biomed Sci Eng 2014; 7: 1075-1087.
(論文) Enhanced antitumor effects of novel intracellular delivery of an active form of menaquinone-4, menahydroquinone-4, into hepatocellular carcinoma.	共著	平成27年2月	Cancer Prev Res 2015; 8: 129-138.
(論文) Estimated urinary salt excretion by a self-monitoring device is applicable to education of salt restriction.	共著	平成27年2月	Hypertens Res 2015; 38: 143-148.

(論文) Pathophysiological analysis of primary biliary cirrhosis focusing on choline/phospholipid metabolism.	共著	平成27年3月	Liver Int 2015; 35: 1095-1102.
(論文) Hcpicidin/ferroportin expression levels involve efficacy of pegylated-interferon plus ribavirin in HCV-infected liver.	共著	平成27年3月	World J Gastroenterol 2015; 21: 3291-3299.
(論文) Chronic treatment with tandospirone, a serotonin 1A receptor partial agonist, inhibits psychosocial stress-induced changes in hippocampal neurogenesis and behavior.	共著	平成27年4月	J Affect Disord 2015; 180: 1-9.
(論文) A persistent Na <sup>+</sup> current and its contribution to burst-like firing in ventral tegmental area dopamine neurons.	共著	平成27年7月	J Biomed Sci Eng 2015; 8: 429-440.
(論文) Menahydroquinone-4 prodrug: a promising candidate of anti-hepatocellular carcinoma agent.	共著	平成27年7月	Diseases 2015; 3: 150-158.
(論文) Self-management of salt intake: clinical significance of estimated urinary salt excretion by a self-monitoring device.	共著	平成28年3月	Hypertens Res 2016; 39: 127-132.
(論文) Intracellular mechanisms underlying lipid accumulation in gastric epithelial neoplasms: a pilot study of expression profiles of lipid-metabolism-associated genes.	共著	平成28年4月	Gastroenterol Hepatol 2016; 31: 776-781.
(論文) Analysis of renal function during telaprevir-based triple therapy for chronic hepatitis C.	共著	平成28年5月	Exp Ther Med 2016; 11: 1781-1787.
(論文) 拡大内視鏡により視覚化される白色不透明物質	共著	平成28年5月	胃と腸 2016; 51: 711-726.
(論文) All-oral treatment with daclatasvir and asunaprevir for HCV genotype 1 and impact of add-on therapy with lipid modulators.	共著	平成28年10月	Adv Res Gastroenterol Hepatol 2016; 2: 555-579.
(論文) Monocyte-derived macrophages exacerbate acetaminophen-induced liver injury in mice through intrahepatic hypercoagulation.	共著	平成28年11月	J Dig Dis Hepatol 2016; 2016: 21-26.
(論文) The nature of white opaque substance within colorectal neoplastic epithelium as visualized by magnifying endoscopy with narrow-band imaging.	共著	平成28年11月	Endosc Int Open 2016; 4: E1151-E1157.
(論文) Comparison of a salt check sheet with 24-h urinary salt excretion measurement in local residents.	共著	平成28年12月	Hypertens Res 2016; 39: 879-885.
(論文) How and why do lipid droplets accumulate in gastric epithelial neoplasms?	共著	平成29年1月	Ann Pharmacol Pharm 2017; 2(2): 1016.
(論文) A high fat diet-induced decrease in hippocampal newly-born neurons of male mice is exacerbated by mild psychological stress using a Communication Box.	共著	平成29年2月	J Affect Disord 2017; 209: 209-216.
(論文) Sodium and potassium urinary excretion levels of preschool children: individual, daily and seasonal differences.	共著	平成29年6月	J Clin Hypertens 2017; 19:577-583.
(論文) Assessment of dietary salt and sodium intake: from device to questionnaire.	共著	平成29年6月	Qual Prim Care 2017; 25: 101-108.
(論文) Interannual study of spot urine-evaluated sodium excretion in young Japanese women.	共著	平成29年7月	J Clin Hypertens 2017; 19: 653-660.
(論文) Change of oral to topical corticosteroid therapy exacerbated glucose tolerance in a patient with plaque psoriasis.	共著	平成29年11月	Am J Case Rep 2017; 18: 1198-1203.
(論文) Relevance of the Mini Nutritional Assessment in cirrhotic liver disease patients.	共著	平成30年2月	Asia Pac J Clin Nutr 2018; 27: 300-305.
(論文) Leptin attenuates D2 receptor-mediated inhibition of putative ventral tegmental area dopaminergic neurons.	共著	平成30年4月	Physiol Rep 2018; 6: e13631.
(論文) Prolonged sleep deprivation decreases cell proliferation and immature newborn neurons in both dorsal and ventral hippocampus of male rats.	共著	平成30年5月	Neurosci Res 2018; 131: 45-51.
(論文) HMGA1a induces alternative splicing of the Estrogen Receptor-alpha gene by trapping U1 snRNP to an upstream pseudo-5' splice site.	共著	平成30年6月	Front Mol Biosci 2018; 5: 52.

(論文) Enhanced antitumor effects and delivery profiles of menahydroquinone-4 prodrugs with ionic or nonionic promoiety to hepatocellular carcinoma cells.	共著	平成30年7月	Molecules 2018; 23: 1738.
(論文) Self-monitoring of urinary salt excretion as a method of salt-reduction education: a parallel, randomized trial involving two groups.	共著	平成30年7月	Public Health Nutr 2018; 21: 2164-2173.
(論文) Asynchronous rhythm of Ad4BP/SF-1 and Per2 expression in adrenal tumors of Cushing's syndrome.	共著	平成30年7月	Biomed J Sci&Tech Res 2018; 7: BJSTR. MS.ID.001459
(論文) HMGAla induces alternative splicing of estrogen receptor alpha in MCF-7 human breast cancer cells.	共著	平成30年8月	J Steroid Biochem Mol Biol 2018; 182: 21-26.
(論文) Nutritional dietary approach for NAFLD: carbohydrate restriction or fat restriction.	共著	平成30年8月	Gastroenterol Pancreatol Liver Disord 2018; 6: 1-7
(論文) Non-coding RNAs and steroidogenesis.	共著	平成30年11月	Biomed J Sci & Tech Res 2018; 10: BJSTR. MS.ID.001910.
<b>2. 学会発表 (評価対象年度のみ)</b>		<b>発表年・月</b>	<b>学会名</b>
(演題名) Nicotinamide, not N1 methyl nicotinamide, ameliorates hepatic steatosis via NAD-dependent sirtuin activation.		平成30年4月	EASL (European Association for the Study of the Liver), the International Liver Congress 2018
(演題名) HMGAla「おとり」RNAのMCF7/TAMR1細胞におけるタモキシフェン抵抗性に対する検討		平成30年4月	第91回日本内分泌学会学術総会
(演題名) CX-4945 is a novel candidate for the treatment of adrenocortical tumors.		平成30年5月	The 20th European Congress of Endocrinology
(演題名) Sodium and potassium urinary excretion levels of Japanese preschool children: individual, daily and seasonal differences.		平成30年7月	The 7th Asian Congress of Dietetics: the Rise of Nutrition and Dietetics in Asia
(演題名) ニコチナマイドのサーチュインを介した脂肪肝改善効果		平成30年7月	第25回肝細胞研究会
(演題名) From understanding the molecular mechanism of aberrant ER $\alpha$ pre-mRNA toward the therapeutic application in breast cancer.		平成30年7月	Immuno-Oncology Cancer Science 2018
(演題名) 雄性ICRマウスにおけるオキシトシンの抗不安効果の経時的变化		平成30年7月	第41日本神経科学大会
(演題名) 高脂肪食の短期間摂取は背側特異的な海馬神経新生の減少を誘発する		平成30年7月	第41日本神経科学大会
(演題名) Resident/Intruder系を用いた心理社会的ストレスの10回連続負荷は背側海馬神経新生の減少と不安行動の亢進を引き起こす		平成30年7月	第41日本神経科学大会
(演題名) Chronic blonanserin administration has neurotrophic, neurogenic, and anti-inflammatory properties in the brain of healthy male rats.		平成30年9月	WFSBP 2018 KOBE
(演題名) Nicotinamide ameliorates hepatic steatosis via sirtuin activation.		平成30年9月	IBD and Liver: FALK Symposium
(演題名) Nicotinamide, a sirtuin modifier, ameliorates hepatic steatosis with alterations in bile acid metabolism but not in microbiota.		平成30年9月	EASL (European Association for the Study of the Liver), NAFLD summit 2018
(演題名) Alleviation of tamoxifen resistance by modulating ER $\alpha$ alternative splicing.		平成30年11月	The 13th European Diabetes and Endocrinology Congress
<b>Ⅲ 学会および社会における主な活動</b>			
平成25年度～	日本消化器病学会評議員 (九州支部および本部)		
平成25年度～	日本肝臓学会評議員 (西部会)		
平成25年度～	「医療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」福岡地区臨床評価医		
平成25年度～	福岡県社会保険診療報酬請求書審査委員会 審査委員		
平成28年度～	九州大学医学部 非常勤講師		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名：福岡大学	講座名 微生物薬品化学	職名 教授	氏名 鹿志毛信広
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫			
低学年から臨床を意識させる授業の実践	2014年4月～ 2017年3月	1年次前・後期開講科目：生体機能分子学Ⅰ・Ⅱ	
パワーポイントを用いた要点整理	2014年4月～	3年次前期開講科目：感染症治療薬学概論	
アドバンスト教育の実践	2018年4月～	4年次前期開講科目：遺伝子工学概論	
研究倫理教育の実践	2018年4月～	6年次前期開講科目：アドバンスト特別実習	
2 作成した教科書、教材、参考書			
コンパス分子生物学 改訂第2版（南江堂）	2015年9月5日	総頁数285、1章遺伝子とは何か 3～15頁を担当	
新装版 ポイントがわかる薬科微生物学 第3版（廣川鉄男事務所）	2017年1月27日	総頁数447、6章化学療法剤各論 273～396頁を担当	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
該当無し			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
H28年度第1回薬学部FDワークショップ(WS)へ参加	2016年8月9日	授業運営の改善に関するワールドカフェ形式WS	
H28年度第1回薬学部FD講演会へ参加	2016年10月31日	最近のリメディアル教育の状況	
H29年度第1回薬学部FDワークショップへ参加	2017年12月14日	薬学教育の充実のために（ルーブリック評価）	
H30年度第1回薬学部FD講演会へ参加	2018年5月9日	今後の薬学教育について（第三者評価、新実務実習）	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(論文) Recombinant fusion protein of cholera toxin B subunit with YVAD secreted by <i>Lactobacillus casei</i> inhibits lipopolysaccharide-induced caspase-1 activation and subsequent IL-1 beta secretion in Caco-2 cells	共著	2014年5月	BMC Biotechnol. 14
(論文) The anti-inflammatory effects of a high-frequency oligodeoxynucleotide from the genomic DNA of <i>Lactobacillus casei</i>	共著	2014年11月	Int Immunopharmacol. 23(1)
(論文) Identification of dihydropyrazine-glutathione adducts.	共著	2015年8月	J Toxicol Sci. 40(4)
(論文) Enhancement and regulation effect of myrcene on antibody response in immunization with ovalbumin and Ag85B in mice.	共著	2016年5月	Asian Pac J Allergy Immunol. 34(4)
(論文) Preparation of Novel Bivalent Linker Mode Phenylboronic Acid Derivatives and Their Biological Evaluation 3-ones Containing Oxime Ester	共著	2018年6月	HETEROCYCLES 96(6)

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Preparation and Biological Activity of Symmetrical Phenylboronic Acid Derivatives	2018年6月	17th Annual World Preclinical Congress
新規スピロ[イソオキサゾリン-5,4'-ピラゾール]誘導体の合成と生物活性評価について	2018年11月	第35回日本薬学会九州支部大会
新規ピラゾール-チアゾール誘導体の合成と生物活性評価について	2019年3月	日本薬学会第137年会
トリバレントC3対称性フェニルボロン酸の合成と生物活性	2019年3月	日本薬学会第137年会
<i>Lactobacillus plantarum</i> D2905 株のEPSの産生に関わる遺伝子の同定とその性状	2019年3月	日本薬学会第137年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成25年4月	日本薬学会代議員	
平成26年4月	日本薬学会代議員	
平成27年10月	夢ナビライブ2015福岡会場における高校生への薬学の啓蒙活動	
平成27年12月	愛媛県立八幡浜高校における薬学部ガイダンス	
平成28年10月	沖縄県の高中生に対する模擬講義（感染症の基礎知識）	
平成28年11月	投稿論文の査読（日本薬学会英文誌：Biol. Pharm. Bull）	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。



(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 応用薬剤学	職名 教授	氏名 片岡 泰文
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 薬学部学生に対する講義 学部生および院生に対する卒業研究・学位論文指導		H25. 4. 1～ H25. 4. 1～	患者の薬学的管理関連の講義を担当した 実験計画からデータ解析及び論文作成について指導した
2 作成した教科書、教材、参考書 「図解 薬害・副作用学 改訂第2版」南山堂 スタンダード薬学シリーズII「医療薬学 I」 「実務実習事前学習」実習書		H29. 9. 15 H27. 10. 16 H25. 9. 1～	第3章1「中枢神経系に作用する薬」の副作用を分担執筆した。 第10章「片頭痛」の病態・薬物治療を分担執筆した。 全体の編集、面談実習、水剤実習部分を担当した（各年）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） Oncostatin M-induced blood-brain barrier impairment is due to prolonged activation of STAT3 signaling in vitro.	共著	2018年11月	J Cell Biochem. 119(11) :9055-9063.
（論文） TNF- $\alpha$ -sensitive brain pericytes activate microglia by releasing IL-6 through cooperation between I $\kappa$ B-NF $\kappa$ B and JAK-STAT3 pathways.	共著	2018年4月	Brain Res. 1692:34-44.
（論文） Role of thrombin-PAR1-PKC $\theta$ / $\delta$ axis in brain pericytes in thrombin-induced MMP-9 production and blood-brain barrier dysfunction in vitro.	共著	2017年5月	Neuroscience. 2017 350:146-157.
（論文） CD147 promotes the formation of functional osteoclasts through NFATc1 signalling.	共著	2016年4月	Biochem Biophys Res Commun. 473(2):620-4.
（論文） Elevated permeability of the blood-brain barrier in mice intratracheally administered porcine pancreatic elastase.	共著	2015年11月	J Pharmacol Sci. 129, 78-81.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名） Lowered PDGF-BB/PDGFR $\beta$ signaling between brain endothelial cells and pericyte contributes to the blood-brain barrier disruption induced by oxygen-glucose deprivation		2017年11月	12th International Conference on Cerebral Vascular Biology
（演題名） An interaction between thrombin and pericytes mediates the blood-brain barrier dysfunction in obesity-associated diabetes		2017年11月	12th International Conference on Cerebral Vascular Biology
III 学会および社会における主な活動			
平成25年4月～	日本薬理学会学術評議員		
平成25年11月	第66回日本薬理学会西南部会長		
平成28年4月～	第90回日本薬理学会年会 組織委員会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 実務薬剤学	職名 教授	氏名 神村 英利
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2013年度より 2014年度より	コミュニケーション学で参加型授業を実施 薬事関連の授業終了時に確認問題を配布して解説	
2 作成した教科書、教材、参考書	2013年8月1日 2015年3月31日 2016年2月24日 2018年1月25日	早期体験学習ガイドブック わかりやすい薬事関係法規・制度(第3版) ポイントがわかる薬科微生物学(第3版) スタンダード薬学シリーズ 臨床薬学Ⅱ	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2013年10月19日 2014年10月18日 2015年10月17日 2016年10月15日 2018年6月12日	夢ナビライブ模擬講義 夢ナビライブ模擬講義 夢ナビライブ個別相談 夢ナビライブ模擬講義 九州大学医療系学部合同講義	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2015年度まで 2015年度まで 2016年度から 2016年度から 2017年度から 2018年度から	筑紫病院臨床研究入門講義担当 筑紫病院看護管理研修担当 医学科bed side learning(薬剤部門)担当 医学科臨床修練入門(薬剤部門)担当(他1件) 福岡県薬剤師会会報に薬学研究記事を連載中 看護研究科高度実践看護師コース担当	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書)精神科の薬と患者ケアQ&A(第3版)	編著	2014年9月	じほう社
(著書)病気とくすり2018	共著	2018年3月	南山堂
(論文) Association between medication adherence and illness perceptions in atrial fibrillation patients treated with direct oral anticoagulants: An observational cross-sectional pilot study	共著	2018年9月	PLOS ONE, vol. 13, No. 9
(論文) The impact of earlier intervention by an antimicrobial stewardship team for specific antimicrobials in a single weekly intervention	共著	2018年10月	International Journal of Infectious Diseases, vol. 77, No. 10
(論文) Population Pharmacokinetics and Exposure-Response of Lithium carbonate in Patients Based on Tubular Reabsorption Mechanisms	共著	2018年12月	European Journal of Drug Metabolism and Pharmacokinetics, DOI 10.1007/s13318-018-0536-0

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）ロチゴチン貼付剤の効果不良および皮膚障害対策	2018年8月	第4回日本医薬品安全性学会学術大会
（演題名）改訂コアカリ薬学実務実習へ向けての実習プログラムの構築と課題	2018年9月	第3回日本薬学教育学会
（演題名）福岡大学病院における持参薬確認業務の実態調査と効率化の検討	2018年11月	第79回九州山口薬学大会
（演題名）福岡県における患者情報に基づく安全な薬物療法提供を推進するための取り組み	2018年11月	第79回九州山口薬学大会
（演題名）High-Sensitive Allergy Test (HiSAT) に最適な細胞の探索	2018年11月	第28回日本医療薬学会年会
（演題名）心血管疾患患者とその主治医対象の服薬アドヒアランスに関するアンケート調査	2018年11月	第28回日本医療薬学会年会
（演題名）感染症由来DIC 患者に対するトロンボモジュリンとアンチトロンビンIII 製剤併用の効果	2018年11月	第28回日本医療薬学会年会
（演題名）注射用バンコマイシンと注射用抗菌薬併用における腎機能障害の比較検討	2018年11月	第28回日本医療薬学会年会
（演題名）ヒドロキシクロロキン硫酸塩服用中に房室ブロックを発症した全身性エリテマトーデスの1症例	2018年11月	第28回日本医療薬学会年会
（演題名）ICU から一般病棟転棟後にランソプラゾールによるCollagenous Colitisの発症が疑われた一例	2018年11月	第28回日本医療薬学会年会
（演題名）在胎週数28 週未満の未熟児無呼吸発作患者に対するカフェインの有効性および安全性の検討	2018年11月	第28回日本医療薬学会年会
（演題名）実践的な病棟実習にて薬学部5年生に生じる意識変化—脳神経センターにおける6日間の実習を通して—	2019年3月	日本薬学会 第139年会
（演題名）薬局薬剤師の薬学的介入により回避されるリスクと医療経済効果	2019年3月	日本薬学会 第139年会
<b>Ⅲ 学会および社会における主な活動</b>		
2013年4月～現在	日本医療薬学会論文審査員	
2013年4月～現在	日本病院薬剤師会論文審査員	
2016年4月～現在	日本社会薬学会九州支部長	
2018年4月～現在	日本老年薬学会論文審査員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 創剤学教室	職名 教授	氏名 加留部 善晴
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		毎期 毎回授業開始前	授業のまとめをホームページに公開 前回の授業の復習
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書 教科書		2016. 8. 15 2018. 2. 20	新 放射化学・放射性医薬品学 (改訂第4版) 放射線・放射性物質の薬学利用
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		毎回授業開始前	名言や薬に関する歴史・トピックスを話す
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2018. 5. 9 2018. 8. 24	薬学部FD講演会の講師 文科省主催薬学教育指導者のためのワークショップ参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 新 放射化学・放射性医薬品学	共著	平成28年8月	南江堂
(著書) 放射線・放射性物質の薬学利用-放射線の基礎科学と臨床応用-	共著	平成30年2月	株式会社廣川鉄男事務所
(論文) Mechanism Underlying Linezolid-induced Thrombocytopenia in a Chronic Kidney Failure Mouse Model.	共著	平成29年1月	J Pharmacol Pharmacother. 8(1):8-13.
(論文) Antitumor Effects and Delivery Profiles of Menahydroquinone-4 Prodrugs with Ionic or Nonionic Promoiety to Hepatocellular Carcinoma Cells.	共著	平成30年7月	Molecules. 16:23(7)
(論文) The Kampo medicine Yokukansan (YKS) enhances nerve growth factor (NGF)-induced neurite outgrowth in PC12 cells.	共著	平成30年8月	Bosn J Basic Med Sci. 1;18(3):224-233
(論文) Cholinesterase inhibitor rivastigmine enhances nerve growth factor-induced neurite outgrowth in PC12 cells via sigma-1 and sigma-2	共著	平成30年12月	PLoS One. 17:13(12)
(論文) Effects of fluvoxamine on nerve growth factor-induced neurite outgrowth inhibition by dexamethasone in PC12 cells.	共著	平成30年12月	Biosci Biotechnol Biochem. 13:1-7
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) γ-トコトリエノールエステル型プロドラッグによる脂肪肝抑制効果		平成30年1月	第29回ビタミンE研究会
(演題名) 神経様細胞SH-SY5Yにおけるロテノン誘導性酸化ストレスに対するビタミンK2の効果		平成30年3月	日本薬学会
(演題名) 神経様細胞PC12におけるNGF依存性神経突起伸張作用に対するリバスチグミンの増強機構		平成30年11月	日本神経精神薬理学会
III 学会および社会における主な活動			
平成20年4月～現在	電子科学研究所主催放射線取扱主任者に対する定期講習会講師		
平成23年4月～現在	薬学教育評価機構評価委員		
現在	全国薬科大学長・学部長会議理事、私立薬科大学協会理事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 生薬学	職名 教授	氏名 金城順英
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成29年12月	2017年度後期授業アンケート(生薬学Ⅱ) 理解度7.8(平均7.2)総合評価8.0(平均7.7) 教員の総合評価8.2(平均7.8)	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成29年1月	「生薬学」第9版(廣川書店)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成30年5月 平成28年10月 平成28年8月	平成30年度第1回薬学部FD講演会参加 平成28年度第1回薬学部FD講演会参加 平成28年度薬学部FDワークショップ参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Four new resin glycosides, murasakimasarins I-IV, from the tuber of Ipomoea batatas.	共著	平成30年9月	J. Natural Medicine, vol. 72, 784-792
(総説) Antitumor Allium Sulfides.	共著	平成29年9月	Chem Pharm Bull, vol. 65 209-217
(論文) Screening of promising chemotherapeutic candidates from plants against human adult T-cell leukemia/lymphoma (V): coumarins and alkaloids from Boeninghausenia japonica and Ruta graveolens.	共著	平成29年1月	J. Natural Medicine, vol. 71, 170-180
(論文) Screening of promising chemotherapeutic candidates from plants against human adult T-cell leukemia/lymphoma (IV)	共著	平成27年7月	J. Natural Medicine, vol. 69, 397-401
(総説) Screening of promising chemotherapeutic candidates from plants extracts.	共著	平成27年7月	J. Natural Medicine, vol. 70, 335-360
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 大豆の成長段階における成分変化に関する研究 ―多変 量解析法(主成分分析)を用いて―		平成30年9月	日本生薬学会第65回年会
(演題名) 茶葉含有成分のSeasonal Variation について		平成30年9月	日本生薬学会第65回年会
III 学会および社会における主な活動			
平成18年4月～平成27年3月	日本生薬学会学会誌(J. Natural Medicine、生薬学雑誌)編集委員会編集委員		
平成22年4月～平成28年3月	日本生薬学会九州・山口地区幹事		
平成26年9月	日本生薬学会第61回年会主催		
平成27年4月～	日本生薬学会学会誌(J. Natural Medicine、生薬学雑誌)編集委員会編集副委員長		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 医薬品化学	職名 教授	氏名 須本國弘
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成27年度 ~30年度	学生の意見を取り入れ、黒板の代わりにOHPを 板書として利用することを取り入れた。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成30年3月	教科書「新編医薬化学」(廣川書店)の作成出版
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成28年10月	薬学部FD講演会などへの参加： 例えば「最近のリメディアル教育の現状」など
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年 月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 新編 医薬化学	共著	平成30年3月	(株) 廣川書店
(論文) Carbohydrate recognition of C3-symmetrical tripodal receptor-type 2,4,6-trisubstituted 1,3,5-triazine derivatives with antiviral activities	共著	平成30年7月	J Therm Anal and Calorim, DOI 10.1007/s10973-018-7573- 4 (2018)
(論文) Preparation and Antiviral Activity of Some New C3- and C5-Symmetrical Tri-substituted Triazine Derivatives Having Benzylamine Substituents	共著	平成30年8月	Chem. Pharm. Bull., 66, 830-838 (2018)
(論文) Preparation of Novel Bivalent Linker Mode Phenylboronic Acid Derivatives and Their Biological Evaluation	共著	平成30年6月	Heterocycles, 96, 1088-1100 (2018)
(論文) Novel Trivalent C3-Symmetrical Phenylboronic Acid Pinacol Esters and Their Biological Evaluation	共著	平成30年1月	Heterocycles, 96, 144-151 (2018).
(論文) Novel C2-Symmetrical Phenylboronic Acid Pinacol Esters with a Few Types of Linkers and Their Biological Activities	共著	平成29年9月	Heterocycles, 94, 1748-1758 (2017).
(論文) Antiviral Activities of Some New 2,4,6-Trisubstituted 1,3,5-Triazines Having Alkoxy and/or Alkylamino Groups	共著	平成29年9月	Heterocycles, 94, 1653-1677 (2017).
(論文) Novel Trivalent C3-Symmetrical Phenylboronic Acid Pinacol Esters	共著	平成29年1月	Org. Prep. Proced. Int., 49, 287-292 (2017).
(論文) Preparation and Biological Activity of Novel Twin-drug Type C2-Symmetrical Cyclic Phenylboronic Acid Derivatives	共著	平成29年1月	Heterocycles, 95, 517-524 (2017)
(論文) Antibacterial Activity and Molecular Geometry of Some New Symmetrical Tri(aminoalkyl)amine Derivatives	共著	平成28年12月	Chem. Pharm. Bull., 64, 1769-1780 (2016).
(論文) Novel Twin-drug Type C2-Symmetrical Phenylboronic Acid Pinacol Esters	共著	平成28年5月	Heterocycles, 92, 925-935 (2016).
(論文) Synthesis and Antibacterial Evaluation of Some New 5-Substituted Hydantoins and Novel Twin-drug Type Derivatives	共著	平成28年6月	Heterocycles, 92, 1111-1120 (2016).
(論文) Synthesis and Antiviral Evaluation of Some C3-Symmetrical Trialkoxy-Substituted 1,3,5-Triazines and Their Molecular Geometry	共著	平成27年11月	Chem. Pharm. Bull., 63, 935-944 (2015).
(論文) Preparation and Antibacterial Evaluation of Some Symmetrical Twin-drug Type Bivalent Molecules	共著	平成27年8月	Heterocycles, 91, 1668-1677 (2015).
(論文) Reaction of 5-Methylenehydantoins and Their Chemical Modification to Twin-drug Type Symmetrical Molecules	共著	平成26年7月	Heterocycles, 89, 2745-2759 (2014).
(論文) Synthesis and Antiviral Activities of Some 2,4,6-Trisubstituted 1,3,5-Triazine Derivatives	共著	平成26年10月	Chem. Pharm. Bull., 62, 1032-1040 (2014)

(論文) Synthesis of New 5-Substituted Hydantoin and Symmetrical Twin-drug Type Hydantoin Derivatives	共著	平成26年5月	Chem. Pharm. Bull., 62, 429-438 (2014)
(論文) Carbohydrate recognition of symmetrical tripodal receptor type tris(2-aminoethyl)amine derivatives	共著	平成25年9月	J. Therm. Anal. Calorim., 113, 1015-1018 (2013)
(論文) Antibacterial Activity of Some 5-Dialkylaminomethylhydantoins and Related Derivatives	共著	平成25年10月	Chem. Pharm. Bull., 61, 1090-1093 (2013)
(論文) Synthesis and Biological Evaluation of Symmetrical 2,4,6-Trisubstituted 1,3,5-Triazine Derivatives	共著	平成25年8月	Chem. Pharm. Bull., 61, 823-833 (2013)
(論文) Synthesis and Antibacterial Activity of 3-(Substituted Arylmethyl)-4-acylaminoethylloxazolidin-2-ones and Derivatization to Symmetrical Twin-drug Type Molecules	共著	平成25年4月	J. Heterocyclic Chem., 50, 417-424 (2013).
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 新規トリポダル受容体型C3対称性三置換1,3,5-トリアジン誘導体およびハイブリッド型C3対称性1,3,5-トリアジン誘導体の合成と抗ウイルス活性		2019年3月	日本薬学会第139年会
(演題名) C3対称性ボロン酸の合成と生物活性評価		2019年3月	日本薬学会第139年会
(演題名) Preparation and Biological Activity of Symmetrical Phenylboronic Acid Derivatives		2018年6月	17th Annual World Preclinical Congress, (US, Boston)
(演題名) 新規トリポダル型C3およびC3対称性ベンジルアミノ置換-1,3,5-トリアジン誘導体の合成: 抗ウイルス活性と糖認識		2018年3月	日本薬学会第138年会
(演題名) N-アシルアミノ置換フェニルボロン酸誘導体の合成とその生物活性: 1価及び多価フェニルボロン酸誘導体類の生物活性の比較		2018年3月	日本薬学会第138年会
(演題名) C3対称性フェニルボロン酸誘導体の探索合成と生物活性		2017年11月	第34回日本薬学会九州支部大会
(演題名) Carbohydrate recognition of C3-symmetrical tripodal receptor-type 2,4,6-trisubstituted 1,3,5-triazine derivatives with antiviral activities		2017年11月	CATS-2017(Japan, Fukuoka)
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成27~30年度	HETEROCYCLES論文審査員		
平成27~28年度	日本薬学会CPB論文審査委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 薬物送達学	職名 教授	氏名 高田二郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 物理薬剤学の講義 製剤学の講義 薬物送達学の講義 医療薬剤学特別講義Iの講義 医療薬剤学IIの講義 総合医療薬学特別講義III 製剤工学の講義 製剤材料学の講義	平成27年4月～現在 平成27年9月～現在 平成21年4月～現在 平成21年9月～現在 平成23年4月～現在 平成23年9月～現在 平成20年9月～現在 平成20年4月～現在	薬学部3年次生を担当、溶解性、安定性、粉体、界面化学を製剤化の実践を念頭に講義演習を心がけている。 薬学部3年次生を担当、各種剤形、製剤の製造方法、添加剤、製剤機器の理解を心がけている。 薬学部4年次生を担当、薬物の有効性を最大限にし、副作用を抑え安全性を最大限にするための薬物送達システム(DDS)についての基礎的・応用的な理解を心がけている。 薬学部4年次生を担当、製剤材料の基本的条件と製剤試験に関して総合的な理解を図った。 薬学部6年次生を担当、製剤化理論と技能をさらに発展させ、薬剤師の責任義務に関した法律・経済に関して総合的な理解を図った。 薬学部6年次生を担当、製剤学分野と医薬品情報分野の知識を卒後に医療機関・製薬企業での活用をに関して総合的な理解を図った。 薬学部3年次生を担当、各種剤形、製剤の製造方法、添加剤、製剤機器の理解を心がけている。 薬学部3年次生を担当、溶解性、安定性、粉体、界面化学を製剤化の実践を念頭に講義演習を心がけている。	
2 作成した教科書、教材、参考書 製剤化のサイエンス改訂8版			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
特許 INHIBITOR OF ISCHEMIC DISORDERS	共著	平成27年6月	CA 2697900
特許 放射線被ばくによる生体障害の予防または治療用薬剤及びその投与キット	共著	平成26年11月	第5648195号
特許 虚血性障害抑制剤	共著	平成26年4月	第5515078号
Effects of fluvoxamine on nerve growth factor-induced neurite outgrowth inhibition by dexamethasone in PC12 cells	共著	平成30年12月	Bioscience Biotechnology Biochemistry, Published online 13 Dec 2018
Antitumor Effects and Delivery Profiles of Menahydroquinone-4 Prodrugs with Ionic or Nonionic Promoiety to Hepatocellular Carcinoma Cells.	共著	平成30年7月	Molecules, 23 (7), 1738-1754 (2018)
The Kampo medicine Yokukansan (YKS) enhances nerve growth factor (NGF)-induced neurite outgrowth in PC12 cells.	共著	平成30年8月	Bosn J Basic Med Sci. 18(3), 224-233 (2018)
Effect of orally ingested diosgenin into diet on skin collagen content in a low collagen skin mouse model and its mechanism of action	共著	平成29年4月	Life Sci., 174, 77-82 (2017)
Pharmacokinetics of Paradol Analogues Orally Administered to Rats	共著	平成28年5月	J Agric Food Chem, 64(9), 1932-1937 (2016)
Enhanced antitumor effects of novel intracellular delivery of an active form of menaquinone-4, menahydroquinone-4, into hepatocellular carcinoma	共著	平成27年2月	Cancer prevention research, 8(2), 129-38 (2015)
Effects of oral administration of collagen peptides on skin collagen content and its underlying mechanism using a newly developed low collagen skin mice model	共著	平成27年6月	Journal of Functional Foods, 16, 174-182 (2015)
Relationship between the Acyl Chain Length of Paradol Analogs and their Anti-Obesity Activity following Oral Ingestion	共著	平成26年7月	J Agric Food Chem, 62:6166-74. 2014
Gamma-tocopherol-N,N-dimethylglycine ester as a potent post-irradiation mitigator against whole body X-irradiation-induced bone marrow death in mice.	共著	平成26年1月	J Radiat Res. 2014 Jan 1;55(1):67-74.



2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
In vitro NASHモデルにおけるγ-トコトリエノールエステル型プロドラッグのNASH進展抑制効果の評価	平成31年3月	日本薬学会第139年会
神経様細胞SH-SY5Yのロテノン誘導性細胞死に対するビタミン K2の保護効果および機構探索	平成31年3月	日本薬学会第139年会
神経様細胞PC12におけるNGF依存性神経突起伸張作用に対するリバスチグミンの増強機構	平成30年10月	神経精神薬理学会
Chemopreventive Effect of Menahydroquinone-4-prodrugs with Ionic or Non-ionic Promoiety against Hepatocellular Carcinoma	平成30年7月	第二回日韓若手薬剤学研究者ワークショップ
L-HPC乾燥フィルムのインクジェットプリント製剤基剤としての評価	平成30年6月	日本薬剤学会第33年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成20年6月～平成23年6月	日本ビタミン学会評議員	
平成23年6月～現在	日本ビタミン学会幹事	
平成18年7月～平成26年4月	独立行政法人 放射線医学研究所 客員研究員	
平成27年4月～平成28年4月	国立研究開発法人 放射線医学研究所 客員協力研究員	
平成28年4月～現在	国立研究開発法人 量子化学技術研究開発機構 協力研究員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 免疫・分子治療学	職名 教授	氏名 中島 学
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	H25～	①免疫学・病態・薬物治療学Ⅰ、Ⅲの講義スライドの改訂を毎年度授業評価も参考にして実施。	
2 作成した教科書、教材、参考書	H30.12.15 H30.2.5 H24.9.15 H26.3.31	パートナー機能形態学 改訂第3版 薬系免疫学 改訂第3版 薬系免疫学 第2版 早期臨床体験Ⅱおよび事前実習フィジカルアセスメント実習書の作製(改訂版)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	H30.10.24 H30.7.4 27年度 8/25 27年度 10/13	福岡大学コンプライアンス教育 講演者 福岡大学コンプライアンス教育 講演者 FD講演会 参加 FD講演会 参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
パートナー機能形態学 改訂第3版	共著	平成30年12月	南江堂
薬系免疫学 改訂第3版	共著	平成30年2月	南江堂
(論文) miR-200c-3p spreads invasive capacity in human oral squamous cell carcinoma microenvironment その他 3論文	共著	平成30年	Molecular Carcinogenesis 57, 295-302 (2018)
(論文) Orally administered sodium 4-phenylbutyrate suppresses the development of dextran sulfate sodium-induced colitis in mice その他 5論文	共著	平成29年	Ex Ther Med, 14(6), 5485-5490 (2017)
(論文) 7. Amino acid metabolomics using LC-MS/MS : assessment of cancer cell resistance in a stimulated tumor microenvironment その他 8論文	共著	平成28年7月	Anal Sci, 32(8), 893-900 (2016)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Therapeutic effects of self-assembled siRNA-PLGA hybrid conjugate micelles for melanoma など 計12演題		平成30年9月	第77回日本癌学会学術大会
III 学会および社会における主な活動			
	日本内科学会		
	日本癌学会		
	日本がん免疫学会		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福岡大学	講座名	薬品分析学教室
職名	教授	氏名	能田 均
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・分析化学Ⅰ,Ⅱ ・物理系基礎薬学特別講義		2005年度～ 2018年度～	・分析化学を基礎から国家試験までシームレスに学習できるように考慮。 ・CBT、国家試験等を想定した演習問題の作題、配付、解説。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・パートナー分析化学Ⅰ、Ⅱ（南江堂） ・演習で理解する薬学の分析化学（廣川書店）		1998年9月～ 2010年2月～	・分担執筆および編集 ・分担執筆および編集
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成30年9月 平成30年9月	「4年次生成績下位者に自主的な学習習慣を習得させる取り組み」、第3回日本薬学教育学会大会（共同研究者） 「リメディアル物理受講者の成績の動向」、第3回日本薬学教育学会大会（共同研究者）
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号 数）等の名称
（著書）パートナー分析化学Ⅰ	共著 （分担執筆・編集）	2017年5月	南江堂，113-128（全287 頁）
（著書）パートナー分析化学Ⅱ	共著 （分担執筆・編集）	2017年5月	南江堂，184-196（全332 頁）
（総説）Fluorous Affinity-based Separation Techniques for the Analysis of Biogenic and Related Molecules	共著	2014年12月	<i>J. Pharm. Biomed. Anal.</i> , <b>101</b> , 151-160 (2014).
（論文）Selective Liquid Chromatographic Determination Method of 5-Hydroxyindoles with Fluorous and Fluorogenic Derivatization	共著	2015年10月	<i>J. Pharm. Biomed. Anal.</i> , <b>114</b> , 348-354 (2015).
（論文）Fluorous-assisted Metal Chelate Affinity Extraction Technique for Analysis of Protein Kinase Activity	共著	2016年8月	<i>Talanta</i> , <b>156-157</b> , 1-5 (2016).
（論文）Multi-perfluoroalkyl Derivatization of Polyamines for Selective Liquid Chromatography-tandem Mass Spectrometric Analysis Utilizing Fluorous Affinity	共著	2017年10月	<i>Chromatography</i> , <b>38</b> , 107- 113 (2017).

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
二次元キラルHPLCを用いる生体内シトルリン及びホモシトルリン分析法開発と尿中含量解析	2018年5月	第25回クロマトグラフィーシンポジウム
フルオラス誘導体化LC-MS法による貝毒成分のオカダ酸及びドウモイ酸の分析	2018年7月	第36回九州分析化学若手の会夏季セミナー
キヌレニン鏡像異性体を対象とした高選択的二次元HPLC分析法の開発	2018年7月	第36回九州分析化学若手の会夏季セミナー
パーフルオロポリエーテルカルボン酸の金属塩を利用したリン脂質の選択的抽出及びLC-MS/MS分析	2018年8月	第31回バイオメディカル分析科学シンポジウム
ヒト血漿中クルクミンのフルオラス誘導体化LC-MS/MS分析	2018年8月	第31回バイオメディカル分析科学シンポジウム
多次元HPLCを用いる代謝関連キラルアミノ酸の高選択的分析法開発	2018年9月	第14回D-アミノ酸学会学術講演会
蛍光誘導体化HPLC法による二枚貝中オカダ酸の分析	2018年9月	日本分析化学会 第67年会
フルオラス誘導体化LC-MS法による二枚貝中のオカダ酸分析	2018年9月	フルオラス科学研究会 第11回シンポジウム
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
2015年度～2017年度	日本薬学会 代議員	
2006年11月～現在に至る	日本分析化学会九州支部 幹事	
2018年度～	薬剤師国家試験 試験委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 医薬品情報学	職名 教授	氏名 原 周司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成30年	パワーポイントを用いて学生と共に、講義を進めることによって、学生の集中力を高めている。また、パワーポイントデータを希望する学生には提供している。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成30年	種々の教科書を参考にしてまとめた、講義ノートを作成し(毎年改定)、項目ごとに、関連する問題をのせて、授業後、復習するのに役立つようにしている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成30年	特に無し。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成30年	大学内で開催される、教育方法等についての講演等には、努めて参加し、講義等に生かせるよう努めている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Acceleration mechanisms of skin wound healing by autologous micrograft in mice	共著	平成29年6月	Int J Mol Sci 21(6)
(論文) G-CSF administration accelerates cutaneous wound healing accompanied with increased Pro-Hyp production in db/db mice	共著	平成29年2月	Clin Res Dermatol 4(2)
(論文) Increased drug resistance of MRSA biofilms formed on a mouse dermal chip model	共著	平成29年4月	J Med Microbiol 66(4)
(論文) A novel skin splint for accurately mapping dermal remodeling and epithelialization during wound healing	単著	平成29年6月	J Cell Physiol 232(6)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
肥厚性瘢痕とケロイドのメカニカルストレス関与の組織学的研究		平成30年10月	第27回日本形成外科学会基礎学術集会
マウスを用いたメカニカルストレス負荷下での創傷治癒に対するにコラーゲンペプチドProline-Hydroxyprolineの効果		平成30年10月	第27回日本形成外科学会基礎学術集会
III 学会および社会における主な活動			
平成29年4月～平成31年 現在	福岡県薬事審議会委員		
平成27年4月～平成31年 現在	薬学教育協議会 病院・薬局実務実習中央調整機構委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 機器分析学	職名 教授	氏名 藤岡稔大
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		講義担当開始 (2004年4月)～ 現在に至る(毎年)	教科書による講義だけでなく、薬剤師国家試験問題を含む問題を時間内及び時間外で解かせて、詳しく解説することで、どこが重要かを認識させる。それに加えて、平成29年9月より毎回の講義終了後に各学生に紙を配布して、その日の講義についての質問を書いてもらい、その質問のうち、数が多い分について、次の時間の講義の最初の時間を使って解説を再度丁寧に行った。理解の遅い学生にも対応するようにした。
2 作成した教科書、教材、参考書		講義担当開始 (2004年4月)～ 現在に至る(毎年)	平成26年度までは、担当しているすべての講義についてプリントを作成し、それを使って講義を行った。平成27年度からは自ら主に編集した教科書「よくわかる薬学機器分析」を中心に講義を行った。教科書以外には、「分析化学Ⅲ」：各項目ごとの小テスト、中間試験、「分析化学Ⅳ(旧生成成分分析学)」：NMRおよびMSの問題集冊子、中間試験、「基礎薬学特別講義1」：問題冊子、「医薬品素材学1&総合薬学特別講義1」：問題冊子、を作成して使用した。平成30年3月には「よくわかる薬学機器分析」を改訂(第2版)し、各項目ごとの重要な問題をできるだけ教科書に載せることで、学生の勉強に便宜を図った。これによって、講義科目のうち、「分析化学Ⅲ」及び「分析化学Ⅳ」については、プリントを作成する必要がなくなったが、「基礎薬学特別講義1」については、プリントを作成・配布して教材として用いている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成30年9月  平成30年9月	「4年次生成績下位者に自主的な学習習慣を習得させる取り組み」、第3回日本薬学教育学会大会(共同研究者として) 「リメディアル物理受講者の成績の動向」、第3回日本薬学教育学会大会(共同研究者として)
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成25年4月～現在 現在に至る	薬学教育支援センターを立ち上げて、成績不振者等の支援を行っている。最初は、最終学年6年次の成績不振者のみを対象としたが、その後、4年次及び1年次の一部の学生(成績不振者)も対象として行っている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書)よくわかる薬学機器分析(第2版)	共著(編集)	平成30年3月	廣川書店
(著書)パートナー分析化学Ⅱ(第3版)	共著	平成29年3月	南江堂
(著書)新版入門機器分析化学	共著	平成28年5月	三共出版
(著書)よくわかる薬学機器分析(初版)	共著(編集)	平成27年1月	廣川書店
(論文) Assessment of Anticancer Drug Effects on Pancreatic Cancer Cells under Glucose-Depleted Conditions Using Intracellular and Extracellular Amino Acid Metabolomics.	共著	平成30年2月	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> , Vol. 41(2), 220–228 (2018)
(論文) Screening of promising chemotherapeutic candidates from plants extracts.	共著	平成28年7月	<i>J. Nat. Med.</i> , Vol. 70, 335–360 (2016)
(論文) Chemical Reactivity and Application of 4-Alkylidene-3H-pyrazol-3-ones: Synthesis and Antifungal Activity of Polysubstituted Pyrazoles.	共著	平成28年12月	<i>HETEROCYCLES</i> , Vol. 93(1), 362–377 (2016)
(論文) Amino Acid Metabolomics Using LC-MS/MS: Assessment of Cancer-Cell Resistance in a Simulated Tumor Microenvironment.	共著	平成28年8月	<i>Analytical Sciences</i> , Vol. 32, 893–900 (2016)
(論文) Automatic analyzer for highly polar carboxylic acids based on fluorescence derivatization–liquid chromatography.	共著	平成27年3月	<i>Biomedical Chromatography</i> , Vol. 29(3), 445–451 (2015)
(論文) A Divergent Synthesis of Spiropyrazole Derivatives Containing Iminolactone and/or Cyclic Imide Moiety.	共著	平成27年1月	<i>J. Heterocycl. Chem.</i> , Vol. 52(1), 48–53, (2015)

(論文) A Diversity-Oriented Approach to 1 <i>H</i> -Pyrazole-4,5-diols, 4-Hydroxy-3 <i>H</i> -pyrazol-3-ones, and Phenylhydrazones from Key Intermediate 4-Acetyloxy-3 <i>H</i> -pyrazol-3-one.	共著	平成26年11月	<i>HETEROCYCLES</i> , Vol. 89(11), 2572–2587 (2014)
(論文) Assessment of the Efficacy of Anticancer Drugs by Amino Acid Metabolomics Using Fluorescence Derivatization-HPLC.	共著	平成26年7月	Analytical Sciences, Vol. 30(7), 751–758 (2014)
(論文) An Efficient Synthetic Route towards Novel Furo-and Thieno-triazolopyridines.	共著	平成26年4月	<i>HETEROCYCLES</i> , Vol. 89(4), 1025–1034 (2014)
(論文) Secondary Metabolites in the Rhizomes of Diploid and Tetraploid Gingers ( <i>Zingiber officinale</i> Roscoe).	共著	平成26年2月	日本食品保蔵科学会誌, Vol. 40(2), (2014)
(論文) An Approach to the Synthesis of Novel Dihydroindoles Bearing Electron-Withdrawing Groups at C-2 Position.	共著	平成26年1月	<i>HETEROCYCLES</i> , Vol. 88(1), 675–687 (2014)
(論文) Synthesis of Dihydrooxepins by the Cycloaddition of 2-Amino-4,5-dihydro-3-furancarbonitriles with Dimethyl Acetylenedicarboxylate.	共著	平成25年9月	<i>HETEROCYCLES</i> , Vol. 87(11), 2361–2368 (2013)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) アミノ酸メタボロミクスによる新たな抗がん剤効果判定法の開発		2018年・7月	第36回九州分析化学若手の会 夏季セミナー (福岡)
(演題名) パーフルオロポリエーテルカルボン酸KrytoxのZn(II)塩を利用したリン脂質類の選択的抽出		2018年・7月	第36回九州分析化学若手の会 夏季セミナー (福岡)
(演題名) 4年次生成績下位者に自主的な学習習慣を習得させる取り組み		2018年・9月	第3回日本薬学教育学会大会 (東京)
(演題名) リメディアル物理受講者の成績の動向		2018年・9月	第3回日本薬学教育学会大会 (東京)
(演題名) シアン化物のフルオラス誘導体化HPLC分析法の開発		2018年・9月	日本分析化学会 第67年会 (仙台)
(演題名) フルオラス誘導体化を用いたシアン化物分析法の開発		2018年・9月	フルオラス科学研究会第11回シンポジウム (広島)
(演題名) 本学薬学教育支援センターでの4年次生に対する取り組みと結果		2019年・3月	日本薬学会第139年会 (千葉)
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2015年～現在に至る	日本薬学会 九州支部 代議員		
2018年7月1日～現在に至る	薬学共用試験センター 試験統括委員会 一般委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福岡大学	講座名	生化学
職名	教授	氏名	本田 伸一郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成25年4月～	パワーポイントを用いたアニメーションなどを活用した授業、学習項目における確認試験問題配布
2 作成した教科書、教材、参考書		平成25年9月～	生化学実習書
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成25年4月1日 ～平成27年11月 30日  平成27年4月1日 ～平成29年11月 30日  平成29年12月1 日～	教育開発支援機構委員  教職課程委員会委員  学務委員会委員
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) コンパス生化学	共著	平成27年1月	南江堂
(論文) Aromatase knockout mice reveal an impact of estrogen on drug-induced alternation of murine	共著	平成27年6月	J. Toxicol. Sci. Vol. 40(3), 339-348
(論文) Novel small-molecule SIRT1 inhibitors induce cell death in adult T-cell leukaemia cells	共著	平成27年6月	Sci.Rep., Vol. 5, (11345) 1-14
(論文) The small molecule STF-62247 induces apoptotic and autophagic cell death in leukemic cells	共著	平成30年6月	BCM Cancer, Vol. 18, 791-800
(論文) Novel small molecule SIRT2 inhibitors induce cell death in leukemic cell lines	共著	平成30年8月	Oncotarget, Vol. 9, 27645-27655
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ニューロエストロゲンが食欲に及ぼす影響		平成30年9月	第91回日本生化学会大会
(演題名) ニューロエストロゲンが摂食行動に及ぼす影響とメカニズム		平成30年11月	第26回日本ステロイドホルモン学会学術集会
(演題名) Dorsomorphinはヒト成人T細胞白血病ウイルス1型感染細胞株のアポトーシスを誘導する		平成30年11月	第41回日本分子生物学会年会
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。



## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 薬化学	職名 教授	氏名 丸岡 博
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 有機薬化学I・II 医薬品素材学II		平成19年4月より 現在まで  平成24年4月～ 平成29年度	1年次生が理解しやすいように、板書・パワーポイント・演習問題等を使って講義を実施している。  6年次生が理解しやすいように、板書・パワーポイント・演習問題等を使って講義を実施した。
2 作成した教科書、教材、参考書 有機薬化学I・IIの演習・復習問題の作成 医薬品素材学IIのスライド・プリントの作成		平成19年4月より 現在まで  平成24年4月～ 平成29年度	講義内容の理解度を深められるように、演習・復習問題を作成し、配布している。  講義内容の理解度を深められるように、スライド・プリントを作成し、配布した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 第3回薬学教育者のためのアドバンスワークショップ 第3回AASP薬学部長フォーラム		平成25年10月12日～ 14日  平成26年6月28日～ 29日	「学習成果基盤型教育に基づいて6年制薬学教育の学習成果を考える」をテーマにしたワークショップに参加した。 「アジアの地域ごとに見た薬学教育の調和」をテーマにしたフォーラムに参加・ポスター発表した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 福岡大学薬学部国家試験対策委員長  第8回有機化学系教科担当教員会議委員長		平成23年12月～ 平成27年11月  平成25年4月～ 平成26年3月	模擬試験の年間スケジュールの計画・実施（4、6年次生）および確認試験の作成・実施（2～4年次生）を行った。  11月に本学部で会議を主催し、全国薬科大学・薬学部の有機化学系教員出席のもとで、討論を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(論文) A Diversity-Oriented Approach to 1 <i>H</i> -Pyrazole-4, 5-diols, 4-Hydroxy-3 <i>H</i> -pyrazol-3-ones, and Phenylhydrazones from Key Intermediate 4-Acetyloxy-3 <i>H</i> -pyrazol-3-one	共著	2014年11月	<i>Heterocycles</i> vol. 89 No. 11
(論文) A Divergent Synthesis of Spiropyrazole Derivatives Containing Iminolactone and/or Cyclic Imide Moiety	共著	2015年1月	<i>J. Heterocycl. Chem.</i> vol. 52 No. 1
(論文) Synthesis and DNA Cleavage Activity of Functionalized Pyrazol-3-ones Containing Oxime Ester	共著	2016年7月	<i>Heterocycles</i> vol. 92 No. 7
(論文) One-Pot Three-Component Synthesis of Novel Pyrazole-2, 3-pyrroledicarboxylic Acid 2, 3-Diesters	共著	2018年2月	<i>Heterocycles</i> vol. 96 No. 2
(論文) Synthesis and DNA Cleavage Activity of Novel Spiro Pyrazol-3-ones Containing Isoxazoline Moiety	共著	2018年7月	<i>Heterocycles</i> vol. 92 No. 7
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) 新規スピロ[イソオキサゾリン-5, 4'-ピラゾール]誘導体の合成と生物活性評価について		2018年11月	第35回日本薬学会九州支部大会
(演題名) 三成分連結反応による多置換スピロ[ピラゾール-4, 2'-キナゾリン]誘導体の合成研究（2）		2019年3月	日本薬学会第139年会
III 学会および社会における主な活動			
昭和59年4月～現在まで	日本薬学会会員		
昭和61年4月～現在まで	有機合成化学協会会員		
平成22年2月～平成27年1月	日本薬学会代議員		
平成27年6月～平成29年6月	福岡県特定危険薬物指定専門委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 微生物薬品化学	職名 教授	氏名 見明史雄
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 教科書(微生物学、遺伝子工学概論、生体機能解析学)および関係資料をPDF化した。	平成28年4月1日	教科書および関係資料をPDF化し、ホームページで学生へ公開し、予習と復習への利便を図った。極めて好評であった。	
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書(微生物学、遺伝子工学概論、生体機能解析学)および関係資料をPDF化した。	平成28年4月1日	教科書および関係資料をPDF化し、ホームページで学生へ公開し、予習と復習への利便を図った。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Occurrence of sweet refuse at disposal sites: rainwater retention capacity and potential breeding opportunities for Aedes aegypti	共著	平成30年5月	Environmental Science and Pollution Research, 25(14):13833-13843 (2018)
Preparation of Novel Bivalent Linker Mode Phenylboronic Acid Derivatives and Their Biological Evaluation	共著	平成30年6月	Heterocycles, 96 (6), 1088-1100 (2018)
Synthesis and DNA cleavage activity of novel spiro pyrazol-3-ones containing isoxazoline moiety	共著	平成30年7月	Heterocycles, 96 (7):1289 - 1300 (2018)
Courtship Activity, Copulation, and Insemination Success in a Mosquito Vector Fed an Herbal Aphrodisiac: Implications for Sterile Insect Technology	共著	平成30年9月	Indian Journal of Medical Research, 148(3):334-340 (2018)
Exposure of a diurnal mosquito vector to floral mimics: foraging responses, feeding patterns, and significance for sugar bait technology	共著	平成30年9月	Acta Tropica, 185:230-238 (2018)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Preparation and Biological Activity of Symmetrical Phenylboronic Acid Derivatives		平成30年6月	17th Annual World Preclinical Congress
新規スピロ[イソオキサゾリン-5,4'-ピラゾール]誘導体の合成と生物活性評価について		平成30年11月	第35回日本薬学会九州支部大会
III 学会および社会における主な活動			

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 生体機能制御学	職名 教授	氏名 三島健一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)		平成19年4月1日  現在に至る	疾患薬理学Ⅰでは、薬物の作用機序に関わる基本的な標的分子について、機能形態学Ⅱでは循環器、腎臓、血液などの生理作用について、それぞれ最新のトピックスを交えながら、映像や動画を用いて講義を行っている。授業の資料については、予習をさせる目的で授業の3日前にはFUポータルに毎回アップしている。講義では、前回の復習と本日の重要キーワードを確認した後、講義を進行することで学生の習熟度を高めている。質問については、主にメールでやりとりを行い、ポイントとして平常成績に加味している。さらに、質問された内容については、必ず授業の始まりに全員に公開し、わからない点を全員で共有している。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成27年10月1日  平成30年3月30日  平成30年12月15日	みてわかる薬学 図解 薬理学、第1章 薬理学の基礎 4薬の連用・併用による薬理作用の変化、南山堂pp76-88 (鍋島俊隆、井上和秀編集、総頁874頁中13頁を担当)  新しい疾患薬理学 第8章 感覚器・皮膚の疾患と治療薬 南江堂pp471-490 (岩崎克典、徳山尚吾編集、総頁588頁中20頁を担当)  パートナー機能形態学改訂第3版 第3章 末梢神経系 南江堂pp49-74 (岩崎克典、原英彰、三島健一編集、総頁322頁中26頁を担当)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)		平成25年12月1日  平成19年4月1日-28年3月31日  平成27年12月1日  平成27年12月1日  平成27年12月1日-29年11月30日  平成27年12月1日  平成27年12月1日  平成27年12月1日	国際センター委員  生物入試委員  教務委員  成績評価検討委員  教育施設設備委員  情報処理教育委員  薬学部FD委員  薬学部自己点検・評価実施委員
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Nakano T, Irie K, Hayakawa K, Sano K, Tanaka M, Yamashita Y, Fujioka M, Muroi C, Matsuo K, Nakamura Y, Ishikura H, Futagami K, Mishima K. Delayed treatment with ADAMTS13 ameliorates cerebral ischemic injury without hemorrhagic complication	共著	平成27年8月	Brain Res. Vol. 1624, 330-335.
(論文) Nakamura Y, Nakano T, Irie K, Sano K, Tanaka J, Yamashita Y, Satho T, Matsuo K, Fujioka M, Ishikura H, Mishima K. Recombinant human soluble thrombomodulin ameliorates cerebral ischemic injury through a high-mobility group box 1 inhibitory	共著	平成28年3月	J Neurol Sci. Vol. 362, 278-282
(論文) Yamashita Y, Irie K, Kochi A, Kimura N, Hayashi T, Matsuo K, Myose T, Sano K, Nakano T, Takase Y, Nakamura Y, Satho T, Mishima K, Mishima K. Involvement of Charcot-Marie-Tooth Disease Gene Mitofusin 2 Expression in Paclitaxel-induced Mechanical Allodynia in Rats	共著	平成29年7月	Neurosci Letters vol. 653, 337-340
(論文) Egashira N, Koushi E, Myose T, Tanoue A, Mishima K, Tsuchihashi R, Kinjo J, Tanaka H, Morimoto S, Iwasaki K. Role of vasopressin V1a receptor in Δ9-tetrahydrocannabinol-induced cataleptic immobilization in mice.	共著	平成29年12月	Psychopharmacology (Berl) Vol. 234 (23-24), 3475-3483
(論文) Nakano T, Nishigami C, Irie K, Shigemori Y, Sano K, Yamashita Y, Myose T, Tominaga K, Matsuo K, Nakamura Y, Ishikura H, Kamimura H, Egawa T, Mishima K. Goreisan Prevents Brain Edema after Cerebral Ischemic Stroke by Inhibiting Aquaporin 4 Upregulation in Mice.	共著	平成30年3月	J Stroke Cerebrovasc Dis. Vol. 27 (3), 758-763

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
空腹及び満腹マウスにおける大麻成分 $\Delta^9$ -tetrahydrocannabinol の摂食亢進作用	平成30年9月	第35回和漢医薬学会学術大会
大麻成分の中樞効果：有用性と危険性	平成31年3月	日本薬学会第139年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成19年4月～現在に至る	日本薬理学会学術評議員	
平成20年10月～現在に至る	日本薬学会、日本薬理学会などの論文審査員	
平成20年10月～現在に至る	薬物依存臨床医師研修会（独立行政法人国立精神・神経医療研究センター・精神保健研究所主催）の講師として薬物乱用防止活動	
平成22年3月～現在に至る	薬物乱用防止活動（福岡市薬剤師会）「NO DRUG KNOW DRUG」	
平成25年4月～現在に至る	附属若葉高等学校と本学の学生生活安全講習会での「薬物乱用防止」の講話	
平成26年8月～平成28年8月	佐賀県薬事審議会委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学薬学部	講座名 薬化学教室	職名 教授	氏名 山方 健司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 有機薬化学III, IV、医薬品素材学II 基礎薬学特別講義 I、総合基礎薬学特別講義 I	平成18年4月～ 現在に至る	講義毎にまとめた演習形式の資料を作成し、学部生が講義内容を理解しやすいように工夫している。	
2 作成した教科書、教材、参考書		演習形式の資料の作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Synthesis and DNA Cleavage Activity of Novel Spiro Pyrazol-3-ones Containing Isoxazoline Moiety	共著	平成30年7月	Heterocycles vol.96 No.7
(論文) Synthesis of novel angular and linear fused [5-6-5]heterocycles by the reaction of methyl cyano-(3-cyano-4,5-dihydro-2(3H)-furan-2-ylidene)acetate with hydrazines and dimethylformamide dimethyl acetal	共著	平成30年4月	Heterocycles vol.96 No.4
(論文) Synthesis and DNA Cleavage Activity of Functionalized Pyrazol-3-ones Containing Oxime Ester	共著	平成28年5月	Heterocycles vol.92 No.7
(論文) A Divergent Synthesis of Spiropyrazole Derivatives Containing Iminolactone and/or Cyclic Imide Moiety	共著	平成27年1月	J. Heterocycl. Chem. vol.52 No.1
(論文) A Diversity-Oriented Approach to 1H-Pyrazole-4,5-diols, 4-Hydroxy-3H-pyrazol-3-ones, and Phenylhydrazones from Key Intermediate 4-Acetyloxy-3H-pyrazol-3-one	共著	平成26年11月	Heterocycles vol.89 No.11
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
三環系縮合furo[2,3-b]pyridine誘導体の合成		平成31年・3月	日本薬学会第139年会
新規スピロ[イソキサゾリン-5,4'-ピラゾール]誘導体の合成と生物活性評価について		平成30年・11月	第35回日本薬学会九州支部大会
III 学会および社会における主な活動			
平成25年4月～現在に至る	日本薬学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福岡大学	講座名	衛生化学
職名	教授	氏名	山野 茂
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 教科書とは別に講義用テキストとスライドで講義 単元毎に確認問題で復習			講義内容をまとめたテキストを配布 パワーポイントで解答と解説
2 作成した教科書、教材、参考書 第5版 衛生薬学-健康と環境-(丸善) 第3版 予防薬学としての衛生薬学-健康と環境-(廣川)		平成25年3月 平成28年2月	毒性試験法 (p. 462~467) 栄養の化学 (p. 97~141)、水環境 (p. 393~426)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Cloning and characterization of four rabbit aldo-keto reductases featuring broad substrate specificity of xenobiotic and endogeneous carbonyl compounds: relationship with multiple forms of drug ketone reductases.	共著	2014 年 5 月	Drug Metab. Dispos., 42 (14), 803-812
Hepatic PPAR $\gamma$ and LXR $\alpha$ independently regulate lipid accumulation in the livers of genetically obese mice,	共著	2014 年 6 月	FEBS Lett., 588 (14), 2277-2281
Insulin represses fasting-induced expression of hepatic fat-specific protein 27	共著	2017 年 6 月	Bio. J. Pharm. Bull., 40 (6), 888-893
Fat-specific protein27 is a novel target gene of liver X receptor,	共著	2018 年 10 月	Mol. Cell Endocrinol., 474, 48-56
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
再摂食時における肝 Fsp27 遺伝子の発現制御 -インスリンの関与-		平成 30 年 3 月	日本薬学会
ヒト 17 $\beta$ -hydroxysteroid dehydrogenase 2 の Morphine 関連化 合物に対する基質特異性および 17 $\beta$ -hydroxysteroid 類による Morphine 6-Dehydrogenase 活性の阻害		平成 30 年 3 月	日本薬学会
2 型糖尿病モデル ob/ob マウスの脂肪肝における Fsp27b 遺伝子 の発現制御 -PPAR $\gamma$ の関与-		平成 30 年 9 月	フォーラム2018衛生薬学・環 境トキシコロジー
肝 C/EBP $\alpha$ の新規標的遺伝子 Serpina12 の同定と発現調節機構		平成 30 年 11 月	日本薬学会九州支部大会
Morphine の親電子性代謝物 Morphinone の HepG2 細胞に対する細胞 毒性		平成 30 年 11 月	日本薬学会九州支部大会
肝脂肪肝における Fsp27b 遺伝子の発現解析 -PPAR $\gamma$ による 発現制御-蓄積に関与する LXR $\alpha$ による FSP27 遺伝子の発現制御		平成 30 年 11 月	日本薬学会九州支部大会
III 学会および社会における主な活動			
平成 22 年 8 月~	薬学共用試験センター CBT問題管理委員		
平成 24 年 4 月~	福岡市環境局委託研究 埋立場周辺環境水質検討委員会委員		
平成 29 年 4 月~	薬学教育評価機構 評価実施委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 薬品物理化学	職名 准教授	氏名 池田 浩人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成26年04月	苦手な学生が多い物理化学を理解しやすいように、図を多用し、イメージで理解できるように工夫している。授業評価は8.6以上であり、高い評価を得ている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成26年11月	コンパス物理化学(南江堂)で、学生が最も苦手とする項目について、24ページ分執筆した。できる限り、図を使用して、学習内容が理解しやすいように工夫している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成26年06月	薬学部学生の情報処理活用能力について、2年次と6年次でアンケート調査を行い、進級による学生の能力の変化を追跡・解析した結果を発表した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成28年04月 平成28年07月	福岡大学薬学部CBT実施責任者 薬学共用試験センターシステム検討会委員	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・ 号数)等の名称
(論文) Synthesis of Peptidyl- Alendronic Acid Derivatives As a Prodrug for Enhancing Bioavailability (II)	共著	平成25年03月	Peptide Science 2012, 259-262 (2013)
(論文) Carbohydrate Recognition of Symmetrical Tripodal Receptor Type Tris(2-aminoethyl)amine Derivatives	共著	平成25年03月	Journal of Thermal Analysis and Calorimetry, 113(3), 1015-1018 (2013)
(論文) Drug-Tea Polyphenol Interaction: Incompatibility between Oral Solution of Antipsychotic Proprietary and Green Tea Drink	共著	平成25年03月	Journal of Thermal Analysis and Calorimetry, 113(3), 1135-1138
(著書) コンパス 物理化学 改訂第2版	共著	平成26年11月	南江堂
(論文) こんにやく粉を使用した服用とろみ水の力学的特性	共著	平成27年10月	高分子論文集, 72(10), 648-651 (2015)
(論文) 市販とろみ調整食品を使用したとろみ水の物性評価	共著	平成27年10月	九州薬学会会報, 69, 19-24 (2015)
(論文) Improving water solubility of nateglinide by complexation of $\beta$ -cyclodextrin	共著	平成27年03月	Journal of Thermal Analysis and Calorimetry, 123(3), 1847-1850
(総説) 溶解度と活量	共著	平成28年04月	ぶんせき
(論文) Prediction of Thermodynamic Functions of Solvation by Dispersion-Corrected Density Functional Theory Calculations	共著	平成28年09月	Journal of Chemical and Pharmaceutical Research, 8(9), 124-
(論文) Thermal degradation of poly(lactic acid) oligomer: Reaction mechanism and multistep kinetic behavior	共著	平成28年11月	Polymer Degradation and Stability, 134, 284-295 (2016)
(著書) NEWパワーブック物理薬剤学・製剤学 第3版	共著	平成29年03月	廣川書店
(論文) Drug-tea polyphenol interaction (II) complexation of piperazine derivatives with green tea polyphenol	共著	平成29年10月	Thermochimica Acta, 653(10), 1-7 (2017)
(論文) Effect of solution pH on complex formation between epigallocatechin and $\beta$ -cyclodextrin	共著	平成30年07月	Journal of Thermal Analysis and Calorimetry, accepted on 29 July 2018
(総説) 茶葉由来飲料と薬物との相互作用	単著	平成30年07月	熱測定, 45(3), (2018)
(論文) Difference in formation mechanism of inclusion complex between configuration isomers of gallate-type catechin and $\beta$ -cyclodextrin	共著	平成30年08月	Journal of Thermal Analysis and Calorimetry, accepted on 17 August 2018

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）ヘテロエナンチオマー液体における3体間相互作用	平成30年05月	シンポジウム モレキュラーキラリティ 2018
（演題名）とろみ水や服薬ゼリーで錠剤を服用した場合に主薬の溶出に及ぼす影響：バルプロ酸ナトリウム錠 200 mg	平成30年06月	医療薬学フォーラム2018
（演題名）薬物と嗜好品の相互作用Ⅱ：統合失調症治療薬アリピプラゾールと緑茶との相互作用解析	平成30年09月	第12回分子科学討論会2018
（演題名）マイクロ熱と計算化学的手法によるアミン+アルコール系のエネルギー解析	平成30年09月	第12回分子科学討論会2018
（演題名）Energy analysis of mixtures of associated liquids and non-associated liquids using microcalorimetry and molecular dynamics simulation	平成30年10月	CBI学会2018年大会
（演題名）輸液と脂肪乳剤の混合持続点滴における配合変化	平成30年10月	第54回熱測定討論会
（演題名）カテキンとβ-シクロデキストリンとの相互作用	平成30年11月	第54回熱測定討論会
（演題名）形吸着炭細粒の服用に適する市販服薬ゼリーの探索：レオロジー的評価	平成30年11月	第79回九州山口薬学大会
（演題名）分散力補正密度汎関数を用いる包接複合体の溶解度推算	平成31年03月	日本化学会第99春季年会
<b>Ⅲ 学会および社会における主な活動</b>		
平成28年09月～平成30年03月	8th International and 10th Japan-China joint Symposium on Calorimetry and Thermal Analysis (CATS-2017) Chair of Executive Committee	
平成28年09月～平成30年03月	第53回熱測定討論会 実行委員および事務局	
平成28年11月～平成29年11月	日本薬学会九州支部 幹事	
平成29年07月～平成30年09月	第12回分子科学討論会 実行委員	
平成29年11月～平成30年11月	日本薬学会九州支部 代表幹事	
平成31年02月～平成33年01月	日本薬学会 代議員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。



## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
福岡大学	講座名 臨床薬物治療学	職名 准教授	氏名 大江賢治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成28-30年	毎年更新しているが、講義ごとにスライドとプリントを作成し、試験対策として、まとめのプリント、試験問題例を解説している。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成28-30年	毎年更新しているが、講義ごとにスライドとプリントを作成し、試験対策として、問題集を学生に解かせ、解説している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特記事項なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成28-30年 平成30年10月 平成29-30年	FD講演会出席 研究倫理教育講演会出席 福岡大学入学試験問題作成(生物)
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) Intronic and exonic nucleotide variations that affect RNA splicing in humans. In: Genomics I - Humans, Animals and Plants.	共著	平成25年	iConcept Press
(論文) Nested introns in an intron: Evidence of multi-step splicing in a large intron of the human dystrophin pre-mRNA.	共著	平成25年3月	FEBS Letters 2013; 587:555-561
(論文) HnRNP L and hnRNP LL antagonistically modulate PTB-mediated splicing suppression of CHRNA1 pre-mRNA.	共著	平成25年10月	Scientific Reports 2013; 3:2931
(著書) 選択的スプライシングを標的とした低分子化合物の医薬品開発	共著	平成26年3月	BIO Clinica 2014; 29(3): 95-99
(論文) HnRNP C, YB-1 and hnRNP L coordinately enhance skipping of human MUSK exon 10 to generate a Wnt-insensitive MuSK isoform.	共著	平成26年10月	Scientific Reports 2014; 4:6841
(論文) Modulation of alternative splicing with chemical compounds in new therapeutics for human diseases.	共著	平成27年1月	ACS Chem Biol 2015; 10(4):914-924
(論文) Rectifier of aberrant mRNA splicing recovers tRNA modification in familial dysautonomia	共著	平成27年3月	Proc Natl Acad Sci USA 2015; 112:2764-2769
(論文) Identification of a gene associated with autosomal dominant late-onset Parkinson's disease: a genome-wide linkage and sequencing study	共著	平成27年3月	The Lancet Neurology 2015; 14:274-282
(著書) 選択的スプライシング・ネットワークを化合物で操作する	共著	平成27年3月	生体の科学 特集「細胞を化学で観察する・操作する」2014;66(2):114-118
(著書) スプライシング	共著	平成27年5月	「生体の科学」特集 細胞シグナル操作法 II. 機能からみたシグナル操作法 遺伝子・ゲノム2015;66(5):2-3
(論文) Self-management of salt intake: clinical significance of estimated urinary salt excretion by a self-monitoring device.	共著	平成28年3月	Hypertens Res 2016; 39: 127-132.
(著書) 家族性自律神経失調症の治療薬候補	共著	平成28年4月	医学のあゆみ 2016;257(4):.318-319
(論文) All-oral treatment with daclatasvir and asunaprevir for HCV genotype 1 and impact of add-on therapy with lipid modulators.	共著	平成28年10月	Adv Res Gastroenterol Hepatol 2016; 2: 555579.
(論文) Monocyte-derived macrophages exacerbate acetaminophen-induced liver injury in mice through intrahepatic hypercoagulation.	共著	平成28年11月	J Dig Dis Hepatol 2016; 2016: 21-26.

(論文) Comparison of a salt check sheet with 24-h urinary salt excretion measurement in local residents.	共著	平成28年12月	Hypertens Res 2016; 39: 879-885.
(論文) How and why do lipid droplets accumulate in gastric epithelial neoplasms?	共著	平成29年1月	Ann Pharmacol Pharm 2017; 2(2): 1016.
(論文) Competitive regulation of alternative splicing and alternative polyadenylation by hnRNP H and CstF64 determines acetylcholinesterase isoforms.	共著	平成29年2月	Nucleic Acids Research 2017; 45(3):1455-1468
(論文) A high fat diet-induced decrease in hippocampal newly-born neurons of male mice is exacerbated by mild psychological stress using a Communication Box.	共著	平成29年2月	J Affect Disord 2017; 209: 209-216.
(論文) Development of an orally available inhibitor of CLK1 for skipping a mutated dystrophin exon in Duchenne muscular dystrophy	共著	平成29年3月	Springer Nature Limited, Scientific Reports (7)
(論文) Assessment of dietary salt and sodium intake: from device to questionnaire.	共著	平成29年6月	Qual Prim Care 2017; 25: 101-108.
(論文) RBM24 promotes U1 snRNP recognition of the mutated 5' splice site in the IKBKAP gene of familial dysautonomia.	共著	平成29年6月	Cold Spring Harbor Laboratory Press for the RNA Society, RNA (22)
(論文) Interannual study of spot urine-evaluated sodium excretion in young Japanese women.	共著	平成29年7月	J Clin Hypertens 2017; 19: 653-660.
(論文) Change of oral to topical corticosteroid therapy exacerbated glucose tolerance in a patient with plaque psoriasis.	共著	平成29年11月	Am J Case Rep 2017; 18: 1198-1203.
(論文) Relevance of the Mini Nutritional Assessment in cirrhotic liver disease patients.	共著	平成30年2月	Asia Pac J Clin Nutr 2018; 27: 300-305.
(論文) Prolonged sleep deprivation decreases cell proliferation and immature newborn neurons in both dorsal and ventral hippocampus of male rats.	共著	平成30年5月	Neurosci Res 2018; 131: 45-51.
(論文) Nivolumab-induced thyroid dysfunction lacking antithyroid antibody is frequently evoked in Japanese patients with malignant melanoma.	共著	平成30年6月	BMC Endocrine Disorders 2018; 18(1),36-41
(論文) HMGA1a induces alternative splicing of the Estrogen Receptor-alpha gene by trapping U1 snRNP to an upstream pseudo-5' splice site.	共著	平成30年6月	Front Mol Biosci 2018; 5: 52.
(論文) Clinical investigation of adrenal incidentalomas in Japanese patients of Fukuoka region with updated diagnosis criteria for sub-clinical Cushing's syndrome.	共著	平成30年7月	Internal Medicine 2018; 57:2467-2472
(論文) Enhanced antitumor effects and delivery profiles of menahydroquinone-4 prodrugs with ionic or nonionic promoiety to hepatocellular carcinoma cells.	共著	平成30年7月	Molecules 2018; 23: 1738.
(論文) Self-monitoring of urinary salt excretion as a method of salt-reduction education: a parallel, randomized trial involving two groups.	共著	平成30年7月	Public Health Nutr 2018; 21: 2164-2173.
(論文) Asynchronous rhythm of Ad4BP/SF-1 and Per2 expression in adrenal tumors of Cushing's syndrome.	共著	平成30年7月	Biomed J Sci&Tech Res 2018; 7: BJSTR. MS.ID.001459
(論文) HMGA1a induces alternative splicing of estrogen receptor alpha in MCF-7 human breast cancer cells.	共著	平成30年8月	J Steroid Biochem Mol Biol 2018; 182: 21-26.
(論文) Nutritional dietary approach for NAFLD: carbohydrate restriction or fat restriction.	共著	平成30年8月	Gastroenterol Pancreatol Liver Disord 2018; 6: 1-7
(論文) Non-coding RNAs and steroidogenesis.	共著	平成30年10月	Biomed J Sci&Tech Res 2018; 7: BJSTR. MS.ID. 001910
(論文) A Novel Micro-RNA Feedback Loop of High-Mobility Group Protein A1a in Regulating Estrogen Receptor Alpha-Alternative Splicing	共著	平成30年11月	Biomed J Sci&Tech Res 2018; 7: BJSTR.MS.ID.002058
(論文) A case of nivolumab-induced acute-onset type 1 diabetes mellitus in melanoma.	共著	平成30年12月	Current Oncology 2018; 10.1177/1078155218816777
(論文) Two cases of mitochondrial diabetes in which pancreatic beta-cell function and neuropathy were improved by glucagon-like peptide-1 receptor agonist therapy	共著	平成30年12月	Journal of Endocrinology and Metabolism 2018
(論文) Differences in the actions of adrenaline and noradrenaline with regard to glucose intolerance in patients with pheochromocytoma	共著	平成30年12月	Endocrine Journal 2018; 10.1507/endocrj.EJ18-0407
(論文) Acute exacerbation of chronic adrenal insufficiency caused by ipilimumab: a case report of melanoma.	共著	平成30年12月	American Journal of Case Reports 2018

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）Nicotinamide, not N1 methyl nicotinamide, ameliorates hepatic steatosis via NAD-dependent sirtuin activation.	平成30年4月	EASL (European Association for the Study of the Liver), the International Liver Congress 2018
（演題名）HMGA1a「おとり」RNAのMCF7/TAMR1細胞におけるタモキシフェン抵抗性に対する検討	平成30年4月	第91回日本内分泌学会学術総会
（演題名）CX-4945はH295R細胞の増殖およびホルモン産生を抑制する	平成30年4月	第91回日本内分泌学会学術総会
（演題名）タモキシフェン抵抗性は、HMGA1aによるER $\alpha$ 46のスプライシング制御を変化させる	平成30年4月	第26回日本乳癌学会学術総会
（演題名）CX-4945 is a novel candidate for the treatment of adrenocortical tumors.	平成30年5月	The 20th European Congress of Endocrinology
（演題名）Sodium and potassium urinary excretion levels of Japanese preschool children: individual, daily and seasonal differences.	平成30年7月	The 7th Asian Congress of Dietetics: the Rise of Nutrition and Dietetics in Asia
（演題名）ニコチナマイドのサーチュインを介した脂肪肝改善効果	平成30年7月	第25回肝細胞研究会
（演題名）From understanding the molecular mechanism of aberrant ER $\alpha$ pre-mRNA toward the therapeutic application in breast cancer.	平成30年7月	Immuno-Oncology Cancer Science 2018
（演題名）雄性ICRマウスにおけるオキシトシンの抗不安効果の経時的変化	平成30年7月	第41日本神経科学大会
（演題名）高脂肪食の短期間摂取は背側特異的な海馬神経新生の減少を誘発する	平成30年7月	第41日本神経科学大会
（演題名）Resident/Intruder系を用いた心理社会的ストレスの10回連続負荷は背側海馬神経新生の減少と不安行動の亢進を引き起こす	平成30年7月	第41日本神経科学大会
（演題名）Nicotinamide, a sirtuin modifier, ameliorates hepatic steatosis with alterations in bile acid metabolism but not in microbiota.	平成30年9月	EASL (European Association for the Study of the Liver), NAFLD summit 2018
（演題名）Alleviation of tamoxifen resistance by modulating ER $\alpha$ alternative splicing.	平成30年11月	The 13th European Diabetes and Endocrinology Congress
（演題名）新規副腎皮質癌治療候補薬剤CX-4945の作用機序について	平成30年11月	第26回日本ステロイドホルモン学会学術集会
（演題名）circAd4BP RNAの発見：正常副腎、CX-4945添加H295R細胞における発現解析	平成30年11月	第26回日本ステロイドホルモン学会学術集会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成25年度～	日本内分泌学会評議員	
平成28年度～平成29年度	京都大学医学部 非常勤講師	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 生薬学	職名 准教授	氏名 大川 雅史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 天然医薬資源学 天然物化学 他(6件)		2007~ 2007~	天然由来有用物質に関する概要の講義 天然由来の医薬品等に関する講義
2 作成した教科書、教材、参考書 廣川書店「医療を指向する天然物医薬品化学」 南江堂「現代医療における漢方薬」改訂第2版 各講義資料		2011/3/1 2016/1/5 2007~	芳香族化合物に関する項目を執筆 各論を一部担当 各講義ごとに資料を作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 就職進路支援センター委員 共通教育センター委員 教職課程教育センター委員		2011~2015 2015~2017 2017~	就職活動支援 教養教育支援(語学教育を除く) 教職課程支援
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Four new resin glycosides, murasakimasarins I-IV, from the tuber of <i>Ipomoea batatas</i> .	共著	平成30年3月	<i>J. Nat. Med.</i> 72(3)
Screening of promising chemotherapeutic candidates from plants against human adult T-cell leukemia/lymphoma (V): coumarins and alkaloids from <i>Boenninghausenia japonica</i> and <i>Ruta graveolens</i> .	共著	平成29年1月	<i>J. Nat. Med.</i> 71(1)
Two new triterpenoids from the seeds of blackberry ( <i>Rubus fruticosus</i> )	共著	平成28年8月	<i>Nat. Prod. Res.</i> 30(8)
Analysis of Seasonal Variation in the Amounts of Phytochemicals in Kudzu ( <i>Pueraria lobata</i> ) Leaves Using HPLC with Evaporative Light Scattering Detection	共著	平成27年1月	<i>Int. J. Plant Biol. Res.</i> 3(1)
Calysolins V-IX, resin glycosides from <i>Calystegia soldanella</i> and their antiviral activity toward herpes	共著	平成26年1月	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> 62(1)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
植物由来抗腫瘍活性成分の臨床応用のための探索的研究(16) -シマホオズキ地上部について-		平成31年3月	日本薬学会第139年会
ルコウアサガオの種子の樹脂配糖体に関する研究(2)		平成30年9月	日本生薬学会第65回年会
大豆の成長段階における成分変化に関する研究-多変量解析法(主成分分析)を用いて-		平成30年9月	日本生薬学会第65回年会
茶葉成分のseasonal Variationについて		平成30年9月	日本生薬学会第65回年会
植物由来抗腫瘍活性成分の臨床応用のための探索研究(15) -食用ホオズキ地上部について(2) -		平成30年9月	日本生薬学会第65回年会
III 学会および社会における主な活動			
平成18年4月~	福岡大学東洋医学研究会 事務局		
平成25年10月~	「皿倉山薬用植物観察会」講師(八幡薬剤師会主催)		
平成30年10月	「自然と薬草に親しむ会」講師(佐賀県薬務課主催)		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 実務薬剤学	職名 准教授	氏名 緒方 憲太郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		特になし	
2 作成した教科書、教材、参考書		特になし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 福岡大学病院における実務実習	平成30年 1月28日	福岡県病院薬剤師会学術大会 『改訂コアカリキュラムに準拠した長期実務実習について』で講演	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		特になし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 抗がん薬の臨床薬理	共著	平成25年10月	南山堂 第Ⅱ章・6「抗がん性抗生物質 1」アンスライクリン系」
(著書) がん治療副作用対策マニュアル 改訂第3版	共著	平成26年7月	南江堂 I章「抗がん薬と副作用対策」・Ⅲ章2「外来化学療法における副作用対策」
(論文) Simultaneous determination of cytosine arabinoside and its metabolite, uracil arabinoside, in human plasma using hydrophilic interaction liquid chromatography with UV detection	共著	平成25年7月	Biomed Chromatogr vol.27 No.7
(論文) Safety and pharmacokinetic evaluation of repeated intravenous administration of palonosetron 0.75 mg in patients receiving highly or moderately emetogenic chemotherapy	共著	平成26年7月	Support Care Cancer vol.22, No.7
(論文) 5-Fluorouracil Chemotherapy for Dihydropyrimidine Dehydrogenase-deficient Patients: Potential of the Dose-escalation Method	共著	平成27年9月	Anticancer Res vol.35 No.9
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 改訂コアカリ薬学実務実習へ向けての実習プログラムの構築と課題		平成30年9月	第3回日本薬学教育学会
(演題名) 福岡大学病院における持参薬確認業務の実態調査と効率化の検討		平成30年11月	第79回九州山口薬学大会
(演題名) 感染症由来DIC患者に対するトロンボモジュリンとアンチトロンビンⅢ製剤併用の効果		平成30年11月	第28回日本医療薬学会年会
(演題名) ヒドロキシクロロキン硫酸塩服用中に房室ブロックを発症した全身性エリテマトーデスの1症例		平成30年11月	第28回日本医療薬学会年会
(演題名) ICUから一般病棟転棟後にランソプラゾールによる Collagenous Colitisの発症が疑われた一例		平成30年11月	第28回日本医療薬学会年会
(演題名) 実践的な病棟実習にて薬学部5年生に生じる意識変化—脳神経センターにおける6日間の実習を通して—		平成31年3月	第137年会日本薬学会
III 学会および社会における主な活動			
(平成16年～)平成25年4月～	特定非営利活動法人 臨床血液腫瘍研究会		
平成25年4月～平成27年3月	日本病院薬剤師会第3小委員会		
平成28年4月～	日本病院薬剤師会論文審査員		
平成31年3月17日	第8回日本薬剤師レジデントフォーラム 事務局長・実行委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 臨床疾患薬理学	職名 准教授	氏名 桂林 秀太郎
<b>I 教育活動</b>			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 今日の薬学研究講義  疾患薬理学IV講義  薬学演習と特別実習、総合薬学演習  他4件		平成30年4月1日-  平成27年4月1日-  平成25年10月1日-	専門とするシナプス生理学を中心とする研究論文を紹介し、どのようにして薬物の作用を解析できるかを講義している。また、各分野の薬学部教員に講義を依頼し、分野を問わず最新の研究を提供している。  薬理学を視覚的に理解できるように、全ての薬物の解説時には図を用いて講義している。  実験を実演することから始め、データが出る楽しさと、データが出ない時の苦しさの両面を伝えるように工夫している。
2 作成した教科書、教材、参考書 新しい疾患薬理学 パートナー機能形態学（改訂第3版）		平成30年3月30日 平成30年12月30日	薬学部生に特化した薬理学の教科書として分担執筆した。 分かりやすい機能形態学の教科書を意識して分担執筆した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 教育講演「パッチクランプ法の基礎とシナプス解析」		平成26年3月17日	日本生理学会大会において、実験手法に関する教育講演を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 福岡大学大学院学際シンポジウム  夢ナビライブ2018「学びステーション」  福岡大学海外短期教育研修		平成30年10月27日  平成30年10月20日  平成30年8月25日-9月2日	大学院における文理融合を目指したシンポジウムにおいて、人工知能について招待講演をした。  高校生を対象に、薬学部の魅力と何を学ぶ学部であるかを個別に説明した。  将来英語で講義を行うための教員向け教育研修を米国ネブラスカ大学にて受講し、現地において講義も行った。
<b>II 研究活動</b>			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(論文) Dependence and Homeostasis of Membrane Impedance on Cell Morphology in Cultured Hippocampal Neurons	共著	平成30年7月	Scientific Reports, 8(1):9905
(論文) Astrocytes with previous chronic exposure to amyloid $\beta$ -peptide fragment 1-40 suppress excitatory synaptic transmission	共著	平成29年12月	Journal of Neurochemistry, 143(6):624-634
(論文) Unidirectional signal propagation in primary neurons micropatterned at a single-cell resolution	共著	平成28年7月	Applied Physics Letters, 109/ 043703, 1-5
(論文) Overexpression of Swedish mutant APP in aged astrocytes attenuates excitatory synaptic transmission	共著	平成28年1月	Physiological Reports, 4/ 1, e12665
(論文) Rheb activation disrupts spine synapse formation through accumulation of syntenin in tuberous sclerosis complex	共著	平成27年4月	Nature Communications, 6, 6842
(論文) Activation of Rheb, but not of mTORC1, impairs spine synapse morphogenesis in tuberous sclerosis complex	共著	平成26年6月	SCIENTIFIC REPORTS, 4/ 5155, 1-8
他16件			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) ニューロン/アストロサイト混成比とシナプス伝達		平成30年6月	第27回神経行動薬理若手研究者の集い
(演題名) アストロサイトと単一ニューンの比率変化が及ぼすシナプス伝達変化		平成30年6月	第19回ブレインサイエンス研究会
<b>III 学会および社会における主な活動</b>			
平成26年6月-	ブレインサイエンス研究会 評議員		
平成28年4月-	日本薬理学会 評議員		
平成29年3月-	神経行動薬理若手研究者の集い世話人		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 生化学	職名 准教授	氏名 小迫知弘
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書 薬学生のための病態検査学改訂第2版 生物系実習Ⅱ実習書	2014年3月1日 2016年9月1日	臨床検査学のテキストとして使用されている。 2年生次の生物系実習Ⅱで使用されている。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Prevention of Human T-Cell Lymphotropic Virus Infection and Adult T-Cell Leukemia	共著	2013	InTech (ISBN 980-953-307-735-7)
Effects of exogenous interleukin-7 on CD8(+) T-cell survival and function in human T-cell lymphotropic virus type 1 (HTLV-1) infection.	共著	2013	Leuk Lymphoma. 54(10):2243-50.
Assessment of peripheral blood CD4+ adenosine triphosphate activity in patients with rheumatoid arthritis.	共著	2013	Mod Rheumatol. 23:19-27
Anticancer agents targeted to sirtuins	共著	2014	Molecules. 19(12):20295-313
Shedding by ADAM10 and ADAM17 is associated with progression of adult T-cell leukemia/lymphoma.	共著	2015	Integrative Cancer Science Therapeutics (2) 79-81
Novel small-molecule SIRT1 inhibitors induce cell death in adult T-cell leukaemia cells	共著	2015	Sci Rep. 5, 11345-59.
Clinical significance of CD70 expression on T cells in human T-lymphotropic virus type-1 carriers and adult T cell leukemia/lymphoma patients	共著	2015	Leuk Lymphoma. 57(3):685-91
Angiotensin II type 1 receptor blocker telmisartan induces apoptosis and autophagy in adult T-cell leukemia cells	共著	2016	FEBS Open Bio. 13:6(5):442-60
The small molecule STF-62247 induces apoptotic and autophagic cell death in leukemic cells	共著	2018	Oncotarget 9:27645-27655
Novel small molecule SIRT2 inhibitors induce cell death in leukemic cell lines.	共著	2018	BMC Cancer 18:791-800
In vitro effects of arsenic trioxide, interferon $\alpha$ and zidovudine in adult T cell leukemia/lymphoma cells.	共著	2018	Oncol Lett. 16:1305-1311

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
成人T細胞白血病細胞におけるNAMPT阻害剤による細胞死の検討	2018年9月	第5回日本HTLV-1学会学術集会（東京）
Brentuximab vedotinによる細胞死に対する可溶性CD30の影響	2018年9月	第5回日本HTLV-1学会学術集会（東京）
Overexpression of NAMPT in adult T-cell leukemia/lymphoma patients and antitumor activity of a NAMPT inhibitor in vivo	2018年10月	ESMO 2018 Congress (Munich, Germany)
Dorsomorphinはヒト成人T細胞白血病ウイルス1型感染細胞株のアポトーシスを誘導する	2018年11月	第41回日本分子生物学会年会(神戸)
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成26年12月2日	がん研究助成金入賞（福岡県すこやか健康事業団）	
平成27年4月～平成29年3月	日本薬学会九州支部幹事	
平成28年10月	平成28年度日本薬学会九州支学術奨励賞選考委員	
平成30年11月	平成30年度日本薬学会九州支学術奨励賞選考委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。



(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 微生物薬品化学	職名 准教授	氏名 佐藤 朝光
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成25年4月 平成29年4月 平成30年4月	1. 生物系実習Ⅰ(2年次前期) 2. 生態機能分子学Ⅰ(1年次前期) 3. 生体機能分子学Ⅱ(1年次後期)	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成25年4月	1. 生物系実習Ⅰテキストの作製	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成28年4月	1. ニュージーランド・オークランド大学客員 研究員	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Olfactory behavior and response of household ants (Hymenoptera) to different types of coffee odor: A coffee-based bait development prospect	共著	平成30年3月	Journal of Asia-Pacific Entomology
(論文) Occurrence of sweet refuse at disposal sites: rainwater retention capacity and potential breeding opportunities for <i>Aedes aegypti</i>	共著	平成30年5月	Environmental Science and Pollution Research,
(論文) Courtship activity, copulation, and insemination success in a mosquito vector fed an herbal aphrodisiac: Implications for sterile insect technology	共著	平成30年9月	Indian Journal of Medical Research
(論文) Exposure of a diurnal mosquito vector to floral mimics: foraging responses, feeding patterns, and significance for sugar bait technology	共著	平成30年9月	Acta Tropica
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 百日咳菌が産生する黄色色素の生物学的意義		平成30年3月	日本薬学会第138年会
(演題名) 白金系抗がん剤オキサリプラチン誘発性末梢神経障害ラットに対する遺伝性神経疾患シャルコー・マリー・トゥース病治療薬クルクミンの改善効果		平成30年3月	日本薬学会第138年会
(演題名) ラットのオキサリプラチン誘発性末梢神経障害に対するシロスタゾールの治療効果		平成30年3月	日本薬学会第138年会
(演題名) 白金系抗がん剤oxaliplatin 誘発性末梢神経障害ラットに対する大麻成分Δ9-tetrahydrocannabinol による治療効果		平成30年3月	日本薬学会第138年会
(演題名) 各種抗がん剤誘発性末梢神経障害における遺伝性神経疾患Charcot-Marie-Tooth 病原因遺伝子発現量の変動		平成30年3月	日本薬学会第138年会
(演題名) クルマエビの腸管から単離された乳酸菌のゲノム解析		平成30年3月	日本薬学会第138年会
(演題名) 大麻成分Δ9-テトラヒドロカンナビノールによる低周波数帯の超音波発声におけるムスカリン受容体の関与		平成30年8月	日本薬学会第138年会
(演題名) 空腹及び満腹マウスにおける大麻成分Δ9-tetrahydrocannabinolの摂食亢進作用		平成30年9月	日本薬学会第138年会
III 学会および社会における主な活動			
平成28年8月	ニュージーランド・オークランド大学 国際交流支援		
平成29年4月	衛生動物学会南日本支部会次年度会計監査委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 生体機能制御学	職名 准教授	氏名 佐野和憲
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成27年4月 現在に至る	機能形態学Ⅰ(1年次)の講義内容は、神経系、内分泌系、生殖系、消化器系における人体を構成する器官の形態や機能についてである。理解を深めるため、高学年時に習得予定の薬理学、病態学を一部取り入れながら講義を行っている。また、配布する資料と同じファイルをFUポータルに添付して、予習・復習できる環境を整えている。授業の最後には、復習のため、確認問題を解答させている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成25年9月 平成30年12月	Clinical Neuroscience Vol.31(9)「プリオン病」中外医学社 pp1019-1021 パートナー機能形態学(改訂第3版)南江堂	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成29年5月	福岡大学市民カレッジ第50回薬学部卒業後教育講座 「ミステリアスなタンパク質性感染粒子」	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成27年12月 現在に至る	アニマルセンター委員	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Nakagaki T, Satoh K, Ishibashi D, Fuse T, Sano K, Kamatari YO, Kuwata K, Shigematsu K, Iwamaru Y, Takenouchi T, Kitani H, Nishida N, Atarashi R. FK506 reduces abnormal prion protein through the activation of autolysosomal degradation and prolongs survival in prion-infected mice.	共著	平成25年9月	Autophagy. Vol. 9, No. 9, 1386-1394.
(論文) Homma T, Ishibashi D, Nakagaki T, Satoh K, Sano K, Atarashi R, Nishida N. Increased expression of p62/SQSTM1 in prion diseases and its association with pathogenic prion protein.	共著	平成26年3月	Sci Rep. Vol. 4, 4504.
(論文) Homma T, Ishibashi D, Nakagaki T, Fuse T, Sano K, Satoh K, Atarashi R, Nishida N. Persistent prion infection disturbs the function of Oct-1, resulting in the down-regulation of murine interferon regulatory factor-3.	共著	平成26年8月	Sci Rep. Vol. 4, 6006.
(論文) Sano K, Atarashi R, Ishibashi D, Nakagaki T, Satoh K, Nishida N. Conformational properties of prion strains can be transmitted to recombinant prion protein fibrils in real-time quaking-induced conversion.	共著	平成26年10月	J Virol. Vol. 88, No. 20, 11791-11801.
(論文) Takatsuki H, Satoh K, Sano K, Fuse T, Nakagaki T, Mori T, Ishibashi D, Mihara B, Takao M, Iwasaki Y, Yoshida M, Atarashi R, Nishida N. Rapid and Quantitative Assay of Amyloid-Seeding Activity in Human Brains Affected with Prion Diseases.	共著	平成27年6月	PLoS One. Vol. 10, No6, e0126930.
(論文) Sano K, Atarashi R, Nishida N. Structural conservation of prion strain specificities in recombinant prion protein fibrils in real-time quaking-induced conversion.	共著	平成27年7月	Prion. Vol. 9, No. 4, 237-243.
(論文) Matsushima H, Kuroki T, Kitasato A, Adachi T, Tanaka T, Hirabaru M, Hirayama T, Kuroshima N, Hidaka M, Soyama A, Takatsuki M, Kinoshita N, Sano K, Nishida N, Eguchi S. Sox9 expression in carcinogenesis and its clinical significance in intrahepatic cholangiocarcinoma.	共著	平成27年8月	Dig Liver Dis. Vol. 47, No12, 1067-1075.
(論文) Ishibashi D, Homma T, Nakagaki T, Fuse T, Sano K, Takatsuki H, Atarashi R, Nishida N. Strain-Dependent Effect of Macroautophagy on Abnormally Folded Prion Protein Degradation in Infected Neuronal Cells.	共著	平成27年9月	PLoS One. Vol. 10, No9, e0137958.
(論文) Fuchigami T, Yamashita Y, Kawasaki M, Ogawa A, Haratake M, Atarashi R, Sano K, Nakagaki T, Ubagai K, Ono M, Yoshida S, Nishida N, Nakayama M. Characterisation of radioiodinated flavonoid derivatives for SPECT imaging of cerebral prion deposits.	共著	平成27年12月	Sci Rep. Vol. 5, 18440.

(論文) Mori T, Atarashi R, Furukawa K, Takatsuki H, Satoh K, Sano K, Nakagaki T, Ishibashi D, Ichimiya K, Hamada M, Nakayama T, Nishida N. A direct assessment of human prion adhered to steel wire using real-time quaking-induced conversion.	共著	平成28年4月	Sci Rep. Vol.6, 24993.
(論文) Nakano Y, Akamatsu N, Mori T, Sano K, Satoh K, Nagayasu T, Miyoshi Y, Sugio T, Sakai H, Sakae E, Ichimiya K, Hamada M, Nakayama T, Fujita Y, Yanagihara K, Nishida N. Sequential Washing with Electrolyzed Alkaline and Acidic Water Effectively Removes Pathogens from Metal Surfaces.	共著	平成28年5月	PLoS One. Vol.11, No.5, e0156058.
(論文) Kawasaki M, Fuchigami T, Kobashi N, Nakagaki T, Sano K, Atarashi R, Yoshida S, Haratake M, Nishida N, Nakayama M. Development of radiiodinated acridine derivatives for in vivo imaging of prion deposits in the brain.	共著	平成28年12月	Bioorg Med Chem. Vol.25, No.3, 1085-1093.
(論文) Sano K, Atarashi R, Satoh K, Ishibashi D, Nakagaki T, Iwasaki Y, Yoshida M, Murayama S, Mishima K, Nishida N. 31. Prion-Like Seeding of Misfolded $\alpha$ -Synuclein in the Brains of Dementia with Lewy Body Patients in RT-QUIC.	共著	平成30年5月	Mol Neurobiol. Vol.55, No.5, 3916-3930.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Prion-like seeding of pathological $\alpha$ -synuclein in the brains of DLB in RT-QuIC		平成30年9月	1st Trento-Nagasaki Symposium
(演題名) Phos-tag SDS-PAGEを用いたシヌクレイノパチー病原蛋白質 $\alpha$ シヌクレインのセリン/スレオニン-リン酸化解析		平成31年3月	日本薬学会 第139年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成25年4月～現在	アジア太平洋プリオン研究会会員		
平成25年7月	ASIAN PACIFIC PRION SYMPOSIUM主催		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福岡大学	講座名	生物薬剤学
職名	准教授	氏名	首藤 英樹
<b>I 教育活動</b>			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 臨床薬物動態解析学（3年次後期） 臨床薬物動態学（4年次前期） 他4件		平成18年4月～現在 平成18年4月～現在	薬物動態解析と投与設計 テーラーメイド医療
2 作成した教科書、教材、参考書 「臨床薬物動態解析学」補足資料 「臨床薬物動態学」補足資料 他1件		平成25-30年4月 平成25-30年9月	スライド集および練習問題集（毎年改訂） スライド集および練習問題集（毎年改訂）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 チーム医療実践能力を涵養するIPE薬学教育プログラムの試行 エビデンスに基づくニボルマブの安全性プロファイリング -実薬対照比較試験のメタアナリシス-		平成27年11月23日 平成30年6月24日	第25回日本医療薬学会年会（横浜）ポスター発表 医療薬学フォーラム 2018/ 第26回クリニカルファーマシーシンポジウム
4 その他教育活動上特記すべき事項 平成28年度 薬学部FDワークショップ 平成28年度 第1回薬学部FD講演会		平成28年8月24日 平成28年10月31日	「授業運営の改善に向けて」 「最近のリメディアル教育の状況」
<b>II 研究活動</b>			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）
(著書) 薬の生体内運命 改訂7版		共著	平成29年3月
(論文) Significance of combined cyclosporine-prednisolone therapy and cyclosporine blood concentration monitoring for idiopathic membranous nephropathy with steroid-resistant nephrotic syndrome: a randomized controlled multicenter trial.		共著	平成26年11月
(論文) 小児けいれん重積および発作頻発状態患者に対するホスフェニトインとフェノバルビタールの有効性および安全性に関する比較検討		共著	平成28年4月
(論文) 高血圧性緊急症患者に対するニカルジピン注射液原液の精密持続点滴投与による静脈炎症の危険因子に関するレトロスペクティブ調査に関する比較検討		共著	平成29年1月
(論文) DRESS syndrome caused by cross-reactivity between vancomycin and subsequent teicoplanin administration		共著	平成28年8月
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) エビデンスに基づくニボルマブの安全性プロファイリング -実薬対照比較試験のメタアナリシス-		平成30年6月	医療薬学フォーラム 2018/ 第26回クリニカルファーマ シーシンポジウム
<b>III 学会および社会における主な活動</b>			
平成27年7月18日（講演）	福岡大学市民カレッジ 福岡大学を知るシリーズ 「薬の危険な飲み合わせ・食べ合わせ」		
平成28年1月（寄稿）	「七隈の社」 第12号/2016年 「生」（福岡大学） 薬との上手な付き合い方 -薬のリスクを抑え、ベネフィットを高くするために-		
平成26-30年	日本TDM学会 論文賞選考委員		
平成28-30年	医療薬学雑誌 論文審査員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 医薬品化学	職名 准教授	氏名 田川 義展
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	毎年配布	講義内容と問題をまとめたプリントを作成し、配布した。	
2 作成した教科書、教材、参考書 有機化学反応の実験テクニク	毎年配布	過去のCBT対策模擬試験から、分野別に30問を抽出し、あらたに試験問題として再構成し、毎月曜日に学生に対して試験と解説を実施した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 新編 医薬化学	単著	平成30年3月	廣川書店
(著書)	共著		
(論文) Trend. Org. Chem. <u>28</u> , 97-100, 2017	単著		
(論文)	単著		
(論文)	共著		
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 酸化剤存在下, 2,3-ジアミノピリジンと芳香族アルデヒドとの反応による		平成29年10月	日本薬学会第137年会
(演題名) ジアミノピリジンと芳香族アルデヒドとの反応によるイミダゾピリジン---		平成27年3月	第47回複素環化学討論会
III 学会および社会における主な活動			
平成27年4月~平成31:現在	ヘテロサイクルズ論文審査員		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 薬学疾患管理学	職名 准教授	氏名 道具 伸也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 薬学部学生・大学院生に対する講義 学部生および院生に対する卒業研究・学位論文指導	2013/4/1～ 2013/4/1～	薬物動態学関連の講義を担当した 実験計画からデータ解析及び論文作成について指導した	
2 作成した教科書、教材、参考書 「図表で理解する薬物相互作用」 「実務実習事前学習」実習書	2013/6/1～ 2013/9/1～	教科書の内容を補完する図、データをまとめた補助教材 外用剤調剤に関する課題を作成した	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Activation of the $\alpha 7$ nicotinic acetylcholine receptor upregulates blood-brain barrier function through increased claudin-5 and occludin expression in rat brain endothelial cells.	共著	平成30年11月	Neurosci Lett., 694, 9-13 (2018)
(論文) Oncostatin M-induced blood-brain barrier impairment is due to prolonged activation of STAT3 signaling in vitro.	共著	平成30年11月	J Cell Biochem., 119(11), 9055-9063 (2018)
(論文) TNF- $\alpha$ -sensitive brain pericytes activate microglia by releasing IL-6 through cooperation between $I\kappa B$ -NF $\kappa B$ and JAK-STAT3 pathways.	共著	平成30年8月	Brain Res., 1692, 34-44 (2018)
(論文) Contribution of thrombin-reactive brain pericytes to blood-brain barrier dysfunction in an in vivo mouse model of obesity-associated diabetes and an in vitro rat model.	共著	平成29年5月	PLoS One., 12(5), e0177447 (2017)
(論文) Role of thrombin-PAR1-PKC $\theta$ / $\delta$ axis in brain pericytes in thrombin-induced MMP-9 production and blood-brain barrier dysfunction in vitro.	共著	平成29年5月	Neuroscience., 350, 146-157 (2017)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) In response to monomeric $\alpha$ -synuclein, brain pericytes release inflammatory cytokines to impair brain endothelial barrier		平成30年7月	18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology
(演題名) 脳ペリサイトにおける $\alpha$ シヌクレインの取り込みおよび分解機構		平成31年3月	第92回日本薬理学会年会
III 学会および社会における主な活動			
平成25年11月～	日本薬理学会学術評議員		
	論文審査員 (Biochimie, Journal of Alzheimer's Disease, PLOS ONE, Biomedicine and Pharmacotherapy, Cellular and Molecular Neurobiology, Bulletins of the Pharmaceutical Society of Japan)		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福岡大学	講座名	臨床薬学
職名	准教授	氏名	富永 宏治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成30年4月 より 平成30年7月	4年次の「薬学健康管理学」で医療制度、セルフメディケーションの基礎について講義し、6年次の「総合医療薬学特別講義Ⅰ」で実務実習の経験を踏まえて発展型の講義を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 配布テキスト 薬学健康管理学		30年4月1日 (毎年)	担当講義である「薬学健康管理学」のため配布テキストを作成した。講義内容が医療制度に関わる内容のため、毎年の制度改正、法律改正に合わせて内容を見直している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 唐津薬剤師会研修会 山口県薬剤師会 改定コアカリに対応した研修会		27年7月24日 2018年4月22日	大学における実務実習に関する教育と改定コアカリに関する講演
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) FDワークショップ		2018年8月9日	薬学部FDワークショップに参加し、講義等での問題点、工夫などを他の教員と情報共有した
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) わかりやすいセルフメディケーションとOTC医薬品の使い方 改訂2版	共著	平成27年3月	ネオメディカル社
(論文) Elevated permeability of the blood-brain barrier in mice intratracheally administered porcine pancreatic elastase.	共著	平成25年9月	J pharmacol Sci vol.129 No.1
(論文) 在宅医療への薬剤師の取り組みに関する情報科学的検討	共著	平成29年9月	九州薬学会会報
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
平成26年～平成30年	九州山口地区実務実習調整機構 実務実習指導薬剤師養成ワークショップ <sup>7</sup> タスクフォース		
平成26年～平成30年	福岡市教育委員会 学校薬剤師委嘱		
平成27年4月～平成28年2月	第9回九州山口薬学会ファーマシューティカルケアシンポジウム実行委員		
平成28年4月19日～平成28年4月20日	熊本地震医療ボランティア活動(福岡県薬剤師会)		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福岡大学	講座名	臨床薬学教室
職名	准教授	氏名	林 稔展
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成30年7月	薬学疾患管理学(4年次)の講義では、実際の医療現場での事例をもとにした薬剤管理指導、SOAP形式の記録の演習を取り入れ、より実践的な演習となるよう工夫した。
2	作成した教科書、教材、参考書	平成30年4月 平成30年3月	薬剤師のための疾患別薬物療法I 悪性腫瘍 改訂第二版(南江堂) 大腸癌のセクションを執筆 がん薬物療法副作用管理マニュアル(医学書院) 編集と査読を担当
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特記なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		特記なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Risk factors for delayed chemotherapy-induced nausea and vomiting with low-emetic-risk chemotherapy: a prospective, observational, multicenter study	共著	平成30年10月	Cancer Manag Res(10巻)2018
Genetic risk factors for chemotherapy-induced nausea and vomiting in patients with cancer receiving cisplatin-based chemotherapy	共著	平成30年5月	Support Care Cancer(26巻5号)2018
A prospective, observational, multicenter study on risk factors and prophylaxis for low emetic risk chemotherapy-induced nausea and vomiting	共著	平成29年9月	Support Care Cancer(25巻9号)2017
Involvement of Charcot-Marie-Tooth disease gene mitofusin 2 expression in paclitaxel-induced mechanical allodynia in rats	共著	平成29年6月	Neurosci Lett(13巻653号)2017
Influence of ABCB1 and ABCG2 polymorphisms on the antiemetic efficacy in patients with cancer receiving cisplatin-based chemotherapy: a TRIPLE pharmacogenomics study	共著	平成29年5月	Pharmacogenomics J(17巻5号)2017
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
軽度催吐リスク化学療法における遅発期悪心嘔吐発現リスク因子の評価—多施設共同前向き観察研究—		平成30年5月	第10回日本がん薬剤学会(JSOPP)学術大会
Recognize the risk and safe handling of antitumor drugs for the hierarchy control		平成30年5月	2018 Forbidden City International Pharmacist Forum
III 学会および社会における主な活動			
2018年9月～現在	日本がんサポーターブケア学会 CINV部会部会員		
2018年5月～現在	日本臨床腫瘍薬学会 会誌編集委員会		
2018年4月～現在	日本臨床腫瘍薬学会学術大会2020 実行委員		
2016年4月～現在	日本臨床腫瘍学会 学術集会部会恒常委員		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。



## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 機器分析学	職名 准教授	氏名 巴山 忠
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成28年4月～	薬学部3年次生を対象（講義名：日本薬局方Ⅰ及びⅡ）とし、分析化学を中心とした講義を行っている。その際、自ら作成した資料を用いて講義内容を解説するとともに、国家試験などの問題を利用した問題演習を行い、理解を深めてもらう等の工夫を行っている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成28年4月～ 平成29年3月～	担当している講義にて独自の資料を作成し、講義時にプリントとして配布している。 講義に使用している教科書（パートナー分析化学Ⅱ改訂第3版）を分担執筆した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成23年8月～ 平成25年10月～	日本分析化学会九州支部主催の「分析化学講習会」にて実習講師を行っており、自ら作成した資料を用い、基礎実習と講義を行っている。 福岡県環境証明事業協会主催の「環境計量士国家試験受験対策セミナー」にて、自ら作成した資料を用い、基礎化学の講義を行っている。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) パートナー分析化学Ⅱ	共著	2017年3月	南江堂
(総説) Recent Development and Trends in Sample Extraction and Preparation for Mass Spectrometric Analysis of Nucleotides, Nucleosides, and Proteins	共著	2018年11月	<i>Journal of Pharmaceutical and Biomedical Analysis</i> , vol 161, p. 51-60
(論文) Fluorous-assisted Metal Chelate Affinity Extraction for Nucleotides Followed by HILIC-MS Analysis	共著	2018年2月	<i>Journal of Chromatography B</i> , vol 1074-1085, p. 86-90
(論文) Assesment of Anticancer Drug Effects on Pancreatic Cancer Cells under Glucose-depleted Conditions using Intracellular and Extracellular Amino Acid Metabolomics	共著	2018年2月	<i>Biological and Pharmaceutical Bulletin</i> , vol 42, p. 220-228
(論文) Multi-perfluoroalkyl Derivatization of Polyamines for Selective Liquid Chromatography-Tandem Mass Spectrometric Analysis Utilizing Fluorous Affinity	共著	2017年10月	<i>Chromatography</i> , vol 38, p. 107-113
(論文) Fluorous-assisted Metal Chelate Affinity Extraction Technique for Analysis of Protein Kinase Activity	共著	2016年8月	<i>Talanta</i> , vol 156-157, p. 1-5
(総説) フルオラス分離技術を利用する分析法	単著	2016年4月	<i>ぶんせき</i> , vol 4, p. 134-138
(総説) Development of Analytical Methods Utilizing Selectivity of Fluorous Affinity and Their Applications	単著	2016年2月	<i>Chromatography</i> , vol 37, p. 1-8
(論文) Direct Tandem Mass Spectrometric Analysis of Amino Acids in Plasma Using Fluorous Derivatization and Monolithic Solid-phase Purification	共著	2015年11月	<i>Journal of Pharmaceutical and Biomedical Analysis</i> , vol 115, p. 201-207
(論文) Selective Liquid Chromatographic Determination Method of 5-Hydroxyindoles with Fluorous and Fluorogenic Derivatization	共著	2015年10月	<i>Journal of Pharmaceutical and Biomedical Analysis</i> , vol 114, p. 348-354
(論文) Selective Extraction of Nucleotides with Fluorous Biphasic System Utilizing Perfluoroalkylamine as an Ion-Pair Reagent	共著	2015年4月	<i>Chromatography</i> , vol 36, p. 13-18

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
可逆的相互作用を利用した生体関連物質のフルオラス溶媒抽出	2018年9月	フルオラス科学研究会第11回シンポジウム（招待講演）
フルオラス誘導体化を用いたシアン化物分析法の開発	2018年9月	フルオラス科学研究会第11回シンポジウム
シアン化物のフルオラス誘導体化HPLC分析法の開発	2018年9月	日本分析化学会 第67年会
パーフルオロポリエーテルカルボン酸の金属塩を利用したリン脂質の選択的抽出及びLC-MS/MS分析	2018年8月	第31回バイオメディカル分析科学シンポジウム
ヒト血漿中クルクミンのフルオラス誘導体化LC-MS/MS分析	2018年8月	第31回バイオメディカル分析科学シンポジウム
パーフルオロポリエーテルカルボン酸KrytoxのZn(II)塩を利用したリン脂質類の選択的抽出	2018年7月	第36回九州分析化学若手の会夏季セミナー
アミノ酸メタボロミクスによる新たな抗がん剤効果判定法の開発	2018年7月	第36回九州分析化学若手の会夏季セミナー
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成29年4月～	クロマトグラフィー科学会 評議員	
平成30年4月～	日本分析化学会九州支部 常任幹事	
平成30年4月～	Analytical Sciences誌 編集委員	
平成30年12月～	科学研究費委員会専門委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 実務薬剤学	職名 准教授	氏名 松尾 宏一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成25年4月1日 平成25年4月1日 平成29年4月1日	各講義での演習問題の実施 薬事問題を知るための新聞記事の活用 SGD形式によるコミュニケーション授業	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成26年4月1日 平成26年4月1日 平成30年4月1日	筑紫病院における実務実習の講義資料 実務実習事前学習の教科書 薬事関係法規論の講義資料 他4件	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文)白金錯体系抗悪性腫瘍剤のオキサリプラチンによる末梢神経障害に対する加エブシの軽減効果	共著	2013年8月	漢方と最新治療 (22/3)
(論文) Linezolid Minimum Inhibitory Concentration (MIC) Creep in Methicillin-Resistant Staphylococcus aureus (MRSA) Clinical Isolates at a Single Japanese Center	共著	2014年4月	Biol. Pharm. Bull. (37/04)
(論文) Effects of Comb Tooth Cap Medicinal Mushroom, Hericium ramosum (Higher Basidiomycetes) Mycelia on DPPH Radical Scavenging Activity and Nerve Growth Factor	共著	2015年5月	International Journal of Medicinal Mushrooms (17/4)
(論文) Delayed treatment with ADAMTS13 ameliorates cerebral ischemic injury without hemorrhagic complication.	共著	2015年7月	Brain Research (1624)
(論文) Recombinant human soluble thrombomodulin ameliorates cerebral ischemic injury through a high-mobility group box 1 inhibitory mechanism without hemorrhagic complications in mice	共著	2016年1月	Journal of the Neurological Sciences
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
がん診療拠点病院における閉鎖式接続器具の使用実態調査		2018年5月	第10回日本がん薬剤学会学術大会
がん医療における分子標的薬のマネジメントー薬剤師はどう対応するか 分子標的薬総論		2018年9月	第51回日本薬剤師学会学術大会
III 学会および社会における主な活動			
2012年4月～現在	日本医療薬学会 がん専門薬剤師認定制度委員会 委員		
2015年4月～現在	日本医療薬学会 代議員		
2015年4月～現在	日本癌治療学会 代議員		
2018年3月～現在	日本臨床腫瘍薬学会 理事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 衛生化学研究室	職名 准教授	氏名 松末 公彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 公衆衛生学及び食品衛生学担当	2008～現在	各单元ごとに国家試験問題を解かせ、復習に力を入れた。学生からの評価は良好である。	
2 作成した教科書、教材、参考書 予防薬学としての衛生化学 第三版	2016. 03. 30	第12章 薬毒物の体内動態および代謝酵素を執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 模擬講義(17件)	2014. 04	期間中、高等学校及び本学オープンキャンパスにおいて、高校生に対し大学での講義内容を説明	
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書)疾患モデルの作製と利用-脂質代謝異常と関連疾患	共著	2015. 1	株式会社エル・アイ・シー(第15節担当)
(論文)Fat-specific protein 27 is a novel target gene of liver X receptor $\alpha$	共著	2018. 2	Mol Cell Endocrinol, in press
(論文)Insulin represses fasting-induced expression of hepatic fat-specific protein 27	共著	2017. 7	Biol Pharm Bull, 40(6), p888
(論文)Involvement of CXCL14 in osteolytic bone metastasis from lung cancer	共著	2015. 7	Int. J. Oncol. 44, p1316
(論文)Fat-Specific Protein 27/CIDEc Promotes Development of Alcoholic Steatohepatitis in Mice and Humans	共著	2015. 1	Gastroenterology, 149, p1030
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 2型糖尿病モデル ob/ob マウスの脂肪肝における Fsp27b 遺伝子の発現制御-PPAR $\gamma$ の関与-		平成30年9月10日	フォーラム 2018 衛生薬学・環境トキシコロジー
(演題名) 再摂食時における肝 Fsp27 遺伝子の発現制御 -インスリンの関与-		2018年3月13日	第 138 年会日本薬学会
III 学会および社会における主な活動			
平成28年4月	福岡大学HPにおいて、市民向けにコラム執筆。タイトル: "いまさら聞けないトクホについて、トクホって何?"		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 創剤学	職名 准教授	氏名 松永 和久
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 Moodleシステムの活用 実務実習事前学習（放射性医薬品，製剤化）		平成27年9月～ 平成21年4月～	e-Learningシステムを用いて資料の配布や確認試験を行った。 放射性物質や取扱，製剤化手法について実物を用い実習を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 製剤化のサイエンス 第8版 放射線・放射性物質の薬学利用 他2件		平成28年3月 平成30年2月	ターゲティング(標的指向化)の項目を担当 放射性物質の薬学への応用の項目を担当
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 沖縄県の高校生に対する模擬講義 薬学部卒業後教育講座 他4件		平成28年11月 平成30年5月	DDS及び薬学部、薬剤師について紹介した。 薬剤師のための製剤化のサイエンスを講義した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(論文) Intracellular mechanisms underlying lipid accumulation (white opaque substance) in gastric epithelial neoplasms: A pilot study of expression profiles of lipid-metabolism-associated genes.	共著	平成28年4月	J Gastroenterol Hepatol., 31(4), 776-781, 2016
(論文) The nature of the white opaque substance within colorectal neoplastic epithelium as visualized by magnifying endoscopy with narrow-band imaging.	共著	平成28年11月	Endosc Int Open. 2016 Nov;4(11):E1151-E1157.
(論文) Mechanism Underlying Linezolid-induced Thrombocytopenia in a Chronic Kidney Failure Mouse Model.	共著	平成29年1月	J Pharmacol. Pharmacother., 8(1), 8-13
(論文) Enhanced Antitumor Effects and Delivery Profiles of Menahydroquinone-4 Prodrugs with Ionic or Nonionic Promoiety to Hepatocellular Carcinoma Cells	共著	平成30年7月	Molecules, 23(7), doi: 10.3390/molecules23071738.
(著書) Enhanced intracellular delivery and improved antitumor efficacy of menaquinone-4.	共著	平成29年3月	Vitamin K2 - Vital for Health and Wellbeing InTech, 311-326
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) Chemopreventive Effect of Menahydroquinone-4-prodrugs with Ionic or Non-ionic Promoiety against Hepatocellular Carcinoma		平成30年7月	The 2nd Workshop for Korea-Japan Young Scientists on Pharmaceutics
(演題名)			
III 学会および社会における主な活動			
平成27年11月～	日本ビタミン学会代議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 医薬品情報学	職名 准教授	氏名 右田啓介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） ・視覚的に講義内容を理解できる工夫 ・穴埋め式の配布プリント	2016～2018年 2016～2018年	講義スライドにできるだけ図や写真を用いた。 講義内容の配布プリントに学生自身が大事な用語を書き込めるようにした。	
2 作成した教科書、教材、参考書 なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む） ・薬学部卒業後教育	2016年10月15日	薬学部における基礎研究を紹介。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Propofol Anesthesia Is Reduced in Phospholipase C-Related Inactive Protein Type-1 Knockout Mices	共著	2017年6月	JPET vol.361
（論文）Activations of muscarinic M1 receptors in the anterior cingulate cortex contribute to the antinociceptive effect via	共著	2017年1月	Mol Pain vol.13
（論文）HSP90 Regulation of P2X7 Receptor Function Requires an Intact Cytoplasmic C-Terminus.	共著	2016年8月	Mol Pharmacol vol.90 No.2
（論文）Inhibition of glucose transporter 1 induces apoptosis and sensitizes multiple myeloma cells to conventional chemotherapeutic agents.	共著	2016年2月	Leuk Res. vol.41
（論文）Cis-3-hexenol and trans-2-hexenal mixture prevents development of PTSD-like phenotype in rats.	共著	2016年1月	Behav Brain Res. vol.297
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）P2X2受容体またはP2X7受容体のNおよびC末部分もつ機能的特徴		2018年3月	日本薬学会第138年会
（演題名）HSP90拮抗薬ゲルダナマイシンにおける神経細胞への影響		2018年3月	日本薬学会第138年会
III 学会および社会における主な活動			
平成25年4月～現在	日本薬理学会学術評議員		
平成29年3月14日	第26回神経行動薬理若手研究者の集い 一般演題 座		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 生物薬剤学	職名 准教授	氏名 山内 淳史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 独自資料を用いた薬学部学生に対する講義 SGD, PBL, ロールプレイによる実務実習事前学習 学部生および院生に対する卒業研究・学位論文指導		H25. 4. 1～現在 H25. 4. 1～現在 H25. 4. 1～現在	図表、演習問題を主とした独自資料による薬物動態学関連の講義を担当した SGD, PBL, ロールプレイの手法を導入した事前学習を行った 実験計画からデータ解析及び論文作成について指導した
2 作成した教科書、教材、参考書 「図解 薬害・副作用学」南山堂 「実務実習事前学習」実習書 「薬の生体内運命」改訂7版		H25. 8. 5 H25. 9. 1～現在 H29. 3. 13	第3章1中枢神経系に作用する薬の副作用を分担執筆した。 全体の編集、面談実習、水剤実習部分を担当した。 第2部第2章 TDMを分担執筆した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			無し
4 その他教育活動上特記すべき事項 九州山口調整機構 大学委員（学部実務実習実習委員長） 福岡大学薬学部エクステンションセンター委員		H27. 4. 1～ H30. 3. 31 H27. 12. 1～現在	実務実習における施設との調整などを担当した。 学外あるいは学内向けの教育講座の企画・運営を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Effect of varenicline on behavioral deficits in a rat model of Parkinson's disease induced by unilateral 6-hydroxydopamine lesion of substantia nigra.	共著	平成30年6月	Behav. Pharmacol. 29 : 327-335
（論文）Varenicline promotes endothelial cell migration by lowering vascular endothelial-cadherin levels via the activated $\alpha 7$ nicotinic acetylcholine receptor-mitogen activated protein kinase axis.	共著	平成29年9月	Toxicology. 390 : 1-9
（論文）Contribution of thrombin-reactive brain pericytes to blood-brain barrier dysfunction in an in vivo mouse model of obesity-associated diabetes and an in vitro rat model.	共著	平成29年5月	PLoS One. 12 : e0177447
（論文）CD147 promotes the formation of functional osteoclasts through NFATc1 signalling.	共著	平成28年4月	Biochem Biophys Res Commun. 473 : 620-624
（論文）Brain pericytes are the most thrombin-sensitive matrix metalloproteinase-9-releasing cell type constituting the blood-brain barrier in vitro.	共著	平成27年7月	Neurosci Lett. 599 : 109-114
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）5) ☐ Smoking cessation drug, varenicline, inhibited alveolar expansion in mice intratracheally administrated porcine pancreatic elastase.		平成30年7月	18th World Congress of basic and clinical pharmacolog
（演題名）11) □アルオロキノロン系抗菌薬による大動脈瘤悪化・解離におけるsmooth muscle $22\alpha$ の発現変動		平成30年8月	生体機能と創薬シンポジウム2018
III 学会および社会における主な活動			
平成28年4月～平成30年3月	日本薬学会九州支部 幹事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	福岡大学	講座名	薬品分析学教室	職名	准教授	氏名	吉田 秀幸
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 ・「環境衛生学Ⅱ」の講義担当 ・「総合衛生薬学特別講義（Ⅰ，Ⅱ）」の講義担当 ・「アカデミックスキルズゼミⅡ」の講義担当 他4件				2009年度～ 2011年度～ 2018年度 各年度	・当該科目の講義。関連演習問題の作題，解説。 ・国試等を想定した演習問題の作題，配付，解説。 ・大学での学修スキル向上のためのゼミ講義を分担。		
2 作成した教科書、教材、参考書 ・物理系実習1（薬品分析学教室担当）の実習書 ・パートナー分析化学Ⅱ（南江堂）				1998年度～ 2017年3月30日	・2年次生対象の実習書を作成。操作法等を説明。 ・第3章「液体クロマトグラフィー」を分担執筆。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・「福大生らしいアクティブさとは？」の座談会 ・薬学部における教育改善のための学外ワークショップ参加の必要性 ・「大学4年間（6年間）で伸びる学生とは」の座談会 ・平成28年度の薬学部におけるFD活動について				2016年7月1日  2016年9月1日  2017年6月29日 2017年9月28日	・福岡大学教育開発支援機構主催座談会に登壇。 ・福岡大学教育開発支援機構年報（2015年度）に執筆。 ・福岡大学教育開発支援機構主催座談会に登壇。 ・福岡大学教育開発支援機構年報（2016年度）に執筆。		
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・全国薬系大学薬剤師国家試験問題検討委員会委員 ・薬学部FDワークショップの開催				2011年度～  2015年度～	・衛生薬学会の委員として，国試後に問題検討。 ・年間数回の学部内ワークショップを企画，運営。		
II 研究活動							
1. 著書・論文等の名称				単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号 数）等の名称	
（著書）液体クロマトグラフィー（「パートナー分析化学Ⅱ」の第3章の1節）				共著	2017年3月	南江堂，151-196（全332 頁）	
（総説）Fluorous Affinity-based Separation Techniques for the Analysis of Biogenic and Related Molecules				共著	2014年12月	<i>J. Pharm. Biomed. Anal.</i> , <b>101</b> , 151-160 (2014).	
（論文）Selective Liquid Chromatographic Determination Method of 5-Hydroxyindoles with Fluorous and Fluorogenic Derivatization				共著	2015年10月	<i>J. Pharm. Biomed. Anal.</i> , <b>114</b> , 348-354 (2015).	
（論文）Fluorous-assisted Metal Chelate Affinity Extraction Technique for Analysis of Protein Kinase Activity				共著	2016年8月	<i>Talanta</i> , <b>156-157</b> , 1-5 (2016).	
（論文）Multi-perfluoroalkyl Derivatization of Polyamines for Selective Liquid Chromatography-tandem Mass Spectrometric Analysis Utilizing Fluorous Affinity				共著	2017年10月	<i>Chromatography</i> , <b>38</b> , 107-113 (2017).	



2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
二次元キラルHPLCを用いる生体内シトルリン及びホモシトルリン分析法開発と尿中含量解析	2018年5月	第25回クロマトグラフィーシンポジウム
フルオラス誘導体化LC-MS法による貝毒成分のオカダ酸及びドウモイ酸の分析	2018年7月	第36回九州分析化学若手の会夏季セミナー
キヌレニン鏡像異性体を対象とした高選択的二次元HPLC分析法の開発	2018年7月	第36回九州分析化学若手の会夏季セミナー
パーフルオロポリエーテルカルボン酸の金属塩を利用したリン脂質の選択的抽出及びLC-MS/MS分析	2018年8月	第31回バイオメディカル分析科学シンポジウム
ヒト血漿中クルクミンのフルオラス誘導体化LC-MS/MS分析	2018年8月	第31回バイオメディカル分析科学シンポジウム
多次元HPLCを用いる代謝関連キラルアミノ酸の高選択的分析法開発	2018年9月	第14回D-アミノ酸学会学術講演会
蛍光誘導体化HPLC法による二枚貝中オカダ酸の分析	2018年9月	日本分析化学会 第67年会
フルオラス誘導体化LC-MS法による二枚貝中のオカダ酸分析	2018年9月	フルオラス科学研究会 第11回シンポジウム
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
2006年11月～現在に至る	「日本分析化学会九州支部」の幹事	
2011年10月～現在に至る	「全国薬系大学薬剤師国家試験問題検討委員会」の衛生薬学部会委員	
2012年6月～2014年3月	「薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する調査研究チーム」の委員	
2013年2月～2015年1月	「日本薬学会九州支部」の幹事	
2013年4月～2014年3月	「薬学共用試験センター」のCBTモニター員	
2014年4月～2017年3月	日本薬学会学術誌「 <i>Chem. Pharm. Bull.</i> , <i>Bio. Pharm. Bull.</i> 及び <i>薬学雑誌</i> 」の編集委員	
2015年4月～2016年3月	「日本薬局方教科担当教員会議」の構成員	
2016年12月～2017年11月	「科学研究費委員会専門委員会」の環境・衛生系薬学委員	
2017年3月～2018年8月	「第30回バイオメディカル分析科学シンポジウム（BMAS2018）」の実行委員	
2018年2月～現在に至る	「日本薬学会物理系薬学部会」の地区選出世話人	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福岡大学	講座名	薬化学
		職名	講師
		氏名	中原 史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Synthesis of Dihydrooxepins by the Cycloaddition of 2-Amino-4,5-dihydro-3-furancarbonitriles with Dimethyl Acetylenedicarboxylate	共著	平成25年9月	HTTEROCYCLES, 87(11), 2361-2368.
(論文) An Approach to the Synthesis of Novel Dihydroindoles Bearing Electron-Withdrawing Groups at C-2 Position	共著	平成26年1月	HTTEROCYCLES, 88(1), 675-687.
(論文) An Efficient Synthetic Route towards Novel Furo- and Thieno-triazolopyridines	共著	平成26年4月	HTTEROCYCLES, 89(4), 1025-1034.
(論文) Synthesis and DNA Cleavage Activity of Functionalized Pyrazol-3-ones Containing Oxime Ester	共著	平成28年5月	J. Heterocycl. Chem. 92(7) 1293-1306.
(論文) Synthesis of Novel Angular and Linear Fused [5-6-5] Heterocycles by the Reaction of Methyl Cyano-(3-cyano-4,5-dihydro-2(3H)-furylidene)acetate with Hydrazines and Dimethylformamide Dimethyl Acetal	共著	平成30年4月	HTTEROCYCLES, 92(7), 1293-1306.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Methyl Cyano-(3-cyanofurylidene)acetate、hydrazine類およびdimethylformamide dimethyl acetal との反応による新規 angular および linear [5-6-5] 縮合ヘテロ環化合物の合成		平成30年3月	日本薬学会138年会
(演題名) 三環系縮合 furo[2,3-b]pyridine 誘導体の合成		平成31年3月	日本薬学会139年会
III 学会および社会における主な活動			
平成28年1月～現在	有機合成化学協会九州山口支部幹事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 医薬品化学教室	職名 講師	氏名 壬生 伸子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	H26年4月～	薬学入門化学(1年生)で、宿題を与え解答を提出させフィードバックを行っている。	
	H24年4月～	化学系実習IVおよびIII(3年生)で、練習問題を作成演習を行っている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	H24年4月～	基礎薬学特別講義I(4年生)で、演習プリントを作成。	
	H26年4月～	薬学入門化学(1年生)で、問題の解答解説を一部作成。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		卒業研究で学生(3、4、5年生)の卒業論文作成の指導と支援	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Carbohydrate recognition of symmetrical tripodal receptor type tris(2-aminoethyl)amine derivatives	共著	2013	J. Therm. Anal. Calorim., 113, 1015-1018 (2013).
Synthesis and Biological Evaluation of Symmetrical 2,4,6-Trisubstituted 1,3,5-Triazine Derivatives	共著	2013	Chem. Pharm.Bull., 61, 823—833 (2013).
Synthesis and Antiviral Activities of Some 2,4,6-Trisubstituted 1,3,5-Triazines	共著	2014	Chem. Pharm.Bull., 62, 1032—1040 (2014).
Synthesis and Antiviral Evaluation of Some C3-Symmetrical Trialkoxy-Substituted 1,3,5-Triazines and Their Molecular Geometry	共著	2015	Chem. Pharm.Bull., 63, 935—944 (2015).
Antiviral Activity and Molecular Geometry of Some New Symmetrical Tris(aminoalkyl)amine	共著	2016	Chem. Pharm.Bull., 64, in press (2016).
ANTIVIRAL ACTIVITIES OF SOME NEW 2,4,6-TRISUBSTITUTED 1,3,5-TRIAZINES HAVING ALKOXY AND/OR ALKYLAMINO GROUPS	共著	2017	Heterocycles, 94 (9), 1653-1677 (2017).
Carbohydrate recognition of C3-symmetrical tripodal receptor-type 2,4,6-trisubstituted 1,3,5-triazine derivatives with antiviral activities	共著	2018	J. Therm. Anal. Calorim., DOI 10.1007/s10973-018-7573-4 (2018).
Preparation and Antiviral Activity of Some New C3- and CS-Symmetrical Tri-substituted Triazine Derivatives Having Benzylamine Substituents	共著	2018	Chem. Pharm. Bull., 66, 830—838 (2018).
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
新規トリポータル受容体型CS対称性三置換1,3,5-トリアジン誘導体およびハイブリッド型C3対称性1,3,5-トリアジン誘導体の合成と抗ウイルス活性		H31 3月	日本薬学会第139年会
III 学会および社会における主な活動			
平成28年12月	第62回 日本薬学会九州支部大会(鹿児島にて開催)で座長を務めた。		
平成29年11月	The 8th International and the 10th Japan-China Joint Symposium on Calorimetry and Thermal Analysis (CATS 2017)(福岡大学薬学部薬品物理化学教室(安藝先生)にて開催)に協力した。		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福岡大学	講座名	免疫・分子治療学
職名	講師	氏名	安河内 友世
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成26年10月1日～	免疫学(講義形式)、病態薬物治療学分野(講義形式)、および早期臨床体験I・II(実習形式)を担当し、独自の講義資料を用い、医療人としての心構えや実地に活かせる知識の習得を目指した教育を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成28年10月15日 平成28年11月6日	薬学部卒業後教育講座(福岡大学市民カレッジ)講師 薬剤師継続学習通信教育 前期スクーリング講座 講師
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) miR-200c-3p spreads invasive capacity in human oral squamous cell carcinoma microenvironment.	共著	2018年2月	<i>Mol Carcinog</i> , 57, 295-302
(論文) Maternal oral administration of osteocalcin protects offspring from maternal obesity-induced metabolic impairment in adulthood.	共著	2016年4月	<i>Obesity</i> , 24, 895-907
(論文) Long-term oral administration of osteocalcin induces insulin resistance in male mice fed a high-fat, high-sucrose diet.	共著	2016年2月	<i>Am J Physiol Endocrinol Metab</i> , 310, E662-E675
(論文) Repression of cathepsin E increases the risk of mammary carcinogenesis and links to poor prognosis in breast cancer patients.	共著	2014年11月	<i>Carcinogenesis</i> , 35, 714-726
(論文) A novel, potent dual inhibitor of Arg-gingipains and Lys-gingipain as a promising agent for periodontal disease therapy.	共著	2014年4月	<i>The FASEB J</i> , 28, 3564-3578
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 妊娠母体が飲用する胎盤通過性オステオカルシンが胎児の糖脂質代謝関連臓器のエピジェネティックな変化に及ぼす影響		平成30年10月	第18回 DIJFカンファレンス
(演題名) miR-200c-3pによる口腔扁平上皮癌の浸潤制御機構		平成31年3月	第92回 日本薬理学会年会
III 学会および社会における主な活動			
平成15年7月～現在	日本病態プロテアーゼ学会(旧 病態と治療におけるプロテアーゼとインヒビター研究会) 会員		
平成15年10月～現在	日本癌学会会員		
平成28年12月～現在	日本薬理学会会員		
平成29年7月～現在	日本DOHaD学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 生化学	職名 助教	氏名 相川 晃慶
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成24年4月1日 より現在に至る	教室配属の学生に対する研究指導 SGDの監督・指導 生物系実習Ⅱの監督・指導
2 作成した教科書、教材、参考書		平成24年4月1日 より現在に至る	生物系実習Ⅱの実習書の内容の修正・改訂作業
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成24年6月1日より現在 に至る 平成29年4月1日より現在 に至る	福岡市医師会看護専門学校第2看護学科 非常勤講師 (生化学) 福岡県私設病院協会看護学校 非常勤講師 (生化学)
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
The small molecule STF-62247 induces apoptotic and autophagic cell death in leukemic cells	共著	平成30年6月	Oncotarget 9.45 (2018): 27645.
Novel small molecule SIRT2 inhibitors induce cell death in leukemic cell lines	共著	平成30年8月	BMC cancer 18.1 (2018): 791.
成人T細胞白血病における AMPK 標的薬の抗白血病効果	単著	平成28年3月	福岡大学研究部論集 F: 推奨研究編 Vol.3
The small molecule STF-62247 induces apoptotic and autophagic cell death in leukemic cells	共著	平成27年7月	Oncotarget 9.45 (2018): 27645.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Dorsomorphinはヒト成人T細胞白血病ウイルス1型感染細胞株のアポトーシスを誘導する		平成30年11月	第41回日本分子生物学会年会
AICARを用いた新規成人T細胞白血病治療法の検討		平成31年3月	日本薬学会第139回
III 学会および社会における主な活動			
平成24年4月より現在に至る	日本HTLV-1学会会員		
平成25年11月より現在に至る	日本薬学会会員		
平成29年5月より現在に至る	日本分子生物学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 衛生化学	職名 助教	氏名 藍原大甫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・生物学実習Ⅲの指導 ・卒業演習（特別実習）の指導 ・早期体験学習Ⅰの指導 ・学生実習の指導、及び教室配属特別実習生に対する研究教育指導  ・学部3年次生に対する講義		平成25年4月1日- (現在に至る)  平成29年4月1日- (現在に至る)	・薬学部3年次生に対し、実習指導を行った。 ・衛生化学教室配属特別実習生に対し、研究教育を行なった。 ・衛生化学教室配属1年次生に対し、学習指導を行った。 ・薬学部3年次生に対する生物系実習Ⅲの実習指導、及び衛生化学教室配属特別実習生に対する研究教育を行なった。  3年次生に環境衛生薬学Ⅰの講義を行なった。(3回/全15回)
2 作成した教科書、教材、参考書 ・生物系実習Ⅲの実習書		平成25年4月1日- (現在に至る)	編集（評価表の追加等）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・該当なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌
(論文) Fat-specific protein 27 is a novel target gene of liver X receptor $\alpha$	共著	平成30年2月	Molecular and Cellular Endocrinology, In press.
(論文) Insulin Represses Fasting-Induced Expression of Hepatic Fat-Specific Protein 27	共著	平成29年3月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, 40(6):888-893
(著書) ロイコトリエン B4 によるインスリン抵抗性の増悪	単著	平成27年12月	ファルマシア/日本薬学会誌 (第51巻第12号P1183)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) 脂肪肝における Fsp27b 遺伝子の発現解析 -PPAR $\gamma$ による発現制御-		平成30年11月	第 35 回日本薬学会九州支部大会
(演題名) 肝 C/EBP $\alpha$ の新規標的遺伝子 Serpina12 の同定と発現調節機構		平成30年11月	第 35 回日本薬学会九州支部大会
III 学会および社会における主な活動			
平成29年11月	座長（第34回日本薬学会九州支部大会／生物系薬学一般講演）		
平成29年11月	優秀発表賞の審査員（第34回日本薬学会九州支部大会／生物系薬学一般講演）		
平成25年9月	学会運営サポート（フォーラム2013衛生薬学・環境トキシコロジー）		
平成21年11月-現在に至る	日本薬学会会員（会員番号:1001234）		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 機器分析学教室	職名 助教	氏名 糸山美紀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2015～2018年  2017～2018年	薬学教育支援センターにて、1年次リメディアル教育、4年次CBT対策、6年次国家試験対策を行っている。 1年次後期の化学を共担で3回講義している。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2017～2018年	リメディアル教育における授業方法の工夫とその効果、CBT対策演習等について、日本薬学教育学会年次年会及び日本薬学会年會にて発表している。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2015～2018年  2017～2018年	薬学部1年次生リメディアル教育を行っている。担当科目は2016～2018年度は物理、2015及び2018年度は物理・化学。 薬学教育支援センター4年次生へのCBT対策薬理講義を行っている。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Selective Liquid Chromatographic Determination Method of 5-Hydroxyindoles with Fluorous and Fluorogenic Derivatization	共著	2015年10月	Journal of Pharmaceutical and Biomedical Analysis, vol. 114, No.1
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
本学薬学教育支援センターでの4年次生に対する取り組みと結果		2019年3月	日本薬学会第139年会(千葉)
リメディアル物理受講者の成績の動向		2018年9月	第3回日本薬学教育学会(東京)
4年次生成績下位者に自主的な学習習慣を習得させる取り組み		2018年9月	第3回日本薬学教育学会(東京)
薬学教育支援センターでの確認試験成績の傾向～薬剤師国家試験合格との関連～		2018年3月	日本薬学会第138年会(金沢)
III 学会および社会における主な活動			
平成21年5月～	日本分析化学会会員		
平成22年2月～	日本薬学会会員		
平成28年9月～	日本薬学教育学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 生体機能制御学	職名 助教	氏名 入江 圭一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 生物系実習ⅠⅤの指導 (授業評価等を含む) 早期体験学習 (1年次) 今日の薬学研究	平成26年10月 平成27年4月 平成30年4月	実習の補助 研究室配属の1年次の学生の指導補佐 講義用の資料の作成、配布した資料を基に講義	
2 作成した教科書、教材、参考書 生物系実習ⅠⅤテキストの作成	平成27年4月	実習の趣旨や原理、実験操作を記載	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 H28年度 第1回薬学部FD講演会 (FDを含む) H29年度 第2回薬学部FDワークショップ H30年度 薬学部FD講演会	平成28年10月31日 平成30年2月9日 平成30年5月9日	最近のリメディアル教育の状況 薬学教育の充実のために 今後の薬学教育について	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Recombinant human soluble thrombomodulin ameliorates cerebral ischemic injury through a high-mobility group box 1 inhibitory mechanism without hemorrhagic complications in mice.	共著	平成28年3月	Journal of the Neurological Sciences 362:278-82
(論文) Enhancement and regulation effect of myrcene on antibody response in immunization with ovalbumin and Ag85B in mice.	共著	平成28年12月	Asian Pac J Allergy Immunol 34:314-321
(論文) Involvement of Charcot-Marie-Tooth Disease Gene Mitofusin 2 Expression in Paclitaxel-induced Mechanical Allodynia in Rats	共著	平成29年7月	Neuroscience Letters 653:337-340
(論文) Activations of muscarinic M1 receptors in the anterior cingulate cortex contribute to the antinociceptive effect via GABAergic transmission.	共著	平成30年1月	Molecular Pain, 13, 1-11
(論文) Goreisan Prevents Brain Edema after Cerebral Ischemic Stroke by Inhibiting Aquaporin 4 Upregulation in Mice.	共著	平成30年3月	J Stroke Cerebrovasc Dis. 27(3):758-763
(論文) Lactobacillus plantarum induces genomic DNA-dependent and TLR9-mediated elafin secretion from Caco-2 cells.	共著	平成30年7月	Asian Pac J Allergy Immunol doi: 10.12932



2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）空腹及び満腹マウスにおける大麻成分 $\Delta^9$ -tetrahydrocannabinolの摂食亢進作用	平成30年9月	第35回和漢医薬学会学術大会
（演題名）抗悪性腫瘍薬ティーエスワン投与がマウスの腸内細菌叢に与える影響	平成31年3月	日本薬学会第139年会
（演題名）脳梗塞マウスにおけるロイシンリッチ $\alpha$ 2グリコプロテインの動態	平成31年3月	日本薬学会第139年会
（演題名）脳虚血モデルマウスに対するアンチトロンビンⅢ製剤の有用性	平成31年3月	日本薬学会第139年会
（演題名）ラットの高脂肪食摂取が超音波発声に及ぼす影響	平成31年3月	日本薬学会第139年会
（演題名）Phos-tag SDS-PAGEを用いたシヌクレイノパチー病原蛋白質 $\alpha$ シヌクレインのセリン/スレオニン-リン酸化解析	平成31年3月	日本薬学会第139年会
（演題名）Lactobacillus plantarum D2905 株のEPSの産生に関わる遺伝子の同定とその性状	平成31年3月	日本薬学会第139年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成28年7月	雑誌「Brain, Behavior, and Immunity」の査読	
平成30年1月	雑誌「Neurotoxicology」の査読	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名：福岡大学	講座名：実務薬剤学教室	職名：助教	氏名：大津友紀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	H28年4月～H29年3月 H29年4月～H30年3月 H30年4月～現在	実務実習では「薬剤師としての資質の習得」を目標に、実習生(32名/期×3回)を幅広い疾患に継続的に介入させるべく、新コアカリに向けた実習プログラムの最適化に取り組んでいる。2.5ヶ月を4クール・4班に分け、薬剤部内での調剤・調製(抗がん剤、TPN等)及び病棟での薬剤業務(8領域)をより実践型で実施。学生評価では、病院実習でしか実施できない、抗がん剤調製や病棟業務、チーム医療が特に満足度・関心度が毎年度高い結果となっている。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	H28年4月～H29年3月 H29年4月～H30年3月 H30年4月～現在	治験実習を組み入れ、他職種の在り方・職能と薬剤師に求められる役割、臨床現場での創薬過程と倫理的配慮とはどのようなものなのかを実際に肌で感じてもらう工夫を行っている(臨床研究センターにも一部協力)。また、体・脳死移植に関する講義やディスカッションも組み入れ、+αの実習となるような取り組みを行っている。更に、濃縮ポートフォリオの実施や実習後のフィードバックを実施し、実習生の知識・技能向上に努めている。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) 保険薬局における薬学的判断に基づく疑義照会の経済効果	共著	2017年5月	薬理と治療 (Vol. 45 No5)
(論文) 早朝高血圧患者の降圧目標を阻害する要因分析—高血圧治療における薬剤師の関わりからの考察—	共著	2018年	血圧 (Vol. 25 No5)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 改訂コアカリ薬学実務実習へ向けての実習プログラムの構築と課題		2018年・9月	日本薬学教育学会
(演題名) 心血管疾患患者とその主治医対象の服薬アドヒアランスに関するアンケート調査		2018年・11月	日本医療薬学会
(演題名) 服薬アドヒアランスに影響を及ぼす外来患者の意識調査並びに阻害要因の検索		2019年・3月	日本循環器学会
III 学会および社会における主な活動			
2016年4月	熊本地震復旧ボランティア活動		
2006年9月～現在	日本臨床薬理学会会員(2009年1月～:日本臨床薬理学会認定CRC)		
2013年5月～現在	日本医療薬学会会員		
2016年12月～現在	日本高血圧学会会員 (2018年9月～:日本高血圧学会・日本循環器予防学会・日本動脈硬化学会認定高血圧・循環器予防療養指導士)		
2016年12月～現在	認定実務実習指導薬剤師		
2017年10月～現在	日本循環器学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡	講座名 薬品物理化学	職名 助教	氏名 大波多 友規
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 3年次科目「物理系実習Ⅱ」	平成28年4月1日	実習指導を行う。	
2 作成した教科書、教材、参考書 物理系実習Ⅱテキスト	平成28年4月1日	3年次科目「物理系実習Ⅱ」で使用する。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Effect of solution pH on complex formation between epi-type catechin and $\beta$ -cyclodextrin	共著	平成28年7月	Journal of Thermal Analysis and Calorimetry, <a href="https://doi.org/10.1007/s10973-018-7602-3">https://doi.org/10.1007/s10973-018-7602-3</a> .
Difference in formation mechanism of inclusion complex between configuration isomers of gallate-type catechin and $\beta$ -cyclodextrin	共著	平成28年9月	Journal of Thermal Analysis and Calorimetry, <a href="https://doi.org/10.1007/s10973-018-7680-2">https://doi.org/10.1007/s10973-018-7680-2</a> .
Improving water solubility of nateglinide by complexation of $\beta$ -cyclodextrin	共著	平成27年5月	Journal of Thermal Analysis and Calorimetry, <b>123</b> , (3) 1847-1850.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
球形吸着炭細粒の服用に適する市販服薬ゼリーの探索: レオロジー的評価		平成30年11月	第79回九州山口薬学大会
カテキンと $\beta$ -シクロデキストリンとの相互作用		平成30年11月	第54回熱測定討論会
輸液と脂肪乳剤の混合持続点滴における配合変化		平成30年10月	第54回熱測定討論会
薬物と嗜好品の相互作用Ⅱ: 統合失調症治療薬アリピプラゾールと緑茶との相互作用解析		平成30年9月	第12回分子化学討論会2018
とろみ水や服薬ゼリーで錠剤を服用した場合に主薬の溶出に及ぼす影響: バルプロ酸ナトリウム錠200mg		平成30年6月	医療薬学フォーラム2018
III 学会および社会における主な活動			
平成29年11月2日~4日	8th International and 10th Japan-China Joint Symposium on Calorimetry and Thermal Analysis 主催		
平成29年11月4日~6日	第53回熱測定討論会主催		
	日本熱測定学会会員		
	日本薬学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 医薬品情報学	職名 助教	氏名 小野 和彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	平成21年9月～平成30年12月 現在に至る  平成21年9月～平成30年12月 現在に至る  平成23年4月～平成30年12月 現在に至る	<p>1) 実務実習事前学習：実務実習事前学習における学習ユニットの調剤（鑑査）、調剤（注射）、患者面談、導入・医薬品管理・安全管理を担当している。すべてにおいて、基本的手技とあわせ、翌年に実務実習に行く上で必要になる患者・生活者本位の倫理観をもつよう学生に指導している。また、改定コアカリに準拠した内容に実習内容を変更し実践している。OSCEや次年度の実務実習を意識してより実践的な内容になるよう工夫している。</p> <p>2) 早期臨床体験Ⅰ：研究室配属の1年次の学部生が、スモールグループディスカッションを行いながら薬剤師に必要な心構え、薬学部で学んでいく上でのモチベーションの向上を目指していくサポートをしている。また、学生の薬局見学先のマッチング作業にも関わっている。</p> <p>3) 長期実務実習：実務実習委員長と連携し、実務実習全体が円滑に進捗するように、学生が充実した実習を受けられるようにサポートしている。</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成21年9月～平成30年12月 現在に至る	事前実習における調剤薬鑑査と無菌操作の領域のテキスト作成を担当している。鑑査手技と無菌操作の一般的な手技について写真やイラストを交え実習が円滑に進行するように配慮して作成している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)	平成23年4月～平成30年12月 現在に至る  平成27年4月～平成30年12月 現在に至る	<p>①実務実習支援室業務： 1) 長期実務実習先のマッチング作業、実務実習進捗ネットワークツール登録作業と運用サポート、実務実習先施設の契約時のサポート（薬学事務室と協力）などの調整業務を担当している。 2) 学生、実務実習施設、教員からの問い合わせ窓口、訪問指導、実務実習関連書類の管理などの長期実務実習中の支援業務を担当している。 3) OSCEの領域3と領域4の責任者を平成23年より担当している。実務実習事前学習では、その2領域において、調剤薬鑑査と無菌操作の実習を中心的な立場で指導している。</p> <p>②九州・山口地区調整機構 事務局業務： 1) 地区調整機構の収支管理、会議の際の書類作成や旅費の準備や会場の準備といった事務作業を行っている。 2) 九州地区8大学と他地区大学（ふるさと実習）学生の長期実務実習のマッチングが円滑に進むように全体的な調整作業を病院薬剤師会と薬剤師会と協力しながら行っている。</p>	

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）miR-200c-3p spreads invasive capacity in human oral squamous cell carcinoma microenvironment	共著	平成30年3月	Biol Pharm Bull 41(6):961-966.
（論文）In vitro anti-inflammatory effects of the phenylbutyric acid metabolite phenylacetyl glutamine	共著	平成30年2月	Mol Carcinog 57(2):295-302.
（論文）Anti-inflammatory effects of water extract from bell pepper ( <i>Capsicum annuum</i> L. var. <i>grossum</i> ) leaves in vitro	共著	平成29年11月	Ex Ther Med 14: 4349-4355□
（論文）Orally administered sodium 4-phenylbutyrate suppresses the development of dextran sulfate sodium-induced colitis in mice	共著	平成29年12月	Ex Ther Med 14: 5485-5490□
（論文）Exosomes from oral squamous carcinoma cell lines, SQUU-A and SQUU-B, define the tropism of lymphatic dissemination	共著	平成28年5月	J Oral Biosci 58: 180-184□
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）抗炎症作用を有するピーマン葉水抽出エキス中の成分探		平成30年3月	日本薬学会第138年会
（演題名）PBA投与後血清中に誘導される抗炎症活性本体の解明		平成30年3月	日本薬学会第138年会
III 学会および社会における主な活動			
平成23年11月～平成30年12月現在	日本薬学会 会員		
平成27年4月～平成30年12月現在	九州・山口地区調整機構 事務局		
平成29年1月～平成30年12月現在	日本医療薬学会 会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 臨床薬学	助教	甲斐 麻美子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	H28度-H30度 H30度	実務実習事前学習を担当(4年次)。5年次の実務実習へと円滑に進めるよう、実習内容において連携を強化した。事前学習内でルーブリック評価を取入れた。	
2 作成した教科書、教材、参考書	H28度-H30度	事前学習テキスト作り(新コアカリに向けて改訂)に参加した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		無し	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	H28度-H30度 H29度	他施設(福大病院以外)で実習している学生の実習先を訪問し指導した(年3回、20施設程度)。新コアカリの重要疾患、高血圧に関する認定資格「高血圧・循環器病予防療養指導士」を取得。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
More attention should be paid to abnormalities of circadian blood pressure rhythm in heart failure patients.	共著	2017年2月	Circulation Journal vol.81 No.2
糖尿病を合併する高血圧	共著	2017年5月	医学のあゆみ(第260巻第5号)
高血圧・循環器病予防療養指導士活躍の場5)期待される薬剤師と師の協働:服薬アドヒアランス向上と副作用モニタリング	共著	2017年8月	血圧(第24巻第8号)
早期高血圧患者の降圧目標を阻害する因子—高血圧治療における薬剤師の関わりからの考察	共著	2018年5月	血圧(第25巻第5号)
特集 高血圧:エビデンスと推奨—日常診療への提言【関連疾患・病態での診断と治療】心疾患	共著	2018年8月	腎と透析(第85巻第2号)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
早期高血圧患者の降圧目標を阻害する要因に関する検討		2017年3月	日本薬学会第137年会
在宅医療への薬剤師の取り組みに関する文献学的調査		2017年3月	日本薬学会第137年会
早期高血圧患者の降圧目標を阻害する要因は何か?		2017年5月	第6回臨床高血圧フォーラム
在宅医療への薬剤師の取り組みに関する情報科学的検討と他職種の薬剤師に関する意識調査		2017年9月	第78回九州山口薬学大会
Effect of delayed treatment with ADAMTS13 on cerebral ischemic injury compared with tPA		2017年11月	Neuroscience 2017
服薬アドヒアランスに対する外来患者とその担当医師への服薬アンケート調査から見てきたもの		2018年11月	第82回日本循環器学会学術集会
心血管疾患患者とその主治医対象の服薬アドヒアランスに関する研究		2018年11月	第28回医療薬学会年会
III 学会および社会における主な活動			
加入学会	日本薬学会、日本医療薬学会、日本高血圧学会、日本認知症予防学会、日本薬剤師会		
平成29年9月1日	日本高血圧学会認定資格 「高血圧・循環器病予防療養指導士 第099号」取得		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 薬学疾患管理学	職名 助教	氏名 木村郁哉
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成27年10月 ～現在に至る	学部生(4-6年生)に対し、実験計画の立案、実験操作及び結果の考察に関する指導を補佐し、問題点に関しては学生が科学的観点から解決できるように支援した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成27年10月 ～現在に至る	薬学疾患管理学教室担当科目(4年次・前期)の講義用配布資料の作成に関する補助を行った。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		無し	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		無し	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Activation of the $\alpha 7$ nicotinic acetylcholine receptor upregulates blood-brain barrier function through increased claudin-5 and occludin expression in rat brain endothelial cells.	共著	平成30年11月	Neuroscience Letters 694, 9-13
Activation of the $\alpha 7$ nicotinic acetylcholine receptor upregulates blood-brain barrier function through increased claudin-5 and occludin expression in rat brain endothelial cells.	共著	平成29年5月	Plos one 12(5):e0177447
Role of thrombin-PAR1-PKC $\theta/\delta$ axis in brain pericytes in thrombin-induced MMP-9 production and blood-brain barrier dysfunction in vitro.	共著	平成29年5月	Neuroscience 350, 146-157
Brain pericytes are the most thrombin-sensitive matrix metalloproteinase-9-releasing cell type constituting the blood-brain barrier in vitro.	共著	平成27年6月	Neuroscience Letters 599, 109-114
Nifedipine prevents sodium caprate-induced barrier dysfunction in human epidermal keratinocyte cultures.	共著	平成27年6月	Biological and Pharmaceutical Bulletin vol.38 (6)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
血液脳関門への加熱式タバコ抽出物の影響の検討		平成30年11月	日本薬理学会西南部会 71回
Effect of the heat-not-burn tobacco-extracted substances on the brain endothelial barrier function in vitro		平成30年7月	18th World congress of basic and clinical pharmacology
III 学会および社会における主な活動			
平成24年10月～	日本薬理学会会員		
平成26年9月～	日本薬学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 医薬品情報学	職名 助教	氏名 木村 公彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		事前実習実施期間	実習期間中は、注射薬の混合について様々な施設の手法を調査し、演習時に説明を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書		事前実習実施期間	実習書の内容を検討し、改定を続けている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Influence of novel supramolecular substance, [2] rotaxane, on the caspase signaling pathway in melanoma and colon cancer cells in vitro.	共著	2013年5月	Yakugaku Zasshi. 2013;133(5):487-491.
(論文) Influence of novel supramolecular substance, [2] rotaxane, on the caspase signaling pathway in melanoma and colon cancer cells in vitro.	共著	2013年6月	J Pharmacol Sci, 2013, 122(2): 153-157.
(論文) Quantum chemical study for radical-induced DNA effects and damage.	共著	2013年12月	Chem Pharm Bull, 2013, 61(12):1214-1219.
(論文) A Supramolecular Substance, [2] Rotaxane, Induces Apoptosis in Human Molt-3 Acute Lymphoblastic Leukemia Cells.	共著	2015年12月	Drug Res, 2015, 65(11):614-6
(論文) Characterization of the cytotoxic activity of [2]rotaxane (TR0-A0001), a novel supramolecular compound, in cancer cells.	共著	2016年6月	Arch Pharm Res, 2016, 39(6):825-32.
(論文) Antitumour and apoptotic effects of a plant extract mixture containing Rhus erniciflua and other herbs in human leukaemia cells.	共著	2017年2月	Drug Res (Stuttg). 2017, Feb;67(2):127-130
(論文) G-CSF administration accelerates cutaneous wound healing accompanied with increased Pro-Hyp production in db/db mice.	共著	2017年2月	Clin Res Dermatol. 2017; 4(2): 1-9.
(論文) Acceleration Mechanisms of Skin Wound Healing by Autologous Micrograft in Mice.	共著	2017年8月	Int J Mol Sci. 2017 Aug 2;18(8)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Pro-Hyp投与によるメカニカルストレス負荷下での創傷治癒の有		2018年6月	第50回日本結合組織学会学術大会
(演題名) マウスを用いたメカニカルストレス負荷下での創傷治癒に対するコラーゲンペプチドPro-Hypの効果		2018年10月	第27回日本形成外科学会基礎学術集会
III 学会および社会における主な活動			
平成12年10月～	日本薬学会会員		
平成29年3月～	日本創傷外科学会会員		
平成30年5月～	日本形成外科学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。



(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 臨床疾患薬理学	職名 助教	氏名 窪田 香織
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 早期臨床体験 I 生物系実習 IV 総合医療薬学特別講義 IV 薬学演習、特別実習、総合薬学演習		平成26年～ 平成26年～ 平成29年～ 平成26年～	医療の担い手の薬剤師として活躍するために、必要な心構えや使命感を養えるよう、毎回課題を提供し、SGDを行っている。 薬理学、機能形態学、病態生理学等の知識を生かして実際に動物を用い薬物の効力や作用機序を理解できるよう指導を行っている。 国家試験対策ならびに幅広い薬学的知識を習得すること目的として、機能形態学、疾患薬理学、病態生理学を中心に系統的に解説している。 薬理学を基本として実際の臨床応用に繋がるような研究の立案、準備、実験ならびにデータ解析方法を指導している。
2 作成した教科書、教材、参考書 該当なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 該当なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) The Japanese Angelica acutiloba root and yokukansan increase hippocampal acetylcholine level, prevent apoptosis and improve memory in a rat model of repeated cerebral ischemia.	共著	平成30年3月	J Ethnopharmacol. 214:190-196.
(論文) The antipsychotic trifluoperazine reduces marble-burying behavior in mice via D2 and 5-HT2A receptors: Implications for obsessive-compulsive disorder.	共著	平成30年2月	Pharmacol Biochem Behav., 165:9-13.
(論文) Behavioral defects in a DCTN1G71A transgenic mouse model of Perry syndrome.	共著	平成30年2月	Neurosci Lett., 666:98-103.
(論文) Astrocytes with previous chronic exposure to amyloid $\beta$ -peptide fragment 1-40 suppress excitatory synaptic transmission.	共著	平成29年12月	J Neurochemistry, 143(6):624-634.
(論文) The Traditional Japanese Herbal Medicine Hachimiogon Elicits Neurite Outgrowth Effects in PC12 Cells and Improves Cognitive in AD Model Rats via Phosphorylation of CREB.	共著	平成29年11月	Front Pharmacol. 8:850.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) 卵巣摘出ラットの不安様行動に対する加味逍遙散および柴胡加竜骨牡蛎湯の改善作用		平成30年9月1日	第35回和漢医薬学会学術大会
(演題名) Sansoninto, a traditional herbal medicine, attenuates aggressive behavior and regulates serotonergic and dopaminergic systems in hypothalamus of social isolation-reared mice.		平成30年7月	18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology
III 学会および社会における主な活動			
平成27年～	和漢医薬学会「次世代を担う若手研究者の会」		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 薬学疾患管理学	職名 助教	氏名 古賀允久
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 実務実習事前教育における実務教育		平成21年10月～	実務実習事前学習（4年次・後期）において調剤業務の実習教育の指導を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 平成28年度 実務実習事前学習実習書 調剤3 外用剤 平成29年度 実務実習事前学習実習書 調剤3 外用剤 平成30年度 実務実習事前学習実習書 調剤2 水剤		平成28年9月 平成29年9月 平成30年9月	実務実習事前学習における外用剤の調剤業務内容について。「他3件」
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 学部学生（4-6）に対する指導		平成21年10～	学部学生（4-6年生）に対し、実験計画の立案、実験操作および結果に対する考察に関する指導を行い、学生が問題点を科学的観点から解決できるように指導した。学生自身で、英語論文などの検索および内容説明が出来るように指導した。研究課題の成果を研究論文としてまとめ、発表できるように指導した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
論文：J Pharmacol Sci.	共著	2018年6月	137(2):224-229
論文：Behav Pharmacolo.	共著	2018年5月	DOI:10.1097/FBP.0000000000000413
論文：Toxicology	共著	2017年9月	390:1-9.
論文：Toxicology	共著	2017年4月	380:62-71
著書：Etiology and Morphogenesis of Congenital Heart Disease	共著	2016年7月	Springer Open, Chapter33
論文：J Pharmacol Sci	共著	2015年9月	129(1):78-81
論文：Cardiovasc Pathol	共著	2015年1月	24(1):33-40
論文：Biochem Biophys Res Commun	共著	2014年12月	455(3-4):194-197
論文：J Inflamm (Lond)	共著	2013年10月	10(1):32
論文：Am J Physiol Heart Circ Physiol	共著	2013年9月	305(5):H747-55
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Smoking cessation drug, varenicline, inhibited alveolar expansion in mice intratracheally administrated porcine pancreatic elastase.		2018年7月	18th World congress of basic and clinical pharmacology
禁煙補助薬バレニクリンによるマクロファージのoxLDL取り込み促進作用		2018年8月	生体機能と創薬シンポジウム2018
動脈硬化症におけるDragon-Neogenin分子機構		2018年8月	生体機能と創薬シンポジウム2018
フルオロキノロン系抗菌薬による大動脈瘤悪化・解離におけるsmooth muscle 22αの発現変動		2018年8月	生体機能と創薬シンポジウム2018
III 学会および社会における主な活動			
平成13年 4月～	日本循環器学会会員		
平成13年10月～	日本薬理学会会員		
平成25年 4月～	日本薬理学会評議員		
平成25年11月	第66回日本薬理学会西南部会の運営		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 薬品分析学	職名 助教	氏名 古賀 鈴依子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 ・「今日の薬学研究」 ・「物理系実習Ⅰ」	2017年度 2017年度～	第9回の講義を担当 2年次生対象の実習において実験操作などを説明	
2 作成した教科書、教材、参考書 ・D-Amino Acids: Physiology, Metabolism, and Application ・Liquid Chromatography 2nd Edition	2016年9月 2017年6月	"Determination of D-Amino Acids and Their Distribution in Mammals"を共著により執筆 "Amino acid and bioamine separations"を共著により執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・分析化学講習会 実習指導員	2010年度～	日本分析化学会九州支部主催の分析化学講習会において実習指導員として基礎実習を担当	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）D-Amino Acids: Physiology, Metabolism, and Application "Determination of D-Amino Acids and Their Distribution in Mammals"	共著	2016年9月	Springer, p3-17
（著書）Liquid Chromatography 2nd Edition "Amino acid and bioamine separations"	共著	2017年6月	Elsevier, p87-101
（論文）Enantioselective determination of extraterrestrial amino acids using a two-dimensional chiral high-performance liquid chromatographic system	共著	2014年7月	<i>Chromatography</i> , <b>35</b> , 103-110
（論文）Changes in D-aspartic acid and D-glutamic acid levels in the tissues and physiological fluids of mice with various D-aspartate oxidase activities	共著	2015年5月	<i>J. Pharm. Biomed. Anal.</i> , <b>116</b> , 47-52
（論文）Enantioselective determination of phenylalanine, tyrosine and 3,4-dihydroxyphenylalanine in the urine of D-amino acid oxidase deficient mice using two-dimensional high-performance liquid	共著	2016年1月	<i>Chromatography</i> , <b>37</b> , 15-22
（論文）Enantioselective determination of citrulline and ornithine in the urine of D-amino acid oxidase deficient mice using a two-dimensional high-performance liquid chromatographic system	共著	2016年7月	<i>J. Chromatogr. A</i> , <b>1467</b> , 312-317
（総説）Mouse D-amino-acid oxidase: distribution and physiological substrates	共著	2017年11月	<i>Frontiers in Molecular Biosciences</i> , 10.3389/frmolb.2017.00082
（論文）Enantioselective and simultaneous determination of lactate and 3-hydroxybutyrate in human plasma and urine using a narrowbore online two-dimensional HPLC system	共著	2018年1月	<i>J. Sep. Sci.</i> , <b>41</b> , 1298-1306
（論文）Multi-dimensional HPLC analysis of serine containing chiral dipeptides in Japanese traditional amber rice vinegar	共著	2018年3月	<i>Chromatography</i> , <b>39</b> , 59-66
（論文）Development of a highly-sensitive two-dimensional HPLC system with narrowbore reversed-phase and microbore enantioselective columns and application to the chiral amino acid analysis of the mammalian brain	共著	2018年3月	<i>Chromatography</i> , <b>39</b> , 83-90

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
二次元HPLCを用いるシトルリン及びホモシトルリン鏡像異性体の一斉分析法開発とヒト尿中含量解析	2018年6月	第25回クロマトグラフィーシンポジウム
Development of a three-dimensional HPLC system and application of the chiral amino acid analysis in the plasma of patients with the kidney disfunction	2018年7月	2018 Sino-Japanese Joint Symposium on Separation Sciences
フルオラス誘導体化LC-MS法による貝毒成分のオカダ酸及びドウモイ酸の分析	2018年7月	第36回九州分析化学若手の会夏季セミナー
キヌレニン鏡像異性体を対象とした高選択的二次元HPLC分析法の開発	2018年7月	第36回九州分析化学若手の会夏季セミナー
Enantioselective and simultaneous 2D-HPLC determination of citrulline and homocitrulline in human clinical samples	2018年8月	47th International Symposium on High Performance Liquid Phase Separations and Related Techniques
Three-dimensional chiral HPLC analysis of amino acids and related compounds in complex biological matrices including human clinical samples	2018年8月	47th International Symposium on High Performance Liquid Phase Separations and Related Techniques
Three-dimensional HPLC analysis of chiral amino acids in the plasma of patients with chronic kidney disease	2018年8月	47th International Symposium on High Performance Liquid Phase Separations and Related Techniques
ヒト血漿中クルクミンのフルオラス誘導体化LC-MS/MS分析	2018年8月	第31回バイオメディカル分析科学シンポジウム
パーフルオロポリエーテルカルボン酸の金属塩を利用したリン脂質の選択的抽出及びLC-MS/MS分析	2018年8月	第31回バイオメディカル分析科学シンポジウム
蛍光誘導体化HPLC法による二枚貝中オカダ酸の分析	2018年9月	日本分析化学会第67年会
多次元HPLCを用いる代謝関連キラルアミノ酸の高選択的分析法開発	2018年9月	第14回D-アミノ酸学会学術講演会
フルオラス誘導体化LC-MS法による二枚貝中のオカダ酸分析	2018年9月	フルオラス科学研究会第11回シンポジウム
代謝関連キラルアミノ酸の多次元HPLC分析法開発と生体内含量解析	2018年11月	第29回クロマトグラフィー科学会議
<b>Ⅲ 学会および社会における主な活動</b>		
2010年8月～現在に至る□	日本分析化学会九州支部主催 分析化学講習会 実習指導員	
2010年9月～現在に至る□	D-アミノ酸学会 会員	
2011年6月～現在に至る□	クロマトグラフィー科学会 会員	
2011年12月～現在に至る□	日本薬学会 会員	
2015年6月～現在に至る	日本分析化学会 会員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 創剤学	職名 助教	氏名 後藤将太郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 実務実習事前学習の指導	平成30年4月～6月	薬学部4年次生の実務実習事前学習の1)放射性医薬品(薬物の体内分布)と2)製剤化(無菌製剤の調整および製剤試験法)の実習を担当した。	
2 作成した教科書、教材、参考書 教材：実務実習事前学習実習書-放射性医薬品/製剤化- 教科書：放射線・放射性物質の薬学利用	平成30年3月 平成30年2月	実務実習事前学習テキスト 「同位体化学」、「同位体医療薬学」のテキスト	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
論文：Antitumor Effects and Delivery Profiles of Menahydroquinone-4 Prodrugs with Ionic or Nonionic Promoiety to Hepatocellular Carcinoma Cells.	共著	平成30年7月	Molecules 2018, 23, 1738
著書：放射線・放射性物質の薬学利用	共著	平成30年2月	廣川鉄男事務所
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Chemopreventive Effect of Menahydroquinone-4-prodrugs with Ionic or Non-ionic Promoiety against Hepatocellular Carcinoma		平成30年7月	第二回日韓若手薬剤学研究者ワークショップ
神経様細胞PC12におけるNGF依存性神経突起伸展作用に対するリバスチグミンの増強機構		平成30年11月	神経精神薬理学会
III 学会および社会における主な活動			
日本薬剤学会			
日本ビタミン学会			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 薬品分析学	職名 助教	氏名 坂口洋平
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 ・物理系実習 1	2018年度	・2年次生対象の物理系実習と担当。	
2 作成した教科書、教材、参考書 ・物理系実習 1 (薬品分析学教室担当) の実習書	2018年度～	・2年次生対象の実習書を作成。操作法等を説明。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Isotope-dilution liquid chromatography-tandem mass spectrometry for sensitive quantification of human insulin in serum using derivatization-technique	共著	2017年8月	Analytical Biochemistry, 537, 26-32
(論文) Development of a certified reference material of human serum albumin: certification and value assignment via amino acid analyses	共著	2017年8月	Analytical Methods, 9/ 31, 4574-4580
(論文) Quantification of peptides using N-terminal isotope coding and C-terminal derivatization for sensitive analysis by micro liquid chromatography-tandem mass spectrometry	共著	2016年12月	Journal of Mass Spectrometry, 51/ 12, 1111-1119
(論文) タンパク質標準物質に関する調査研究	共著	2016年5月	計測と制御, 55/ 5, 448-457
(論文) Quantification of glycated N-terminal peptide of hemoglobin using derivatization for multiple functional groups of amino acids followed by liquid chromatography/tandem mass spectrometry	共著	2016年2月	Biomedical Chromatography, 30/ 2, 280-284
(論文) Selective and sensitive liquid chromatographic determination method of 5-hydroxyindoles with fluorous and fluorogenic derivatization	共著	2015年10月	Journal of Pharmaceutical and Biomedical Analysis, 114, 348-354
(論文) A novel amino acid analysis method using derivatization of multiple functional groups followed by liquid chromatography/tandem mass spectrometry	共著	2015年3月	Analyst, 140/ 6, 1965-1973
(論文) Liquid chromatography-tandem mass spectrometry analysis of sialyl oligosaccharides utilizing fluorous derivatization method	共著	2014年12月	Rapid Communications in Mass Spectrometry, 28/ 23, 2481-2489

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
同位体希釈質量分析法を用いたヒトインスリン認証標準物質の開発	2018年5月	第31回九州分析化学若手の会 春の講演会
二次元キラルHPLCを用いる生体内シトルリン及びホモシトルリン分析法開発と尿中含量解析	2018年5月	第25回クロマトグラフィーシンポジウム
フルオラス誘導体化LC-MS法による貝毒成分のオカダ酸及びドウモイ酸の分析	2018年7月	第36回九州分析化学若手の会夏季セミナー
キヌレニン鏡像異性体を対象とした高選択的二次元HPLC分析法の開発	2018年7月	第36回九州分析化学若手の会夏季セミナー
パーフルオロポリエーテルカルボン酸の金属塩を利用したリン脂質の選択的抽出及びLC-MS/MS分析	2018年8月	第31回バイオメディカル分析科学シンポジウム
ヒト血漿中クルクミンのフルオラス誘導体化LC-MS/MS分析	2018年8月	第31回バイオメディカル分析科学シンポジウム
多次元HPLCを用いる代謝関連キラルアミノ酸の高選択的分析法開発	2018年9月	第14回D-アミノ酸学会学術講演会
蛍光誘導体化HPLC法による二枚貝中オカダ酸の分析	2018年9月	日本分析化学会 第67年会
フルオラス誘導体化LC-MS法による二枚貝中のオカダ酸分析	2018年9月	フルオラス科学研究会 第11回シンポジウム
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
2017年4月～2018年8月	「日本質量分析学会BMSカンファレンス2018」の実行委員	
	日本薬学会会員	
	日本分析化学会会員	
	日本質量分析学会会員	
	クロマトグラフィー科学会会員	

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 微生物薬品化学	職名 助教	氏名 坂本 大輔
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Lactobacillus plantarum induces genomic DNA-dependent and TLR9-mediated elafin secretion Caco-2 cells.	共著	2018年6月	Asian Pacific Journal of Allergy and Immunology, Vol. 10
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Lactobacillus plantarum D2905 株の産生するEPSに関する遺伝子の同定とその性状		2019年・3月	日本薬学会第139年会
III 学会および社会における主な活動			
平成30年3月～現在	日本薬学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。



(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 生化学	職名 助教	氏名 佐藤 陽菜
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成30年度	S G D 及び教室配属の学生に対する研究・生活指導や監督 生物系実習Ⅱにおける指導・監督	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成30年度	生物系実習Ⅱの生化学実習書 生化学教室の研究内容ポスター	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) The small molecule STF-62247 induces apoptotic and autophagic cell death in leukemic cells.	共著	2018年6月	Oncotarget vol.9 No.45
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
平成26年4月～現在	日本病院薬剤師会/福岡県病院薬剤師会会員		
平成27年4月～現在	日本医療薬学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 創剤学	職名 助教	氏名 瀬戸口 修一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成30年4月～ 6月	薬学部4年次生の実務実習事前学習の1) 放射性医薬品(シンチグラフィ)と2) 製剤化(固形製剤)の実習を担当した。	
2 作成した教科書、教材、参考書		該当なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		該当なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Relationship between the acyl chain length of paradol analogues and their antiobesity activity following oral ingestion.	共著	平成26年7月	J Agric Food Chem. 2014 Jul 2;62(26):6166-74.
Enhanced antitumor effects of novel intracellular delivery of an active form of menaquinone-4, menahydroquinone-4, into hepatocellular carcinoma.	共著	平成27年2月	Cancer Prev Res. 2015 Feb;8(2):129-38.
Pharmacokinetics of Paradol Analogues Orally Administered to Rats.	共著	平成28年3月	J Agric Food Chem. 2016 Mar 9;64(9):1932-7.
Effect of orally ingested diosgenin into diet on skin collagen content in a low collagen skin mouse model and its mechanism of action.	共著	平成29年4月	Life Sci. 2017 Apr 1;174:77-82.
Antitumor Effects and Delivery Profiles of Menahydroquinone-4 Prodrugs with Ionic or Nonionic Promoiety to Hepatocellular Carcinoma Cells	共著	平成30年7月	Molecules 2018, 23, 1738
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Chemopreventive Effect of Menahydroquinone-4-prodrugs with Ionic or Non-ionic Promoiety against Hepatocellular Carcinoma		平成30年7月	第二回日韓若手薬剤学研究者ワークショップ
神経様細胞PC12におけるNGF依存性神経突起伸展作用に対するリバスチグミンの増強機構		平成30年11月	神経精神薬理学会
III 学会および社会における主な活動			
平成25年4月以前～平成27年1月	日本薬学会会員		
平成25年4月以前～現在	日本癌学会会員		
平成25年4月以前～平成26年12月及び平成30年5月～現在	日本薬剤学会会員		
平成25年4月～平成26年3月	日本ビタミン学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 実務薬剤学	職名 助教	氏名 高瀬 友美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)		2016/4/1~	1) 早期臨床体験 I 薬学部1年生に対し、早期体験学習の指導補助
		2016/4/1~	2) 実務実習 薬学部5年生に対し、調剤業務、病棟業務、DI等に関する実務指導補助
2 作成した教科書、教材、参考書		2016/4/1~	実務実習で使用する講義スライド
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)		2018/7/15.16	第60回認定実務実習薬剤師養成ワークショップ (薬学教育者ワークショップ)
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Involvement of Charcot-Marie-Tooth disease gene mitofusin 2 expression in paclitaxel-induced mechanical allodynia in rats.	共著	平成29年6月	Neuroscience Letters 653/337-340
(論文) 糖尿病治療におけるシックデイ・マニュアルの作成を取り入れた服薬指導実習プログラムの構築	共著	平成29年6月	くすりと糖尿病 6/1, 94-102
(論文) 薬剤師の褥瘡治療関与によるDESIGN-R®を用いた治療効果の検討	共著	平成29年9月	日本薬剤師会雑誌 53/9
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 抗がん薬調製時の閉鎖式薬物移送システムの多施設使用実態調査		2018年6月	医療薬学フォーラム2018
(演題名) Long-term treatment with recombinant human soluble thrombomodulin improves ischemic brain damage via regulating systemic HMGB1 levels in mice.		2018年11月	Neuroscience 2018
(演題名) 抗血栓薬を対象とした術前休薬管理の実態調査		2018年11月	第28回日本医療薬学会年会
III 学会および社会における主な活動			
平成28年4月~	日本薬学会会員		
	日本病院薬剤師会会員		
	日本医療薬学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福岡大学	講座名	応用薬剤学
職名	助教	氏名	高田 (辻) 美友子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 実務実習事前学習における実習教育		平成21年9月～ 現在に至る	患者応対および調剤業務の実習を指導した。 学生が適切な調剤工程を学習するために、 実演例を提示した後、グループ形式ではなく 1人ずつ調剤を行わせた。セルフチェック表を 利用して、自己学習時間を設けた。 処方内容の理解を深めるため、調剤する処方箋 ごとに処方監査に関する指導をした。 患者応対は、シナリオをロールプレー形式で学習 させた。指導者からだけでなく、学習者間での フィードバックの時間を設けた。
薬物動態理論に関する講義		平成29年4月～ 現在に至る	学部生が、疾患に依存した薬物動態の変化により 医薬品有害作用発生リスクが変動することを学習 するため、実際の研究データを用いて講義した。
今日の薬学研究に関する講義		平成30年4月～ 現在に至る	学部生に対して研究マインドを持った薬剤師および 大学院進学への動機付けをするため、実際の基礎研究 データを用いて抗議した。
2 作成した教科書、教材、参考書			
平成27年度実務実習事前学習実習書「調剤-3」		平成27年9月	外用剤の適切な調剤方法を学習させるため、
平成26年度実務実習事前学習実習書「調剤-3」		平成26年9月	調剤の工程を詳細に記載するほか、処方せん例毎
平成29年度実務実習事前学習実習書「調剤-3」		平成29年9月	にセルフチェック表を作成・記載した。
平成30年度実務実習事前学習実習書「調剤-3」		平成30年9月	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
薬学疾患管理学教室に所属する学生に対する指導		平成17年4月～ 現在に至る	学部生（4-6年生）に対し、学術論文の読解、実験計画の 立案、実験操作および結果の考察に関する指導を行った。 卒業論文作成においては、学生自身が研究成果を 科学的・論理的に表現できるように指導した。 博士課程（前期・後期）学生に対し、研究テーマの 提案、実験計画の立案、論文作成、研究資金応募 申請書の作成に関する指導を補佐した。
学校法人 純真高校 純真高等学校 看護専攻科 非常勤講師		平成29年4月～ 現在に至る	看護学生が疾患に依存した医薬品の使用方法および 副作用を学習するために「臨床薬理学」の講義を行った。
学校法人 純真高校 純真高等学校 看護科 非常勤講師		平成30年4月～ 現在に至る	看護学生が医薬品の薬物動態および薬理作用を学習 するために「薬理学」の講義を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(著書) Measurement of Astrocytic Glutamate Release Using Genetically Encoded Probe Combined with TIRF Microscopy	共著	平成30年1月	Humana Press, Springer Protocols, Biochemical Approaches for Glutamatergic Neurotransmission, P155- 168
(論文) Analysis of Catecholamines and their Metabolites in Mice Brain by Liquid Chromatography-Mass Spectrometry Using Sulfonated Mixed-Mode Copolymer Column.	共著	平成30年12月	Anal Sci.
(論文) Activation of the $\alpha 7$ nicotinic acetylcholine receptor upregulates blood-brain barrier function through increased claudin-5 and occludin expression in rat brain endothelial cells.	共著	平成30年12月	Neuroscience letters
(論文) Oncostatin M-induced blood-brain barrier impairment is due to prolonged activation of STAT3 signaling in vitro.	共著	平成30年11月	J Cell Biochem

(論文) Feeding-produced subchronic high plasma levels of uric acid improve behavioral dysfunction in 6-hydroxydopamine-induced mouse model of Parkinson's disease.	共著	平成30年5月	Behav Pharmacol.
(論文) TNF- $\alpha$ -sensitive brain pericytes activate microglia by releasing IL-6 through cooperation between I $\kappa$ B-NF $\kappa$ B and JAK-STAT3 pathways.	共著	平成30年8月	Brain Research
(論文) Contribution of thrombin-reactive brain pericytes to blood-brain barrier dysfunction in an in vivo mouse model of obesity-associated diabetes and an in vitro rat model.	共著	平成29年5月	PLOS ONE
(論文) Role of thrombin-PAR1-PKC $\theta$ / $\delta$ axis in brain pericytes in thrombin-induced MMP-9 production and blood-brain barrier dysfunction in vitro.	共著	平成29年5月	Neuroscience
(論文) Levetiracetam treatment influences blood-brain barrier failure associated with angiogenesis and inflammatory responses in the acute phase of epileptogenesis in post-status epilepticus mice	共著	平成28年12月	Brain Research
(論文) Elevated permeability of the blood-brain barrier in mice intratracheally administered porcine pancreatic elastase.	共著	平成27年9月	Journal of pharmacological sciences
(論文) Brain pericytes regulate the blood-brain barrier function.	共著	平成27年7月	Nihon yakurigaku zasshi
(論文) Brain pericytes are the most thrombin-sensitive matrix metalloproteinase-9-releasing cell type constituting the blood-brain barrier in vitro.	共著	平成27年7月	Neuroscience letters
(論文) Brain pericyte-derived soluble factors enhance insulin sensitivity in Gf1-7 hypothalamic neurons.	共著	平成27年2月	Biochem Biophys Res Commun.
(論文) Edoxaban protects against methylglyoxal-induced barrier damage in human brain endothelial cells.	共著	平成26年7月	PLOS ONE
(論文) Tumor necrosis factor- $\alpha$ -stimulated brain pericytes possess a unique cytokine and chemokine release profile and enhance microglial activation.	共著	平成26年8月	Neuroscience letters
(論文) Metformin induces up-regulation of blood-brain barrier functions by activating AMP-activated protein kinase in rat brain microvascular endothelial cells.	共著	平成25年4月	Biochem Biophys Res Commun.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ピロカルピン誘発けいれん感受性テストを用いた頭部外傷後のてんかん原性評価		平成31年3月	第92回日本薬理学会年会
(演題名) 「頭部外傷後の脳ペリサイトPDGFR $\beta$ シグナル阻害は、pilocarpineけいれん発作の感受性を減弱させる		平成31年3月	日本薬学会 第139年会
(演題名) 頭部外傷後のてんかん原性形成—脳ペリサイトを基軸とした非神経細胞群の役割—		平成30年8月	生体機能と創薬シンポジウム2018
(演題名) Oncostatin M downregulates the brain endothelial barrier integrity through long-lasting activation of JAK/STAT3 pathway		平成30年8月	18th World congress of basic and clinical pharmacology
(演題名) Dysregulation of the CNS supporting vascular and glial cells induces the late posttraumatic epilepsy in mice with mild traumatic brain injury		平成30年8月	18th World congress of basic and clinical pharmacology
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成30年4月～現在に至る	学校法人 純真高校 純真高等学校 看護科 非常勤講師		
平成30年4月	学術雑誌「Brain Behavior and Immunity」 peer review		
平成29年4月～現在に至る	学校法人 純真高校 純真高等学校 看護専攻科 非常勤講師		
平成29年3月	学術雑誌「PLOS ONE」 peer review		
平成28年6月	特許第5954843号 「血液脳関門障害症候群治療薬」		
平成28年5月	学術雑誌「PLOS ONE」 peer review		
平成27年11月	学術雑誌「PLOS ONE」 peer review		
平成25年11月	第66回日本薬理学会西南部会の運営		
平成25年4月～現在に至る	日本薬理学会 学術評議員		
平成17年2月～現在に至る	日本薬学会 会員		
平成15年10月～現在に至る	日本薬理学会 会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 生薬学	職名 助教	氏名 土橋 良太
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
マルチメディア機器を用いた授業		2017年4月～	講義において図などをスライド上に示し、理解向上の一助とした。
化学系実習の客観的スキル評価の導入		2013年4月～	ペーパーベースの評価法ではなく、実習で習得したスキルを、客観的に評価し、成績評価の一部とした。
2 作成した教科書、教材、参考書			
化学系実習Ⅲ及びⅡ（生薬学実習）のテキスト		2013年4月～	学生に日本薬局方に規定されている生薬試験法、確認試験法及び、有用植物からの有効成分の分離法の習得を目指し作成した。
授業プリントの作成		2017年4月～	生薬学Ⅰ、ⅠⅠの講義の一部を担当し、その講義資料をPowerPointで作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
福岡大学冒険教育施設指導者の講習会に参加		2014年8月	福岡大学冒険教育施設指導者の講習会に参加し、福岡大学冒険教育施設のアドベンチャー施設を用いた教育法について学び、福岡大学冒険施設の指導者としての認定を受けた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Neurite outgrowth agent	共著	2013.06	PCT Int. Jul. (2013), US 8,481,711 B2
Screening of promising chemotherapeutic candidates from plants against human adult T-cell leukemia/lymphoma (III).	共著	2013.10	J Nat Med. 2013 Oct;67(4)
Screening of promising chemotherapeutic candidates from plants against human adult T-cell leukemia/lymphoma (IV): phenanthroindolizidine alkaloids from Tylophora tanakae leaves.	共著	2015.06	J Nat Med. 2015 Jul;69(3)
Screening of promising chemotherapeutic candidates from plants against human adult T-cell leukemia/lymphoma (V): coumarins and alkaloids from Boenninghausenia japonica and Ruta graveolens.	共著	2017.01	J Nat Med. 2017 Jan;71(1)
Four new resin glycosides, murasakimasarins I-IV, from the tuber of Ipomoea batatas	共著	2018.02	J Nat Med. 2018 Feb;72(3)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
大豆の成長段階における成分変化に関する研究—多変量解析法（主成分分析）を用いて—		2018.09	日本生薬学会
腸内細菌による代謝研究(15) ヒト腸内細菌による淡竹葉フラボノイドの代謝研究		2019.03	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動			
平成17年3月～	日本薬学会会員		
平成16年7月～	日本生薬学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 創剤学	職名 助教	氏名 寺田 一樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成30年4月1日 平成29年4月1日 平成28年4月1日 平成30年4月1日 平成29年4月1日	[実務実習事前学習I] 代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明し、その管理と取り扱いについて説明できるよう指導した。院内製剤および薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できるよう指導した。 [総合医療薬学特別講義III] 一般試験法および放射性医薬品の種類と用途を講義した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成28年4月1日	4年次生向けの実務実習事前学習のテキスト(製剤・試験法・放射性医薬品)の作成に携わった。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書)放射線・放射性物質の薬学利用-放射線の基礎科学と臨床応用-	共著	平成30年2月	株式会社廣川鉄男事務所
(著書)薬学における放射線・放射性物質の利用	共著	平成28年4月	京都廣川書店
(論文)Cholinesterase inhibitor rivastigmine enhances nerve growth factor-induced neurite outgrowth in PC12 cells via sigma-1 and sigma-2 receptors.	共著	平成30年12月	PLoS One. 17:13(12)
(論文)Effects of fluvoxamine on nerve growth factor-induced neurite outgrowth inhibition by dexamethasone in PC12 cells.	共著	平成30年12月	Biosci Biotechnol Biochem. 13:1-7
(論文)Stimulating muscarinic M1 receptors in the anterior cingulate cortex reduces mechanical hypersensitivity via GABAergic transmission in nerve injury rats.	共著	平成30年10月	Brain Res. in press
(論文)The Kampo medicine Yokukansan (YKS) enhances nerve growth factor (NGF)-induced neurite outgrowth in PC12 cells.	共著	平成30年8月	Bosn J Basic Med Sci. 1:18(3):224-233
(論文)Antitumor Effects and Delivery Profiles of Menahydroquinone-4 Prodrugs with Ionic or Nonionic Promoiety to Hepatocellular Carcinoma Cells.	共著	平成30年7月	Molecules. 16:23(7)
(論文)Estimation of Interindividual Variability of Pharmacokinetics of CYP2C9 Substrates in Humans.	共著	平成29年9月	J Pharm Sci. 106(9):2695-2703
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名)神経様細胞PC12におけるNGF依存性神経突起伸張作用に対するリバスチグミンの増強機構		平成30年11月	日本神経精神薬理学会
(演題名)神経突起進展および抑制モデルに対するフルボキサミンおよびパロキセチンの影響		平成30年10月	日本薬学会近畿支部大会
(演題名)神経様細胞SH-SY5Yにおけるロテノン誘導性酸化ストレスに対するビタミンK2の効果		平成30年3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動			
平成30年4月	日本薬理学会 評議員		
平成25年4月-平成27年3月	神奈川県薬物乱用防止キャンペーン		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福岡大学	講座名	機器分析学
職名	助教	氏名	刀根 菜七子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2014年4月～現在に至る	生物の導入講義を担当。マルチメディア機器を使用し、生物に苦手意識を持つ学生でも興味を持ち理解しやすいようなスライドの作成や例示を心掛けた。
		2017年5月～現在に至る	「薬学化学入門」の講義のうち、3コマ分を担当。高校化学の履修状況により生じる学力差を少なくするために、高校化学の復習を含めて薬学で必要な知識の習得につながるような内容を習得できるように心掛けた。
2 作成した教科書、教材、参考書		2014年4月～現在に至る	薬学教育支援センターでの4年次生、6年次生に対する特別学習に使用する学習課題、試験問題などの作成を行った。また、1年次生に行う生物リメディアル教育の資料を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2016年3月27日	日本薬学会第136年会にて、「苦手分野に対する学習支援方法の確立に向けて～アンケート調査による検討～」の学会発表を行い、薬学教育支援センターでの取り組みを報告した。
		2018年3月28日	日本薬学会第138年会にて、「薬学教育支援センターでの確認試験成績の傾向～薬剤師国家試験合否との関連～」の学会発表を行い、薬学教育支援センターでの取り組みを報告した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 4年次生成績下位者に自主的な学習習慣を習得させる取り組み		2018年9月	第3回日本薬学教育学会大会
(演題名) リメディアル物理受講者の成績の動向		2018年9月	第3回日本薬学教育学会大会
(演題名) 本学薬学教育支援センターでの4年次生に対する取り組みと結果		2019年3月	日本薬学会第139年会
III 学会および社会における主な活動			
平成27年2月～現在に至る	日本薬学会会員		
平成28年9月～現在に至る	日本薬学教育学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。



## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 機器分析学	職名 助教	氏名 富田 陵子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2010年9月～現在 (後期科目)	3年次を対象とした「物理系実習III」において、実際に各種機器による分析を体験させて、原理やデータの読み方などを分かりやすく解説。また、より理解を深められるよう各種機器に関連したテーマでのSGDを積極的に実施。
2 作成した教科書、教材、参考書		2010年9月～現在 (後期科目)	「物理系実習III」で使用する実習書（日本薬局方で該当する箇所を取り入れて原理や応用例などの概要を掲載）、問題集（CBT対策問題や国家試験過去問を多数取り入れて、詳細に解説）および実習試験問題を作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			特になし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Assessment of the efficacy of anticancer drugs by amino acid metabolomics using fluorescence derivatization-HPLC	共著	平成26年7月	Analytical Sciences, vol.30 No. 7
Automatic analyzer for highly polar carboxylic acids based on fluorescence derivatization-liquid chromatography	共著	平成27年3月	Biomedical Chromatography, vol.29 No. 3
Amino acid metabolomics using LC-MS/MS: assessment of cancer-cell resistance in a simulated tumor microenvironment	共著	平成28年8月	Analytical Sciences, vol.32 No.8
Assesment of anticancer drug effects on pancreatic cancer cells under glucose-depleted conditions using intracellular and extracellular amino acid metabolomics	共著	平成30年2月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, vol.41 No2
よくわかる薬学機器分析（第2版）	共著	平成30年3月	廣川書店
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
パーフルオロポリエーテルカルボン酸KrytoxのZn(II)塩を利用したリン脂質類の選択的抽出		平成30年7月	第36回九州分析化学若手の 会夏季セミナー
アミノ酸メタボミクスによる新たな抗がん剤効果判定法の開発		平成30年7月	第36回九州分析化学若手の 会夏季セミナー
フルオラス誘導体化を用いたシアン化物分析法の開発		平成30年9月	フルオラス科学研究会第11 回シンポジウム
シアン化物のフルオラス誘導体化HPLC分析法の開発		平成30年9月	日本分析化学会第67年会
III 学会および社会における主な活動			
平成21年11月～	日本薬学会会員		
平成29年6月～	日本分析化学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 実務薬剤学	職名 助教	氏名 長郷あかね
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	毎年(通年) 毎年8月(1週間)	長期実務実習 早期臨床体験 I	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) 薬学教育実務実習における禁煙外来実習プログラムの導入	共著	平成25年8月	日本病院薬剤師会雑誌(第49 巻第8号)
(論文) 女性高尿酸血症患者に対するフェブキソスタットの使用状況	共著	平成26年8月	日本病院薬剤師会雑誌(第50 巻第8号)
(論文) 電子カルテ活用による薬学実務実習教育システムの構築	共著	平成26年11月	日本病院薬剤師会雑誌(第50 巻第11号)
(論文) 保険薬局における薬学的判断に基づく疑義照会の経済効果	共著	平成29年5月	薬理と治療(第45巻第5号)
(論文) 未熟児無呼吸発作に対するカフェインとアミノフィリンの有効性及び安全性に関する比較検討	共著	平成30年2月	YAKUGAKU ZASSHI(第38巻第2 号)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 改訂コアカリ薬学実務実習へ向けての実習プログラムの構築と課題		平成30年9月	第3回日本薬学教育学会大会
(演題名) 在胎週数28週未満の未熟児無呼吸発作患者に対するカフェインの有効性および安全性の検討		平成30年11月	第28回日本医療薬学会年会
III 学会および社会における主な活動			
2008年～現在に至る	日本病院薬剤師会、福岡県病院薬剤師会入会		
2009年10月～現在に至る	日本化学療法学会入会		
2010年4月～現在に至る	日本医療薬学会入会		
2011年11月～現在に至る	日本薬学会入会		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 実務薬剤学	職名 助教	氏名 中島 章雄
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成24年～ 平成24年～	1年次臨床早期体験を指導。 5年次実務実習を指導。
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成25年8月 平成26年7月 平成29年3月	医薬品情報管理実習における継続性の発表。 新薬承認審査情報を使ったDI実習プログラムの有用性の発表 シックデイ・マニュアルを活用した実践的な服薬指導実習プログラムの構築の発表
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			該当なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
病院実務実習におけるポートフォリオの評価	共著	平成26年3月	医療薬学, 40(3), 154-159
薬剤師と看護師の協働によるインスリン自己注射導入指導	共著	平成26年6月	日本病院薬剤師会雑誌, 50(6), 739-743
Tumor necrosis factor- $\alpha$ reduces beta-amyloid accumulation primarily by lowering cellular prion protein levels in a brain endothelial cell line.	共著	平成27年1月	FEBS Lett. 589/, 263-268
薬学生に対する承認審査情報を使った能動的情報提供プログラム導入後のDI実務実習の有効性評価	共著(筆頭)	平成29年5月	日本病院薬剤師会雑誌, 53(5), 553-559
糖尿病治療におけるシックデイ・マニュアルの作成を取り入れた服薬指導実習プログラムの構築	共著(筆頭)	平成29年6月	日本くすりと糖尿病学会誌, 6/1, 94-102
薬剤師の褥瘡治療関与によるDESIGN-R <sup>®</sup> を用いた治療効果の検討	共著(筆頭)	平成29年9月	日本病院薬剤師会雑誌, 53(9), 1137-1142
Feeding-produced subchronic high plasma levels of uric acid improve behavioral dysfunction in 6-hydroxydopamine-induced mouse model of Parkinson's disease.	共著(筆頭)	平成30年5月	Behav Pharmacol.
Association between medication adherence and illness perceptions in atrial fibrillation patients treated with direct oral anticoagulants: An observational cross-sectional pilot study	共著	平成30年9月	PLOS ONE, 13/9, e0204814
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
スキンテア対策への取り組み～守りたい、まもり隊、まもり帯～		平成30年4月	第15回 日本褥瘡学会九州・沖縄地方会学術集会
がん診療連携拠点病院における閉鎖式接続器具の使用実態調査		平成30年5月	第10回日本がん薬剤学会学術大会
抗がん薬調製時の閉鎖式薬物移送システム多施設使用実態調査		平成30年6月	医療薬学フォーラム 2018 / 第26回クリニカルファーマシーシンポジウム
糖尿病と認知症を抱える独居患者の退院支援過程の振り返り		平成30年10月	第56回 日本糖尿病学会九州地方会
病院実務実習における調剤過誤の実態調査		平成30年11月	第79回 九州山口薬学大会
抗血栓薬を対象とした術前休薬管理の実態調査		平成30年11月	第28回日本医療薬学会年会
III 学会および社会における主な活動			
平成26年11月	第3回日本くすりと糖尿病学会学術集会のコーディネーターとして参加		
平成30年7月	第6回日本糖尿病療養指導学術集会のSGDファシリテーターとして参加		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 微生物薬品化学	職名 助教	氏名 中島幸彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 ・学生実習における実習内容とパワーポイントを使った説明等について	平成28年1月～	・実習内容の細部について毎年精査し、学生がより理解できるよう方法等も更新している ・テキストに加え、適宜、画面での説明も実施	
2 作成した教科書、教材、参考書 ・実習テキスト（レポート含む）と関連問題集 ・実習技術に関する動画	平成28年3月～ 平成28年3月～	・実習テキストの内容と実習方法等の工夫・更新 ・国試やCBT関連問題集の作成と毎年毎の更新 ・実験技術の理解のための動画の作製・更新	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Pyriproxyfen enhances the immunoglobulin G immune response in mice	共著	平成25年4月	Microbiology and Immunology vol. 57 No. 4
Enhancement and regulation effect of myrcene on antibody response in immunization with ovalbumin and Ag85B in mice.	共著	平成28年12月	Asian Pacific Journal of Allergy and Immunology vol. 34 No. 4
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
ヒトスジシマカから単離された新しい Enterococcus 属細菌について		2017年11月	日本衛生動物学会南日本支部大会(合同大会)
クルマエビの腸管から単離された乳酸菌のゲノム解析		2018年3月	日本薬学会年会
III 学会および社会における主な活動			
平成16年8月～	救命講習ボランティア活動（AHA BLSインストラクター、福岡応急手当て普及の会役員）		
平成19年2月～	着衣泳講習ボランティア活動（水難学会認定 着衣泳指導員、福岡着衣泳会役員）		
学会会員	日本薬学会、日本分子生物学会、日本乳酸菌学会		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 生薬学	職名 助教	氏名 中野大輔
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2008. 4. 1 ~ 2017. 4. 1 ~ 2017. 4. 1 ~	「化学系実習2」において、作成した実習書を用い、日本薬局方に記載されている生薬の確認試験法や有用植物からの有効成分の単離について実習を行った。 「天然医薬資源学」において、作成したプリントを配布し、視聴覚資料を用いて授業を行った。また、1年生が対象であるので、身近な植物等を紹介し、興味を促した。 「天然物化学」において、作成したプリントを配布し、視聴覚資料を用いて授業を行った。農業や化粧品などについて日常に使用しているものについて、主に説明を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2008. 4. 1 ~	「化学系実習2」において、作成した実習書を用い、実習を行った。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Antitumor Allium sulfides. New cyclic sulfides extract from Allium sativum: garlicinins P, J2, Q, T.	共著	2018年1月	J. Nat. Med., 72, 335-341 (2018)
(論文) New cyclic sulfides, garlicinins I2, M, N, O from Allium sativum.	共著	2018年1月	J. Nat. Med., 72, 326-331 (2018)
(論文) Antitumor Allium sulfides.	共著	2017年3月	Chem. Pharm. Bull., 65, 209-217
(論文) Screening of promising chemotherapeutic candidates from plants against human adult T-cell leukemia /lymphoma (V): coumarins and alkaloids from Boeninghausenia japonica and Ruta graveolens.	共著	2017年1月	J. Nat. Med., 71, 170-180 (2017)
(論文) Screening of promising chemotherapeutic candidates from plants extracts.	共著	2016年7月	J. Nat. Med., 70, 335-360 (2016)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
植物由来抗腫瘍活性成分の臨床応用のための探索的研究(15) -食用ホオズキ地上部について(2)-		2018年9月	日本生薬学会第65回年会
植物由来抗腫瘍活性成分の臨床応用のための探索的研究(16) -シマホオズキ地上部について-		2019年3月	日本薬学会第139回年会
III 学会および社会における主な活動			
平成18年2月～	日本薬学会会員		
平成17年6月～	日本生薬学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 臨床薬学	職名 助教	氏名 中野 貴文
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成30年9-11月 平成30年4-7月 平成30年9-11月	OSCE事前実習の指導 (服薬指導) 「薬剤師の職能」講義担当 OSCE事前実習の指導 (服薬指導、散剤)	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成30年9-11月 平成30年7月13日	OSCE事前実習テキスト (在宅編、情報提供編) 「今日の薬学研究」講義時の脳梗塞治療の資料	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特記無し	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		特記無し	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Long-term treatment with thrombomodulin improves functional outcomes after cerebral ischemia even if administration is delayed	共著	In press	Thromb Haemost.
(論文) The impact of earlier intervention by an antimicrobial stewardship team for specific antimicrobials in a single weekly intervention	共著	2018年10月	Int J Infect Dis. 77:34-39.
(論文) Goreisan prevents brain edema after cerebral ischemic stroke by inhibiting aquaporin 4 upregulation in mice	共著	2018年3月	J Stroke Cerebrovasc Dis. 27:758-76339.
(論文) Adsorption of nafamostat mesilate on AN69ST membranes: A single-center retrospective and in vitro study	共著	2017年9月	Ther Apher Dial. 21:620-627.
(論文) Delayed treatment with ADAMTS13 ameliorates cerebral ischemic injury without hemorrhagic complication.	共著	2015年10月	Brain Res. 1624:330-335.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Long-term treatment with recombinant human soluble thrombomodulin improves ischemic brain damage via regulating systemic HMGB1 levels in mice		2018年11月	Neuroscience 2018
(演題名) Neuroprotective effect of recombinant human soluble thrombomodulin against cerebral ischemic stroke via regulation of high-mobility group box 1 in mice		2018年7月	18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology
III 学会および社会における主な活動			
平成30年4月～	日本病院薬剤師会 感染制御専門薬剤師 資格取得		
平成30年1月～	日本医療薬学会 医療薬学認定薬剤師 資格取得		
平成29年10月～	日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師 資格取得		
平成28年8月～	日本臨床救急医学会 救急認定薬剤師 資格取得		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 免疫・分子治療学	職名 助教	氏名 西中川 拓也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 早期臨床体験Ⅰ、早期臨床体験Ⅱ（他4件）		平成25年～ 平成30年	早期臨床体験Ⅰにおいては、スモールグループディスカッションを採用しており、将来医療人として必須であるコミュニケーション能力の定着を図っている。また、早期臨床体験Ⅱでは、生活習慣病や妊婦体験など日常生活に身近なテーマを扱うことで、学生の興味を引くと共に、医療人としての自覚を持ってもらうよう心懸けている。
2 作成した教科書、教材、参考書 特になし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 特になし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(論文) In vitro anti-inflammatory effects of the phenylbutyric acid metabolite phenylacetyl glutamine	共著	平成30年6月	Biol Pharm Bull., 41(6)
(論文) miR-200c-3p spreads invasive capacity in human oral squamous cell carcinoma microenvironment	共著	平成30年2月	Molecular Carcinogenesis., 57
(論文) Anti-inflammatory effects of water extract from bell pepper (Capsicum annuum L. var. grossum) leaves in vitro.	共著	平成29年1月	Exp Ther Med., 14(5)
(論文) Exosomes from oral squamous carcinoma cell lines, SQUU-A and SQUU-B, define the tropism of lymphatic dissemination.	共著	平成28年5月	J. Oral. Biosci., 58
(論文) The SQUU-B cell line spreads its metastatic properties to nonmetastatic clone SQUU-A from the same patient through exosomes.	共著	平成27年11月	J. Oral. Biosci., 58
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Autologous serum-derived exosomes to deliver siRNA to melanoma cell in lung metastasis		平成30年11月	78th FIP world congress of pharmacy and pharmaceutical sciences
Analysis of cytotoxic factor contained in tumor supernatants		平成30年9月	第77回日本癌学会学術総会
III 学会および社会における主な活動			
平成20年4月～	日本癌学会所属		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 免疫・分子治療学	職名 助教	氏名 樋川 舞
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 早期臨床体験Ⅰ(1年次通年) 早期臨床体験Ⅱ(2年次前期) 事前学習フィジカルアセスメント(4年次後期) 免疫学(2年次後期) 病態・薬物治療学Ⅰ(3年次後期) 病態・薬物治療学Ⅲ(4年次前期) 医療薬学特別講義Ⅱ(4年次後期) 総合医療薬学特別講義Ⅵ(6年次後期)	平成27年4月～ 平成28年4月～ 平成27年9月～ 平成28年9月～ 平成28年9月～ 平成30年4月～ 平成30年9月～ 平成30年9月～	・SGD形式にて薬学に関する課題についての討論および病院・薬局・企業の施設見学を行った。 ・血糖測定、模擬患者体験などの体験型実習を行った。 ・心電図、AED、呼吸機能に関する体験型実習を行った。 ・免疫と感染に関する講義、定期試験問題を作成した。 ・感染症に関する講義、定期試験問題を作成した。 ・高血圧に関する講義、定期試験問題を作成した。 ・悪性腫瘍の病態・治療に関する演習・講義、定期試験問題を作成した。 ・悪性腫瘍に関する演習問題・解説、定期試験問題を作成した。	
2 作成した教科書、教材、参考書 早期臨床体験Ⅱ(2年次前期) 実習テキスト	平成28年3月	体験型実習を円滑に行うため図を多用し、実習の要点をまとめた実習テキストを作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 第2回新任教育職員研修会 第3回新任教育職員研修会 CBT管理者 OSCE学内評価者	平成27年8月 平成28年1月 平成29年4月～ 平成27年12月～	「コースデザインを考える」 「成績評価の方法について考える」 領域1, 2, 3, 4, 5	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) The angiogenic effect of ONO-1301, a novel long-acting prostacyclin agonist loaded in PLGA microspheres prepared using different molecular weights of PLGA, in a murine sponge model.	共著	平成26年1月	J Drug Dev Ind Pharm, vol. 40 No. 11
(論文) Evaluation of the palatabilities in 10 different famotidine orally disintegrating tablets by combination of disintegration device and taste sensor.	共著	平成27年8月	J Drug Dev Ind Pharm, vol. 41 No. 8
(論文) The SQUU-B cell line spreads its metastatic properties to nonmetastatic clone SQUU-A from the same patient through exosomes.	共著	平成27年11月	J Oral Biosci, vol. 58
(論文) Ability of Food/Drink to reduce the bitterness intensity of Topiramate as determined by taste sensor analysis.	共著	平成28年1月	Chem Pharm Bull, vol. 64 No. 1
(論文) Exosomes from oral squamous carcinoma cell lines, SQUU-A and SQUU-B, define the tropism of lymphatic dissemination.	共著	平成28年5月	J Oral Biosci, vol. 58
(論文) ゾピクロン錠とエスゾピクロン錠の苦味比較	共著	平成28年5月	日本病院薬剤師会雑誌, vol. 52 No. 5
(論文) Effect of collagen type I or human fibronectin on imatinib cytotoxicity in oral squamous cell carcinoma.	共著	平成28年7月	Pharmacol Pharm, vol. 7
(論文) Assessment of cytotoxicity of imatinib for oral squamous cell carcinoma by a real-time cell analysis system.	共著	平成29年1月	eJBio, vol. 13 No. 1
(論文) Anti-inflammatory effects of water extract from bell pepper (Capsicum annuum L. var. grossum) leaves in vitro.	共著	平成29年5月	Ex Ther Med, vol. 14 No. 5



(論文) Effect of self-healing encapsulation on the initial burst release from PLGA microspheres containing a long-acting prostacyclin agonist, ONO-1301.	共著	平成29年7月	Chem Pharm Bull, vol. 65 No. 7
(論文) Uncarboxylated osteocalcin induces antitumor immunity against mouse melanoma cell growth.	共著	平成29年8月	J Cancer, vol. 8 No. 13
(論文) miR-200c-3p spreads invasive capacity in human oral squamous cell carcinoma microenvironmentst.	共著	平成30年1月	Molecular Carcinogenesis, vol. 57
(論文) In vitro anti-inflammatory effects of the phenylbutyric acid metabolite phenylacetyl glutamine.	共著	平成30年6月	Biol Pharm Bull, vol. 41 No. 6
(総説) 側鎖結晶性ブロック共重合体を用いた表面改質機能の細胞シート作製技術への応用	共著	平成30年10月	BIO INDUSTRY, vol 35 No. 10
(総説) がん転移治療のための転移臓器指向性エクソソーム製剤の開発	単著	平成30年12月	Medical Science Digest, vol. 44 No. 12
(総説) 自己成分由来エクソソームを用いたがん転移治療のための核酸医薬の開発	単著	平成31年1月	BIO Clinica, vol. 35 No. 10
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 温度感受性表面改質共重合体を利用した細胞シートの作製方法とその応用		平成30年5月	福岡大学新技術説明会
(演題名) メラノマ転移モデルを用いた自己血清エクソソーム製剤に関する検討		平成30年5月	日本薬剤学会第33年会
(演題名) 標的細胞認識siRNA-PLGAハイブリッドミセルの調製		平成30年7月	日本核酸医薬学会第4回年会
(演題名) 側鎖結晶性ブロック共重合体を利用した細胞シートの作製～再生医療への応用を目指して～		平成30年7月	メディショナルナノテクノ研究会
(演題名) 加温により細胞シートを簡単に剥離する方法		平成30年8月	イノベーションジャパン2018
(演題名) Autologous serum-derived exosomes to deliver siRNA to melanoma cell in lung metastasis		平成30年9月	78th FIP world congress of pharmacy and pharmaceutical sciences
(演題名) Therapeutic effects of self-assembled siRNA-PLGA hybrid conjugate micelles for melanoma		平成30年9月	第77回日本癌学会学術大会
(演題名) Analysis of cytotoxic factor contained in tumor supernatants		平成30年9月	第77回日本癌学会学術大会
(演題名) Detachment of cell sheet from cell culture dishes by pre-coating of thermoresponsive side-chain crystalline block co-polymer		平成30年12月	The 12th SPSJ International Polymer Conference 2018
(演題名) RTCA systemを用いた抗がん剤投与による血管痛のin vitro評価		平成31年3月	日本薬学会第139年会
(演題名) Sodium 4-Phenylbutyrateの糖化抑制作用		平成31年3月	日本薬学会第139年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成25年8月～平成27年1月	大阪府立今宮高校総合学科特別非常勤講師 「生命科学入門-医療薬学」		
平成26年2月	第6回サイエンスフェアin兵庫 (高校生対象)「味覚センサを用いた医薬品の苦味評価」		
平成17年4月～	日本薬理学会会員		
平成17年4月～	日本薬学会会員		
平成19年4月～	日本薬剤学会会員		
平成27年4月～	日本癌学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 医薬品化学	職名 助教	氏名 古館 信
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Unique Physicochemical and Catalytic Properties Dictated by the B <sub>3</sub> NO <sub>2</sub> Ring System	共著	平成29年1月	<i>Nat. Chem.</i> , <b>9</b> , 571-577 (2017).
(論文) Novel Trivalent C <sub>3</sub> -Symmetrical Phenylboronic Acid Pinacol Esters	共著	平成29年6月	<i>Org. Prep. Proced. Int.</i> , <b>49</b> , 287-292 (2017).
(論文) Novel C <sub>2</sub> -Symmetrical Phenylboronic Acid Pinacol Esters with a Few Types of Linkers and Their Biological Activities	共著	平成29年7月	<i>Heterocycles</i> , <b>94</b> , 1748-1758 (2017).
(論文) Novel Trivalent C <sub>3</sub> -Symmetrical Phenylboronic Acid Pinacol Esters and Their Biological Evaluation	共著	平成29年12月	<i>Heterocycles</i> , <b>96</b> , 144-151 (2018).
(論文) Preparation of Novel Bivalent Linker Mode Phenylboronic Acid Derivatives and Their Biological Evaluation	共著	平成30年5月	<i>Heterocycles</i> , <b>96</b> , 1088-1100 (2018).
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Preparation and Biological Activity of Symmetrical Phenylboronic Acid Derivatives		平成30年6月	17th Annual World Preclinical Congress (Boston, United States)
(演題名) トリバレントC <sub>3</sub> 対称性フェニルボロン酸の合成と生物活性		平成31年3月	日本薬学会第139年会(千葉)
III 学会および社会における主な活動			
平成25年4月～平成31年3月	日本薬学会会員		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 薬化学	職名 助教	氏名 益本 英一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） A Divergent Synthesis of Spiropyrazole Derivatives Containing Iminolactone and/or Cyclic Imide Moiety	共著	平成27年5月	J. Heterocycl. Chem. vol.52 No.1
（論文） Synthesis and DNA Cleavage Activity of Functionalized Pyrazol-3-ones Containing Oxime Ester	共著	平成28年5月	Heterocycles vol.92 No.7
（論文） Chemical Reactivity and Application of 4-Alkylidene-3H- pyrazol-3-ones: Synthesis and Antifungal Activity of Polysubstituted Pyrazoles	共著	平成28年12月	Heterocycles vol.93 No.1
（論文） One-Pot Three-Component Synthesis of Novel Pyrazole-2,3- Pyrroledicarboxylic Acid 2,3-Diesters	共著	平成30年1月	Heterocycles vol.96 No.2
（論文） Synthesis and DNA Cleavage Activity of Novel Spiro Pyrazol- 3-ones Containing Isoxazoline Moiety	共著	平成30年7月	Heterocycles vol.96 No.7
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
新規スピロ[イソオキサゾリン-5,4'-ピラゾール]誘導体の合成と生物活性評価について		平成30年・11月	第35回日本薬学会九州支部大会
新規ピラゾール-チアゾール誘導体の合成と生物活性評価について		平成31年・3月	日本薬学会第139年会
III 学会および社会における主な活動			
平成20年2月～現在	日本薬学会会員		
平成22年1月～現在	有機合成化学協会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 衛生化学	職名 助教	氏名 松尾 康平
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成 30 年 6 月 2 日	『今日の薬学研究』 対象学年 6 年
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Insulin Represses Fasting-Induced Expression of Hepatic Fat-Specific Protein 27. Matsuo K, Matsusue K, Aibara D, Takiguchi S, Gonzalez FJ, and Yamanoa S.	共著	平成 29 年 3 月	Journal of <i>Biological and Pharmaceutical Bulletin</i> (Vol. 40 No. 6 888-893)
(論文) Hepatic PPAR $\gamma$ and LXR $\alpha$ independently regulate lipid accumulation in the livers of genetically obese mice. Matsusue K, Aibara D, Hayafuchi R, Matsuo K, Takiguchi S, Gonzalez FJ, and Yamanoa S.	共著	平成 26 年 5 月	Journal of <i>FEBS Letters</i> (Vol. 588 2277-2281.)
(論文) Expression of Hepatic Fat-Specific Protein 27 Depends on the Specific Etiology of Fatty Liver. Aibara D, Matsusue K, Matsuo K, Takiguchi S, Gonzalez FJ, and Yamanoa S.	共著	平成 25 年 11 月	Journal of <i>Biological and Pharmaceutical Bulletin</i> (Vol. 36 No. 11 1766-1772.)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Morphine の親電子性代謝物 Morphinone の HepG2 細胞に対する細胞毒性		平成 30 年 11 月	第 35 回日本薬学会九州支部大会
Morphine の親電子性代謝物 Morphinone のヒト肝由来細胞株 HepG2 に対する細胞毒性		平成 31 年 3 月	第 139 年会 日本薬学会
III 学会および社会における主な活動			
平成25年9月～	日本薬学会会員		
平成 30 年 11 月	学会座長 (第 35 回日本薬学会九州支部大会)		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 薬学疾患管理学	職名 助教	氏名 松本純一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(原著論文) TNF- $\alpha$ -sensitive brain pericytes activate microglia by releasing IL-6 through cooperation between IkappaB-NFkappaB and JAK-STAT3 pathways.	共著	平成30年8月	Brain Res., 1692:34-44.
(原著論文) Transmission of alpha-synuclein-containing erythrocyte-derived extracellular vesicles across the blood-brain barrier via adsorptive mediated transcytosis: another mechanism for initiation and progression of Parkinson's disease?	共著	平成29年9月	Acta Neuropathol Commun, 5(1): 71.
(原著論文) Role of thrombin-PAR1-PKC $\theta$ /delta axis in brain pericytes in thrombin-induced MMP-9 production and blood-brain barrier dysfunction in vitro.	共著	平成29年5月	Neuroscience, 350: 146-157.
(原著論文) Tumor necrosis factor- $\alpha$ reduces beta-amyloid accumulation primarily by lowering cellular prion protein levels in a brain endothelial cell line.	共著	平成27年1月	FEBS Lett, 589(2):263-8.
(原著論文) Tumor necrosis factor- $\alpha$ -stimulated brain pericytes possess a unique cytokine and chemokine release profile and enhance microglial activation	共著	平成26年8月	Neurosci Lett, 578:133-8.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
脳血管内皮細胞-ペリサイト細胞間PDGF-BB/PDGFR $\beta$ シグナル減弱が低酸素・低グルコース誘発性血液脳関門機能障害に関与する		平成30年・8月	生体機能と創薬シンポジウム2018
Effect of the heat-not-burn tobacco-extracted substances on the brain endothelial barrier function in vitro		平成30年・8月	18th World congress of basic and clinical pharmacology
III 学会および社会における主な活動			
平成20年2月～	日本薬理学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 医薬品情報学	職名 助教	氏名 松本 太一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	H30. 9. 18~10. 26 H28. 9. 16~11. 18 H27. 9. 16~11. 13 H26. 9. 19~11. 14	実務実習事前実習 実務実習事前実習 実務実習事前実習 実務実習事前実習	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	H29. 4. 1~H30. 3. 31	長期海外研修 (オーストラリア)	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Cholinesterase inhibitor rivastigmine enhances nerve growth factor-induced neurite outgrowth in PC12 cells via sigma-1 and sigma-2 receptors.	共著	平成30年12月	PLoS One. 2018 Dec 17;13(12):e0209250
(論文) Stimulating muscarinic M1 receptors in the anterior cingulate cortex reduces mechanical hypersensitivity via GABAergic transmission in nerve injury rats.	共著	平成30年10月	Brain Res. 2018 Oct 16. pii: S0006-8993(18)30525-0.
Involvement of GABAB receptor in the antihypersensitive effect in anterior cingulate cortex of partial sciatic nerve ligation model.	共著	平成30年6月	J Pharmacol Sci. 2018 Jun;137(2):233-236.
(論文) Inhibition of glucose transporter 1 induces apoptosis and sensitizes multiple myeloma cells to conventional chemotherapeutic agents.	共著	平成28年2月	Leuk Res. 2016 Feb;41:103-10.
(論文) A simple high-performance liquid chromatography for the determination of linezolid in human plasma and saliva.	共著	平成27年9月	Biomed Chromatogr. 2015 Sep;29(9):1428-31.
(論文) Simultaneous determination of cytosine arabinoside and its metabolite, uracil arabinoside, in human plasma using hydrophilic interaction liquid chromatography with UV detection.	共著	平成25年7月	Biomed Chromatogr. 2013 Jul;27(7):818-20.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Bortezomibを造血幹細胞動員剤として用いる最適な投与タイミング		2016年5月	日本多発性骨髄腫学会
(演題名) GLUT1 選択的阻害薬 STF-31 の高リスク多発性骨髄腫に対する治療薬としての可能性		2014年5月	日本多発性骨髄腫学会
III 学会および社会における主な活動			
平成22年10月～	日本薬学会会員		
平成26年4月～	日本骨髄腫学会会員		
平成30年11月～	日本造血細胞移植学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名：福岡大学	講座名 臨床薬物治療学	職名 助教	氏名 村田 雄介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2013年9月より 2015年4月より 2016年5月より	薬剤師のフィジカルアセスメントの実践的実習の導入 早期臨床体験Ⅰの体験型模擬薬剤師実習の導入 早期臨床体験Ⅱの実践型血圧・脈拍測定の導入	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2013年4月より 2013年9月より 2013年12月より	研究室ゼミ「薬剤師ロールプレイ」の管理監督 研究室ゼミ「アタマの楽考」の管理監督 研究室ゼミ「臨床論文評価」の管理監督	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Severe sleepiness and excess sleep duration induced by paroxetine treatment is a beneficial pharmacological effect, not an adverse reaction.	共著	2013年9月	Journal of Affective Disorders. vol.150 No.3
(論文) Chronic Treatment with the 5-HT1A Receptor Partial Agonist Tansospirone Increases Hippocampal Neurogenesis	共著	2014年1月	Neurology and Therapy. Vol.3 No.1
(論文) Chronic treatment with tansospirone, a serotonin 1A receptor partial agonist, inhibits psychosocial stress-induced changes in hippocampal neurogenesis and behavior.	共著	2015年7月	Journal of Affective Disorders. vol.180
(論文) A high fat diet-induced decrease in hippocampal newly-born neurons of male mice is exacerbated by mild psychological stress using a Communication Box.	共著	2017年2月	Journal of Affective Disorders. vol.209
(論文) Prolonged sleep deprivation decreases cell proliferation and immature newborn neurons in both dorsal and ventral hippocampus of male rats.	共著	2018年6月	Neuroscience Research. Vol.131
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 高脂肪食の短期間摂取は背側特異的な海馬神経新生の減少を誘発する		2018年7月	第40回日本神経科学大会
(演題名) Chronic blonanserin administration has neurotrophic, neurogenic, and anti-inflammatory properties in the brain of healthy male rats		2018年9月	WFSBP 2018 KOBE
(演題名) リバウンド睡眠による海馬ニューロン新生増加作用は脳内セロトニンを介して発現する		2018年11月	第28回日本臨床精神神経薬理学会・第48回日本神経精神薬理学会 合同年会
III 学会および社会における主な活動			
平成17年4月～	日本臨床精神神経薬理学会会員		
平成22年4月～	日本薬理学会会員		
平成22年4月～	日本臨床薬理学会会員		
平成24年4月～	日本神経科学学会会員		
平成24年4月～	日本薬学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
福岡大学	講座名 臨床薬物治療学	職名 助教	氏名 森征慶
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		H30.4月～7月	早期臨床体験Ⅱ 急性アルコール中毒 熱中症、一次救命救急
		H30.9月～11月	フィジカルアセスメント 一次救命救急、心電図
2 作成した教科書、教材、参考書		H30.4月～7月	早期臨床体験Ⅱ 実習テキスト
		H30.9月～11月	フィジカルアセスメント 実習テキスト
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Chronic treatment with the 5-HT1A receptor partial agonist tandospirone increases hippocampal neurogenesis.	共著	2014年	Neurology and Therapy, 3:67-77
Obesity attenuates D2 autoreceptor-mediated inhibition of putative ventral tegmental area dopaminergic neurons.	共著	2014年	Physiological Reports, 2:e12004
Chronic treatment with tandospirone, a serotonin 1A receptor partial agonist, inhibits psychosocial stress-induced changes in hippocampal neurogenesis and behavior.	共著	2015年	Journal of Affective Disorders, 180: 1-9
A high fat diet-induced decrease in hippocampal newly-born neurons of male mice is exacerbated by mild psychological stress using a Communication Box.	共著	2017年	Journal of Affective Disorders, 209: 209-216
Prolonged sleep deprivation decreases cell proliferation and immature newborn neurons in both dorsal and ventral hippocampus of male rats.	共著	2017年	Neuroscience Research 131: 45-51
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Resident/Intruder系を用いた心理社会的ストレス負荷回数とうつ病発症閾値の相関		2018年.3月	日本薬学会第138回年会
Resident/Intruder系を用いた純粋な心理的ストレスは、海馬BDNF濃度の増加を介してストレスの悪影響を阻害する		2017年.7月	第40回日本神経科学大会
III 学会および社会における主な活動			
平成27年4月～平成30年12月	日本神経科学大会会員		
平成30年9月	日本臨床精神神経薬理学会会員		
平成30年11月	日本薬学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。



## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 実務薬剤学	職名 助教	氏名 安高 勇氣
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	2016年5月9日～7月21日、9月5日～11月22日、11月28日～2017年2月24日	(実習) 福岡大学薬学部5年生対象「長期実務実習」	
	2016年8月1日～8月5日	(実習) 福岡大学薬学部1年生対象「早期臨床体験Ⅰ」	
	2017年5月8日～7月20日、9月4日～11月20日、11月27日～2018年2月23日	(実習) 福岡大学薬学部5年生対象「長期実務実習」	
	2017年8月7日～8月10日	(実習) 福岡大学薬学部1年生対象「早期臨床体験Ⅰ」	
	2018年5月7日～7月19日、8月17日～11月2日、11月5日～2019年2月1日	(実習) 福岡大学薬学部5年生対象「長期実務実習」	
	2018年7月20日	(講義) 福岡大学薬学部6年生対象「今日の薬学研究」	
		2018年度 他1件	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2016年10月12日	(講演) 「薬剤アレルギーについて」平成28年度第3回筑紫病院院内教育 医療安全研修	
	2016年11月18日	(講演) 「ニュープロパッチを継続使用するための留意点」第2回パーキンソン病治療の地域連携を考える会	
	2017年7月7日	(講演) 「パーキンソン病における経皮吸収型製剤の適正使用に向けて」大塚製薬e講演会	
	2018年6月8日	(講演) 「パーキンソン病治療におけるニュープロパッチの適正使用－薬剤師によるアプローチ－」ニュープロパッチ発売5周年記念講演会	
	2018年10月18日	(講演) 「パーキンソン病治療における経皮吸収型製剤の適正使用－薬剤師の役割－」洞薬会10月度学術講演会	
		2018年度 他2件	
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)	2016年9月5日	(講義) 福岡大学病院薬剤部レジデント対象「統計学の考え方」	
	2017年10月19日	(講義) 福岡大学病院薬剤部レジデント対象「統計学の考え方」	
	2018年12月3日	(講義) 福岡大学病院薬剤部レジデント対象「臨床研究と統計の考え方」	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) パーキンソン病治療薬ロチゴテン貼付剤の継続使用に関する検討	共著(筆頭)	2016年6月	BRAIN and NERVE, 68(6)
(論文) リバステグミン貼付剤の継続投与に及ぼすメマンチンの影響－ロジスティック回帰分析を用いた後方視的研究－	共著(筆頭)	2017年1月	YAKUGAKU ZASSHI, 137(1)
(論文) 保険薬局における薬学的判断に基づく疑義照会の経済効果	共著	2017年5月	薬理と治療, 45(5)
(論文) ロチゴテン貼付剤による皮膚障害に対する皮膚外用剤の有効性評価	共著(筆頭)	2017年9月	BRAIN and NERVE, 69(9)
(論文) ヒドロキシクロロキン硫酸塩服用中に房室ブロックを発症した全身性エリテマトーデスの1症例	共著	2018年3月	医療薬学, 44(3)
(論文) メマンチン塩酸塩投与による副作用発現の危険因子に関する後方視的調査	共著	2018年9月	薬理と治療, 46(9)

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
ロチゴチン貼付剤の効果不良および皮膚障害対策	2018年8月	第4回日本医薬品安全性学会学術大会
改訂コアカリ薬学実務実習へ向けての実習プログラムの構築と課題	2018年9月	第3回日本薬学教育学会大会
High-Sensitive Allergy Test (HiSAT) に最適な細胞の探索	2018年11月	第28回日本医療薬学会年会
実践的な病棟実習による薬学部5年生に生じる意識変化－脳神経センターにおける6日間の実習を通して－	2019年3月	日本薬学会第139年会
<b>Ⅲ 学会および社会における主な活動</b>		
2013年9月～現在に至る	日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師	
2014年9月～2018年9月	日本医薬品安全性学会 評議員	
2014年12月～現在に至る	日本病院薬剤師会 認定指導薬剤師	
2015年1月～現在に至る	日本医療薬学会 認定薬剤師	
2015年7月～2017年6月	福岡県病院薬剤師会 実務実習委員会 委員	
2016年1月～現在に至る	日本医薬品安全性学会 医薬品安全性専門薬剤師	
2016年1月～現在に至る	日本医薬品安全性学会 医薬品安全性指導者	
2016年9月～現在に至る	日本医薬品安全性学会 広報委員	
2017年7月～現在に至る	福岡県病院薬剤師会 薬学教育委員会 委員	
2018年1月～現在に至る	日本医療薬学会 指導薬剤師	
2018年9月～現在に至る	日本医薬品安全性学会 社員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福岡大学	講座名	生体機能制御学
職名	助教	氏名	山下 郁太
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 早期体験学習（1年次）（授業評価等を含む） 薬学演習（含薬学研究基礎） 多職種連携共同学習 生物系実習Ⅳの指導		平成30年4月 平成30年4月 平成30年7月 平成30年10月	研究室配属の1年次の学生の指導補助 研究課題および英語論文抄読会の指導補助 学習の補助 実習の指導補助
2 作成した教科書、教材、参考書 生物系実習Ⅳテキストの作成		平成30年4月	実習の趣旨や原理、実験操作を記載
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 平成30年度 第2回 「Eーラボ（E（FDを含む）			「福大生の特徴を探る」に出席
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）空腹及び満腹マウスにおける大麻成分Δ9-tetrahydrocannabinolの摂食亢進作用		平成30年9月	第35回和漢医薬学会学術大会
（演題名）抗悪性腫瘍薬ティーエスワン投与がマウスの腸内細菌叢に与える影響		平成31年3月	日本薬学会第139年会
（演題名）脳梗塞マウスにおけるロイシンリッチα2グリコプロテインの動態		平成31年3月	日本薬学会第139年会
（演題名）脳虚血モデルマウスに対するアンチトロンビンⅢ製剤の有用性		平成31年3月	日本薬学会第139年会
（演題名）ラットの高脂肪食摂取が超音波発声に及ぼす影響		平成31年3月	日本薬学会第139年会
（演題名）Phos-tag SDS-PAGEを用いたシヌクレイノパチー病原蛋白質αシヌクレインのセリン/スレオニン-リン酸化解析		平成31年3月	日本薬学会第139年会
III 学会および社会における主な活動			
平成30年4月	日本薬理学会会員		
平成30年4月	日本薬学会会員		
平成30年7月	薬物乱用防止活動（福岡市薬剤師会）「NO DRUG KNOW DRUG」		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。  
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。  
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。  
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。  
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。  
 ※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 薬品物理化学	職名 助教	氏名 湯川 美穂
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年更新する	
物理系実習テキスト	平成25年4月1日	2年次科目「物理系実習」で使用	
物理系実習テキスト	平成26年4月1日	2年次科目「物理系実習」で使用	
物理系実習Ⅱテキスト	平成27年4月1日	3年次科目「物理系実習Ⅱ」で使用	
物理系実習Ⅱテキスト	平成28年4月1日	3年次科目「物理系実習Ⅱ」で使用	
物理系実習Ⅱテキスト	平成29年4月1日	3年次科目「物理系実習Ⅱ」で使用	
物理系実習Ⅱテキスト	平成30年4月1日	3年次科目「物理系実習Ⅱ」で使用	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 薬剤師としての職能育成を目指すICT教育	平成26年6月28日	薬学2年次生を対象としたPC演習の実践効果に関するアンケート調査結果を発表した	
薬学部6年次生にみる早期情報リテラシー教育の効果	平成26年11月28日	2年次に受講したPC演習の実務実習、卒業研究および卒業論文等に対する実践効果を6年次生を対象としたアンケート調査から分析し、発表した	
アンケート結果からみる薬学部6年次生の情報処理能力の実態	平成28年3月27日	薬学部6年次生を対象に平成23年～平成27年に渡って実施したPC技能に関するアンケート結果からの考察を発表した	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Synthesis of Peptidyl-Alendronic Acid Derivatives as a Prodrug for enhancing Bioavailability	共著	平成25年3月	Peptide Science 2012
Drug-Tea Polyphenol Interaction: Incompatibility between Oral Solution of Antipsychotic Propericiazine and Green Tea Drink	共著	平成25年9月	J. Therm. Anal. Calorim., Vol. 113
こんにゃく粉を使用した服薬用とろみ水の力学的特性	共著	平成27年10月	高分子論文集, vo. 72, No. 10
市販とろみ調整食品を使用したとろみ水の物性評価	共著	平成27年12月	九州薬学会会報, Vol. 69
Drug-tea polyphenol interaction(II) complexation of piperazine derivatives with green tea polyphenol	共著	平成29年7月	Thermochimica Acta, Vol. 653

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
とろみ水や服薬ゼリーで錠剤を服用した場合に主薬の溶出に及ぼす影響：バルプロ酸ナトリウム錠200mg	平成30年6月	医療薬学フォーラム2018
薬物と嗜好品の相互作用Ⅱ：統合失調症治療薬アリピプラゾールと緑茶との相互作用解析	平成30年9月	第12回分子科学討論会2018
輸液と脂肪乳剤の混合持続点滴における配合変化	平成30年11月	第54回熱測定討論会
カテキンとβ-シクロデキストリンとの相互作用	平成30年11月	第54回熱測定討論会
球形吸着炭細粒の服用に適する市販服薬ゼリーの探索：レオロジー的評価	平成30年11月	第79回九州山口薬学大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
昭和56年4月～	日本薬学会会員	
平成1年4月～	日本コンピュータ化学会会員	
平成25年4月～	医療薬学会会員	
平成25年4月～	高分子学会会員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 創剤学	職名 助教	氏名 渡瀬 大輔
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018/4/1	代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明し、その管理と取り扱いについて説明できるよう指導した。また、院内製剤および薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できるよう指導した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018/4/1	4年次生向けの実務実習事前学習のテキスト(製剤・試験法・放射性医薬品)の作成に携わった。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Antitumor Effects and Delivery Profiles of Menahydroquinone-4 Prodrugs with Ionic or Nonionic Promoiety to Hepatocellular Carcinoma Cells	共著	2018年7月	Molecules 2018, 23, 1738
Effect of orally ingested diosgenin into diet on skin collagen content in a low collagen skin mouse model and its mechanism of action.	共著	2017年4月	Life Sciences.174:77-82
Pharmacokinetics of Paradol Analogues Orally Administered to Rats.	共著	2016年3月	J Agric Food Chem, 64(9)
薬学における放射線・放射性物質の利用[第4版]	共著	2016年3月	京都廣川書店
Menahydroquinone-4 Prodrug: A Promising Candidate Anti-Hepatocellular Carcinoma Agent.	共著	2015年7月	Diseases, 3 (3)150-158
Enhanced antitumor effects of novel intracellular delivery of an active form of menaquinone-4, menahydroquinone-4, into hepatocellular carcinoma.	共著	2015年2月	Cancer prevention research, 8(2)
Effects of oral administration of collagen peptides on skin collagen content and its underlying mechanism using a newly developed low collagen skin mice model.	共著	2015年	Journal of Functional Foods, 16, 174-182.
Relationship between the Acyl Chain Length of Paradol Analogues and Their Antiobesity Activity following Oral Ingestion	共著	2014年	Journal of Agricultural and Food Chemistry, 62 (26), pp 6166-6174
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
<i>In vitro</i> NASHモデルにおけるγ-トコトリエノールエステル型プロドラッグのNASHへの進展抑制効果の評価		2019年3月	日本薬学会第139年会
神経様細胞PC12におけるNGF依存性神経突起伸張作用に対するリバスチグミンの増強機構		2018年11月	神経精神薬理学会
Chemopreventive Effect of Menahydroquinone-4-prodrugs with Ionic or Non-ionic Promoiety against Hepatocellular Carcinoma		2018年7月	第二回日韓若手薬剤学研究者ワークショップ
III 学会および社会における主な活動			
平成25年4月以前～現在	日本薬学会会員		
平成25年4月以前～現在	日本癌学会会員		
平成25年4月以前～現在	日本薬剤学会会員		
平成25年4月以前～現在	ビタミンE研究会会員		
平成25年4月以前～現在	日本ビタミン学会会員		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福岡大学	講座名 臨床疾患薬理学	職名 助教	氏名 渡辺 拓也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2016年7月 2016年9-11月 2017年7月 2017年9-11月 2018年7月 2018年9-11月	抗真菌薬について授業を行った。 利尿薬に関する実習を行った。 自閉症スペクトラム障害について授業を行った。 利尿薬に関する実習を行った。 自閉症スペクトラム障害について授業を行った。 利尿薬に関する実習を行った。 他7件	
2 作成した教科書、教材、参考書	2016年8月	生物系実習(3年生)の実習書の利尿作用のパートを作製した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
The Japanese Angelica acutiloba root and yokukansan increase hippocampal acetylcholine level, prevent apoptosis and improve memory in a rat model of repeated cerebral ischemia.	共著	2018年3月	Journal of ethnopharmacology 214, 190-196
The antipsychotic trifluoperazine reduces marble-burying behavior in mice via D2 and 5-HT2A receptors: Implications for obsessive-compulsive disorder.	共著	2018年2月	Pharmacology, biochemistry, and behavior 165, 9-13
Behavioral defects in a DCTN1G71A transgenic mouse model of Perry syndrome.	共著	2018年2月	Neuroscience letters 666, 98-103
Astrocytes with previous chronic exposure to amyloid $\beta$ -peptide fragment 1-40 suppress excitatory synaptic transmission.	共著	2017年12月	Journal of neurochemistry 143/6, 624-634
The Traditional Japanese Herbal Medicine Hachimijiogan Elicits Neurite Outgrowth Effects in PC12 Cells and Improves Cognitive in AD Model Rats via Phosphorylation of CREB.	共著	2017年11月	Frontiers in pharmacology 8, 850
Ameliorative effect of sansoninto on sleep disturbance and spatial memory impairment in an Alzheimer's disease rat model.	共著	2017年3月	Traditional & Kampo Medicine 4, 38-45
Effect of hachimijiogan on memory impairment induced by beta-amyloid combined with cerebral ischemia in rats.	共著	2017年2月	Traditional & Kampo Medicine 4, 51-54
Kamishoyosan reduces conditioned fear-induced freezing behavior in socially isolated ovariectomized rats.	共著	2016年8月	Journal of Pharmacological Sciences 131/ 4, 279-283
Nifedipine prevents sodium caprate-induced barrier dysfunction in human epidermal keratinocyte cultures.	共著	2015年	Biological and Pharmaceutical Bulletin 38/ 6, 926-929
Positioning of AMPA receptor-containing endosomes regulates synapse architecture.	共著	2015年11月	Cell reports 13/ 5, 933-943
Shank1 regulates excitatory synaptic transmission in mouse hippocampal parvalbumin-expressing inhibitory interneurons.	共著	2015年4月	European Journal of Neuroscience 41/ 8, 1025-1035
Tumor necrosis factor- $\alpha$ reduces beta-amyloid accumulation primarily by lowering cellular prion protein levels in a brain endothelial cell line	共著	2015年1月	FEBS LETTERS 589/ 2, 263-268

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
社会的長期隔離飼育マウスの攻撃行動増加に対する抑肝散と抑肝散加陳皮半夏の効果	2018年11月	第71回日本薬理学会西南部会
バルプロ酸ナトリウムによる神経細胞のApoE細胞内取り込み増加	2018年11月	第48回日本神経精神薬理学会
卵巣摘出ラットの不安様行動に対する加味逍遙散および柴胡加竜骨牡蛎等の改善作用	2018年9月	第35回和漢医薬学会学術大会
発達障害で認められる社会性行動障害の治療を目的とした漢方薬の探索	2018年8月	生体機能と創薬シンポジウム2018
Sansoninto, a traditional herbal medicine, attenuates aggressive behavior and regulates serotonergic and dopaminergic systems in hypothalamus of social isolation-reared mice	2018年7月	18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成29年4月～	日本薬理学会評議員	
平成30年8月23日・24日	生体機能と創薬シンポジウム2018主催（事務局）	
平成30年4月～	日本薬学会会員	
平成23年4月～	日本小児科学会会員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会の記載も可。